

厚生労働科学研究費補助金  
エイズ対策政策研究事業

男性同性間の  
HIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

—平成28年度 総括・分担研究報告書—

研究代表者  
市川 誠一

人間環境大学

平成 29 (2017) 年 3 月

# 目 次

## I. 総括研究報告

- 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究…………… 1  
研究代表者 市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

## II. 分担研究報告

1. CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究…………… 31  
研究代表者 市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）、他
2. 男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点  
および早期検査・受診に関する研究…………… 55  
研究分担者 健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、他
3. MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（1）  
MSM における検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動…………… 67  
研究分担者 金子典代（名古屋市立大学看護学部）、他
4. MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（2）  
Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価…………… 79  
研究分担者 本間隆之（山梨県立大学看護学部）、他
5. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価…………… 95  
研究分担者 塩野徳史（名古屋市立大学看護学部）、他
6. 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層（地方、若年層、滞日外国人）に関する研究  
—外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査—…………… 125  
研究代表者 市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）、他
7. 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層（地方、若年層、滞日外国人）に関する研究  
中・四国地方における MSM の HIV 検査状況に関する調査（2016 年）  
—岡山県の MSM への予防啓発と HIV 検査に関する CBO・自治体連携について—…………… 135  
研究代表者 市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）、他
8. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析…………… 157  
研究分担者 佐野貴子（神奈川衛生研究所微生物部）、他
9. 保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査…………… 167  
研究分担者 今井光信（田園調布学園大学）、他
10. HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究…………… 221  
研究分担者 木村 哲（東京医療保健大学）、他

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表…………… 237

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業  
「男性同性間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」  
研究分担者・研究協力者名簿(平成28年度)

研究代表者	市川誠一	人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授
研究分担者	健山正男	琉球大学大学院医学研究科 准教授
	金子典代	名古屋市立大学看護学部 准教授
	本間隆之	山梨県立大学看護学部 講師
	塩野徳史	名古屋市立大学看護学部 助教
	佐野貴子	神奈川県衛生研究所微生物部 主任研究員
	今井光信	田園調布学園大学 副学長
	木村 哲	東京医療保健大学 学長
研究協力者	50 音順 (職位略)	
	荒木順子	特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団
	阿部甚兵	特定非営利活動法人 akta
	生島 嗣	特定非営利活動法人ぶれいす東京
	石田敏彦	ANGEL LIFE NAGOYA
	伊藤俊広	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
	石原千嘉	岡山市保健所保健課感染症対策係
	井戸田一朗	しらかば診療所
	岩木エリーザ	CRIATIVOS PROJECTO SAUDE
	岩橋恒太	特定非営利活動法人 akta
	今村顕史	がん・感染症センター都立駒込病院感染症内科
	大石達也	あうとぴーち
	大島 岳	特定非営利活動法人 akta
	太田 貴	やろっこ
	大野理恵	神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班
	大畑泰次郎	MASH 大阪
	大山治彦	四国学院大学社会福祉学部/HaaT えひめ
	岡 慎一	国立国際医療研究センター・エイズ治療研究開発センター
	岡崎好晃	HaaT えひめ
	岡部英男	神奈川県衛生研究所
	鬼塚哲郎	京都産業大学文化学部/MASH 大阪
	加藤真吾	慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室
	要 友紀子	SWASH
	木南拓也	特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団
	後藤大輔	MASH 大阪
	近藤真規子	神奈川県衛生研究所
	坂本三貴	岡山県保健福祉部健康推進課
	佐久間久弘	特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団
	椎木創一	沖縄県立中部病院

柴田 惠	特定非営利活動法人 akta
柴田敏之	大阪府健康医療部保健医療室医療対策課
清水茂徳	東日本国際大学
白阪琢磨	独法国立病院機構大阪医療センター・HIV/AIDS 先端医療開発センター
杉浦太一	株式会社 CINRA
杉山真一	原後綜合法律事務所
須藤弘二	慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室
高久道子	人間環境大学大学院看護学研究科
高久陽介	日本 HIV 陽性者ネットワーク・JaNP+
玉城祐貴	nankr 沖縄/公益財団法人エイズ予防財団
豊川貴生	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
仲村秀太	琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学
永田佳奈子	岡山県保健福祉部健康推進課
新山 賢	HaaT えひめ
原永修作	琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学
伴仲昭彦	MASH 大阪
半羽宏之	大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課
比嘉 太	琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学
福武勝幸	東京医科大学医学科臨床検査医学
藤田次郎	琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学
細井舞子	大阪市保健所感染症対策課
星野慎二	特定非営利活動団体 SHIP
前田サオリ	琉球大学医学部附属病院・看護部
牧園祐也	Love Act Fukuoka/公益財団法人エイズ予防財団
町登志雄	MASH 大阪/公益財団法人エイズ予防財団
松下修三	熊本大学エイズ学研究センター
松本健二	大阪市保健所感染症対策監
宮城京子	琉球大学医学部附属病院・看護部
宮田りりい	公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪
村中沙織	倉敷市保健所保健課感染症係
安井典子	大阪市保健所感染症対策課
山本政弘	独立行政法人国立病院機構九州医療センター
渡會睦子	東京医療保健大学医療保健学部看護学科
和田秀穂	川崎医科大学血液内科学



## 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

研究代表者:市川 誠一(人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授)

### 研究要旨

本研究では、1)地域の MSM への HIV 感染対策を評価する研究(研究 1、3)、2)予防啓発や早期検査等の新たな取組みを開発する研究(研究 2、4、5)、3)MSM の早期検査・早期治療の促進を図る研究(研究 6、7、8)を行った。研究 3 年度の成果は以下の通りである。

#### 研究 1:CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

7 地域の CBOs は、全地域のゲイバー1080 店舗中 643 店舗(59.5%)、商業系ハッテン場 101 店舗中 75 店舗(74.3%)、ゲイ関連のショップ店、若年層 MSM の利用が多いクラブ系ゲイナイトなどを介して啓発資材を配布していた。6 地域の CBO(やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄)は、コンドーム使用の促進を目標に、「つけていこう」のキャッチコピーによる ALL JAPAN CAMPAIGN を商業施設や Web を介して展開した。また CBOs は自治体・保健所と連携して MSM 向けの検査情報資材の作成・配布、HIV 検査担当者研修会への協力を行った。東京、名古屋、大阪、愛媛の CBO は自治体、他の研究班と共同して MSM 向けの臨時 HIV 検査を実施した。

#### 研究 2:男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究

沖縄 44 名、福岡 25 名、仙台 19 名、計 88 名の陽性者から協力を得て、感染判明前の受検行動、医療機関受診、啓発との接点などを調査した。感染判明前の医療機関受診経験は沖縄、福岡、仙台は 74%、78%、78%、その内 HIV 関連症状または STI が理由であった者は 52%、50%、56%であった。また受診したと回答した者のうち、HIV 検査を勧められたのは沖縄、福岡、仙台は 34%、31%、25%であり、HIV 検査を勧められて断った者はいなかった。

#### 研究 3-1:MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

各地域の CBO を通じてクラブイベント等に参加する MSM を対象にインターネット調査(GCQ)を実施した。有効回答は 1,111 件、生涯の HIV 抗体検査受検経験 67%で、コミュニティセンター設置県居住者は 71%と高かった。地域間連携「やる!プロ」認知は 52%、早期に開始した地域は資材認知や受け取り率が高かった。過去 6 か月の居住地以外への訪問経験は地方から大都市への傾向が示され、移動先でのアナルセックス経験は 34%であった。また過去 6 か月の外国籍 MSM とのアナルセックス経験は 21%であった。

#### 研究 3-2:コミュニティを基盤とした CBO 活動の評価

CBO・akta のコミュニティへの活動に対して多くはそのコンセプトに共感し、コミュニティに根差した活動を受け入れていた。都市部の若年層 MSM の HIV 関連情報、検査、予防、施設等利用等をグループインタビューで把握した。知識の不足による経済負担への懸念、HIV 感染を具体的にイメージできないことによる検査動機の喪失、検査の障壁としてのカミングアウト、メディア表現を妄信していることなどの様子を伺うことができた。

#### 研究 4:商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価

若年層 MSM への予防啓発を目標に大阪地域を軸に「やる!プロジェクト」を開発・展開した。2 年度は他地域 CBO と協議してネット展開のプログラムを導入し、3 年度は 6 地域で『やる!プロ』

+Safer Sex キャンペーン』を企画、商業施設への資材配布や Web 上での啓発展開を行った。

大阪地域での MSM 対象の連続横断質問紙調査では、「やる!プロジェクト」の認知割合は有意に上昇し、浸透は 20 歳代から 30 歳代以上へと拡大していた。大阪府・市の保健所受検者調査では受検者中の MSM 割合、介入プログラム資材の認知割合も上昇していた。「やる!プロジェクト」は若年層 MSM に訴求し、検査行動を促進させたことが示唆された。

## **研究 5:近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究**

### **研究 5-1 : 外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査**

参加者の望む言語で回答が可能な 7 言語によるインターネット調査システムを構築し、MSM およびそれ以外の回答者別に滞日外国人の行動調査を可能とした。滞日外国人を対象とするクラブイベントでの調査(有効回答 96 件)から、生涯の HIV 検査受検経験は MSM68.6%、MSM 以外男性 27.8%、女性 35.0%( $p=0.006$ )、過去 6 か月の性行動は、MSM97.1%、MSM 以外男性 94.4%、女性 80.0%で( $p=0.075$ )、最後にセックスをした相手は、MSM ではその場限りの相手が 42.9%と最も高く、MSM 以外男性と女性では彼氏や恋人などの特定の相手が 72.2%、75.5%であった( $p=0.007$ )。

### **研究 5-2 : 中・四国地方における MSM の HIV 検査状況に関する調査**

中・四国地域の MSM への対策として、CBO・HaaT えひめは岡山県で県・市・クリニックと協力し、保健所以外の検査となるクリニック検査を 2 年継続した。HIV 抗体検査受検者対象の質問紙調査から、岡山県の検査広報カードの認知率は MSM が 22.0%と有意に高く、CBO が配布した場所で認知していることが分かった。また CBO や MSM 向け啓発資材の認知も MSM に訴求していることが示された。HIV 抗体検査受検者調査は、地域の HIV 検査受検者の特性、特に MSM の動向および地域の広報活動への反応などの知見が得られ、地域の HIV 感染対策の資料となった。

### **研究 6:HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析**

年間サイトアクセス数は、2016 年は 151 万件、2015 年の 186 万件と比較して 19%減となった。情報端末別では、スマートフォンからの訪問数が 122 万件で総アクセス数の 81%を占めた。訪問者別割合は、新規訪問者が 63%、リピーターが 37%であった。2001 年の開設から 2016 年末で 1,702 万アクセスを超え、現在も多くの方が信頼性の高いサイトとして利用している。

### **研究 7:保健所等における HIV 検査相談の全国調査**

保健所と特設検査相談施設(保健所等)で行われている HIV 抗体検査・相談の実態についてほぼ全数(保健所 467 施設、特設検査相談施設 17 施設)を把握した。保健所等の 2016 年の受検件数は 97,767 件、陽性件数は 359 件(0.37%)、339 件(94.2%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関に受診していた。HIV 郵送検査利用者の増加が見られているが、検査結果の対面による十分な説明、医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、感染予防のための相談など重要な役割を果たしている。

### **研究 8:HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究**

HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査の結果、2016 年の郵送検査数は 90,807 件で過去最高であった。5 社に対する外部精度調査では一部に判定保留が認められたが、これを日本エイズ学会の検査結果判断基準に従い陽性扱と仮定すると、5 社とも感度、特異度が 100%であった。今後、外部精度管理調査会社等の参画を得て、継続的に精度管理が確認できる体制を構築する必要がある。また、HIV 郵送検査在り方検討会を開催し、受検者にとって信頼性のある検査とするために、「HIV 郵送検査の在り方について」をまとめた。

#### 研究分担者(50音順)

今井 光信

(田園調布学園大学・副学長)

金子 典代

(名古屋市立大学看護学部・准教授)

木村 哲

(東京医療保健大学・学長)

佐野 貴子

(神奈川県衛生研究所・主任研究員)

塩野 徳史

(名古屋市立大学看護学部・助教)

健山 正男

(琉球大学大学院医学研究科・准教授)

本間 隆之

(山梨県立大学看護学部・講師)

#### A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向年報によれば、わが国の AIDS 患者及び未発症 HIV 感染者(以下、HIV 感染者)の報告は、サーベイランスが開始されて以来、増加が続いてきた。しかし、この数年間は 1,500 人前後で推移し、横ばいの傾向となっている。これは、1990 年代半ばから増加が続いた男性同性間性的接触(以下、MSM)による HIV 感染者の報告が 2009 年から、また AIDS 患者報告が 2011 以降横ばいとなったことが要因となっている。

2015 年の報告では HIV 感染者(1,006 件)の 68.7%、AIDS 患者(428 件)の 58.4%を MSM による感染が占め、報告地域としては、東京を中心とした関東地域、大阪を中心とした近畿地域、愛知県を中心とした東海地域などの大都市地域に加え、近年では九州や中四国地域からの報告も目立っている。感染者・患者の報告数が横ばいになったとはいえ、わが国の HIV 感染対策において MSM への取り組みは最も重要な課題といえる。

日本人成人男性(20 歳～59 歳)を対象とした質問紙調査から、MSM は 4.6%、その内ゲイ・バイセクシュアル男性向けの商業施設を

利用する者が 34.6%、そしてこれら利用者は性感染症既往歴が高く、予防行動が低いことを前身の研究班(厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」、2012 年度報告書)で報告した。このことは、商業施設を介した MSM への予防啓発の必要性を示唆している。

また、前身の研究班では、MSM における HIV 感染は 1970 年代、1960 年代出生層は増加が抑制されつつあるが 1980 年代出生層(20 代)で広がりが見られていることを示した。性行動が活発化する時期に商業施設を利用する若年層 MSM に対しては新たな介入手法が必要と考える。また AIDS 患者報告が多くを占める地域では、MSM への啓発や施策における課題を探りその対策を構築する必要がある。

本研究では、初年度において、「CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究」「男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究」「MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較」「商業施設を利用しはじめた若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価」の 4 研究を開始した。これらの研究は、各地域の CBO による商業施設を介した啓発普及対策とその評価、若年層 MSM への予防介入の開発とその評価に主眼をおいたものである。

一方、近年のエイズ発生動向の特徴は、地方の MSM での HIV/AIDS 報告例の増加、若年層 MSM および外国国籍 MSM の報告例(国内感染例が過半数)の増加が示されている。わが国の感染者・患者の大半を占める MSM において再び増加することなく減少に転じさせるためには、これらの MSM 層への予防啓発の促進と共に、MSM 全体への早期 HIV 検査と治療の推進が重要である。MSM の HIV 検査についてみると、一般成人男性を対象としたインターネット調

査で、MSM の生涯 HIV 受検経験割合は 23.8% であり、検査普及は未だ十分とは言えない。

厚生労働省エイズ動向委員会資料(2015 年 5 月)によれば、2010 年から 5 年間の保健所等の HIV 検査件数は 13~14 万件で、HIV 陽性件数は 453~490 件、HIV 感染者報告数に占める保健所検査の陽性割合は 41.0~46.8% とほぼ一定割合で推移している。保健所の HIV 検査体制をさらに有効なものとするには陽性件数を増やすことである。HIV 陽性判明報告例のある保健所の受検者特性に MSM が有意に関連していたことから、MSM の保健所での HIV 検査受検を向上させることが望まれる。

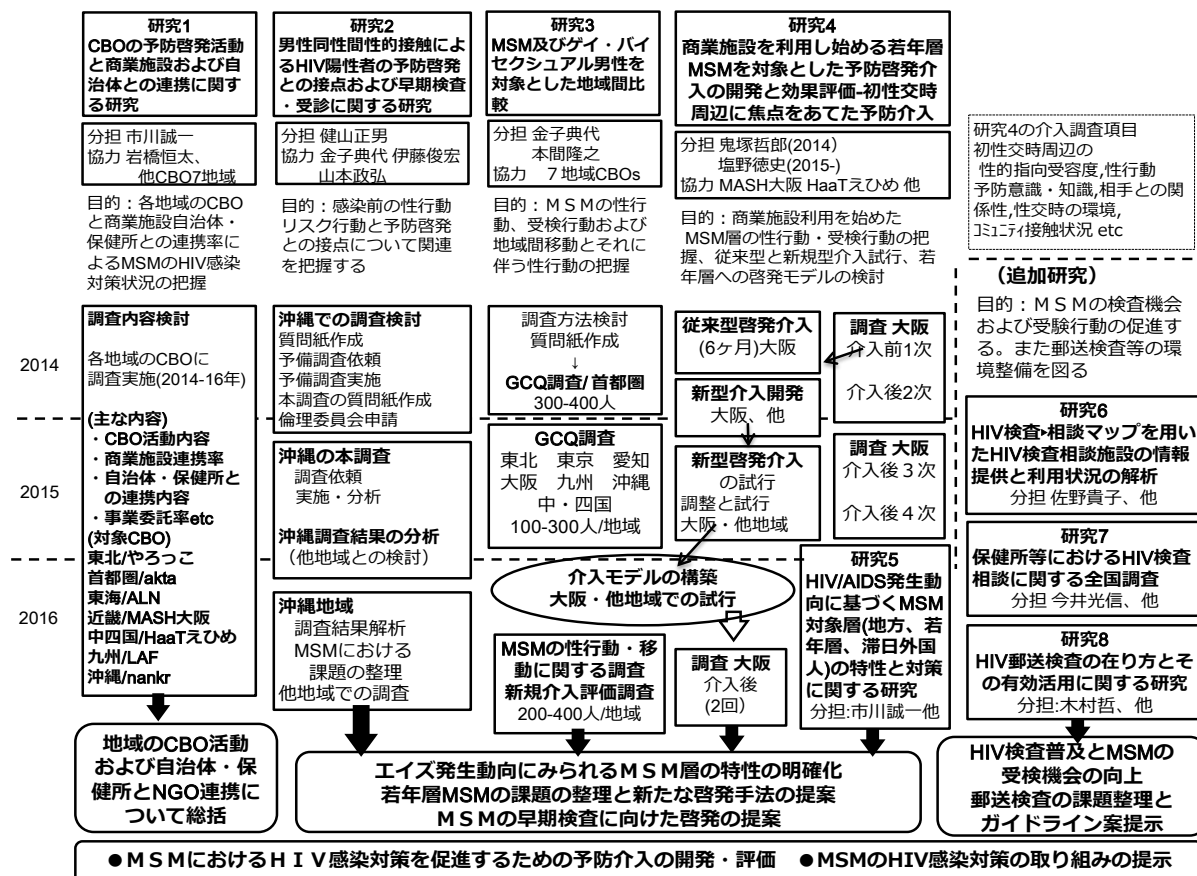
HIV 郵送検査は 2001 年頃からほぼ直線的に増加を続け、2014 年には 7 万 7 千件以上に達している。このことは、保健所等に出向いて保健所職員や他の受検者等と対面することがなく、差別偏見の目を意識せずに、一人でいつでも受けられる郵送検査に対する社会的

ニーズが高いことを示している。しかし、現状の HIV 郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられている。郵送検査について「郵送検査の在り方について」を作成し、信頼性が高く安心して受けられる検査として社会的ニーズに応えられるようにすることは、保健所等の HIV 検査体制に加え、わが国のエイズ対策にとって有用と考える。

以上のことから 2015 年度から新たに、1) 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究、2) HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析、3) 保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査、4) HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究を追加した。

2016 年度に実施した 8 課題の研究成果の概要を報告する。

図1 研究の流れ



## B. 研究方法

研究1~8の3年間の流れと関連を図1に示した。各研究の方法は以下の通りである。

研究1: CBOの予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

分担: 市川誠一、協力: 太田 貴、伊藤俊広、荒木順子、岩橋恒太、石田敏彦、塩野徳史、町登志雄、新山 賢、牧園祐也、山本政弘、金城 健、玉城祐貴、健山正男

地域でMSMに向けて啓発活動を行っているCBOを対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、2016年度の活動状況を把握した。対象としたCBOは、東北地域のCBO・やろっこ、東京地域のNP0・akta、東海地域のCBO・ANGEL LIFE NAGOYA(ALN)、近畿地域のCBO・MASH 大阪、中四国地域のCBO・HaaT えひめ、九州地域のCBO・Love Act Fukuoka(LAF)、沖縄地域のCBO・nankr 沖縄である。調査票の内容については、12月24、25日に実施した研究会議で討議し、7地域のCBOの情報共有を図った。

研究2: 男性同性間性的接触によるHIV陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究

分担: 健山正男、協力: 山本政弘、伊藤俊広、仲村秀太、原永修作、藤田次郎、宮城京子、前田サオリ、椎木創一、豊川貴生

拠点病院等に受診するHIV陽性者を対象に、予防行動に影響した要因、受検のきっかけ、検査機関と選択理由、感染判明前の予防啓発との接点等の質問紙調査を行った。2年度は、琉球大学大学院医学研究の研究倫理に関する審査承認を得たのち、沖縄地域の拠点病院に受診する男性のHIV陽性者を対象に本調査を実施し、3年度は独立行政法人国立病院機構九州医療センターと独立行政法人国立病院機構仙台医療センターにて受診中のHIV陽性者に質問紙調査を行った。88名から協力を得た。

研究3: MSM及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

商業施設を利用するMSMの受検行動、予防行動、CBO活動認知、地域間移動に伴う性行動に関するインターネット調査を実施した。

研究3-1: MSMにおける検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動

分担: 金子典代、本間隆之、協力: 塩野徳史、太田貴、岩橋恒太、荒木順子、石田敏彦、町登志雄、後藤大輔、新山賢、牧園祐也、金城健、玉城祐貴

CBOが啓発活動をしている地域、東北、関東、東海、近畿、中四国、九州、沖縄県に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象者に、インターネットによる横断調査を実施した。2015年は9イベント、2016年は12イベントと協働し、各イベント固有の調査サイトを開設し調査を実施した。対象者のリクルートは、各地域のCBOがゲイ向けクラブイベントのオーガナイザーと協力し、広報資材やインターネットサイトに本調査の回答協力依頼の広告を掲載し対象者に調査実施と協力を依頼する方法をとった。

2015年調査の有効回答数は、1101件、2016年調査の有効回答数は1,517件、複数調査地で回答したものが含まれていたため、初回答者に限定したところ2015年は869名、2016年は1,111名が分析対象者となった。

質問項目は基本属性、資材認知、HIV検査受検、過去6か月の外国籍MSMとの性行動経験、移動先での行動規範、国内での仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、那覇市への移動/旅行経験と移動/旅行先での性行動等、2015年は総計85問、2016年は総計50問であった。地域間移動、移動に伴う性行動に関する分析、25歳未満、25歳~35歳未満、35歳以上の年齢3群の分析を実施した。

本研究は、名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した。

研究3-2. Community-Based Organizationによる

る HIV 予防啓発活動のプログラム評価

分担:本間隆之、金子典代、協力: 岩橋恒太、

荒木順子、木南拓也、佐久間久弘、他

(1)CBO 活動のコンセプトと予防行動との関連性

東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設等を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査告知ポスターの掲示、調査サイトへのリンク (QR コード) を記したカードを「東京レインボー祭り」会場にて配布した。参加者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、調査に参加した。年齢、居住地、利用施設、コミュニティセンターの認知、コミュニティペーパー等の認知、キャンペーンの認知、HIV 感染予防行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感 (5 項目)、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚 (4 項目) を選択形式で尋ねた。回収数は 248 件、有効回答 190 件を分析対象とした。本研究は名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した。

(2)若年層 MSM の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘル

スに関する意識や検査に対する印象

参加者リクルートは NPO 法人 akta が運営するコミュニティセンターに依頼し、ボランティアスタッフやその知人等呼びかけた。調査方法は半構造的グループインタビュー、グループは 5 名以内とし、話しやすさとプライバシー確保に配慮して行った。

研究 4: 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を

対象とした予防啓発介入の開発と効果評価

分担:塩野徳史、協力: 鬼塚哲郎、町登志雄、

後藤大輔、新山賢、他

大阪を介入モデルの開発地域とし、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とする介入モデル「やる!プロジェクト」を MASH 大

阪、HaaT えひめと共同開発し、その後他の地域に拡大する計画とした。初年度は、紙資材を中心とした従来型予防啓発を 6 ヶ月間実施し、その前後に、予防意識、知識、性行動、初性交時の環境、相手との関係性、商業施設利用状況、予防行動、受検行動等の基礎調査を実施した。また男性との初性交時の相手との関係性や予防に関する状況とその後の性行為における予防行動や意図との関連を明らかにし、若年層 MSM を対象とする新規介入モデルを検討した。2 年度はホームページ「やる!プロ TV」を開発し東海、沖縄地域の CBO も加えて Web 展開した。3 年度は東北、東京を加え、「やる!プロジェクト」と「SaferSex キャンペーン」をあわせた All Japan キャンペーンを実施した。大阪地域では、啓発展開前後に予防意識・知識、性行動、受検行動等の質問紙調査 (GCQ) を経年実施し、また、大阪府、大阪市の協力を得て定点保健所を設け、HIV 抗体検査受検者を対象とする質問紙調査により経時的な MSM 受検者動向を把握した。

研究 5: 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層

(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究

分担:市川誠一

若年層 MSM における性行動および HIV 関連情報活用に関する調査は、3 年度は、東京の若年層 MSM を対象にグループインタビュー調査として、研究 3-2 (分担研究者本間隆之) において実施した。

研究 5-1: 外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査

協力:高久道子、金子典代、岩木エリーザ、他

母国語によるアンケートを可能とするための多言語によるインターネット質問紙調査のシステムを構築し (研究 2 年度)、研究費軽減を図るため、前身の研究班で用いた外国語対応インターネット調査を改変し、日本語、英語をベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語 (台湾) の 7 か国

語に翻訳しシステムを完成した。調査項目は、国籍、日本国内での性経験、検査受検経験、HIV 関連情報の活用状況等に関する質問項目を検討し、滞日外国人への支援活動を行っている CBO と共に内容や調査方法等について検討した。愛知県内で外国国籍 LGBTQ を対象に開催されるクラブイベント、ブラジル国籍対象のイベント参加者に調査を行い、有効回答 96 件を得た。なお、人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を得た (UHE-2016021)。

研究 5-2: 中・四国地方における MSM の HIV 検査状況に関する調査

協力: 新山賢、岡崎好晃、大山治彦、塩野徳史、後藤大輔、町登志雄、永田佳奈子、坂本三貴、石原千嘉、村中沙織、和田秀穂  
コミュニティセンターの無い地方の MSM への予防啓発、自治体事業連携、MSM 向け HIV 検査について (岡山県クリニック検査等) に取り組んだ。本研究では、岡山県、岡山市、倉敷市、医療機関、CBO・HaaT えひめとの連携による MSM 対象のクリニック検査キャンペーン及び保健所等の HIV 検査受検者対象の質問紙調査を分析し MSM 受検者の動向を把握した。

研究 6: HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

分担: 佐野貴子、協力: 今井光信、近藤真規子、須藤弘二、加藤真吾、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、杉浦太一、市川誠一

保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/AIDS への理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.HIVkensa.com>) の管理・運営を行った。また、本サイトによる情報提供の効果を調査するため、アクセスアナライザーによる利用状況の解析を行った。

ページ更新作業としては、新年度前に自治体等詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を

送付し、3 月下旬から 4 月下旬にかけて定期修正を行った。また随時、新規掲載作業、掲載情報修正作業、検査イベント情報の掲載作業等を行った。

本サイトによる HIV 検査情報提供の効果調査には、Google Analytics を用いサイトアクセス数(年別、月別、日別)、キャリア別、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査した。また、検索エンジンにおける検索用語別の表示順位、問い合わせ内容の調査、特設検査施設受検者へのアンケート調査、保健所 HIV/エイズ担当者へのアンケート調査を行った。

研究 7: 保健所等における HIV 検査相談の全国調査

分担: 今井光信、協力: 近藤真規子、佐野貴子、大野理恵、須藤弘二、加藤真吾、市川誠一

全国の保健所およびその支所等 563 箇所の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等 21 箇所の特設 HIV 検査相談施設とを対象に、平成 29 年 1 月 4 日に HIV 検査相談及び梅毒検査に関するアンケート調査票を郵送し、平成 29 年 1 月 20 日を締め切り日とした。今回のアンケート調査は、全国保健所等 563 施設中 469 施設(回収率 83%)、特設検査相談機関 21 施設中 17 施設(81%)からアンケート結果を回収できた。

研究 8: HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

分担: 木村哲、協力: 生島嗣、今村顕史、岡慎一、加藤真吾、要友紀子、白阪琢磨、杉山真一、高久陽介、福武勝幸、松下修三、渡會睦子

色々な立場の研究協力者と共に、「HIV 郵送検査」の実態を評価し、課題を抽出した。

検索サイト「Google」により、HIV 郵送検査会社 13 社を抽出し昨年同様のアンケート調査を行った。また「第三者による外部精度

調査」を昨年度実施した3社以外の5社を選定し実施した。各施設による判定結果から感度・特異度等を検定した。

「HIV 郵送検査在り方検討会」を開催し、HIV 郵送検査の問題点を抽出し、備えるべき条件として、「在り方について」に盛り込むべき内容を検討した。

郵送検査に関する研究全体は東京医療保健大学の研究倫理委員会の承認を受けた(教27-32)。精度調査に用いる HIV 陽性検体、陰性検体については慶応義塾大学医学部の倫理審査委員会の承認を得た(20150176)。

#### (倫理面への配慮)

当事者やCBOと調査、啓発等の内容を検討し、対象者への倫理的配慮を持ちつつ研究を行った。調査や啓発プログラムの実施には商業施設の協力が必須で、主旨を協力施設等に説明し、相互理解、信頼関係を構築して実施した。研究倫理審査は、研究全体については人間環境大学(UHE-2016020)、研究2は琉球大学大学院医学研究科(858)、研究3は名古屋市立大学看護学部(14025-3)、山梨県立大学看護学部(1629)、研究4は名古屋市立大学看護学部(14025-3、14032-4)、研究5は人間環境大学(UHE-2016021)、名古屋市立大学看護学部(14032-4)、研究8は東京医療保健大学(教27-32)、慶応義塾大学医学部(20150176)で承認を得た。

### C. 研究結果

#### 研究1: CBOの予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

##### 1) 背景と目的

20歳～59歳までの日本人成人男性を対象とした質問紙調査によればMSMは4.6%であり、その内ゲイ・バイセクシュアル男性向けの商業施設を利用する者は性感染症既往歴が高く、予防行動が低いことを前身の研究班で報告した(厚生労働科学研究費補助金エイズ

対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」、2012年度報告書)。このことは、商業施設を介したMSMへの予防啓発の必要性を示唆している。

本研究では、7地域でMSMに向けて啓発活動を行っている地域ボランティア団体(CBO)を対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動、および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、2016年度(11月末時点)の活動状況を把握した。対象としたCBOは、東北地域のCBO・やろっこ、東京地域のNPO・akta、東海地域のCBO・ANGEL LIFE NAGOYA(ALN)、近畿地域のCBO・MASH大阪、中四国地域のCBO・HaaT えひめ、九州地域のCBO・Love Act Fukuoka(LAF)、沖縄地域のCBO・nankr 沖縄である。

##### 2) 結果の概要

ゲイバーとの連携率(連携店舗数/把握店舗数)は、東北100%、東京44.2%、東海83.0%、大阪67.0%、中四国98.0%、福岡98.5%、沖縄100%であった。全地域で1080店舗中643店舗(59.5%)にCBOは作成した啓発資材を配布していた(表1)。商業系ハッテン場では全地域の101店舗中75店舗(74.3%)とCBOは関係を継続し、ゲイ関連のショップ店、若年層MSMの利用が多いクラブ系ゲイナイトなどの商業施設を介した啓発資材配布を行っていた。6地域のCBO/NPO(やろっこ、akta、ALN、MASH大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄)は、コンドーム使用の促進を目標にした「つけていこう」のキャッチコピーによるALL JAPAN CAMPAIGN(akta Safer Sex Campaignと「やる! プロジェクト」の合同キャンペーン)を10月～1月末まで商業施設やWebを介して展開した。

6地域にあるコミュニティセンターの利用状況はほぼ前年並みの状況であった(11月末時点)。仙台のZEL、大阪のdistaでは2015年にセンター経費を考慮してセンター面積を縮小したため来場者数が減少したが、2016年



表1 地域のCBOの商業施設等との連携状況

地域 CBO	施設等 年	ゲイバー			商業系ハッテン場			ゲイナイト			ゲイショップ			備考(2016年)
		2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	
東北 やろっこ	施設数	28	30	27	4	4	4	0	1	1	2	2	1	・東北レインボーSUMMERで各サークル団体(約30団体)と連携
	連携数	26	29	27	2	2	2	0	0	1	1	1	1	
	連携率	92.9	96.7	100	50.0	50.0	50.0	0	0.0	100	50.0	50.0	100	
東京 akta	施設数	591	581	613	50	51	53	-	-	-	37	37	36	・ゲイ雑誌(3誌)、ウェブサイトなど ・TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE、TOKYO RAINBOW WEEK、新宿二丁目振興会/東京レインボー祭り他
	連携数	247	257	263	34	34	35	-	3	-	12	10	10	
	連携率	41.8	44.2	44.2	68.0	66.7	66.6	-	-	-	32.4	27.0	27.0	
東海 ALN	施設数	43	48	47	5	5	5	5	8	5	-	2	2	・啓発イベントNLGR+を開催、ゲイコミュニティ、LGBT関連団体、エイズ関連団体、行政と連携
	連携数	38	42	39	3	3	3	5	6	4	-	1	1	
	連携率	88.4	87.5	83.0	60.0	60.0	60.0	100	75.0	80.0	-	50.0	50.0	
近畿 MASH 大阪	施設数	227	235	233	20	23	19	4	8	17	12	12	12	・若年層MSM向けの予防啓発資材をクラブイベントと連携して配布 ・中国や東南アジアからのdista来場者が徐々に増えている
	連携数	149	150	156	18	17	15	4	8	17	10	8	9	
	連携率	65.6	63.8	67.0	90.0	73.9	78.9	100	100	100	83.3	66.7	75.0	
福岡 LAF	施設数	70	68	66	12	12	12	6	3	2	4	2	2	ゲイナイトは関係はあるが、イベント自体への協力は特に実施しておらず
	連携数	68	67	65	12	12	12	3	0	0	4	2	2	
	連携率	97.1	98.5	98.5	100	100	100	50.0	0.0	0.0	100	100	100	
沖縄 nankr 沖縄	施設数	42	43	43	3	4	3	3	5	6	1	1	1	店舗開催のスポーツイベント、クラブイベントでの資材配布依頼がある
	連携数	42	43	43	3	4	3	3	5	6	1	1	1	
	連携率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
中四国 HaaT えひめ	施設数	49	53	51	7	5	5	9	10	10	1	1	1	一部の施設は郵送対応 地域のゲイ情報サイトとの連携
	連携数	49	52	50	5	5	5	9	9	10	1	1	1	
	連携率	100	98.1	98.0	71.4	100	100	100	90.0	100	100	100	100	
合計	施設数	1050	1058	1080	101	104	101	27	35	41	57	57	55	CBOは前年度同様に多様な商業施設とのコンタクトを維持し、利用者への啓発資材を配布している
	連携数	619	640	643	77	77	75	24	31	38	29	24	25	
	連携率	59.0	60.5	59.5	76.2	74.0	74.3	88.9	88.6	92.7	50.9	42.1	45.5	

注1)2014年は11月末、2015年は12月末現在、2016年は11月末現在の状況、施設数はCBOが把握した数。表中の「-」は不明もしくは記録なし。

には来場者を呼び込む企画を工夫し利用者増を図っている。近年の特徴として、滞日外国人や海外からのツーリストの来場者の増加があげられている。

自治体・保健所の事業と連携した取り組みでは、7地域のCBOはMSM向けの検査促進の広報資材作成や配布、HIV検査担当者研修会への協力を継続していた。MSM向けのHIV検査(臨時)の実施、検査広報のチラシ等の作成、MSM向け検査担当者研修会などについて予算化する自治体もみられ、自治体側でCBOとの連携に対応する傾向も見られている。

### 3)まとめ

商業施設を利用するMSMにおいては、性感染症既往の割合が高く、予防行動をとらない割合が高いことが示されており、CBOによるコミュニティベースの啓発活動はエイズ対策において大切な役割を担っている。

地方のMSMにおいてHIV/AIDSが増加していることは、MSMの国内移動による感染の拡が

りを示唆している。東京、大阪、名古屋などの都市部と他の地方地域では、HIV検査環境や治療環境、HIV関連のCBOやNPO団体などの支援環境が異なること、社会の性的指向やHIV陽性者への対応が異なっていることから、MSMにおけるHIV/AIDS対策を同一に考えることはできない。こうした状況に対して、各地域のコミュニティセンターやCBOは相互の情報や啓発資材やプログラムを共有し、それぞれの地域の状況に沿った取り組みを検討していくことが望まれる。

近年、HIV感染症に対する抗HIV薬や治療法の進歩によりTasP(Treatment as Prevention)、PrEP(Pre-exposure Prophylaxis)が推奨されている。HIV感染を抑えることに加え、梅毒、HBV、HPVなどの性感染症予防プログラムもPrEP導入に際しては必要である。CBOはMSMのセクシュアルヘルスを増進することを目標に、予防啓発、HIV/性感染症の検査環境の構築と普及、治療や相談へのアクセス情報

の提供などに取り組んできた。こうした取り組みは PrEP などの新たな手法の導入においても基盤としていくことが必要と考える。

アジア地域では MSM における HIV 感染が拡大し、また英国、ベルギーなどの欧州の国・地域では再び若い MSM において HIV 感染が拡大している。このことは、MSM への HIV 感染対策として恒常的な取り組みが必要であることを示唆している。わが国においては、MSM における HIV/AIDS 報告数はやっとな横ばいとなった状況にある。頭打ちになってきたかに見える新規 HIV 感染者数、エイズ発症者数が再び急増してくることがないように、わが国の MSM への HIV 感染対策として、CBO による啓発活動の継続は重要と考える。

## 研究 2: 男性同性間性的接触による HIV 陽性者における予防啓発との接点と感染リスク行動に関する調査

### 1) 背景と目的

男性の HIV 陽性者を対象としてアンケート調査を実施し、HIV 陽性者の医療機関における診断の実態を調査することを主目的とする。また HIV 感染に至った最大要因を直接明らかにすることにより、わが国の個別施策層に対する HIV 感染の予防啓発事業に寄与することを副目的とする。

### 2) 結果の概要

独立行政法人国立病院機構九州医療センター(以下、福岡)25 名、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター(以下、仙台)19 名の受診中の HIV 陽性者から質問紙調査の回答を得た。前年度に実施した沖縄県内 3 拠点病院(以下、沖縄)44 名のアンケート結果と合わせ比較検討した。

3 地域 88 名の回答者の平均年齢は沖縄 41.3 歳、福岡 43.5 歳、仙台 49.2 歳であった。自認するセクシャリティをゲイと回答したのは沖縄、福岡、仙台は 73%、84%、74%であった。

自身が HIV 感染する可能性について自覚していた者は、沖縄、福岡、仙台は 73%、79%、64%であった。過去の HIV 検査歴は、沖縄、福岡、仙台は 28%、66%、26%であり、地域間の有意差を認めた(P=0.0049)。

感染が判明する前に、医療機関を受診した経験は沖縄、福岡、仙台は 74%、78%、78%であり、その内 HIV 関連症状または STI が理由であった者は 52%、50%、56%であった。また受診したと回答した者のうち、HIV 検査を勧められたのは沖縄、福岡、仙台は 34%、31%、25%であり、HIV 検査を勧められて断った者はいなかった。HIV 感染が判明する前の生涯の性感染症歴は、沖縄、福岡、仙台は 70%、76%、77%であった。

急性 HIV 感染症の記憶が有る者は、質問に回答した者の中で、沖縄、福岡、仙台は 54%、35%、42%であった(図 2)。急性 HIV 感染を理由として受診した時、HIV 検査を勧められ受検したのは沖縄、福岡、仙台は 26%、42%、11%であった(図 3)。

### 3) まとめ

図 2. 急性 HIV 感染症について示されているようなことの記憶はありますか？

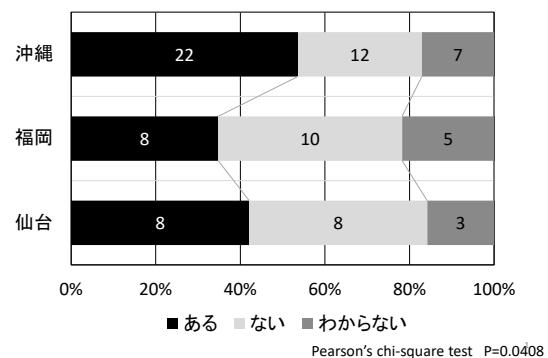
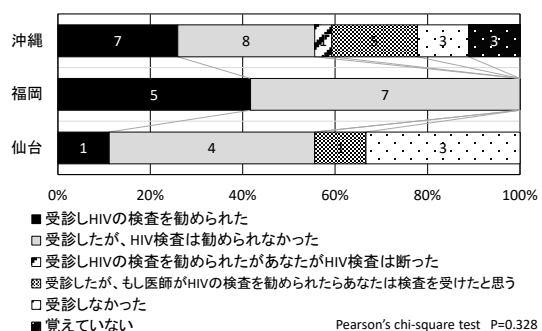


図 3. 急性 HIV 感染症の症状が出た方にお尋ねします。医療機関を受診しましたか？



感染が判明する前に HIV 関連症状または STI を理由として 50%以上は医療機関受診歴があり、HIV 陽性者の早期発見の機会を逸失していた。HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失していることが判明した。特に急性 HIV 陽性者は、感染拡大の重要な要因であり、医療機関へのこれらの症状に伴う早期検査を勧奨する取り組みの必要性が示唆された。また HIV 検査歴にも地域間の差があり、検査施設へのアクセス阻害要因を改善する必要がある。

### 研究 3: MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

#### 研究 3-1: MSM における検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動

##### 1) 背景と目的

本研究の目的は、東北、東京、名古屋、大阪、中四国、福岡、沖縄のゲイ向けイベントに参加した MSM の地域間移動の実態を明らかにすることである。2015 年、2016 年それぞれ、各地域のクラブイベントと CBO が協働し対象者リクルートを行った。インターネット調査法を用い、対象者には研究班が独自にイベントごとに開設したアンケートサイトでの回答を依頼した。質問項目は基本属性、資材認知、HIV 検査受検、過去 6 か月の外国籍 MSM との性行動経験、移動先での行動規範、国内での仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、那覇市への移動/旅行経験と移動/旅行先での性行動等である。

初回回答者を分析対象者とし、2015 年は 869 名、2016 年は 1,111 名であった。

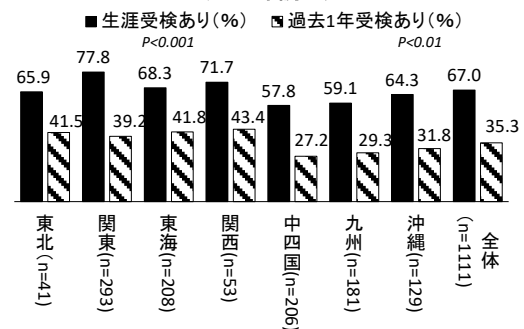
##### 2) 結果の概要

##### (1) HIV 検査受検経験

2016 年調査では、HIV 検査受検経験割合は、生涯受検経験、過去 1 年間受検経験ともに地域間で差異があった(図 4)。生涯受検経験割合は関東が 78%、次いで関西、東海、東北、沖縄、九州、中四国の順であった。過去 1 年

受検経験割合は関西 43.4%、次いで東北、東海、関東、沖縄、九州、中四国の順であった。

図4 調査地域別HIV抗体検査受検経験の比較 (2016年調査)



##### (2) 過去 6 か月間の居住地以外の都市への移動

2016 年調査では 72.5%が過去 6 か月に居住地以外の都市(仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県)を訪れた経験があった。過去 6 か月の居住地以外の都市への移動経験については、東北地域在住者は 61%、東海地域在住者は 40%が東京都への訪問経験があり、中四国在住者では 46%が大阪市への訪問経験があった(図 5、6)。

過去 6 か月に直近に移動した先でのゲイ向け商業施設利用では、ゲイバーの利用割合が全体で 63.4%と最も高かった。過去 6 か月間に居住地以外への移動経験があるもののうち、21.7%が有料ハッテン場を利用していた。

##### (3) 過去 6 か月に直近に移動した先での性行動

過去 6 か月に性行動経験があるものに限定し、居住地以外に直近の訪問地でアナルセックスを経験したものは全体で 34.3%であった。訪問時のアナルセックスでのコンドーム使用割合は 68.6%、直近のアナルセックスのコンドーム使用割合は 65.6%で差はなかった。

##### (4) 過去 6 か月に外国国籍 MSM との性行為経験

外国国籍 MSM とのアナルセックス経験割合は 2015 年調査では 18.6%、2016 年調査においても 21.0%と同様の結果であった。そのうち 75%が国内でセックス経験を有していた。

##### (5) やる!プロのロゴ認知と資材受け取り

研究4では、若年層向けに「やる！プロジェクト」を大阪で開発し、最終年には福岡以外の6地域連携の取り組みを試行した。「やる！プロ」のロゴ認知は全体では52%、「やる！プロ」資料の受け取り率は22%であった(図7)。資料受け取り率は早期に開始した地域が高いことが示されている。

#### (6) 年齢層別の比較

過去6か月のアナルセックス時のコンドーム常用割合は、2015年、2016年調査ともに25歳未満群が最も低く、各々40%、44%であった。また、HIV検査受検行動においては、25歳未満の生涯受検経験は2015年50%、2016

年52%であった。

#### 3) まとめ

MSMにおけるHIV/AIDSは、都市部に加え、地方地域でも増加が見られ、また外国国籍MSMでの国内感染も増加している。本研究の結果からMSMの国内移動、それに伴う性行動、また外国国籍MSMとの性行動等が明らかになったことから、これらの状況を踏まえた啓発活動が必要となっている。また、若者層で予防行動や受検行動が低い傾向にあり、今後のHIV感染の拡大を抑えるうえで、この若年層への啓発を強化する必要がある。

### 研究3-2. Community-Based OrganizationによるHIV予防啓発活動のプログラム評価

#### 1) 背景と目的

新宿二丁目のゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたHIV/AIDSの予防啓発を担うCBO・aktaは、啓発活動を行うにあたり、おおまかに2つのプロセスを重視して活動している。一つ目は、新宿二丁目の文化や価値観、文脈を尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員(仲間)としての存在感を示し、コミュニティからの信頼と共感を得るプロセスである。二つ目は、信頼における身近な仲間が、自分たちの街を盛り上げながら行っているHIV予防啓発活動として受け入れてもらうことによって、CBOが出すメッセージは自分たちに対するメッセージだと感じてもらうことである。

本研究では、昨年度に引き続きCBOが想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重とコミュニティメンバーとしての受け入れと共感」及び「コミュニティ感覚」というCBO活動のコンセプトと予防行動との関連性を検討した(研究1)。また、近年の若年層の感染者増加に対して、若年層のHIV/AIDS及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象をインタビューによる語りによって質的に調査し、今

図5 居住地別の過去6か月での東京都、名古屋市訪問経験割合(2016年調査)

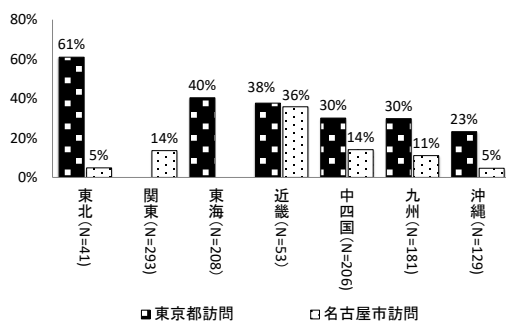


図6 居住地別の過去6か月での大阪市、沖縄県訪問経験割合(2016年調査)

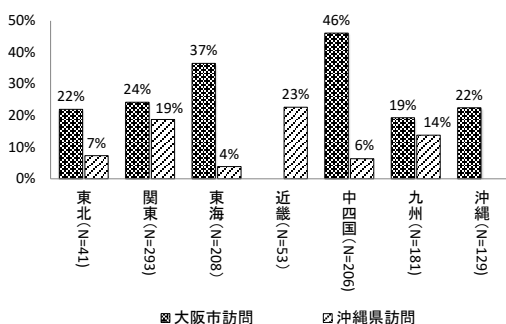
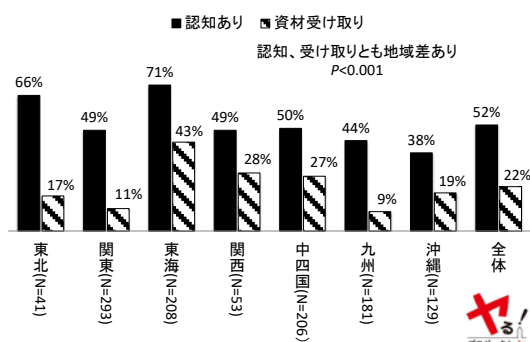


図7 やる!プロのロゴ認知と資料受け取り (N=1,111)



後の予防介入の検討に資する基礎情報を得た(研究 2)。

## 2) 結果の概要

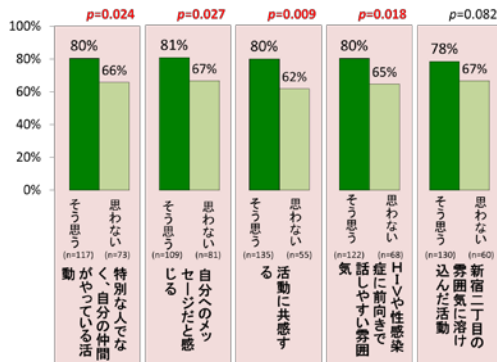
### (1) CBO 活動のコンセプトと予防行動との関連性

東京の CBO の介入地域である新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象にインターネット上の質問票による調査を行った。有効回答は 190 件。

コミュニティ活動への共感に関する 5 項目は、「雰囲気に入れ込んだ活動をしている」を除き、有意に生涯の HIV 検査受検経験があることと関連しており、検査受検群では CBO による予防啓発活動親和性の高い人の割合が高かった(図 8)。「akta の活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿 2 丁目に溶け込んだ活動をしている」の項目で 3 年以内の HIV 検査受検と関連していた。

一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の 60.5%であり、HIV や性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。

図 8 CBO・aktaの活動コンセプトへの共感とHIV検査受検  
HIV抗体検査の生涯受検経験割合



### (2) 若年層 MSM の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象

30 歳未満のゲイ・バイセクシュアル男性 5 名に対するグループインタビュー(60 分)から以下の結果を得た。

- ・検査を受けることによって、ゲイであることを近親者にカミングアウトしなければなら

らないと考えており、検査に行くと感染がわかることよりも、ゲイであることをカミングアウトすることの障壁を高く感じていた。一方、ゲイであることのカミングアウトに関して親に理解があれば検査に支障を感じないという語りもあった。

- ・また、感染した後の生活について具体的イメージが持てないため、検査の意義を見出すことができていないこともうかがえた。
- ・AV などのメディアの影響を示唆する語りが複数見られた。
- ・知識が不足していることや経済的に自立していないために、検査受検や保険、医療費負担について負担を懸念していることが伺えた。

### 3) まとめ

CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちが CBO に対して共感(empathy)と信頼を持っていることが重要であることが確認された。

コミュニティセンターは、コミュニティの課題をわかりやすい形で提示するとともに課題の重要性や緊急性を共有すること、双方向の自由かつ対等なコミュニケーションの場を提供することによって、信頼あるコミュニケーションセンターとして機能することができる。今後の HIV/AIDS の予防における PrEP や PEP などの最新の医療情報に備えて、医療者とコミュニティの情報の非対称性を緩和するヘルスコミュニケーションの場として、信頼に基づく対等で自由な関係性を担保したコミュニケーションを行うことのできるコミュニティセンターとしての役割を強化していくことが期待される。

また、研究 2 から、若い人の特徴はセクシュアルヘルスと HIV/AIDS の予防に関する知識が十分でないことによって、予防行動が妨げられている状況がうかがわれた。





### 3) まとめ

本研究では MASH 大阪、HaaT えひめと協働し、24 歳以下の若年層を商業施設利用をはじめ若年層 MSM と仮定し、予防や性感染症の情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を継続的に展開した。本年度はこの取り組みが他の地域にも広がり、10 月下旬から ALL JAPAN の枠組みでコラボレーションを行い、キャンペーン展開を図った(図 11)。

ALL JAPAN のコラボレーションでは、全国にあるゲイタウンをつなぐネットワークを見据えて取り組み、全国紙であるゲイメディアの協力、コミュニティセンターや各地域にある約 1000 軒のゲイ向け商業施設でキャンペーングッズが配布された。また情報提供には、連動したウェブサイトを作成した。ALL JAPAN のキャンペーンに参加した CBO にとって、この取り組みは、地域のコミュニティで、また日本全国で、HIV の予防啓発においてどのようなメッセージを出していくかを検討するボードを構築する経験となった。

大阪地域では、連続横断調査を用いて従来型啓発介入の効果評価を実施した結果、介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は有意に上昇し、浸透度は 20 歳代から 30 歳

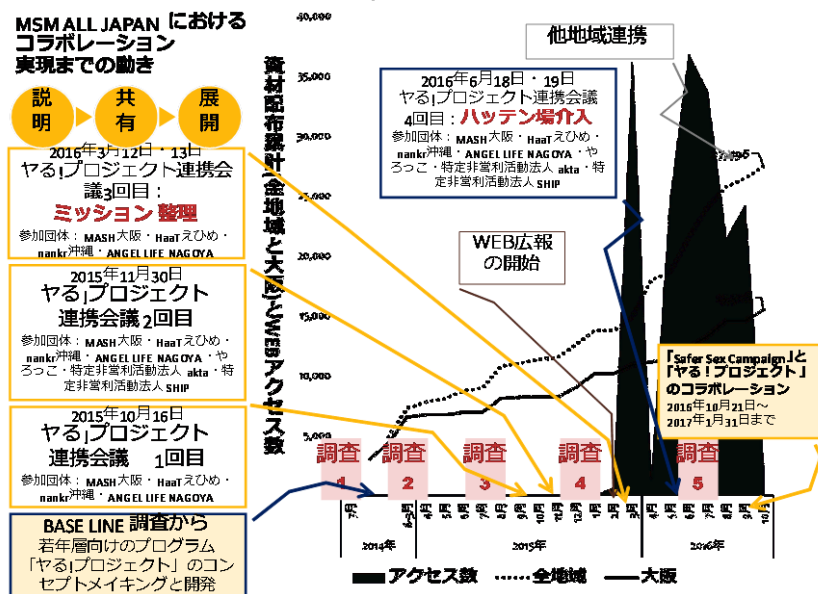
代以上へと徐々に拡大していた。一方で HIV 抗体検査受検経験割合は上昇し、保健所受検者における介入プログラム資材の認知割合や MSM 割合も高くなっていったことから、介入プログラム「やる!プロジェクト」は MSM における検査行動を促進させた可能性が示唆された。

### 研究 5: 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層 (地方、若年層、滞日外国人)に関する研究 研究 5-1: 外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査

#### 1) 背景と目的

エイズ発生動向調査における外国国籍感染者・患者の動向では、外国国籍 MSM の HIV 感染者が増加している。国内で実施されている滞日外国人対象の HIV 関連の調査研究では、外国籍者の多くは日本語への対応が困難であることを示していることから、本研究では母国語によるアンケートを可能とする多言語によるインターネット質問紙調査のシステムを構築した(研究 2 年度)。なお、研究費軽減を図るため、前身の研究班で用いた外国語対応インターネット調査を改変し、滞日外国人への支援活動を行っている CBO と共に、調査項目(国籍、日本国内での性経験、検査受検経験、HIV 関連情報の活用状況等)の内容や調査方

図 11. やる!プロと“All Japan”の取り組みの概要



法等について検討した。

日本語、英語をベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語に翻訳し、システムを完成した。日本語から翻訳された各言語は2名のネイティブによる確認、また翻訳者とは異なるネイティブ(研究者、外国人支援NGOスタッフ、大学院生など)による確認を加えて確定した。

## 2) 結果の概要

愛知県内で毎月、外国国籍のLGBTQを対象に開催されるクラブイベントと、滞日ブラジル人が多く集うクラブイベントでインターネット調査を実施した。有効回答は96件、回答者の属性は男性66.7%、女性30.2%、その他3.1%であった。

性経験を有する者は76人(79.2%)で、MSM46.1%、MSM以外男性23.7%、女性26.3%の3群に分類して分析を行った。

分析対象者の属性については、年齢層に有意な関連があり、24歳以下がMSM34.3%、MSM以外男性5.6%、女性15.0%であった(p=0.042)。日本語能力はMSMが「読むこと」「話すこと」とともに「よくできる」との回答が42.9%、48.6%と他の群より有意に高かった(p=0.003)。

日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思った経験については、MSMの方が他の群より高かった(p<0.001、表2)。一方で、MSMに限らずMSM以外男性と女性においても

母国語で受けられる検査を希望していた(91.4%、72.2%、75.0%、p=0.137)。生涯のHIV検査受検経験はMSM68.6%、MSM以外男性27.8%、女性35.0%であった(p=0.006)。一方、日本での受検経験は3群間で有意差はなかった(66.7%、40.0%、57.1%、p=0.523)。

過去6か月の性行動については、MSMで97.1%、MSM以外男性94.4%、女性80.0%で(p=0.075)、必ずコンドームを使用したのがMSM44.1%、MSM以外男性23.5%、女性56.3%であった(p=0.014)。最後にセックスをした相手については、MSMはその場限りの相手42.9%の割合が最も高く、MSM以外男性と女性は彼氏や恋人・パートナー、夫/妻が72.2%、75.5%であった(p=0.007)。

## 3) まとめ

外国国籍MSMのHIV感染者報告が増加している状況を明らかにし、外国国籍MSMの性行動、受検行動、HIV関連情報の認知等を把握した。参加者の望む言語で回答が可能なインターネット調査システムの構築を行ったことで、滞日外国人を対象とするクラブイベント参加者から回答を得ることができ、MSMおよびそれ以外の回答者別の行動調査を可能とした。増加する訪日外国人、滞日外国人を対象とした行動調査は、わが国およびアジア地域のMSMにおけるHIV感染の動向を探り、かつ対策の方向性を評価する上で重要である。

## 研究5-2: 中・四国地方におけるMSMのHIV検査状況に関する調査

### 1) 背景と目的

近年、東京、大阪、名古屋などの都市部では減少や横ばい傾向がみられている一方、他の地域において、男性同性間の性的接触によるHIV感染者、AIDS患者報告数が増加傾向にある。特にAIDS患者が占める割合が高いことが地方の特徴であり、早期検査と治療の促進を図ることが必要となっている。

岡山県は、岡山市、倉敷市の自治体と連携

表3 滞日外国人のHIV/エイズに関する情報について (MSMとMSM以外男性、女性別)

	MSM n=35	MSM以外 男性 n=18	女性 n=20	P値
日本でHIVに関する情報を得た	62.9	38.9	35.0	.082
日本に来てからHIVや性感染症の相談をしたいと思った	65.7	33.3	45.0	.063
日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思った	88.6	33.3	40.0	.000
母国語で受けられる検査があれば受けたい	91.4	72.2	75.0	.137
外国人向けのHIVや性感染症の予防啓発NGOを知っている	22.9	11.1	15.0	.530
ゲイ/バイ男性向けのHIVや性感染症の予防啓発NGOを知っている	28.6	16.7	10.0	.233
生涯のHIV検査受検経験あり	68.6	27.8	35.0	.006
日本でのHIV検査を受けた(受検経験者のうち)	66.7	40.0	57.1	.523



し、MSM を対象に啓発活動に取り組む CBO・HaaT えひめ、MASH 大阪、あうとぴーちと協力関係を構築し、エイズ拠点病院および泌尿器科クリニック(2015年3施設、2016年4施設)の協力を得て、MSM 向けのクリニック検査キャンペーン「もんげ～性病検査」を年2回実施した。CBO・HaaT えひめは、MSM 向けの広報資材を作成し、岡山の当事者団体あうとぴーちと連携して地域のMSM への広報を行い、クリニック検査への誘導を図った。

## 2) 結果の概要

「もんげ～性病検査」受検者数は、2015年31件(内、HIV 陽性判明1件(3.2%))、2016年は46件(HIV 陽性判明数0件)であった。

研究班は、岡山県・岡山市・倉敷市、CBO・HaaT えひめに協力し、地方におけるMSM へのエイズ対策事例として、その効果をHIV 抗体検査受検者調査により評価した。県内保健所の受検者では、MSM 以外の男性は2015年59.0%、2016年57.1%、女性は各年29.8%、31.6%、MSM は各年10.8%、10.9%であった。

保健所と拠点病院の受検者をMSM、MSM 以外男性、女性に分類したところ、岡山県の検査広報カードの認知率はMSM が22.0%と高く

表2 保健所・拠点病院受検者における検査広報、啓発資材・情報、CBO等の認知について

	MSM以外の男性 n=493	女性 n=267	MSM n=100	Pearson カイ2乗
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?				
ある	4.7%	3.4%	22.0%	<b>&lt;0.01</b>
ない	93.9%	95.9%	78.0%	
無回答	1.4%	0.7%	0.0%	
検査広報カードをどこで見ましたか? <sup>2</sup>				
トイレ	30.4%	44.4%	27.3%	0.64
会社	13.0%	0.0%	0.0%	0.12
学校・大学	0.0%	11.1%	4.5%	0.31
病院	39.1%	33.3%	22.7%	0.49
クラブイベント	0.0%	0.0%	31.8%	<b>&lt;0.01</b>
ゲイバー	0.0%	0.0%	27.3%	<b>0.01</b>
その他	17.4%	33.3%	40.9%	0.22
検査に来る前に以下の印刷物、ロゴ、ホームページを見たことがある				
岡山県のホームページ	17.4%	13.5%	20.0%	0.23
岡山市のホームページ	18.5%	15.7%	25.0%	0.12
倉敷市のホームページ	11.2%	12.0%	16.0%	0.40
CBO/あうとぴーち	0.4%	0.0%	15.0%	<b>&lt;0.01</b>
CBO/HaaTえひめ	0.4%	0.0%	22.0%	<b>&lt;0.01</b>
fight!! (CBOの情報誌)	0.2%	0.4%	17.0%	<b>&lt;0.01</b>
やる!プロジェクト	0.0%	0.4%	19.0%	<b>&lt;0.01</b>
もんげ～性病検査	0.9%	0.0%	28.1%	<b>&lt;0.01</b>

( $p < 0.01$ )、CBO が配布した場所で認知していることが分かった(表3)。またCBO やMSM 向け啓発資材の認知もMSM に訴求していることが示された。地域のHIV 検査受検者の特性、特にMSM の動向および地域の広報活動への反応などの知見を得ることができ、地域のHIV 感染対策の資料となった。

## 3) まとめ

コミュニティセンターの無い地方のMSM への予防啓発、自治体事業連携、MSM 向けHIV 検査について(岡山県クリニック検査等)に取り組んだ。HIV 感染者やAIDS 患者の増加傾向が報告されている中国・四国地域ではMSM の早期検査と早期治療が重要であり、行政・CBO・エイズ拠点病院・クリニックが協力した取り組みは、モデル対策事業の一つといえる。岡山県では、本検査キャンペーンを今後も継続するとともに、他の地域にも拡大していくことが望まれる。

## 研究6:HIV 検査・相談マップを用いたHIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

### 1) 背景と目的

保健所等のHIV 検査相談施設やHIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民のHIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.HIVkensa.com>)の管理・運営を行った。本サイトによる情報提供の効果を調査するため、サイトアクセス解析と受検者および検査担当者へのアンケート調査を行った。また、本年度は外国語ページ(8か国語)の新規作成を行った。

### 2) 結果の概要

年間サイトアクセス数は、2016年は151万件であり、2015年の186万件と比較して19%減となった(図12)。情報端末別では、スマートフォンからの訪問数は、2016年は122万件であり、総アクセス数の81%を占めた。訪問

者別割合は、新規訪問者が63%、リピーターが37%で、約4割は複数回利用していた。

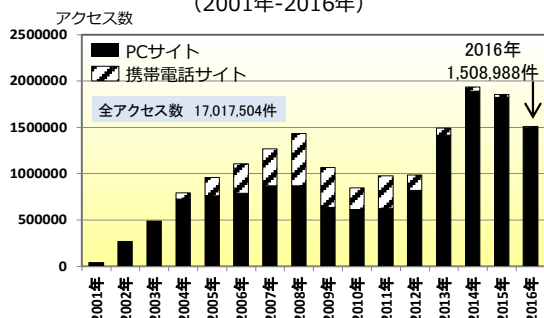
月別アクセス数は、2016年は毎月11~14万件とほぼ横ばいで推移しており、突出してアクセス数が多い月は見られなかった。日別アクセス数でも2016年11月30日のSTI/HIV検査啓発資材(セーラムーン)の報道のみ18,178件/日となり、年間を通して5,000件を超えた日は26日であった。

MSM対象の特設検査会で実施されたアンケート調査から35%は当サイトで情報を入手していたことが示された。また、HIV検査相談に関する全国保健所アンケート調査で、本サイトの利用状況等を保健所HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約9割は当サイトを閲覧したことがあり、約8割はHIV検査相談事業に役立っていると回答していた。

### 3)まとめ

2001年の開設から2016年末で1,702万アクセスを超え、現在も多くの方が当サイトを利用している。検索エンジンではHIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。今後も正確で最新のHIV検査情報を提供していくとともに、更なるHIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与していくことが望まれる。

図12 HIV検査相談マップのサイトアクセス数  
(2001年-2016年)



## 研究7:保健所等におけるHIV検査相談の全国調査

### 1)背景と目的

男性同性間のHIV感染予防対策を考える上で、重要な位置を占めている保健所等におけるHIV検査相談体制の実状を把握し、また、その充実を図るため、全国の保健所等HIV無料匿名検査実施施設を対象としたHIV検査・相談に関するアンケート調査を実施した。

なお、今回は梅毒検査についてもアンケート調査を行い、その実施状況を把握し、今後の課題について検討した。アンケートは平成28年1月~12月までの1年間のデータを解析するため、平成29年1月に実施し解析を行った。全国保健所アンケート調査(HIV)においては、全国の保健所等の協力により、対象とした563箇所(保健所及びその支所等)中、469施設(83%)から回答を得ることができた。

### 2)結果の概要

#### (1)HIV検査相談事業について

2014年~2016年のアンケート結果を表4に示した。

2016年1年間に、HIV検査相談事業を行っているという回答の得られた467施設で合計75,584件のHIV検査が実施され、221件(0.29%)が陽性であった。陽性例221件中209件(95%)が陽性結果を受け取っており、その中の162件(78%)については、その後医療機関に受診していることが保健所等において確認されていた。また、感染症法に基づく届出に関しては、2016年に陽性と分かった221件中の121件(55%)については自施設から報告が行われていた(表4)。

東京都南新宿HIV検査・相談室等の特設検査機関へのアンケート結果では、21か所中17か所(81%)から回答があり、22,183件の検査が行われ、138件(0.62%)が陽性であった。陽性の138件中128件(93%)に結果が伝えられ、そのうち108件(84%)は医療機関に受診したことが把握されていた。感染症法に基づ

く届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった138件中119件(86%)について自施設から報告が行われていた(表4)。

2016年の保健所等と特設のHIV無料検査の検査件数は97,767件、陽性数は359件(0.37%)、そのうち337件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうち270件(80.1%)に医療機関受診が確認されていた。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが144施設(31%)、即日検査のみが213施設(46%)、通常検査と即日検査が110施設24%で、その比率は昨年とほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態であった。

保健所等におけるHIV検査相談は、HIV感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものである。行動変容を働きかける相談に関しては保健所の94%、特設検査相談施設の94%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っていた。また、受検者について把握している内容については、性別、年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期について70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答し

ていた。一方、性的指向に関しては特設検査相談施設の94%が把握していたのに対して、保健所は43%であった。これらの内容を事業改善等に活用していた保健所は59%であった。

## (2)梅毒検査体制について

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV検査と共に梅毒検査を実施していると回答のあった保健所等施設は469施設中327施設(70%)で、特設検査相談施設では、17施設中6施設(35%)であった。

実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについては、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く94件(74%)、予算の増額54件(43%)、マニュアルの配布31件(24%)、職員の増員31件(24%)、医療機関の協力・連携24件(19%)等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各4施設(40%)、マニュアルの配布2施設(20%)、即日で信頼できる試薬が3施設(30%)、医療機関の協力・連携1施設(10%)等の意見であった。

現在、梅毒検査を行っている保健所での実

表4 保健所等におけるHIV検査体制に関する全国調査結果

	2014	2015	2016
保健所 アンケート回答数	469/577(81%)	484/565(86%)	469/563(83%)
HIV検査を実施した保健所数	467/469(99.6%)	483/484(99.8)	467/469(99.6%)
陽性結果のあった保健所数	114/467(24%)	119/483(25%)	111/467(24%)
陽性件数	231/94,419 (陽性率0.24%)	254/87,856 (陽性率0.29%)	221/75,584 (陽性率0.29%)
陽性結果を伝えられた件数	215/231(93%)	238/254(94%)	209/221(95%)
内、受診を把握できた件数	182/215(85%)	208/238(87%)	162/209(78%)
発生動向調査への報告件数	131/231(57%)	143/254(56%)	121/221(55%)
陰性結果を伝えられた件数	92,665/94,188 (98%)	85,919/87,602 (98%)	73,550/75,363 (98%)
特設検査機関アンケート回答数	18/23(78%)	20/24(83%)	17/21(81%)
陽性結果のあった特設検査機関	14/18	14/20	13/17
陽性件数	147/23,926 (陽性率0.6%)	129/24,412 (陽性率0.5%)	138/22,183 (陽性率0.6%)
陽性結果を伝えられた件数	138/147(94%)	121/129(94%)	128/138(93%)
内、受診を把握できた件数	124/138(90%)	113/121(93%)	108/128(84%)
発生動向調査への報告件数	-	103/129(80%)	119/138(86%)
陰性結果を伝えられた件数	23,241/23,779 (98%)	23,914/24,283 (98%)	23,914/24,412 (98%)

施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件(84%)で、有料検査が 44 件(14%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件(34%)、有料検査が 47 件(14%)であった。なお、有料の場合の費用は、500 円以下 14 件、500 円～1,000 円 25 件、1,500 円～2,000 円 40 件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査方法と結果については、STS 法による検査を行っている保健所は 259 件(79%)で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件(1.4%)であった。TP 抗体検査を実施しているのは 290 件(89%)、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件(2.5%)であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 6,665 件、陽性は 428 件(6.4%)であった。TP 抗体検査を実施しているのは 6 施設で、その検査数は 1,471 件で陽性は 413 件(28%)であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが 206 件(63%)で、結果説明のみが 77 件(24%)であった。特設検査相談施設で医療機関を紹介するのは 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。

### (3) 検査結果の誤通知

検査結果の誤通知に関しては、本年度は HIV 検査に関して 0 件であった。しかし、梅毒検査で 1 件、クラミジア検査で 1 件、合計 2 件の誤通知事例があった。梅毒検査例では検査段階での検体の取り違えが原因、クラミジア抗体検査例では検査機関での性別の記載間違いと結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという人為的ミスが重なったことが原因であった。いずれのケースもその後正しい結果を受検者に伝えることができている、その後は再発防止策の強化に努めていた。保健所等における HIV 検査は匿

名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。結果確認や転記ミス防止、匿名(番号・記号)による本人確認の徹底等により誤通知の再発防止に努めることが重要である。

### 3) まとめ

保健所および特設検査相談施設で行われている HIV 抗体検査・相談の実態についてほぼ全数を把握した。2016 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。現在、郵送検査等での HIV 受検者の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についても検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、感染予防のための相談など重要な役割を果たしている。

## 研究 8: HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

### 1) 背景と目的

HIV 感染の早期発見(検査)と早期治療は AIDS 発症を予防し、また、新たな HIV 伝播を減らす重要な手段である。全国の保健所および自治体検査相談施設(以下、保健所等)で行っている HIV 抗体検査件数は 2009 年以降減少し、2015 年に至るまで 13~14 万件前後にとどまっている。一方、「HIV 郵送検査」による検査件数は年々増加し、2015 年には 85,629 件に達しており、社会的ニーズが高いことが窺える。しかし、現状の HIV 郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられていることから、HIV 郵送検査の在り方を検討し、HIV 郵送検査を信頼性が高く、安心して受けられる検査として行くことを目的とし、本研究を計画した。

昨年度に引き続き HIV 郵送検査事業者(以下、会社)に対するアンケート調査及び新たな5社の HIV 郵送検査研究に対する第三者精度調査を行った。また、HIV 郵送検査在り方検討会では法律家を新たに加え、検討会を2回開催し、「郵送検査の在り方について」をまとめた。

## 2) 結果の概要

自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社13社にアンケートを依頼し、9社(昨年11社)から回答が得られ、2016年の HIV 郵送検査全体の年間検査件数は90,807件であった(昨年85,629件に比して増加)。団体検査の推定受検者率は53%(昨年40%)であった。HIV 郵送検査陽性件数は149件で、昨年99件より増加していた。

検査結果は郵送、e-mail、ネットでの通知が選択できる事業者が多く、検査結果が陽性だった場合、すべての検査会社で病院あるいは保健所での検査を勧めていた。

郵送検査の「外部精度調査」を5施設(施設4~施設8)に実施した。各施設が実際に使用している濾紙あるいは容器にランダムに陽性検体、陰性検体、合計100検体を配置し、郵送して検査を実施してもらった。4施設は陽性検体、陰性検体を全て正しく判定し、感度、特異度とも100%であった。1施設は判定保留があったが日本エイズ学会推奨法に従い陽性と仮定した場合、感度、特異度ともに100%であった。

「HIV 郵送検査在り方検討会」では、貴重な意見が数多く出され、HIV 郵送検査の在り方に関する留意事項として以下をまとめた。

- (1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供すること
- (2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法を充実させること
- (3) HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること

(4) 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること

(5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性を確保すること

(6) HIV 郵送検査キット(セット)の製造および販売、測定に係る法などを遵守すること(詳細は本分担研究報告を参照)。

## 3) まとめ

HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査の結果、2016年の郵送検査数は90,807件で過去最高であった。5社に対する外部精度調査では一部に判定保留が認められたが、これを日本エイズ学会の検査結果判断基準に従い陽性扱と仮定すると、5社とも感度、特異度が100%であった。郵送検査は、HIV 検査全体での割合も徐々に大きくなりつつあることから、今後、外部精度管理調査会社等の参画を得、継続的に精度管理が確認できる体制を構築する必要がある。

HIV 郵送検査在り方検討会を当初の計画通り開催し、「HIV 郵送検査の在り方について」をまとめた。

## D. 考察

### 1. 地域の MSM への HIV 感染対策の評価

7地域のCBOは、2015年度同様、商業施設を介した啓発活動を継続し、自治体との事業連携を進めていた。商業施設を利用するMSMにおいては、性感染症既往の割合が高く、予防行動をとらない割合が高いことが示されており、CBOによるコミュニティベースの啓発活動はエイズ対策において大切な役割を担っている。

地方のMSMにおいてHIV/AIDSが増加していることは、MSMの国内移動による感染の拡がりを示唆している。研究3(分担:金子典代)の調査結果では、MSMの地域間移動と移動先での性行動を把握した。その結果によれば、居住地以外の国内の都市に移動し、移動先ではゲイバーを利用する割合が高いこと、また地

方から東京都、大阪市への訪問経験者の割合が高いこと、訪問先ではアナルセックスを経験していることが示された。これらのことは、国内の移動も考慮に入れた予防啓発が必要であることを示唆している。各地域のコミュニティセンターやCBOはそれぞれの地域の状況に沿った取り組みに加え、相互に情報や啓発プログラムを共有して取り組んでいくことが望まれる。

近年、抗 HIV 薬や治療法の進歩により TasP (Treatment as Prevention)、PrEP (Pre-exposure Prophylaxis) が推奨され、わが国でも MSM はその対象に挙げられている。しかし、HIV 感染を抑えることに加え、梅毒、HBV、HPV などの性感染症を予防することも必要である。CBO は MSM のセクシュアルヘルスを増進することを目標に、予防啓発、HIV/性感染症の検査環境の構築と普及、治療や相談へのアクセス情報の提供などに取り組んできており、PrEP などの新たな手法の導入においても、この基盤を生かしていくことが必要である。

## 2. 予防啓発や早期検査等の新たな取り組み

本研究では、MSM の HIV 陽性者の協力により、陽性判明前の状況に関する情報を得ることができた。昨年度の沖縄地域での調査に加え、東北、九州からも協力が得られ 88 名の HIV 陽性者から、受検のきっかけ、検査機関と選択理由、感染判明前の予防啓発との接点などの情報を得た。昨年度と同様、急性 HIV 感染症の症状について、医療機関に受診していたが、HIV 検査が適切に提供されるべき時期に検査機会を逸失していることが判明した。保健所の HIV 検査を自発的に受検することを啓発するに加え、医療機関における早期発見についても、医療者の HIV 感染症への認識不足に対する教育啓発が必要と考える。なお他の地域でも同様の状況があると推察されるため、同様調査を他地域で実施する必要がある。

## 3. MSM を対象とした性行動、検査行動調査

当研究班の前身の研究班では、各地域の MSM を対象とした横断調査を継続し、MSM の予防行動、受検行動、CBO 活動との接触を観察し、CBO 活動の効果を評価してきた。本研究班でも同様の調査を継続して、CBO による啓発の効果評価調査を研究 3 が担当した。

各地域の MSM の性行動、検査行動、CBO 啓発資材等の認知を評価するには、各々の地域から少なくとも 500 人、東京、大阪では 1000 人規模の回答者を得る必要がある。これまでの研究班では、ゲイバーを利用する MSM やクラブイベントに参加する MSM、また CBO のネットワークを活用したインターネットによるアンケート調査 (GCQ) を実施してきた。しかし、当研究班の研究 3 で実施した行動調査は、研究費規模を考慮して地域で 100~200 人程度の調査となっている。そのため検査行動や予防行動に関する観測値は変動が大きく、経年的な変化や啓発効果を評価することが困難となっている。CBO 活動を評価するに十分な調査が不可能であることは、CBO 活動の成果を示すことができず、CBO にとっても CBO 自身の活動の方向性を検討する材料を失うこととなる。初年度は、予算規模を考慮して全地域を対象とする調査を行うことはしなかったが、CBO からの希望もあり、昨年度から東京、東北、東海、九州、沖縄、中四国地域で小規模の調査を実施した。なお、大阪地域は研究 4 で実施している。

本研究の GCQ アンケートでは、MSM の地域間移動と移動先での性行動に関する質問を加え、MSM の移動に伴うリスク行動や啓発への接点を把握した。これは地方の MSM において HIV/AIDS、特に AIDS が増加していることから、MSM の国内移動と HIV 感染の拡がりについて検討するために実施したものである。

首都圏での質問紙調査は、akta のアウトリーチ活動を評価することを目的に実施した。この調査からは、CBO の啓発活動の対象であ

るコミュニティの人たちが CBO に対して共感 (empathy) を持っていることが重要であることがわかった。CBO をコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持ち、発信されるメッセージは自分に向けたメッセージだと感じる事が、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動に関連していることが示された。

東京に限らず、各地域の CBO は、地域のコミュニティの文化や空気感を把握し、それを活動に反映し、多様なコミュニティから共感を得る HIV/AIDS 予防啓発メッセージを発信しており、東京での調査結果は、その活動の意義を示していると思われる。

#### 4. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入

大阪を介入モデルの開発地域とし、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とする介入モデル「やる！」プロジェクトを企画した。近年の若年層での HIV 感染の拡大防止を視野に入れて始まった研究である。初年度は大阪を軸に新たなプログラム企画と試行を行い、2 年度目からは他の地域の CBO との協働会議を設けて他地域への展開を模索し、3 年度目にはそれを 6 地域で展開することを進めた。またコミュニティセンターの無い地域で、予算的バックアップが乏しい中四国 CBO・HaaT えひめと当初から協働体制をとった。

研究としては、初年度、紙資材を中心とした従来型予防啓発を 6 ヶ月間実施し、その後、予防意識、知識、性行動、初性交時の環境、相手との関係性、商業施設利用状況、予防行動、受検行動等の基礎調査を実施した。また、大阪地域の MSM の受検行動については、大阪府、大阪市の協力を得て定点保健所を設け、HIV 抗体検査受検者を対象とする質問紙調査により経時的な MSM 受検者動向を把握す

ることとした。

MSM 対象の行動調査から、男性との初性交時の相手との関係性や予防に関する状況とその後の性行為における予防行動や意図との関連を明らかにし、若年層 MSM を対象とする新規介入モデルを検討し、2 年度目には MSM に必要な情報として、薬物使用に関するもの、HIV 陽性に関するものを加えた。また新型啓発介入として、本プロジェクトのホームページ「やる!プロ TV」の作成を進めた。

大阪地域の MSM 対象の調査結果から、本研究が対象とした若年層では介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合が有意に上昇し、浸透は 20 歳代から 30 歳代へと徐々に拡がり、特に新型プログラム導入以降は顕著であった。認知上昇とともに生涯および過去 1 年間の受検割合も認知群で上昇し、保健所受検者における MSM 割合も上昇していた。

#### 5. MSM の早期検査・早期治療の促進

HIV 検査・相談マップは、2001 年の開設から 2015 年末で 1,700 万アクセスを超えた。現在も全国で多くの方が当サイトを利用している。保健所を軸に特設 HIV 検査施設、臨時 HIV 検査、クリニックなどを掲載し、全国の HIV 検査機関の情報を提供している。この研究は、HIV 検査体制に関する研究班で行われていたが、昨年から当研究班で継続した。MSM を対象とする当研究班の CBO と共に、MSM 向けサイトとの連携など、MSM の受検行動を促進する機会となった。また近年の外国国籍 MSM の HIV 感染者の増加から、外国国籍の人々に向けたサイトコンテンツも今年度は作成した。

保健所で行われている HIV 抗体検査・相談の実態についてほぼ全数を把握した。陽性件数は、保健所と特設検査相談施設を合わせると、2016 年は 359 件の陽性件中 337 件 (93.9%) に陽性の結果が伝えられ、そのうちの 270 件 (80.1%) に医療機関受診が確認されていた。保健所等の HIV 検査は、HIV 感染症

の早期検査・受診を極めて高い状況で実施していることから、わが国のエイズ対策の上で極めて重要な役割を果たしている。

一方保健所では、性的指向に関する相談等が十分とは言えないことが昨年につき明らかとなった。当研究班のCBOは、自治体と連携してMSMへの検査普及活動を行っている。HIV検査担当者を対象とする研修会では、性的指向、薬物使用、HIV陽性者への対応に関するプログラムを提供している。CBOによるこうした取り組みを全国の地域に展開することは容易ではない。しかし、性的指向等に関する情報や対応スキルなどを検査担当者が持つことは、保健所のMSM受検者にとって受けやすい環境となる。とくに、コミュニティセンターやCBOの無い地域では、MSMへのかかわりが課題となっている。現在行われているエイズ担当者向けの研修において、当研究班のCBOと共に企画内容を検討するなどの取り組みも一つの方法と考える。

HIV郵送検査は2001年頃からほぼ直線的に増加を続け、2016年は過去最高の件数となっていた。HIV郵送検査は、保健所等に出向いて保健所職員や他の受検者等と対面することなく、差別偏見の目を意識せずに、一人でいつでも受けられるといったことが検査件数の増加の一因と思われる。しかし、現状のHIV郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられている。

当研究班の先行研究では、郵送検査受検者中のMSM割合は6%程度と低いが陽性判定例はすべて男性であった。エイズ発生動向調査から、この殆どはMSMと推定される。郵送検査はその利便性から、MSMのほかに薬物使用者、性産業従事者・利用者などの利用も考えられる。これらの背景を踏まえ、「HIV郵送検査の在り方」を作成した。受検者にとって信頼性のある検査となることが、わが国のエイズ対策にとって有用なものになると考える。

## 6. 自己評価

### 1) 達成度について

7地域のCBOsの啓発活動の評価、若年層MSMへの新たな予防介入「やる！プロジェクト」の開発と多地域展開と効果評価、HIV陽性判明前の受検契機について、外国籍MSMの多言語調査、地方のMSMへの取り組み、保健所等のHIV検査体制の実態、HIV検査・相談マップの有用性、郵送検査のあり方の研究はほぼ計画通り実施した。

### 2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

CBOと自治体の連携に関する調査はエイズ予防指針の行政連携の資料となる。また、MSMの行動疫学調査は地域のMSMの予防行動や検査行動の動向を把握し、CBO活動やエイズ対策の評価資料となる。

20歳代のMSMへの取組みは、わが国のMSMにおけるHIV感染を抑制する上で重要であり、意識して継続することが必要である。

保健所等のHIV検査の実態、HIV検査・相談マップの活用、郵送検査に関する研究は国民へのエイズ対策に資する。

### 3) 今後の展望について（提言）

MSMを対象としたHIV感染対策はわが国のエイズ対策の要である。MSMにおけるHIV感染に対して、以下の取り組みが望まれる。

#### ・20歳代のMSMへの継続的な取組み

若年層向け「やる！プロジェクト」により、モデル地域の大阪では若年層MSMで検査行動、予防行動が上昇した。また他の地域と連携した「やる！プロジェクト」を試行し、6地域のCBOが協働して啓発展開する基盤を構築した。性行動が活発になる若年層MSMへの啓発は、MSMにおけるHIV感染を抑制する上で重要であり、継続した取り組みが必要である。

#### ・コミュニティセンターを軸にしたCBO活動

MSMの居住地以外の地域への移動、特に地方から東京、大阪などの都市部に訪問する傾向が高いことから、各地域のコミュニティセ



ンターや CBO はそれぞれの地域の状況に沿った取り組みに加え、地域間で協働して啓発に取り組むことが望まれる。特にコミュニティセンターを軸に取り組んでいる CBO は、コミュニティセンターの無い地域の CBO と連携し、全国的な啓発体制を構築していく必要がある。

#### ・ AIDS 患者が多い地方の MSM への取り組み

AIDS 患者報告例が多い地方では、MSM の早期検査促進が急務である。性感染症等で受診した際の医療機関での HIV 検査勧奨を促進する取り組み、また保健所以外に受検できる検査体制として岡山県のクリニック検査をモデルとした MSM 向け検査機会提供などに取り組むことが有用と考える。

#### ・ CBO 活動、疫学研究、医療・行政の協働体制

MSM の HIV 感染対策を進めるには、当事者 CBO による訴求性のある普及啓発、医療機関や保健所等と連携した早期検査・早期受診の促進、地域の MSM の行動等を把握し評価する疫学研究が不可欠で、CBO、医療者、疫学研究者、行政担当者の研究体制で取り組むことが重要と考える。

## E. 結論

各地域の CBO による商業施設を介した MSM への啓発普及とその評価、若年層 MSM への予防介入の開発とその評価に主眼を置いて、初年度から 4 課題の研究を継続し、さらに 2 年度目から、増加が著しい地方の MSM や滞日外国籍 MSM、また保健所等の検査体制、HIV 郵送検査の課題に関する 4 課題の研究を追加した。

3 年度の成果は以下のとおりである

研究 1: CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

地域の MSM を対象に商業施設を介した啓発を行っている CBO は、MSM 集団への予防啓発に加え、自治体・保健所等と連携し、CBO のネットワークを活用して検査普及等を行っていた。啓発活動に関連した効果については研究 3 の横断調査で評価した。CBO の啓発活動

コンセプトへの共感が MSM の受検行動に影響していることが示されている。

研究 2: 男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究

HIV 陽性者を対象とした調査から、HIV 検査が適切に提供されるべき時期に検査機会を逸失していることが判明した。医療者の急性 HIV 感染症への認識に対する啓発が必要である。

研究 3: MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較

MSM の国内移動に伴う性行動を把握し、各地域の CBO が連携して予防啓発に取り組むことの必要性を示した。また過去 6 か月の外国籍 MSM との性行為経験は 20% であり、外国籍も含めた啓発が必要である。

研究 4: 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価

若年層 MSM を対象にした「やる！プロジェクト」は大阪を軸に開発され、2 年度からは他地域 CBO と連携した Web での展開、3 年度には 6 地域で” All Japan Campaign” を展開した。大阪地域の横断調査から、若年層 MSM で認知が高く、検査行動や予防行動に影響していたことが示された。

研究 5: 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層（地方、若年層、滞日外国人）に関する研究

・外国国籍 MSM の現状を把握するために多言語アンケートシステムを開発し、多国籍の MSM の行動調査を可能とした。外国籍 MSM は来日後に HIV、性感染症の検査を必要としていることなど、対策のニーズが示された。

・コミュニティセンターが無い岡山県で、CBO と自治体・保健所、クリニックが協働し、MSM 向けクリニック検査キャンペーンを導入した。保健所を含め HIV 検査受検者調査により CBO による MSM への啓発普及効果を示した。

・若年層 MSM については性行動、受検行動等に関するグループインタビューによる質的調査を行い、若年層に特異な要因を探った。

研究 6 : HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析  
保健所等の HIV 検査施設を掲載している HIV 検査・相談マップは広く国民に活用されており、常に情報を更新していく必要がある。  
研究 7 : 保健所等における HIV 検査相談の全国調査

保健所と特設検査相談施設の HIV 検査は陽性件数がエイズ発生動向調査の HIV 感染者の 40%程度を占め、その殆どの者が陽性結果を受け取り、医療機関を受診していた。保健所等の HIV 検査体制は HIV 感染者の早期検査・早期受診として重要な役割を果たしている。  
研究 8 : HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

HIV 郵送検査は利用件数が増加している一方、検査精度管理、個人情報保護、陽性者の医療機関等への結びつけの課題などがある。これら課題について吟味し、「HIV 郵送検査の在り方について」を作成した。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 発表論文等

研究代表者

市川誠一

論文発表

- 1) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一、成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-。日本エイズ学会誌。19 巻 1 号、16-23、2017。
- 2) 市川誠一、塩野徳史、金子典代、本間隆之、岩橋恒太。MSM(Men who have sex with men)における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割。化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016

学会発表(国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一。HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 3) 高野操、岩橋恒太、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也、生島嗣、佐藤郁夫、中山保世、小日向弘雄、友成喜代美 5、土屋亮人、杉野祐子、池田和子、小形幹子、田中和子、市川誠一、菊池嘉、岡慎一。医療機関と NGO の連携による郵送検査の手法を用いた HIV 検査の取り組み。日本エイズ学会、2016 年、鹿児島。
- 4) 岩橋恒太、高野操、荒木順子、木南拓也、佐久間久弘、生島嗣、市川誠一、岡慎一。医療機関と NGO の連携による、MSM を対象とした HIV 検査“HIVcheck”における啓発とキット配布体制に関する検討。日本エイズ学会、2016 年、鹿児島。

研究分担者

健山正男

論文発表

- 1) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一、成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-。日本エイズ学会誌。19 巻 1 号、16-23、2017。
- 2) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y.: A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76\_01B Identified by Near Full-Length Genome

Analysis. AIDS Res Hum Retroviruses. [Epub ahead of print]. PMID: 26528581. 2015 Dec 1

- 3) Shibahara D, Kinjo T, Nishiyama N, Kami W, Nabeya D, Haranaga S, Higa F, Tateyama M, Shinzato T, Toma H, Kishimoto H, Fujita J.: Falciparum Malaria Incidentally Pretreated with Azithromycin. Intern Med, 54(19), 2513-6. 2015

#### 金子典代 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エイズ学会誌. 19 巻 1 号、16-23、2017.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016

#### 本間隆之 論文発表

- 1) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016

#### 塩野徳史 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エ

イズ学会誌. 19 巻 1 号、16-23、2017.

- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016

#### 学会発表(国内)

- 1) 塩野徳史. エイズとコミュニティ-MASH 大阪とは何か?. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」2016 年 10 月、大阪.
- 2) 鬼塚哲郎. MASH 大阪のはじまりと 10 年の歩み-地域コミュニティの形成と人材の成長. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」2016 年 10 月、大阪.
- 3) 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 駒野淳, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 柴田敏之, 木下 優. 塩野徳史. 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 27 年度実績報告. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月、鹿児島.

#### 佐野貴子

##### 学会発表(国内)

- 1) 佐野貴子, 須藤弘二, 星野慎二, 井戸田一朗, 杉浦太一, 清水茂徳, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信, 市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.
- 2) 近藤真規子, 佐野貴子, 吉村幸浩, 立川夏夫, 岩室紳也, 井戸田一朗, 山中 晃, 武部 豊, 今井光信, 加藤真吾. 中国の MSM

間で大流行している HIV-1 CRF01\_AE variant の日本国内への拡散. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. 全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.
- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2015). 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.
- 5) 加藤真吾、須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、藤原 宏、長谷川直樹. CDC が推奨する HIV 検査手順の検討と HIV-1/2 鑑別検査キット Geenius の検討. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

今井光信  
学会発表(国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一. HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.
- 2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、今井光信、加藤真吾. 中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01\_AE variant の日本国内への拡散. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.
- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. 全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査. 第

30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾. HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2015). 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.
- 5) 加藤真吾、須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、藤原 宏、長谷川直樹. CDC が推奨する HIV 検査手順の検討と HIV-1/2 鑑別検査キット Geenius の検討. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島.

木村 哲  
論文発表

- 1) Wada K, Yoshikawa T, Lee J. J., Mitsuda T, Kidouchi K, Kurosu H, Morisawa Y, Aminaka M, Okubo T, Kimura S, Moriya K; Sharp injuries in Japanese operating theaters of HIV/AIDS referral hospitals 2009-2011. *Industrial Health* 54: 224-229, 2016
- 2) 木村哲; 全国保健所等における HIV 抗体検査件数と新規 HIV 感染者報告数の関連. *日本エイズ学会誌* 18(1): 79-85, 2016.
- 3) 木村哲; HIV 感染症の最近の動向—世界と日本の疫学状況、抗 HIV 療法(ART)の進歩等—. *感染制御* 11(3): 223-229, 2015.
- 4) 木村哲; HIV 感染症について. *感染と消毒* 23(2): 86-92, 2016.
- 5) 木村哲(監訳); 成人および青少年 HIV-1 感染者における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン 2016 年 7 月 14 日版. テクノミック, 東京, 2016.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## CBO の予防啓発活動と商業施設および自治体との連携に関する研究

研究代表者：市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授）

研究協力者：太田 貴（やろっこ）、伊藤俊広（仙台医療センター）、荒木順子、岩橋恒太（NPO 法人 akta）、石田敏彦（ANGEL LIFE NAGOYA）、塩野徳史、町登志雄（MASH 大阪）、新山 賢（HaaT えひめ）、牧園祐也（Love Act Fukuoka）、山本政弘（九州医療センター）、玉城祐貴（nankr 沖縄）、健山正男（琉球大学大学院医学研究科）

### 研究要旨

7 地域で MSM に向けて啓発活動を行っている地域ボランティア団体（CBO）を対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動、および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、2016 年度（11 月末時点）の活動状況を把握した。対象とした CBO は、東北地域の CBO・やろっこ、東京地域の NPO・akta、東海地域の CBO・ANGEL LIFE NAGOYA（ALN）、近畿地域の CBO・MASH 大阪、中四国地域の CBO・HaaT えひめ、九州地域の CBO・Love Act Fukuoka（LAF）、沖縄地域の CBO・nankr 沖縄である。

ゲイバーとの連携率（連携店舗数/把握店舗数）は、東北 100%、東京 44.2%、東海 83.0%、大阪 67.0%、中四国 98.0%、福岡 98.5%、沖縄 100%であった。全地域で 1080 店舗中 643 店舗（59.5%）に CBO は作成した啓発資材を配布していた。商業系ハッテン場では全地域の 101 店舗中 75 店舗（74.3%）と CBO は関係を継続し、ゲイ関連のショップ店、若年層 MSM の利用が多いクラブ系ゲイナイトなどの商業施設を介した啓発資材配布を行っていた。6 地域の CBO/NPO（やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄）は、 Condom 使用の促進を目標にした「つけていこう」のキャッチコピーによる ALL JAPAN CAMPAIGN（akta Safer Sex Campaign と「やる！プロジェクト」の合同キャンペーン）を 10 月～1 月末まで商業施設や Web を介して展開した。

6 地域にあるコミュニティセンターの利用状況はほぼ前年並みの状況であった（11 月末時点）。仙台の ZEL、大阪の dista では 2015 年にセンター経費を考慮してセンター面積を縮小したため来場者数が減少したが、2016 年には来場者を呼び込む企画を工夫し利用者増を図っている。近年の特徴として、滞日外国人や海外からのツーリストの来場者の増加があげられている。

自治体・保健所の事業と連携した取り組みでは、7 地域の CBO は MSM 向けの検査促進の広報資材作成や配布、HIV 検査担当者研修会への協力を継続していた。MSM 向けの HIV 検査（臨時）の実施、検査広報のチラシ等の作成、MSM 向け検査担当者研修会などについて予算化する自治体もみられ、自治体側で CBO との連携に対応する傾向も見られている。

### A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向年報によれば、わが国の AIDS 患者及び未発症 HIV 感染者（以

下、HIV 感染者）は、サーベイランスを開始してから報告数の増加が続いたが、この数年間は 1,500 人前後の報告数で横ばいとなって

いる。その背景として、1990年代半ばから増加が続いた男性同性間性的接触（以下、MSM）によるHIV感染者の報告が2009年以降に横ばいとなったことにある。しかし、2015年の報告ではHIV感染者（1,006件）の68.7%、AIDS患者（428件）の58.4%をMSMによる感染が占めており、報告地域としては、東京を中心とした関東地域、大阪を中心とした近畿地域、愛知県を中心とした東海地域などの大都市地域に加え、九州地域や中四国地域からの報告も目立ってきている。特に地方ではAIDS患者として報告される割合が高く、MSMの早期検査に向けた取り組みが望まれる。

前身の研究班（厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」、2012年度報告書）では、20歳～59歳の日本人成人男性の質問紙調査から、MSMの内ゲイ・バイセクシュアル男性向けの商業施設を利用する者は34.6%で、性感染症既往歴が高く、予防行動が低いことを報告した。これは、商業施設を利用するMSMへの予防啓発が日本のHIV感染対策として重要であることを示唆する。

2002年、厚生労働省はHIV感染者の半数以上をMSMが占めたことを鑑み、東京、大阪、名古屋の同性愛者等で構成するNGO/NPOメンバーを委員とする「同性間性的接触におけるエイズ予防対策に関する検討会」を設置し、2003年3月には、男性同性愛者等に訴求性のある啓発や当事者の事情に詳しいNGO等との協力関係の必要性などを示す中間報告を発表した。2003年度には厚生労働省委託エイズ予防対策事業エイズ知識啓発普及事業の一環として、現在の公益財団法人エイズ予防財団を通じて男性同性愛者等への啓発を促進するNGO活動拠点としてのコミュニティセンターが東京と大阪に設置された。コミュニティセンター事業は、当初、エイズ予防対策事業の一環として取り込まれ、2008年度までに東京

（akta）、大阪（dista）、名古屋（rise）、福岡（haco）の4地域に設置され、2009年度からは、厚生労働省委託事業「同性愛者等に対するHIV/エイズ予防対策事業」として、仙台（ZEL）、沖縄（mabui）を加えた6地域となった。2011年度からは厚生労働省委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業」（コミュニティセンター事業）として、施設運営費、運営に係る人件費、啓発資材作成等の費用などを含む事業となった。公益財団法人エイズ予防財団が6カ所のコミュニティセンター事業を受託し、センター運営を担う各地域のCBO（CBO・やろっこ、NPO・akta、CBO・ANGEL LIFE NAGOYA（ALN）、CBO・MASH 大阪、CBO・Love Act Fukuoka（LAF）、CBO・nankr）と共に、商業施設を介した予防啓発、自治体等と連携したHIV検査促進の啓発活動を進めている。一方、中四国地域では、CBO・HaaT えひめが独自の活動を展開し、ゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設を介したアウトリーチ、自治体・保健所と連携したHIV抗体検査促進などの取り組みを行っている。

本研究では、2014、2015年度に続き、これらの7地域において、MSMを対象に商業施設を介した啓発普及活動、地域の自治体・保健所等、他の関連機関と連携したCBOの取り組みについて調査し、その現状を把握することとした。

## B. 研究方法

地域でMSMに向けて啓発活動を行っているCBOを対象に、商業施設との連携、実施している啓発活動、および自治体・保健所との事業連携に関する調査票を配布し、2016年度の活動状況について回答を得た。対象としたCBOは、東北地域のCBO・やろっこ、東京地域のNPO・akta、東海地域のCBO・ALN、近畿地域のCBO・MASH 大阪、中四国地域のCBO・HaaT えひめ、九州地域のCBO・LAF、沖縄地域のCBO・nankr 沖縄である。

CBOには2016年11月末時点の実施状況(年度内予定の企画を含む内容)の記載を依頼した。また、各CBO代表から、回答調査票の内容について、2016年12月24日(土)、25日(日)の研究班会議において説明してもらい、CBO間での情報共有の機会を設けた。

なお、本報告の表では、各CBOの記述の表現を統一し、CBOの確認を得て作成した。

## C. 研究結果

### 1. CBOの商業施設等との連携状況

7地域のCBOは、それぞれの地域でゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設やサークルなどとコンタクトをとり、それらを介したアウトリーチ活動を継続していた。施設については、ゲイバー、商業系ハッテン場、ゲイナイト、ウリ専、ショップ、サウナ・ホテル、サークル、ゲイ雑誌、ウェブサイトとさまざまであった。これらの中から、ゲイバー、商業系ハッテン場、ゲイナイト、ゲイショップ、サークルについて、CBOが把握する地域での施設数(店舗数)、アウトリーチ活動等の協力を得ている施設数(連携数)、およびその連携率を表1に示した。

ゲイバーとの連携では、地域の施設数はほぼ前年同様規模で、連携率も同様の実施状況であった。東北100%、東京44.2%、東海83.0%、大阪67.0%、中四国98.0%、福岡98.5%、沖縄100%、全地域で1080店舗の内643店舗(59.5%)にCBOは作成した啓発資材を配布していた。

商業系ハッテン場では全地域の101店舗中75店舗(74.3%)とCBOは関係を継続し、ゲイ関連のショップ店、若年層MSMの利用が多いクラブ系ゲイナイトなどの商業施設を介した啓発資材配布を行っていた。

活動しているゲイサークルやゲイナイト等のすべてを把握することは容易ではないが、CBOは各々のネットワークを活用して団体に接触し資材等の配布を依頼している。

ゲイバーは、2014年に比べて、協力関係を構築した施設・団体等はやや増加している傾向にあった。全体では2014年1050施設から2016年1080施設に増加したが、連携施設数も619施設から643施設に増加している。

### 2. MSMへの啓発普及活動拠点・コミュニティセンターの状況

厚生労働省は2011年度から、委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業(コミュニティセンター事業)」を開始し、公益財団法人エイズ予防財団がこれを受託している。全国6地域のコミュニティセンター(ZEL、akta、rise、dista、haco、mabui)は、当研究で調査を依頼したCBO(やろっこ、akta、ALN、MASH大阪、LAF、nankr)がコミュニティセンターの運営と啓発資材作成とアウトリーチ活動を行っている。

コミュニティセンターは、ゲイ・バイセクシュアル男性が利用する商業施設が集積する地域にあり、CBOはセンターを軸にゲイバー、ハッテン場、ゲイショップ、メディア、サークルなどのネットワークを介したコミュニティベースの啓発活動を進めている。また、CBOは、センターを当事者が集う「場」、予防活動の「拠点」、関係機関との連携の「ハブ」としての機能を持たせている。

6地域のコミュニティセンターの利用状況を表2に示した。11月末時点の来場者数ではあるが、ほぼ前年度並みの利用状況であることが伺える。仙台のZEL、大阪のdistaは、将来的なセンター運営を考慮して、2015年にスペース面積を大幅に縮小した。そのため、2015年度調査では来場者数が減少したことが報告された。しかし、2016年度の報告では、ZELでは、来場者を増加させる企画を設けるなどの工夫によりセンターの周知を図ったことで増加したことが報告されている。

運営にかかわる専従スタッフの人数や、アウトリーチ活動に関わるボランティアスタッ

フの人数は地域によって異なるが、センターでは4時以降の午後、土曜日、日曜日に開館し、MSM が利用しやすい環境を整えて運営している。福岡のhacoでは、現状のスタッフ数やボランティアの関われる時間等の制限によりセンター活動時間を変更していた。

ボランティア活動に関わる人材の確保は、引き続き各地域での共通課題となっていた。

### 3. CBOによる啓発普及活動と自治体との連携

7地域のCBOが商業施設を介して実施している啓発活動を地域別に表3～9に示した。活動は、2014年度と同様に、商業施設等を介したコミュニティベースの予防啓発活動、MSMのHIV検査を促進するための啓発普及活動、自治体や保健所と連携したHIV感染対策の取り組みに大別された。

#### 1) 東北地域のCBO・やろっこ(表3)

おおむね2014年度からの啓発プログラムを継続していた。東北地域では発症後のエイズ患者の報告数が見られることから中高年層向けの啓発プログラムに重点をおき、また2011年3月11日の震災後の復興需要から転入者が増えていることに対処したプログラムなどを企画していたことが特徴としてあった。コミュニティセンターZELのスペースを縮小したことで、来場者の減少等がみられていたが、セクシュアリティフリーの日を設けたこと等で初来館者は前年を上回ったと報告している。また、東北各県からの来館を促すポスターを作成したことで、県外からの来場者が前年比129%となっていたことは、東北地域をカバーする上で有効な企画と考える。

仙台市と協力してMSMに向けてHIV検査促進の資材作成と配布を継続している。仙台市との連携強化で6月実施の仙台市エイズ即日検査会の受検者に占めるMSMの割合は43.8%を占めた(2015年6月41.6%、2013年6月28%)。ZEL開設当初は10%前後であったことからCBOによる広報活動の成果が伺える。

仙台市に加え、郡山市保健所HIV検査(7月～)、いわき市保健所HIV梅毒検査(10月～)との連携も増えており、エイズ患者の報告割合が高い地方では大切な取り組みとなる。

#### 2) 東京地域のNPO・akta(表4-1, 4-2)

2003年から継続している新宿2丁目のゲイバー等を介したデリバリーヘルスポーイ(通称デリヘルボーイ)によるアウトリーチ活動を中心に、コミュニティペーパーやコンドーム配布、HIV陽性者の手記を用いたLiving Togetherプログラム、ハッテン場等へのSafer Sexキャンペーン、セーファーセックスガイド「HAVE A NICE SEX」の配布などのコミュニティベースの予防啓発、およびMSMのHIV検査促進を目的に、自治体と連携したHIV検査情報の広報活動、自己穿刺採血による検査キットをaktaで配布する新たな検査システム「HIVcheck」の導入などに取り組んでいる(表4-1, 4-2)。

#### (1) 予防啓発普及関連

6地域のCBO/NPO(やろっこ、akta、ALN、MASH大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄)は、コンドーム使用の促進を目標にした「つけていこう」のキャッチコピーによるALL JAPAN CAMPAIGN(akta Safer Sex Campaignと「やる!プロジェクト」の合同キャンペーン)を10月～1月末まで商業施設やWebを介して展開した。

#### (2) HIV検査の普及活動関連

日本のHIV感染者において多くを占める首都圏地域において、MSMのHIV検査促進は重要であり、2006年～2010年度のエイズ予防のための戦略研究では、エイズ患者の増加を止めるために「エイズ発症予防『できる!』キャンペーン」を展開した。その後も、NPO法人・ぷれいす東京、NPO法人・akta、そして当研究班は協働体制(首都圏グループ)を継続し、MSM対策のための行政・自治体・NGOの意見交換会、検査担当者向けMSM対応の研修会、MSMに向けたHIV検査機関を紹介する「ヤロー



ページ」の配布、そしてMSM向けのHIV検査・相談・医療等に関する総合情報サイト HIVマップを継続している(表4-2-(1))。

2015年度には、国立国際医療研究センター・エイズ治療開発センター(ACC)と協働し、「あんしんHIVチェック」の検査キット配布を開始した。これは自己穿刺の血液ろ紙をACCに郵送して、ACCでの検査結果を専用WebページでID、パスワードで知る方法で、結果が陽性の場合はACCもしくは協力医療機関・東新宿こころのクリニックに受診するプログラムである。検査キットをセンターで配布する際に、検査の流れを説明し、相談が必要な人には対面相談に応じている。コミュニティセンターでの検査キット配布(配布回数76回、キット数1700件)に加え、出張HIVcheck@上野(3月、9月、12月)、HIVcheckスペシャルデーを設定し、積極的なHIV検査普及を目指した(表4-2-(2))。

また、aktaとの協働として開始した新宿区保健所の「ゲイのためのエイズ・性感染症検査」の広報、千葉県休日検査会(6/5、8/28、11/27、1/8)、新橋あんしん検査(みなと保健所、7/4、12/2)、埼玉県保健医療部、埼玉県草加市保健所などと連携し、検査広報をゲイ向けアプリバナー、ゲイ向けサイトに行った。

NGO活動・行政連携等におけるコメントとして、行政のHIV/エイズ対策においてMSMを対象とした対策への関心がうすれてきているように感じるとの回答があった。自治体担当者が2-3年毎に異動するため、その対応がCBO側の課題となっていると思われる。

また、PEP、PrEP、TasPなど新しい予防の時代を迎えていることに対して、コミュニティセンターaktaではこれらをテーマにした「トークイベント」を開くなどの対応を始めている。これらの新たな取り組みには、MSMおよび陽性者の声を聞きながら支援と連携した予防啓発の必要性を指摘していた。

さらに、aktaには全国からの訪問者や外国

人ツーリストの訪問があることから、MSMへのHIV感染対策として、日本全国やアジアとの連携が大切であるとコメントしていた。

### 3) 東海地域のCBO・ANGEL LIFE NAGOYA(表5)

コミュニティセンターriseを軸にCBO・ANGEL LIFE NAGOYA(ALN)は、啓発用コンドームの配布、コミュニティペーパー「HANA」の発行(年4回)をゲイ向け商業施設等に行っている。商業系ハッテン場施設との話し合いにより、更衣室ロッカーの側面30か所にMSM向けHIV検査会案内のポスター掲示が承諾され、検査会への呼びかけを行うなどの取り組みがなされた。

MASH大阪と当研究班と協働して商業施設を利用し始める年齢層を対象に、予防行動、受検行動を促進する啓発プロジェクトである「やる!プロジェクト」への参画、さらに、aktaのsafer sex campaignと「やる!プロジェクト」の合同によるALL JAPANの広域キャンペーンへの参画により、若年MSMと国内ツーリスト対象に、「つけていこう」を共通キャッチコピーとし、ポスター、コンドーム3種類、WEBサイト+広報カードにて普及を図った。

NLGR+(Nagoya Lesbian & Gay Revolution Plus)は、2001年からALNが中心となって始めた啓発イベントとMSM対象の無料HIV検査会を併設したプログラムで、毎年5月末あるいは6月初めに実施されてきた。無料HIV検査会は2008年に当研究班(前身の研究班)から名古屋市のMSM向けのエイズ対策事業となり、名古屋医療センターが受託して継続している。また同事業には12月に実施する「M検in名古屋」が追加され、自治体、保健所、名古屋医療センター、CBOが協働して、東海地域のMSMへの検査促進に取り組んでいる。2016年度のNLGR+検査会には489名が受検し、昨年並みの受検者数を維持していた。

東海地域ではエイズ発症で判明する報告割

合が高く、早期の HIV 検査の普及が必要となっていることから、ALN は岐阜県に協力し、MSM 向けの無料 HIV 検査会「M 検 in 岐阜」を 2016 年も継続した。

#### 4) 近畿地域の CBO・MASH 大阪 (表 6)

MASH 大阪は、主に堂山、新世界、ミナミの地域にあるゲイ向け商業施設を介した啓発活動を継続した。中高年層の MSM に向けたプログラムとして HIV 関連のコミュニティ情報紙「南界堂通信」を開発し、これを厚労省・男性同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業費と大阪府公衆衛生協会助成、大阪市のエイズ対策予算によって発行している (表 6-1)。

若年層 MSM において HIV 感染が拡大していることが前身の研究班で示されたことから、MASH 大阪は HaaT えひめ、当研究班と協働して、商業施設を利用し始める年齢層を対象に予防行動、受検行動を促進する啓発プログラム「やる！プロジェクト」を企画し、実施してきた。2 年度目からは、Web を活用した新規介入プログラムを開発し、名古屋、沖縄の地域を加えて Web を介した啓発を進め、3 年度目となる本年は、akta の safer sex campaign と「やる！プロジェクト」による ALL JAPAN の広域キャンペーンを実施し、若年層 MSM と国内ツーリストを対象層に「つけていこう」を共通キャッチコピーとして、ポスター、 Condom 3 種類、WEB サイト+広報カードにて普及を図った。

大阪地域での「やる！プロジェクト」の効果評価は研究 4 の報告で述べているが、若年層 MSM への訴求性があったこと、受検行動が上がったこと、予防行動にも変化がみられたことが示されている。

エイズ予防のための戦略研究で開発した「クリニック検査キャンペーン」は、MASH 大阪のコミュニティとの連携によって HIV 陽性率がおよそ 5% といった成果を収め、戦略研究終了後は大阪府の事業として継続され、2014 年から一部厚生労働省エイズ対策政策

研究事業の協力のもとワンコイン検査キャンペーンとして展開された。昨年度からは事業化をみこして「頼れる街のお医者さん」に変更し、MSM における持続的なクリニック利用を目的に広報を行っている。

昨年度から試行的に開始した MSM の HIV 検査受検のハードルを下げることを目標とする「dista でちえっくん」は、大阪市保健所、厚生労働省エイズ対策政策研究事業の協力のもと、「dista でピタッとちえっくん」として継続した。MASH 大阪は、dista で HIV 検査を実施することによって、HIV 検査を身近なものにとらえる機会とし、検査に対する敷居を下げたいと考えている。

#### 5) 中四国地域の CBO・HaaT えひめ (表 7)

コミュニティセンターを有しない中四国地域では、CBO・HaaT えひめが商業施設等を介した啓発として、ゲイコミュニティーペーパー「fight！」の発行・配布、コンドームアウトリーチ、10 代 MSM 支援予防介入「+TALK10」(愛媛地域)、Living Together イベント(愛媛地域)、10 代 MSM 向けネット環境整備、「やる！プロジェクト」など、一部は郵送による配布方法によりアウトリーチ活動を行っている。

2015 年度も報告したが、CBO・HaaT えひめの活動に対する資金が不足していることから、10 代の MSM を対象とした企画をはじめいくつかの活動が寄付金等による自己資金となっている。HaaT えひめは、活動計画を縮小して実施しているのが現状である。

こうした現状にも関わらず、HaaT えひめは、当研究班の研究 4 の「やる！プロジェクト」において MASH 大阪と連携して取り組むこと、コミュニティ情報紙「fight！」の一部を研究費により発行すること、MASH 大阪の同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業による資料作成に協力し中四国地域への啓発を行うこと、「やる！プロジェクト TV」の制作を担当する

ことなどに積極的にかかわり、中四国地域の MSM への普及啓発を行っている。

CBO・HaaT えひめは、中四国地域の広範囲なエリアにも関わらず、MSM の HIV 感染対策ネットワークを構築するために自治体を訪問し(出張懇談)、中四国地域の MSM の HIV 対策の試行として HIV 検査情報ガイドの発行・配布を行っている。2015 年度には、岡山県が MSM 向けに新たに組み込んだ 3 クリニックでの HIV 検査の企画・実施に参画し、大阪で実施したクリニック検査キャンペーンを参考にするなどして、「もんげー性病検査」の広報を行った。岡山県では MSM を対象とした CBO との協働による初めての HIV 検査であり、2016 年度も事業予算化して継続している。

#### 6) 福岡地域の CBO・Love act Fukuoka (表 8)

CBO・Love act Fukuoka (LAF) は、情報紙コミュニティペーパーseason、HIV 基礎講座、ウェブサイトの更新、若年層対象のうえるはこ、HIV 検査受検促進の広報、HIV・エイズ検査相談研修会を継続していた。「うえるはこ(若年層向け)」、「HIV 陽性者交流会」などは、昨年度調査と同様に CBO・LAF の独自予算で実施されている。

コミュニティセンターhaco を利用する団体等は、LGBT 交流会(月 1~2 回)、手話サークル(月 1 回)、ゲイ交流会(不定期)、イベント企画(企画前ミーティング、ダンス練習)などがある。しかし、サークル自体が解散し、施設を利用するサークルが無くなる傾向にあり、そのため来場者が減少していることが 2015 年度の調査では指摘されていた。

10~20 代で新規感染が増加している現状から、学生を重点対象とした開館日時に変更すること、また相談体制強化のために LGBT 団体との地域内連携を進めることを 2015 年度調査では報告していたが、センター開館時間は 3 時に変更して運営されていた。

HIV 検査促進としては、「HIV 検査受検促進

キャンペーン」が福岡県、市、企業との取り組みとして紹介されていた。

#### 7) 沖縄地域の CBO・nankr (表 9)

沖縄本島に加え、離島にある商業施設にもコンタクトを取り、コミュニティペーパー「nankr」や啓発ポスター、フライヤー等のアウトリーチをほとんどの商業施設やクラブイベントなどに継続している。

コミュニティセンターを活用したプログラムとして、Living Together プログラム、HIV 等に関するワークショップ、勉強会、講演会などが実施されている。

MASH 大阪、HaaT えひめ、当研究班との協働である「やる!プロジェクト」に 2015 年度に参画し、商業施設を利用し始める年齢層を対象に予防行動、受検行動を促進する啓発プログラムとして沖縄での展開を始めた。3 年度目となる本年は、akta の safer sex campaign と「やる!プロジェクト」による ALL JAPAN の広域キャンペーンに参画し、若年層 MSM と国内ツーリストを対象層に「つけていこう」を共通キャッチコピーとして、ポスター、コンドーム 3 種類、WEB サイト+広報カードにて普及を図った。

Living Together の実施、検査促進のための MSM 対象検査会(保健所)の広報、中高年向けの啓発資材となる情報誌の作成などは、資金源として、厚生労働省・同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業に加え、沖縄県委託費を受けて実施していた。

## D. 考察

### 1. コミュニティセンター事業について

コミュニティセンター事業は、当初、エイズ予防対策事業の一環として取り込まれ、2008 年度までに東京(akta)、大阪(dista)、名古屋(rise)、福岡(haco)の 4 地域に設置され、2009 年度からの厚生労働省委託事業「同性愛者等に対する HIV/エイズ予防対策

事業」により仙台（ZEL）、沖縄（mabui）が追加された。この間、CBO の啓発介入プログラムは、厚生労働省エイズ対策研究事業による MSM の HIV 感染対策に関する研究班との協働により実施されてきた。2011 年度からは厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業（コミュニティセンター事業）」となり、施設運営費、運営に係る人件費、啓発資材作成等の費用などを含む事業となった。事業は、公益財団法人エイズ予防財団が受託し、各地域の CBO と共に男性同性間の HIV 感染予防啓発を進めており、2016 年度で 6 年目となる。

地方自治体からは男性同性愛者等を対象とするエイズ対策推進においてコミュニティセンター事業の有効性が評価され、昨年度の報告に続き、いくつかの自治体は CBO と連携した MSM への取り組みについて予算化するなどの変化が見られている。地域の実情に詳しい自治体と共にコミュニティセンター事業や CBO による普及活動が継続されることは地域の MSM への HIV 感染対策として大切と考える。しかし、自治体のエイズ担当者が CBO 連携の必要性を理解はしても、エイズ対策予算が厳しい自治体の現状にあっては、あらたに MSM への対策事業のための予算を設けることは困難な状況にある。加えて、担当者が 2-3 年ごとに異動することで、CBO との連携や MSM への HIV 感染対策への理解が異なってしまう場面が生じることも課題としてあげられていた。

## 2. コミュニティベースの活動について

各地域の CBO は商業施設を介した啓発活動を継続し、自治体との事業連携も進めていた。ゲイバーとの連携では、全 CBO が把握している店舗数 1080 店舗の内 643 店舗（59.5%）にアウトリーチ活動を行っている。その他、商業系ハッテン場、ショップ、クラブイベント、サークルと様々な施設や団体を介してアウトリーチを展開していた。この連携状況は 2014

年度調査とほぼ同様の状況を維持していた。

商業施設を利用する MSM においては、性感染症既往の割合が高く、予防行動をとらない割合が高いことが示されており、CBO によるコミュニティベースの啓発活動はエイズ対策において大切な役割を担っていると考える。

2014 年 12 月に開催した当研究班会議では、コミュニティセンター事業の将来的な見通しが見えないことが課題として挙げられていた。その後、2016 年度までコミュニティセンター事業は継続されてきたおり、2017 年度も委託事業として公募が継続されている。わが国では MSM による HIV 感染が大半を占めており、また、当研究班の研究 3 では国内移動による性行動、外国籍 MSM との性経験なども明らかになってきていることから、コミュニティセンターを軸とした MSM への HIV 感染予防への普及活動は重要と考える。

上述したように、地域によっては自治体と CBO の連携が進み、MSM に対する HIV 感染対策として MSM 向けの HIV 検査を実施したり、啓発用チラシや情報誌作成などの予算を自治体が設けるなどの変化が見られている。しかし、東北、中四国、福岡の CBO はいくつかのプログラムを縮小、中断せざるを得ない状況が続いている。コミュニティセンター事業の対象となっていない中四国では、エイズ患者として HIV 感染が判明する MSM の報告例が増加しており、早期検査と治療の促進が望まれ、MSM 向けの対策が喫緊の状況といえる。CBO・HaaT えひめは、自己資金を軸にした活動を余儀なくされており、当研究班でも十分な対応ができていない。厚生労働省委託事業「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業（コミュニティセンター事業）」による取り組みを担っている各 CBO が連携し、センターの無い他の地域の CBO とも連携して啓発普及を展開できるような工夫が望まれる。

## 3. MSM におけるセクシュアルヘルスの推進

近年、HIV 感染症に対する抗 HIV 薬や治療法の進歩により TasP (Treatment as Prevention) が言われている。UNAIDS は、HIV 検査による診断、HIV 陽性者の治療と治療継続という一連の流れについて、“90-90-90” (感染者の 90%が検査で陽性と診断され、その 90%が治療を受け、その内の 90%が治療継続によりウイルス量を抑制する)を 2020 年までに達成することを提唱している。当研究班が実施した商業施設を介したアンケート調査によれば、日本の MSM の生涯受検割合は、50～70%程度で、感染者の 90%に達するにはさらに MSM に普及させなければならない。

WHO は、PrEP (Pre-exposure Prophylaxis) について、感染リスクの高い MSM における包括的な感染予防プログラムの一つとして推奨している。PrEP に加え、コンドーム・ローションの使用、定期的な HIV 検査、リスク軽減のためのカウンセリング、服薬アドヒアランスの指導などがプログラムには含まれる必要がある。また、HIV 感染を抑えることに加え、梅毒、HBV、HPV などの性感染症予防プログラムも PrEP 導入に際しては必要と考える。

CBO は、コミュニティセンターを拠点にし、関連団体や商業施設等と協力して MSM のセクシュアルヘルスを増進することを目標に、予防啓発、HIV/性感染症の検査環境の構築と普及、治療や相談へのアクセス情報の提供などに取り組んできた。こうした取り組みは PrEP などの新たな手法の導入においても大切な基盤として確保していくことが必要と考える。

地方の MSM において HIV/AIDS が増加していることは、MSM の国内移動による感染の拡がりを示唆している。東京、大阪、名古屋などの都市部と他の地方地域では、HIV 検査環境や治療環境、HIV 関連の CBO や NPO 団体などの支援環境が異なること、社会の性的指向や HIV 陽性者への対応が異なっていることから、MSM における HIV/AIDS 対策を同一に考えることはできない。こうした状況に対して、各地

域のコミュニティセンターや CBO は相互の情報や啓発資材やプログラムを共有し、それぞれの地域の状況に沿った取り組みを検討していくことが望まれる。HIV 感染者、AIDS 患者が都市部に加え地方においても増加が見られていることから、欧州で行われている地域を超えた MSM へのセクシュアルヘルスプロモーションを目的とする“Everywhere”プロジェクトのように、日本全体の MSM への対策を構築していくことが望まれる。

6 地域の CBO/NPO (やろっこ、akta、ALN、MASH 大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄) は、コンドーム使用の促進を目標にした「つけていこう」のキャッチコピーで、ALL JAPAN CAMPAIGN (akta Safer Sex Campaign と「やる! プロジェクト」の合同キャンペーン) を 10 月～1 月末まで商業施設や Web を介して展開した。この取り組みは、MSM を対象とした HIV 感染対策を全国的に普及させていくうえで重要と考える。

アジア地域では MSM における HIV 感染が拡大し、また英国、ベルギーなどの欧州の国・地域では再び若い MSM において HIV 感染が拡大している。このことは、MSM への HIV 感染対策として恒常的な取り組みが必要であることを示唆している。わが国においては、MSM における HIV/AIDS 報告数はやっとな横ばいとなった状況にある。頭打ちになってきたかに見える新規 HIV 感染者数、エイズ発症者数が再び急増してくることがないように、わが国の MSM への HIV 感染対策として、CBO による啓発活動を継続することは重要と考える。

## E. 結論

7 地域の CBO は MSM が利用する商業施設を介した啓発活動を継続し、自治体との事業連携を進めていた。

ゲイバーとの連携率(連携店舗数/把握店舗数)は、東北 100%、東京 44.2%、東海 83.0%、大阪 67.0%、中四国 98.0%、福岡 98.5%、

沖縄100%であった。全地域で1080店舗中643店舗（59.5%）にCBOは作成した啓発資材を配布していた。商業系ハッテン場では全地域の101店舗中75店舗（74.3%）とCBOは関係を継続し、ゲイ関連のショップ店、若年層MSMの利用が多いクラブ系ゲイナイトなどの商業施設を介した啓発資材配布を行っていた。

6地域のCBO/NPO（やろっこ、akta、ALN、MASH大阪、HaaT えひめ nankr 沖縄）は、コンドーム使用の促進を目標にした「つけていこう」のキャッチコピーによるALL JAPAN CAMPAIGN（akta Safer Sex Campaignと「やる！プロジェクト」の合同キャンペーン）を商業施設やWebを介して展開した。

6地域にあるコミュニティセンターの利用状況はほぼ前年並みの状況であった（11月末時点）。近年の特徴として、滞日外国人や海外からのツーリストの来場者の増加があげられている。

自治体・保健所の事業と連携した取り組みでは、7地域のCBOはMSM向けの検査促進の広報資材作成や配布、HIV検査担当者研修会への協力を継続していた。MSM向けのHIV検査（臨時）の実施、検査広報のチラシ等の作成、MSM向け検査担当者研修会などについて予算化する自治体もみられ、自治体側でCBOとの連携に対応する傾向も見られている。

## F. 発表論文等

### 1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性のHIV検査受検, 知識, HIV関連情報入手状況, HIV陽性者の身近さの実態-2009年調査と2012年調査の比較-, 日本エイズ学会誌, 19 (1), 16 - 23, 2016.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太: MSM (Men who have sex with men) におけるHIV感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32 (5):

1029-1038, 2016

- 3) Nigel Sherriff<sup>1</sup>, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015
- 4) 高久道子, 市川誠一, 金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62 (11), 684-693, 2015
- 5) 岡慎一, 市川誠一, 松下修三: HIV検査と感染予防 (座談会), HIV感染症とAIDSの治療, 6 (2), 4-11, 2015

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

表 1 地域 CBO の商業施設等との連携

地域 (CBO)	施設等 年	ゲイバー				商業系ハッピー場				ゲイナイト				ゲイショップ				備考(2016年)
		2014	2015	2016	2016	2014	2015	2016	2016	2014	2015	2016	2016	2014	2015	2016		
東北 (やろっこ)	施設数	28	30	27	4	4	4	4	0	1	1	1	2	2	1	・東北レインボーSUMMERで各サークル団体(約30団体)と連携		
	連携数	26	29	27	2	2	2	2	0	0	1	1	1	1	1			
	連携率	92.9	96.7	100	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0	0.0	100	50.0	50.0	100			
東京 (akta)	施設数	591	581	613	50	51	53	53	-	-	-	-	37	37	36	・サウナ・ホテル(3施設)、ウリ専(3施設)、ゲイ雑誌(3誌)、ウェブサイトなど ・TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE&FESTA、TOKYO RAINBOW WEEK、レインボー・リール東京、新宿二丁目振興会主催/東京レインボー祭りなど ・ゲイ雑誌(2誌)、虹色どまんなかパレード、LGBT成人式、ゲイアーティスト展 ・啓発イベント NLGR+を開催、ゲイコミュニティ、LGBT関連団体、エイズ関連団体、行政と連携		
	連携数	247	257	263	34	34	35	35	-	3	-	-	12	10	10			
	連携率	41.8	44.2	44.2	68.0	66.7	66.6	66.6	-	-	-	-	32.4	27.0	27.0			
東海 (ALN)	施設数	43	48	47	5	5	5	5	5	8	5	2	-	2	2	・若年層MSM向けの予防啓発資材をクラブイベントと連携して配布 ・中国や東南アジアからの dista 来場者が徐々に増えている		
	連携数	38	42	39	3	3	3	3	5	6	4	-	1	1	1			
	連携率	88.4	87.5	83.0	60.0	60.0	60.0	60.0	100	75.0	80.0	-	50.0	50.0	50.0			
近畿 (MASH 大阪)	施設数	227	235	233	20	23	19	19	4	8	17	12	12	12	12	ゲイナイトは関係はあるが、イベント自体への協力は特に実施しておらず		
	連携数	149	150	156	18	17	15	15	4	8	17	10	8	9	9			
	連携率	65.6	63.8	67.0	90.0	73.9	78.9	78.9	100	100	100	83.3	66.7	66.7	75.0			
福岡 (LAF)	施設数	70	68	66	12	12	12	12	6	3	2	4	2	2	2	店舗開催のスपोर्टイベント、クラブイベントでの資材配布依頼がある		
	連携数	68	67	65	12	12	12	12	3	0	0	4	2	2	2			
	連携率	97.1	98.5	98.5	100	100	100	100	50.0	0.0	0.0	100	100	100	100			
沖縄 (nankr 沖縄)	施設数	42	43	43	3	4	3	3	3	5	6	1	1	1	1	一部の施設は郵送対応 地域のゲイ情報サイトとの連携		
	連携数	42	43	43	3	4	3	3	3	5	6	1	1	1	1			
	連携率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100			
中四国 (Haat えひめ)	施設数	49	53	51	7	5	5	5	9	10	10	1	1	1	1	CBOは前年度同様に多様な商業施設とのコンタクトを維持し、利用者への啓発資材を配布している		
	連携数	49	52	50	5	5	5	5	9	9	10	1	1	1	1			
	連携率	100	98.1	98.0	71.4	100	100	100	100	90.0	100	100	100	100	100			
合計	施設数	1050	1058	1080	101	104	101	101	27	35	41	57	57	57	55	注1) 2014年は11月末、2015年は12月末現在、2016年は11月末現在の状況、施設数はCBOが把握した数。表中の「ー」は不明もしくは記録なしを意味する。 注2) 東京では、「TOKYO RAINBOW PRIDE PARADE&FESTA」「TOKYO RAINBOW WEEK」「レインボー・リール東京(旧東京国際レズビア&ゲイ映画祭)」「フレリユード」「新宿二丁目振興会主催/東京レインボー祭り」「TOKYO AIDS WEEKS」「Flying Stage」などと連携した。		
	連携数	619	640	643	77	77	75	75	24	31	38	29	24	25	25			
	連携率	59.0	60.5	59.5	76.2	74.0	74.3	74.3	88.9	88.6	92.7	50.9	42.1	45.5	45.5			

表2 MSM への啓発普及活動の拠点・コミュニティセンターの状況  
 (情報の集約と発信やスペース利用による周知・拡散・相談対応、2016年11月末時点の集計)

センター (CBO)	連携機関	実施内容(来場者数等)	センター事業におけるコメント
ZEL (やろっこ)	ゲイ向け商業施設等、関連団体 厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所等	運営スタッフ:2人 開館曜日:月、火、金～日 開館時間: 日・祝 15時～20時 日・祝以外 18時～22時 総来場者数:865名 初来場者数:63名、相談:19件	・センター利用は、10代セクマイサークル定例会などで4団体が利用 ・2015年2月の規模縮小以来、来館者が減少傾向であったが、セクシュアリティフリーの日を設けたこと等で初来館者は前年を上回った。また、東北各県からの来館を促すポスターを4月に作成。県外からの来館者は前年比129%と増加した。今後、リピーター向けの企画等で来館者増を図る
akta (akta)	ゲイ向け商業施設等、各種HIV関連団体 厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所、教育機関、企業、メディア等	運営スタッフ:常勤3人、臨時3人 開館曜日:月、木～日 開館時間:16時～22時 総来場者数:5,348人 初来場者数:1,499人 相談件数:77件(電話・メール含む) ・他にMSM向け検査「HIVcheck」(毎週木曜日 19:00-22:00)でぶれいす東京による専門相談を実施 ・「HIVcheck」利用来場者は677人	・センター利用申込み120件、多彩な企画と連携して来場者を誘致している ・モンゴル、タイ、韓国、中国、台湾、UNAIDSなど海外諸機関、厚生労働省、外務省、内閣府、国立保健医療科学院、自治体や医療・教育・保健に携わる人、アクティビスト、アーティスト、メディア関係者の見学や意見交換会の実施 ・アジア中心の滞日外国人、ツーリストの来場者が増加している
rise (ALN)	ゲイ向け商業施設等、HIV関連団体 厚労省、エイズ予防財団 自治体・保健所、教育機関、メディアなど	運営スタッフ:5人 開館曜日:月、木～日 開館時間:月/18時～21時、木・金/19時～23時、土/16時～22時、日/14時～20時 総来場者数:2,250名 初来場者数:132名、相談件数:14件	・誘致プログラム(手話教室 手話人、勉強会 HOW TO!、友達交流 JOINT →、LGBT全般 虹色ラウンジ、LGBT全般 レインボー名古屋)による来場者以外に、NLGR+関連、LGBT成人式関連、ゲイアーティスト作品展で来場あり
dista (MASH 大阪)	ゲイ向け商業施設等、各種HIV関連団体 厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所、教育機関、メディアなど	運営スタッフ人数:常勤1人 非常勤5人、他ボランティア 開館曜日:日、月、水～土 開館時間:17時～22時30分 総来場者数:3,785名 初来場者数:499名(推計) 相談:63件 (distaでちえっくん開催日を除く)	・センター利用プログラムは定期6、不定期6、展覧会4 ・オープンミーティングの開催 毎月第2日曜日、第4土曜日、参加者数平均12.9人(6人～21人) ・セックスワーカーの健康と安全のために活動する団体「SWASH」やNPO法人関西エイズ対策協議会がミーティングで時間外に利用 ・中国や東南アジアからの来場者が徐々に増えている
haco (LAF)	ゲイ向け商業施設等、HIV関連団体 厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所	運営スタッフ:2人 (プログラムスタッフ2人～) 開館曜日:日、月、木、金、土 (最終日曜休館) 開館時間:15時～20時 総来場者数:1,369名 初来場者数:214名 相談:28件	・LGBT交流会(月1～2回)、手話サークル(月1回)、イベント前ダンス練習(2～3チーム)、イベント前ミーティングなど
mabui (nankr 沖縄)	ゲイ向け商業施設等、関連団体 厚労省、エイズ予防財団、自治体・保健所	運営スタッフ:6人 開館曜日:日、木、金、土 開館時間:木・金/18:00～22:00 土/17:00～22:00、日/15:00～21:00 総来場者数:1864名 初来場者数:100名、相談:16件	・センター利用は、ダンス練習(60回)、ゲイ中高年サークルミーティング(7回)、若年層LGBTサークル交流会(8回) ・総来場者の42%が20代、30代を併せると75%。県外来場者41人

\*コミュニティセンターは、厚生労働省・同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業(コミュニティ事業)を公益財団法人エイズ予防財団が受託し、各地域のCBOが運営を担っている。



表3 CBOによる啓発普及活動－東北地域のCBO(よろっこ)活動状況 (2016年11月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要 (時期、進捗状況等)
中高年向け啓発プログラム (R-35) -継続	同性愛者等のHIVに 関する相談・支援事業	エイズ予防財団	・2月、5月、8月、10月、1月(予定)に実施 4回の参加者17名(初来場1名)
若年層イベントとの連携 (資材配布) -継続	同性愛者等のHIVに 関する相談・支援事業	エイズ予防財団 / MASH 大阪/仙台市内 ゲイバー	ゲイバー主催若年層向け合コンイベントで啓発資材配布(6月) コンドーム、ローション、Safer Sex 促進フライヤー(50セット)
コンドームの作成・配布-継続	同性愛者等のHIVに 関する相談・支援事業	エイズ予防財団/akta	他地域連携のALL JAPAN キャンペーンに合わせてコンドーム作成 (仙台分 5,000 個作成・配布)
東北レインボーSUMMER フェステ イバル参画 -継続	同性愛者等のHIVに 関する相談・支援事業	エイズ予防財団/東北 の団体約30	8月実施、ブース出展で手記集やその他の啓発資材配布 ZELの広報で、開催日の来館者28名
仙台版 HIV 情報ウェブサイトの運 営(仙台HIVネット) -継続	仙台市 (協働事業提案制度)	自治体 (仙台市)	・情報サイト運営(2015年から継続) HIV 検査会のアプリ広告(6月、12月) 広報資材(マンガ冊子)作成・配布 ・仙台市エイズ検査会(12月)ポスター
HIV 検査促進資材の作成・配布 -継続/新規 ※郡山市、いわき市は新規	同性愛者等のHIVに 関する相談・支援事業	エイズ予防財団/ 自治体 (仙台市、郡山 市、いわき市)	検査広報のポスター、カードを各地域のMSM 向け商業施設に配布 ・仙台市エイズ検査会(6月) ・郡山市保健所 HIV 検査(7月～) ・いわき市保健所 HIV 梅毒検査(10月～)
CBO 活動・自治体連携等におけるコメント: 仙台市との連携強化で6月実施の仙台市エイズ即日検査会の受検者に占めるMSMの割合が43.8%と過去最高となった。(これまでの最高は2015年6月の41.6%、ZEL 開設当初は10%前後)。協働事業提案制度は本年度で終了だが、仙台市担当課がアプリケーション広告の効果を評価し、来年度予算化の動きあり。郡山市、いわき市は新規連携。ともに、過去に講演依頼あり。仙台市や他行政の取り組みを参考に参考に連携開始。			

表 4-1 東京地域における CBO (akta) の活動内容 - 予防啓発普及関連 (1) (2016 年 11 月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
コミュニティペーパー -継続	同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業	エイズ予防財団、NGO、ゲイ向け商業施設・コミュニティのキーパーソン、自治体・関連機関	・フリーペーパー (community center akta monthly paper) の制作・配付、5000 部/月 ・ポスター発行 (500 部/月)
TAKE FREE コンドーム -継続	・同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業 ・デリバリーボーイズ協力店舗募金等	新宿 2 丁目ゲイ向け商業施設・コミュニティのキーパーソン、メディア、企業	オリジナルデザインのコンドーム制作・配付 (66,000 個)
デリバリーヘルスプロジェクトによるアウトリーチ -継続	・同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業 ・東京都福祉保健局委託事業	エイズ予防財団、東京都福祉保健局、ゲイ向け商業施設・コミュニティのキーパーソン、企業	・DELIVERY BOYS (第三週を除く金曜日、20 時~22 時) ボランティアスタッフによる 2 丁目のバー等への訪問 ・DELIVERY ADULT (第 1 金曜日) 新宿中心にハッテンバ訪問、
予防行動促進プログラム ALL JAPAN CAMPAIGN -akta Safer Sex Campaign x やる! プロジェクト -継続/新規	・同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業 ・NPO 法人 akta	エイズ予防財団、やるっこ、SHIP、ALN、Mash 大阪、HaaT 愛媛、nankr、バディ、9monster、新宿を中心とした都内ハッテン場、ゲイ向け商業施設、ゲイコミュニティのキーパーソン	・akta の safer sex campaign と「やる! プロジェクト」による ALL JAPAN の広域キャンペーンの実施 akta では web 版「have a nice sex!」の広報も実施 対象層は若年 MSM、国内ツイッターで、「つけていこう」を共通チャットコピーとし、ポスター、コンドーム 3 種類、WEB サイト + 広報カードにて普及を図った
ボランティア研修会 -継続	・同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業 ・東京都福祉保健局委託事業	エイズ予防財団、ふれいす東京、ジヤンプラス、SHARE、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター、MSM 研究班、都立駒込病院、都立医科大学病院、支援者、研究者、医療者、ゲイ向け商業施設	毎月第 3 金曜日実施
HIV/エイズの トークイベント -継続	東京都福祉保健局	ふれいす東京、ジヤンプラス、SHARE、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター (ACC)、MSM 研究班、都立駒込病院、都立医科大学病院、HIV 関連機関、ゲイコミュニティのキーパーソン、企業ほか	①akta community forum-MSM とツイッター、滞日外国人のエイズ対策について ②akta Talk Show HIV/エイズの今を知る!(16-18 回) ・ゲイのあいだで流行ってる? HIV/エイズと性感染症について ・TasP. PEP. PrEP って何だろう? 新しい予防の技術と海外での展開について ・今の治療と検査 (開催予定)

表 4-1 東京地域における CBO (akta) の活動内容 - 予防啓発普及関連 (2) (2016 年 11 月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
HIV のリアリティを共有するためのプロジェクト - 継続	東京都福祉保健局	東京都福祉保健局、ゲイ向け商業施設、ぶれいす東京、Living Together 計画、行政・自治体他関連機関、ゲイコミュニティのキーパーソン、レインボー・リール東京、GLGs、TENGA、NGO/NPO (ほか)	<p>① Living Together のど自慢 第 42 回～45 回</p> <p>② GLGs 主催「ピアガーデン DE 合コン in 新宿～ビートルは生がいけどゴムつけよ? ///～」</p> <p>③ REDawareness 「映画「パリ 05:59」特別上映会+トークイベント」</p>
連携と講師派遣 - 継続	NPO 法人 akta (受託)	随時	<p>WHO ハイレベル会議/内閣府「東南アジア青年の船」/ 草加保健所/町田市保健所/慶応大学/新宿区 HIV/AIDS 関係機関ネットワーク連絡会/東京都「アジア感染症対策プロジェクト第 8 回共同調査研究会議 (平成 28 年度)」/ キャンペーンテーマ策定ワーキンググループ/東京都ポスター審議会/ViiV ヘルスケア 2 丁目看板審査会/ViiV ヘルスケア社内勉強会/東京都研修会/埼玉県保健医療部/千葉県保健福祉部/神奈川県保健福祉局/レインボー・リール東京/東京レインボーブライドパレードシンポジウム/衆議院議員向け HIV/エイズ勉強会/海さくら「18 禁～オトナのゴミ拾い」/JICA (予定)/鴻巣保健所/都立足立西高校 (予定) (ほか)</p>
活動報告会 - 継続	NPO 法人 akta	エイズ予防財団、東京都福祉保健局、MSM 研究班、千葉県健康福祉部、埼玉県健康福祉部、SHARE、ぶれいす東京、MSM 研究班、他 NGO/NPO、ゲイ向け商業施設、各種関連機関、行政、自治体、ゲイコミュニティのキーパーソン、メディア (ほか)	<p>6 月 26 日@コミュニティセンター-akta</p> <p>※同時開催「akta community forum-MSM とツーリズム、滞日外国人のエイズ対策について」</p>

表 4-2 東京地域における CBO (akta) の活動内容 - HIV 検査の普及活動関連 (1) (2016 年 11 月末時点、実施計画を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
MSM 向け HIV 検査普及に関する、行政および検査施設との意見交換会-継続	NPO 法人 akta	エイズ予防財団、東京都福祉保健局、千葉県健康福祉部、埼玉県保健医療部疾病対策課、MSM 研究班、ふれいす東京、各保健所、感染研感染症疫学センター、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター (ACC)	10月20日、於：東京都健康安全研究センター 参加：16施設+感染研感染症疫学センター 内容：・参加施設の近況報告 ・MSM 首都圏グループの活動報告 ・コミュニティセンターakta を基点とする新たな検査システムについて ・保健所の HIV 検査を MSM の早期検査に生かす工夫 ・東京地域での MSM を対象とした HIV 検査会の計画
検査対応者向け研修会-継続	同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業 東京都福祉保健局 千葉県健康福祉部 埼玉県保健医療部 神奈川県保健福祉局	東京都福祉保健局、千葉県健康福祉部、埼玉県保健医療部、神奈川県保健福祉局、MSM 首都圏グループ(ふれいす東京、MSM 研究班)、各保健所、関連施設、MSM のボランティアスタッフ、エイズ予防財団	エイズ予防戦略研究で開始した MSM や陽性者理解を促す研修会は自治体が予算化するようになった 東京都福祉保健局▷7月13日(自治体予算) 千葉県健康福祉部▷11月6日(自治体予算) 埼玉県保健医療部▷11月18日(自治体予算/事業費) 神奈川県保健福祉局▷1月25日予定(自治体予算)
検査普及プログラム ヤローページ-継続	同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業	エイズ予防財団、上野・浅草、新宿2丁目のゲイ向け商業施設、メディア、ゲイコミュニティのキーパーソン、MSM 首都圏グループ(ふれいす東京、MSM 研究班)、東京都福祉保健局、千葉県健康福祉部、埼玉県保健医療部、神奈川県保健福祉局、台東保健所、南新宿検査・相談室、都立駒込病院ほか	検査情報、ゲイスポットガイド、MAP を合体した冊子「ヤローページ 2016 上野・浅草」12,000 部配布 (12月) ※検査情報は HIV マップ-あんしん検査サーチと連動
HIV マップ-継続	厚生労働省委託事業	厚生労働省、行政、自治体、保健所、MSM 首都圏グループ (ふれいす東京、MSM 研究班)、ゲイ向けアプリ、NGO 関連機関	年間アクセス数 69,101 (4/1~12/1) ・首都圏地域(東京・神奈川・千葉・埼玉)の公的検査施設の通常検査・臨時検査情報の更新(5月、10月) ・HIV/エイズガイド SP 版作成

表 4-2 東京地域における CBO (akta) の活動内容 - HIV 検査の普及活動関連 (2) (2016 年 11 月末時点、実施計画を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
HIVcheck -継続	国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター (ACC)	国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター (ACC)、ふれいす東京、東新宿こころのクリニック、ゲイ向け商業施設、マッキヤンヘルスコミュニケーションズ、ゲイコミュニティのキーパーソン、ゲイ向けメディア、ゲイ向けアプリ開発系 web サイトほか	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査・支援体制の構築(akta、ふれいす東京、ACC)</li> <li>web サイト HIVcheck の構築、公開、運営</li> <li>コミュニティセンターでの検査キット配布年間キット配布回数 76 回、キット数約 1700 件 (2016 年 8/20-2016 年 12/22)</li> <li>出張 HIVcheck@上野 3 月、9 月、12 月</li> <li>HIVcheck スペシャルデー 8 月、11 月</li> </ul>
行政機関による無料匿名検査 の広報 -継続	新宿区保健所 千葉県保健福祉部 港区みなと保健所 埼玉県保健医療部 多摩川病院(東京都福祉保健局)	新宿区保健所、千葉県健康福祉部、港区みなと保健所、埼玉県保健医療部、多摩川病院、ふれいす東京、東新宿こころのクリニック、ゲイ向け商業施設、風俗店、ゲイ向けアプリ、デアイ系 web サイト、メディア、ゲイコミュニティのキーパーソン、NGO ほか	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲイのためのエイズ・性感染症検査 (新宿区保健所)</li> <li>ポスター 500 部、ゲイ向けアプリバナー</li> <li>千葉県休日検査会 (千葉県)</li> <li>ゲイ向けアプリバナー、ゲイ向けサイト</li> <li>6/5(日)、8/28(日)、11/27(日)、1/8 (日)</li> <li>新橋あんしん検査(みなと保健所)</li> <li>ゲイ向けアプリバナー 7/4 (金)、12/2(金)</li> <li>埼玉県保健医療部 7/4~8/4 の期間</li> <li>埼玉県草加市保健所 8/7(日)MSM 限定検査会</li> <li>多摩地域検査・相談室 移転通知の広報資料作成・広報</li> </ul>
MSM のための資料開発・配布 -継続	東京都福祉保健局 千葉県健康福祉部	東京都福祉保健局、千葉県健康福祉部、ふれいす東京、サポート千葉、他 NPO・CBO、MSM 研究班、HIV 検査・相談マップ、ゲイ向け商業施設、ゲイコミュニティのキーパーソン	<ul style="list-style-type: none"> <li>MSM のための東京都内保健所マップ</li> <li>12 月 6000 部作成・配付</li> <li>MSM へ周知している休日検査会で配布する資料</li> <li>サポート情報カード (4000 部)、コンドーム (4,000 個)</li> </ul>

CBO 活動・行政連携等におけるコメント：行政の HIV/エイズ対策において MSM を対象とした対策の重要性がうすれてきているように感じる。社会とコミュニティの双方におけるステイグマの低減が引き続き必要である。また、PEP、PrEP、TasP など新しい予防がいわれているが、MSM および陽性者の声を聞きながら支援と連携した予防啓発が必要である。今後の MSM への HIV 感染対策として、日本全国や東アジアとの連携が大切と考える。また、啓発活動の継続は必須であり、そのための社会資源が必要である。



表5 CBOによる啓発普及活動－東海地域のCBO(ANGEL LIFE NAGOYA)活動状況 (2016年11月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関(機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
コミュニケーション継続 -継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	1) Vol. 10 を発行 12月にVol11、2月にVol12を予定 2) 各号2500部を発行。文字サイズを大きくし中高年層も読みやすく。月例アウトルーチ、クラブイベント、MSM向け検査会で配布
JOINT→(若者向け) -継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 + 独自予算	エイズ予防財団	毎月第3土曜日に開催。月によりばらつきあり。来場者誘致の交流プログラム。イベント形式では、参加者の参加費により賄っている。参加者数56名 残り3回開催予定
HOW TO(勉強会) -継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	毎月第4土曜日に開催 HIVを含むSTIの基礎知識、検査の必要性、HIVを取り巻く時代の変化などの5テーマを1サイクルとして実施
ライブアパランニング(若者～中高年層)-継続	独自予算		三か月ごと第1土曜日に開催 将来の生活費や医療費の確保の話題を通じて自己の老後(ライブアパラン)を積極的に考えることで、自己肯定感を高める企画
啓発コンドーム	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団 商業施設等	ゲイアーティストによるオリジナルデザインコンドーム ゲイバー3344+ハッテン場5456+その他200個
ゲイアーティスト展 -継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	ゲイアーティストによる作品展 4月28～5月30日、9月17日～10月15日に開催
ハッテン場ロッカーポスター掲示 -継続	名古屋市長古屋市	行政、商業施設等	施設との話し合いで、着替えロッカーの側面30か所にMSM向けHIV検査会案内のポスター掲示が承諾された
予防行動促進プログラム ALL JAPAN CAMPAIGN - akta Safer Sex Campaign x やる! プロジェクト	・同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 業	エイズ予防財団、やる! プロジェクト、akta、SHIP、MASH 大阪、Haat 愛媛、nankr 沖縄、バディ、商業施設等	・aktaのsafer sex campaignと「やる! プロジェクト」によるALL JAPANの広域キャンペーンの実施 対象層は若年MSMと国内ツーリストで、「つけていこう」を共通キヤッチコピーとし、ポスター、コンドーム3種類、WEBサイト+広報カードにて普及を図った
MSM向け検査会 NLGR+検査 M検査in名古屋(予定) -継続	名古屋市長古屋市	自治体(名古屋市長古屋市、愛知県)、LGBT団体、商業施設等、国立名古屋医療センター、(ほか)	・NLGR+検査会5月28日採血、29日結果通知 受検者489名 ・M検査in名古屋 12月10日(予定)即日通知 広報:ゲイ雑誌2社、ポスター、フライヤー、ゲイ向けアプリバナー 事前にネット予約可能、検査前オリエンテーション短縮システムを導入、検査項目はHIV・梅毒・B型肝炎・C型肝炎4種必須 デブゲイの受検者に付き添いシステムで対応
MSM向け検査会 M検査in岐阜 -継続	岐阜県	自治体(岐阜県) 商業施設等	2015年10月20日研修会、11月13日実施 即日通知 受検者32名 HIV+0名 広報はゲイ雑誌2社、ポスター、フライヤー、ゲイ向けアプリのバナー広告、行政製作カード300枚
愛知県内保健所案内 -継続	愛知県	自治体(愛知県) 商業施設等	愛知県内の保健所の検査日程案内3000部発行 毎月のアウトルーチ、クラブイベント、MSM向け検査会にて配布 愛知県内の保健所でも常設
CBO活動・行政連携等におけるコメント:ブリッジ・ハート主催講演会、名古屋医療センター開催 HIVカンファレンス、愛知県、名古屋市長古屋市エイズ対策会議			

表 6-1 CBO による啓発普及活動 - 近畿地域の CBO(MASH 大阪)活動状況 - 予防啓発普及関連 (2016 年 11 月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要 (時期、進捗状況等)
中高年 MSM 向け資料 -南界堂通信- -継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市の MSM 向け HIV 予防啓発広報紙作成事業</li> <li>・(公財)大阪公衆衛生協会のエイズ対策委託事業</li> <li>・厚生労働省 同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業</li> <li>・寄付金</li> </ul>	行政 (府・市) 商業施設 エイズ予防財団	第 15 号 (5 月) 配布数 3039 部 配布店舗数 226 件 (商業施設 184 件 / 他団体送付 42 件) 第 16 号 (9 月) 配布数 3107 部 配布店舗数 224 件 (商業施設 182 件 / 他団体送付 42 件) 第 17 号 (11 月) 集計中 *エイズ学会(11/24-26)ブースで 50 部配布
イクツなび。 -継続		商業施設	第 4 号 (4 月) 配布店舗数 175 軒 配布数 2801 部 第 5 号 (7 月) 配布店舗数 170 件 (商業施設) 配布数 1700 部 第 6 号 (10 月) 配布店舗数 176 件 (商業施設) 配布数 3430 部
コンドーム使用促進 プログラム -やる!プロジェクト- -継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分担研究費</li> <li>・厚生労働省 同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業</li> <li>・大阪府の MSM 向け HIV 予防啓発広報紙作成費</li> <li>・岡山県の MSM 向け HIV 予防啓発広報紙作成費</li> </ul>	MSM 研究班 HaaT えひめ/nankr 沖 縄 /ANGEL LIFE NAGOYA /やろっこ/ 特定非営利活動法人 SHIP/特定非営利活動 法人 akta 商業施設/クラブイベ ントオーガナイザー 岡山県/岡山市/倉敷市 /大阪府/大阪市 エイズ予防財団	1) 4 月～10 月 配布先および配布数 【ゲイクラブ】 17 イベント : 2,466 【商業施設】 累計 444 店舗 : 2,196 (内訳) 4 月 : 2 イベント 250 セット 5 月 : 4 イベント 213 セット 6 月 : 3 イベント 250 セット、 151 施設 725 セット 7 月 : 5 イベント 373 セット、 145 施設 435 セット 8 月 : 2 イベント 1230 セット 10 月 : 1 イベント 150 セット、 148 施設 1036 セット 2) ALL JAPAN CAMPAIGN -akta Safer Sex Campaign x やる! プロジェクト ・akta の safer sex campaign と「やる!プロジェクト」による ALL JAPAN の広域キャンペーンの実施 対象層は若年 MSM と国内ツーリストで、「つけていこう」を共通 キーワードとし、ポスター、コンドーム 3 種類、WEB サイト + 広報カードにて普及を図った

表 6-2 CBO による啓発普及活動 - 近畿地域の CBO(MASH 大阪)活動状況 - HIV 検査の普及活動関連 (2016 年 11 月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)																																																																																											
<p>ワンコイン検査キャンペーン広報(改名:選べる性病 500 円検査「頼れる街のお医者さん」)-継続 *大阪府が事業化は継続</p>	<p>・大阪府男性同性愛者向け HIV 等検査・相談事業 ・厚生労働省エイズ対策政策研究事業「急速な病期進行あるいはセロネガティブ感染を伴う新型 HIV の国内感染拡大を検知可能なサーベイランスシステム開発研究」(研究代表者川畑拓也)</p>	<p>大阪府・協力診療所/クリニック・大阪府立公衆衛生研究所 商業施設 CHARM</p>	<p>1)夏期: 8月~9月 冬期: 1月~2月 2)夏期: 総受検者数 162 人 (迅速検査: 119、通常検査: 43) うち HIV 陽性判明者数 4 人(2.5%) 梅毒要治療者数 6 人(3.7%) B 型肝炎陽性判明者数 1 人 (0.6%) クラミジア陽性判明者 1 人 (2.3%、通常検査でのみ実施)  冬期: 実施中</p>																																																																																											
<p>dista でピタッとちえつくん-継続</p>	<p>・厚生労働省エイズ対策政策研究事業 ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究 (研究代表者塩野徳史)</p>	<p>大阪市 商業施設 CHARM ぶれいす東京</p>	<p>厚生労働省エイズ対策政策研究事業 「ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究 dista でびたっとちえつくん エイズ・梅毒検査 (研究代表者塩野徳史)」</p> <table border="1" data-bbox="598 185 1252 1014"> <thead> <tr> <th></th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> <th>4回目</th> <th>計</th> <th>2014年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受検者数</td> <td>47</td> <td>19</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>128</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>初利用者</td> <td>40</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>32</td> <td>108</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>指紋登録者数</td> <td>26</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>21</td> <td>72</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>登録率</td> <td>65.0</td> <td>60.0</td> <td>76.2</td> <td>65.6</td> <td>66.7</td> <td>78.6</td> </tr> <tr> <td>結果受け取り</td> <td>44</td> <td>19</td> <td>26</td> <td>35</td> <td>124</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>HIV 陽性判明数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>3.8</td> <td>2.8</td> <td>1.6</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>梅毒受検者</td> <td>47</td> <td>19</td> <td>24</td> <td>36</td> <td>126</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>梅毒陽性判明数 (要治療)</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>6.4</td> <td>0</td> <td>4.2</td> <td>11.1</td> <td>6.3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>梅毒陽性判明数 (既往含む)</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>19</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>10.6</td> <td>15.8</td> <td>15.4</td> <td>19.4</td> <td>14.8</td> <td>8.1</td> </tr> </tbody> </table>		1回目	2回目	3回目	4回目	計	2014年度	受検者数	47	19	26	36	128	127	初利用者	40	15	21	32	108	117	指紋登録者数	26	9	16	21	72	92	登録率	65.0	60.0	76.2	65.6	66.7	78.6	結果受け取り	44	19	26	35	124	122	HIV 陽性判明数	0	0	1	1	2	7	(%)	0.0	0.0	3.8	2.8	1.6	5.5	梅毒受検者	47	19	24	36	126	124	梅毒陽性判明数 (要治療)	3	0	1	4	8	5	(%)	6.4	0	4.2	11.1	6.3	4	梅毒陽性判明数 (既往含む)	5	3	4	7	19	10	(%)	10.6	15.8	15.4	19.4	14.8	8.1
	1回目	2回目	3回目	4回目	計	2014年度																																																																																								
受検者数	47	19	26	36	128	127																																																																																								
初利用者	40	15	21	32	108	117																																																																																								
指紋登録者数	26	9	16	21	72	92																																																																																								
登録率	65.0	60.0	76.2	65.6	66.7	78.6																																																																																								
結果受け取り	44	19	26	35	124	122																																																																																								
HIV 陽性判明数	0	0	1	1	2	7																																																																																								
(%)	0.0	0.0	3.8	2.8	1.6	5.5																																																																																								
梅毒受検者	47	19	24	36	126	124																																																																																								
梅毒陽性判明数 (要治療)	3	0	1	4	8	5																																																																																								
(%)	6.4	0	4.2	11.1	6.3	4																																																																																								
梅毒陽性判明数 (既往含む)	5	3	4	7	19	10																																																																																								
(%)	10.6	15.8	15.4	19.4	14.8	8.1																																																																																								
<p>CBO 活動・行政連携等におけるコメント: 大阪府、大阪市とは常に MSM への HIV 感染対策について協議している。dista での検査が大阪市保健所からの報告に反映している。MASH 大阪が MSM に対する検査や広報を様々な方法で実施している活動が HIV 感染症の早期発見となっている。</p>																																																																																														



表7 CBOによる啓発普及活動一中・四国地域のCBO(HaaT えひめ)活動状況 (2016年11月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
ゲイコミュニティペーパーの発行・配布 -継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業-MASH大阪との連携 ・MSM 研究班	ゲイ商業施設	四国地域版 年4回発行：季節毎に配布 ・四国版13号6月発行、14号9月発行、 四国版15号12月予定、四国版16号3月予定 中国地域版 年2回発行：中国版4号6月発行、5号3月予定
10代MSM支援予防介入「+TALK10」(愛媛地域)-継続	参加者負担/寄付金	ネット/教育関係	・5・7・8月に開催、以降休止、プログラムの見直し中 ※参加者が催行人数に達せず流が増えたため
10代MSM向けネット環境整備-継続	活動費(寄付金など)	NPO法人SHIPなど	10代同性愛者向け支援サイト10スタートの運営 ・随時に実施、予算不足のためドメインとサーバー維持のみ
コンドームアウトリーチ(愛媛地域と中四国のゲイクラブイベント)	在庫のコンドーム	ゲイ商業施設	・松山市内4回(さらに2回予定)、 ・中四国クラブイベント9回(さらに1回予定)
コンドーム使用促進プログラム-やる!プロジェクト -MASH大阪との連携 -継続	MSM 研究班 ・同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 ・岡山県MSM向けHIV予防啓発広報紙作成費	MSM 研究班/MASH 大阪 /nankr 沖繩/ANGEL LIFE NAGOYA/やるっこ/NPO・SHIP/NPO・akta/商業施設 /クラブイベントオーガナイザー/岡山県/岡山市/倉敷市/エイズ予防財団	・コミュニティペーパー ファイト! 発行 やるプロジェクト TV (WEB サイトの構築・動画製作) <a href="http://www.yarupro.tv/">http://www.yarupro.tv/</a>
セーフアワーセックスガイド2016年版/やるプロジェクトポストカード 松山市版3種 ※増刷など	松山市委託事業	行政/ゲイ商業施設	・10月製作発行、 ・中四国地方のゲイ商業施設・ゲイクラブイベント・保健所 検査場などで配布。
中四国地域のMSMのHIV対策ネットワークの構築(出張懇談)	活動費(寄付金など)	行政	随時：愛媛県・松山市、岡山県・岡山市・倉敷市、香川県・高松市：10/10、未定：広島県・市、徳島県、高知県・市
松山市保健所MSM限定HIV検査告知担当(ゲイコミュニティへの告知・ネット予約サイト運営)	活動費(寄付金など)	行政(松山市)	・6月5日(日)16~17時半に検査会実施 ・15名様、ネット予約14件、TEL1件 ※H29年度からは委託事業となる
中四国地域のMSMのHIV対策の実際の試行(中四国地方のHIV検査情報ガイド発行・配布)	活動費(寄付金など)	行政/ゲイ商業施設	・6月製作発行、中四国地方のゲイ商業施設、ゲイクラブイベント、保健所検査場などで配布。
岡山県クリニック検査キャンペーン「もんげー性病検査」第1弾	岡山県委託事業	行政/ゲイ商業施設	・もんげー性病検査第1弾告知冊子、ゲイサイトバナー広告 2016/8/17~9/30
岡山県クリニック検査キャンペーン「もんげー性病検査」第2弾	岡山県委託事業	行政/ゲイ商業施設	・もんげー性病検査第2弾告知冊子、 ゲイサイトバナー広告出稿、2017年1/10~2/28
講演活動	活動費(寄付金など)	香川ダルク	・「薬物使用者とHIV/エイズとセクシュアリティ」
活動10年のあゆみ	民間助成金	行政/ゲイ商業施設	・2006年から10年間の活動内容をまとめた冊子を製作。 ゲイコミュニティと関係諸機関などで配布する

表8 CBOによる啓発普及活動ー福岡地域のCBO(Love Act Fukuoka)活動状況 (2016年11月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
コミュニケーションパーシーズン ー継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	1回発行、各4,000部
HIV基礎講座 ー継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	毎月1回開催
ウェブサイト	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	随時更新
うるほこ ー継続	自主財源	-	24歳以下の若年層、毎月1～2回開催
HIV検査受検促進フライヤー およびポスター ー継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 福岡県・福岡市	エイズ予防財団 福岡県・福岡市	年1回(エイズデー-特別検査広報)
HIV検査受検促進キャンペーン 新規	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 ジェイクス株式会社 福岡県・福岡市	エイズ予防財団 虹色マリナーージュ ジェイクス株式会社 福岡県・福岡市	年1回(エイズデー-特別検査広報) 特設サイトの制作、検査促進動画製作など
HIV・エイズ検査相談研修会 ー継続	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 自治体 九州医療センター	エイズ予防財団 自治体 九州医療センター	年1回(福岡県、佐賀県) その他研修会講師(セクシュアリティなど)
Not Alone Fukuoka (HIV陽性者交流会)	自主財源	JaNP+	6回(不定期)

表9 CBOによる啓発普及活動ー沖繩地域のCBO(nankr 沖繩)活動状況 (2016年11月末時点、進行中を含む)

プログラム名	財源	連携機関 (機関名)	実施概要(時期、進捗状況等)
コミュニティペーパー作成・配布	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団/沖縄県	ゲイバー・ハッテン場・スポーツ大会で配布 年3回(各2000部) 2回発行済 1月発行予定
啓発ポスター作成・配布	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	ゲイバー・ハッテン場に配布 年1回(50部) 2月予定
アウトリーチ	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	月2回実施 主にゲイバーに配布
Living Together	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団/新虹	9月25日実施
HIV等に関するワークショップ	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	年2回 6月19日・11月20日実施
HIV等に関する勉強会	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団	年2回 5月17日・11月15日実施
HIVに関する講演会	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団/琉球大学/那覇市保健所	年1回 2~3月に予定
セーフアークス・スターターキット「やる!プロジェクト」	研究班	MASH 大阪、HaaT 愛媛、ANGEL LIFE NAGOYA	ゲイバー、クラブイベント、スポーツ大会などで配布 10回(配布数1343個、3月にもスポーツ大会で配布予定)
予防行動促進プログラム ALL JAPAN CAMPAIGN -akta Safer Sex Campaign x やる!プロジェクト	・同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団、やろっこ、akta、SHIP、ALN、MASH 大阪、HaaT 愛媛、MSM 研究班、商業施設等	・akta の safer sex campaign と「やる!プロジェクト」による ALL JAPAN の広域キャンペーンの実施 対象層は若年 MSM と国内ツーリストで、「つけていこう」を共通キヤッチコピーとし、ポスター、コンドーム3種類、WEB サイト+広報カードにて普及を図った
Living Together (ピンクドット)		ピンクドット沖縄	7月17日実施、ブースも出展
Living Together (県委託)	県委託費	沖縄県	コミュニティセンター mabui で12月3日実施
HIV 検査担当者向け研修会	同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業	エイズ予防財団/沖縄県/琉大/ぶれいす東京/OHPAM	保健所職員 年1回 2月~3月に予定(9月予定が台風で中止)
検査促進-MSM 検査会広報	県委託費	沖縄県/南部保健所	MSM 検査会(定員10名、12名予約、受検10名、初受検1人)
中高年向け新聞の作成・配布	県委託費	沖縄県/まじゅんの会/琉大/南部保健所/シテイライツ 行政書士/浦添市議会	ゲイバー、ハッテン場、スポーツ大会で配布、年1回(1000部)、2月下旬発行予定
コンドーム作成	市委託費	那覇市	年1回 1000個作成
CBO 活動・行政連携等におけるコメント: 那覇市パートナーシップ制度導入への当事者意見交換会参加、検査促進時の保健所との連携(北部・八重山)			

## 男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究

分担研究者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学 准教授）  
研究協力者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）、伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）、仲村秀太学、原永修作、藤田次郎（琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科）、宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）、椎木創一（沖縄県立中部病院）、豊川貴生（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）

### 研究要旨

**研究目的：**男性の HIV 陽性者を対象としてアンケート調査を実施し、HIV 陽性者の医療機関における診断の実態を調査することを主目的とする。また HIV 感染に至った最大要因を直接明らかにすることにより、わが国の個別施策層に対する HIV 感染の予防啓発事業に寄与することを副目的とする。

**研究方法：**独立行政法人国立病院機構九州医療センター（以下、福岡）と独立行政法人国立病院機構仙台医療センター（以下、仙台）にて受診中の HIV 陽性者に質問紙調査を行った。前年度に実施した沖縄県内 3 拠点病院（以下、沖縄）のアンケート結果と比較検討した。

### 研究結果と考察：

1. 3つの地域 88 名から回答を得た。回答者の年齢の平均値は沖縄 41.3 歳、福岡 43.5 歳、仙台 49.2 歳であった。自認するセクシャリティはゲイと回答したものが沖縄、福岡、仙台は 73%、84%、74%であった。
2. 自身が HIV 感染する可能性についての自覚度は、沖縄、福岡、仙台は 73%、79%、64%であった。過去の HIV 検査歴は、沖縄、福岡、仙台は 28%、66%、26%であり、地域間の有意差を認めた ( $P=0.0049$ )。感染が判明する前に、医療機関を受診した経験は沖縄、福岡、仙台は 74%、78%、78%であり、その内 HIV 関連症状または STI が理由であった者は 52%、50%、56%であった。また受診したと回答した者のうち、HIV 検査を勧められたのは沖縄、福岡、仙台は 34%、31%、25%であり、HIV 検査を勧められて断った者はいなかった。
3. HIV 感染が判明する前の生涯の性感染症歴は、沖縄、福岡、仙台は 70%、76%、77%であった。
4. 急性 HIV 感染症の記憶が有る者は沖縄、福岡、仙台は 54%、35%、42%であった。急性 HIV 感染を理由としての受診時、HIV 検査を勧められ受検したのは沖縄、福岡、仙台は 26%、42%、11%であった。

**結論：**HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失していることが判明した。特に急性 HIV 感染症は、感染拡大の重要な要因でもあり、医療者への教育啓発が必要である。また HIV 検査歴にも地域間の差が大きく、検査施設へのアクセスを妨げる要因を改善する必要がある。

## A. 研究の背景と目的

新規 HIV 陽性者数の抑制には、感染リスクの高い個別施策層（男性同性愛者、以下 men who have sex with men ;MSM）における感染機会の最大要因を明らかにし、それに基づいた啓発活動と診断体制構築に注力することが費用対効果の観点からも重要である。

一方、HIV の感染リスク解明のための研究は、わが国は諸外国と比べて極めて少なく、唯一、本研究班が MSM を継続的に対象として実施している。

しかしながら、これらの研究成果を持ってしても、毎年、約 1,500 名の新規 HIV 陽性者数の減少には結びついていない。その理由としては、従来の調査は感染リスクの高い個別施策層を対象としたが、当事者である HIV 陽性者を直接対象とした研究ではないため、実際に HIV 感染した層において、未だ明らかにされていないリスク要因の存在が推察される。

本研究は、非 HIV 陽性者から得られた情報を演繹的に積み上げるのではなく、HIV 陽性者の情報から、帰納的に効果的な予防啓発と診断体制を構築するための HIV 感染リスク要因を調査するものである。

主目的として、診断機会のある時期に医療側が HIV 検査を適切に提供したかに関する調査も行った。これは、HIV と診断された患者からしか得ることのできない情報であり、医師への HIV 教育の重要な資料となりうる。

我々は 2014-5 年において沖縄県のエイズ 3 拠点病院においてアンケート調査を実施し、HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医療側の認識不足のため検査機会を逸失している実態を明らかにした。

2016 年度は、福岡および仙台のブロック拠点病院において同じ質問紙による調査を実施し、地域間の比較を行った。

本研究は、男性の HIV 陽性者を対象として、エイズ拠点病院がアンケート調査を実施し、

HIV 陽性者の医療機関における診断の実態を調査することを主目的とする。また HIV 感染に至った最大要因を直接明らかにすることにより、わが国の HIV 感染の予防啓発事業に寄与することを副目的とした。

## B. 研究方法

福岡、仙台のエイズブロック拠点病院にて受診中の HIV 陽性者に質問紙調査を実施、沖縄県と地域間における比較検討を行った。

### 1. 本研究の観察・評価項目

アンケートの属性（自認する性、年齢）、陽性者の HIV 感染判明前の HIV 受検行動、医療機関の HIV に対する理解度の年度別比較（急性 HIV 感染時の受診行動、医療機関の診断精度、HIV 検査の勧奨度）、HIV 関連情報の入手方法、薬物の使用歴。

### 2. 適格基準

- 1) 福岡および仙台にて加療中の HIV 感染または AIDS 患者である。
- 2) 年齢および感染経路は問わない。
- 3) 主治医よりアンケート受け取った患者に限る。
- 4) 男性患者である。

### 3. 除外規定

- 1) 主治医からの口頭説明で同意が得られなかった患者
- 2) その他、主治医が不相当と判断した患者
- 3) 感染経路は異性間と回答した者は解析対象から除外した。

### 4. 患者の同意

アンケートに際し、趣旨を十分に説明し、本アンケートの参加については患者本人の自由意志に基づき、同意が得られた患者。同意はアンケートの返信があった場合に得られたものとする。

### 患者に対する説明事項

- 1) 本アンケートの趣旨
- 2) 不参加でも何ら不利な取り扱いを受けないこと

3) 同意は随時撤回できること

4) 患者の人権保護に関する必要事項

アンケート参加者を特定できる個人情報  
は收拾せず、また個別の回答表は一切公表しない

アンケートは無記名かつ、記入後は同時に配布した切手付き封筒に入れて投函してもらうことで匿名性を担保することにより人権保護に最大限配慮する。

5. アンケート実施期間

2015 年臨床研究倫理審査委員会による承認確定日より 2016 年 10 月末

6. アンケート結果の公表

本研究で得られた成果は厚生労働科学研究費補助金事業で報告するとともに、行政会議、学会や論文等で広く社会に情報提供を行う。

7. 研究資金

厚生労働省エイズ対策政策研究事業 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究 (H26-エイズ一般-005)

8. 利益相反 無し。

9. 研究の実施体制

1) 研究責任者 健山正男、所属機関、琉球大学医学部附属病院第一内科、職名、准教授 連絡先 (098-895-1144)

2) 研究組織構成者 原永修作、琉球大学医学部附属病院第一内科、職名、講師 連絡先 (098-895-1144)

3) アンケート配布協力病院

独立行政法人国立病院機構九州医療センター (担当者 山本政弘)、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター (担当者 伊藤俊広)

(倫理面への配慮)

自由意思による研究の参加・非参加を保障する。または口頭同意した後にアンケートを提出しないことができる。研究に参加しなくても、その後の診療にいかなる不利益も生じない。被験者の個人情報保護に十分配慮する。

琉球大学の倫理委員会審査承認 (858)。

## C. 研究結果

1. 本年度は、九州医療センター、仙台医療センターにアンケートを 100 名に配布し、44 名から回答を得た (44%)。前年度の沖縄県の調査 (44 名) と比較した。

2. 回答者の年齢の平均値は沖縄 41.3 歳、福岡 43.5 歳、仙台 49.2 歳であった。(図 1)。

3. 自認するセクシャリティはゲイと回答した者が 74~84% と最も多く、次いでバイセクシャルであった(図 2)。

4. 自身が感染する可能性について沖縄、福岡は 73、79% が自覚していたが、有意差は認めないものの仙台では 64% と低かった(図 3)。

5. 過去の HIV 検査歴は、沖縄、福岡、仙台は 28%、66%、26% であり、地域間の有意差を認めた。(P=0.0049) (図 4)、複数回の受検歴は沖縄、福岡、仙台は 42%、60%、25% であった(図 5)。

6. 感染が判明する前に、HIV 検査を受けた機関は保健所が 3 地域とも最も高かった(図 6)。

7. 感染が判明する前の HIV 検査は心理的に受けにくかったと回答したのは、沖縄、福岡、仙台それぞれ 67%、47%、58% であった(図 7)。

8. 感染が判明する前に、医療機関を受診した経験は沖縄、福岡、仙台は 74%、78%、78% であり、その理由として、HIV 関連症状または STI は 52%、50%、56% であった(図 8)。

9. 8 で医療機関を受診したと回答した者のうち、HIV 検査を勧められたのは沖縄、福岡、仙台は 34%、31%、25% であった(図 9)。HIV 検査を勧められて断った者はいなかった。

10. HIV 感染が判明する前の生涯の性感染症歴は、沖縄、福岡、仙台は 70%、76%、77% であった(図 10)。

11. HIV に感染が判明した時のエイズの割合は、沖縄、福岡、仙台、それぞれ 32%、22%、30%、急性 HIV 感染症は 18.2%、21.7%、5.0% であった(図 11)。

12. HIV に感染が判明した時の医療施設は、沖

縄、福岡、仙台それぞれ病院が最も多く 64%、46%、79%であった。急性 HIV 感染症は 18.2%、21.7%、5.0%であり地域間の有意差を認めた (P=0.049) (図 12)。

13. HIV に感染が判明した時の検査地域は、沖縄、福岡、仙台それぞれ 84%、83%、57%であった。仙台は他の 2 地域と比べて地元の割合が低かったが有意差を認めなかった (P=0.058) (図 13)。

14. 急性 HIV 感染症の記憶が有る者は沖縄、福岡、仙台は 54%、35%、42%であった (図 14)。

15. 質問 12 で急性 HIV 感染症の記憶があると回答した者について医療機関を受診した者は、沖縄、福岡、仙台はそれぞれ 87.6%、100%、66.7%であった (不明と回答したものを除く)。受診した時に HIV 検査を勧められ受検したのは沖縄、福岡、仙台はそれぞれ 26%、42%、11%であった (図 15)。

16. HIV 感染の予防に関する啓発情報の認知度は 3 地域とも 90%以上であった (図 16)。

17. 日本で HIV 感染症が増えていることについての認知度は沖縄、福岡は 90%以上であったが仙台は 65%と低かった (図 17)。

18. 保健所で HIV 検査が匿名で受けられることの認知度は 3 地域とも 88%以上であった (図 18)。

19. 献血では HIV 検査の結果返しがいいことの認知度は沖縄、福岡、仙台それぞれ 67%、65%、55%であった。 (図 19)。

20. HIV 検査の相談と受検ができる機関の認知度は沖縄、福岡、仙台それぞれ 44%、37%、45%であった (図 20)。

21. HIV 感染が判明する前の、同性間の HIV 関連情報の入手先は、ネット、同性間コミュニティ、新聞の報道の順に高かった (図 21)。

22. CBO の認知度は沖縄、福岡、仙台それぞれ 69%、57%、45%であった (図 22)。

#### D. 考察

1. HIV に感染が判明した時の検査地域が地元

であったのは沖縄、福岡は 84%、83%であり当該県の状況を反映していた。一方、仙台は 57%と他の 2 地域と比べて有意差を認めないものの地元の割合が低かった (図 13)。仙台は感染が判明する前の HIV 検査に対して、心理的な受けにくさ (図 7) も高く、実際に過去の HIV 受検歴は沖縄、福岡は従来の MSM 調査と同じ水準であったが、仙台は 25%と有意に低かった。これらのことから、東北地方におけるプライバシーなど検査施設へのアクセスを妨げる要因が推察される。

2. 感染が判明する前に HIV 関連症状または STI を理由として 50%以上は医療機関受診歴があり、HIV 陽性者の早期発見の機会を逸失していた。医師の教育・啓発が必要である。特に急性 HIV 感染症の時期に 3 地域とも高い受診歴があり、医療機関へのこれらの症状に伴う早期検査を勧奨する取り組みの必要性が示唆された。

わが国の「エイズ予防指針における発生の予防及びまん延の防止」では医療従事者に対する HIV 教育は、中核拠点病院に委託すると記載されている。最初の患者報告から四半世紀が経過しても、HIV 陽性者に対する医療者の偏見差別が数多く報告されており、全国的に医療体制構築と医療者教育が遅々として進まない現状から、予算および法整備も含めた国の指導が必要と思われた。

3. HIV 関連情報へのアクセス度は従来の MSM を対象とした群と有意差はないが、今回の調査は定性的であり、今後は定量的、質的な差異について検討する必要がある。

4. 献血では HIV 検査の結果返しがいいことの認知度は 67%と低く、HIV 感染している場合には、結果返しがいいことは陰性と捉えるリスクがあり、2 次伝播に繋がること推察された。

#### E. 結論

HIV 検査が適切に提供されるべき時期に、医

療側の認識不足のため検査機会を逸失していることが判明した。特に急性 HIV 感染症は、感染拡大の重要な要因でもあり、医療者への教育啓発が必要である。

また HIV 検査歴にも地域間の差が大きく、検査施設へのアクセスを妨げる要因を改善する必要がある。

#### **F. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）**

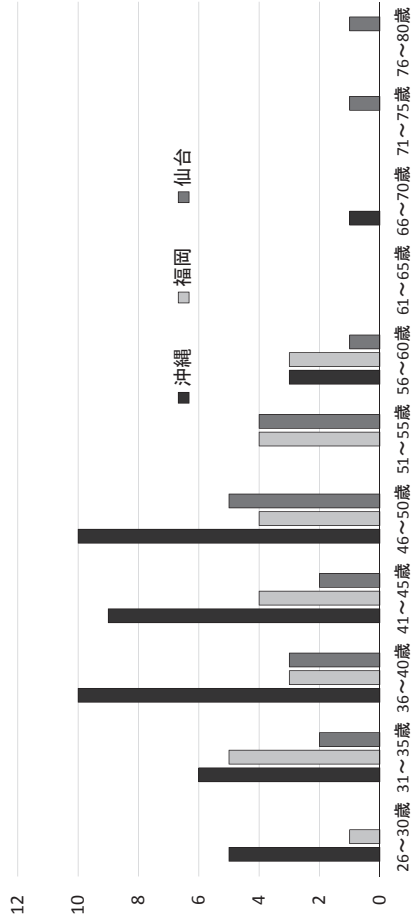
なし。

#### **G. 論文発表**

- 1) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y.: A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76\_01B Identified by Near Full-Length Genome Analysis. *AIDS Res Hum Retroviruses*. 32(3):284-9, 2016.
- 2) 金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一。成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-。日本エイズ学会誌。19 巻 1 号、16-23、2017.

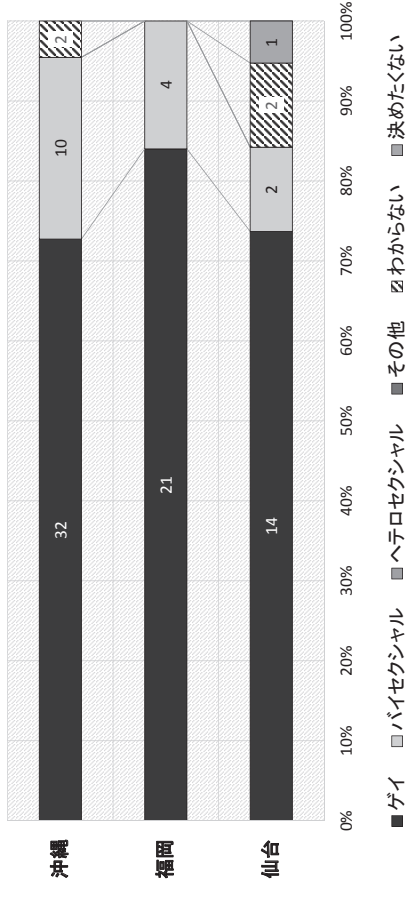


図1. 年齢分布



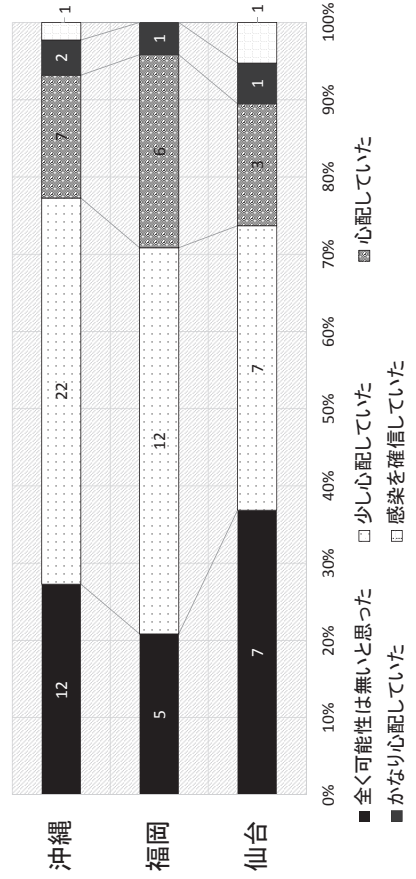
1

図2. 自認するセクシヤリティー



2

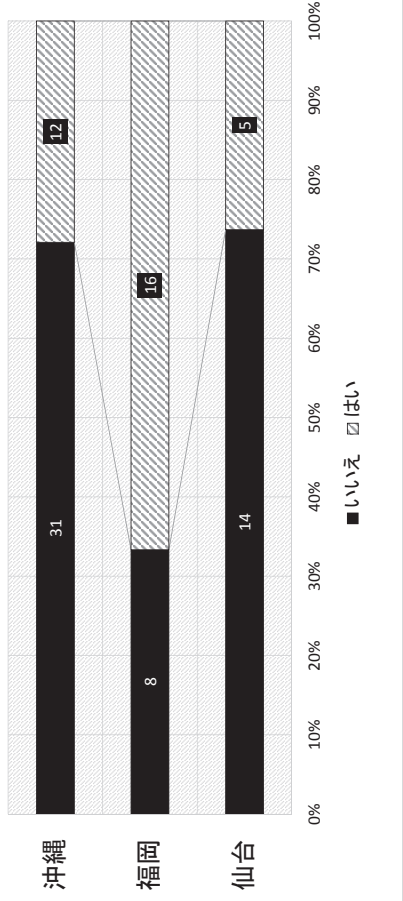
図3. 感染が判明する前に自分が感染する可能性についてどう思っていましたか？



Pearson's chi-square test P=0.508

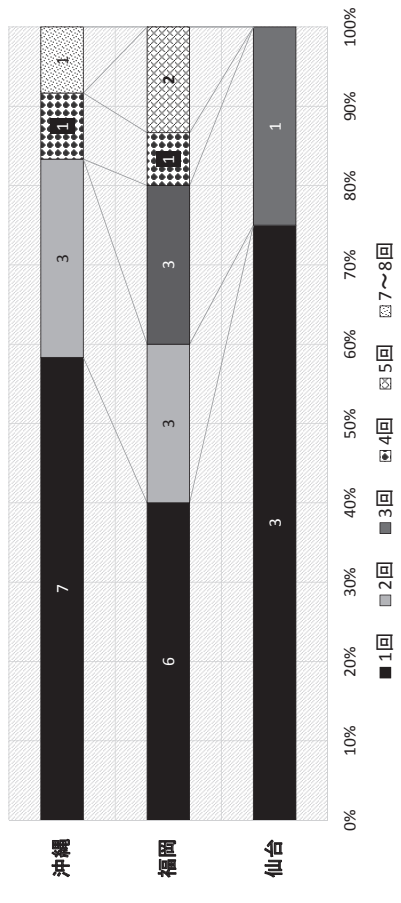
3

図4. 感染が判明する前にHIV検査を受けた事がありますか？



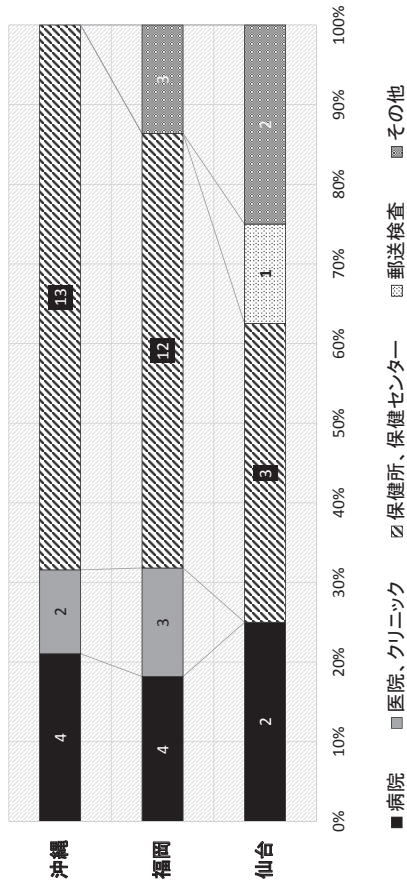
Pearson's chi-square test P= 0.0049

図5. HIV受検回数について  
(6.の質問で“はい”と答えた方)



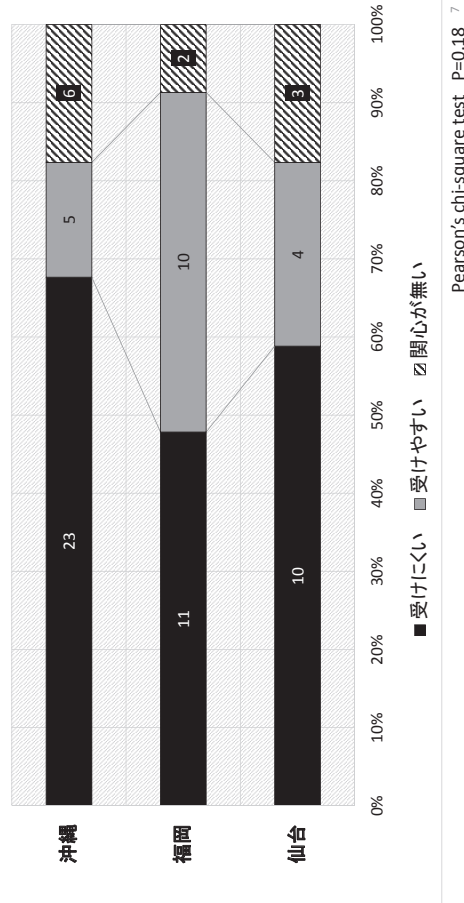
5

図6. 感染が判明する前に  
HIV検査をどこで受けましたか？



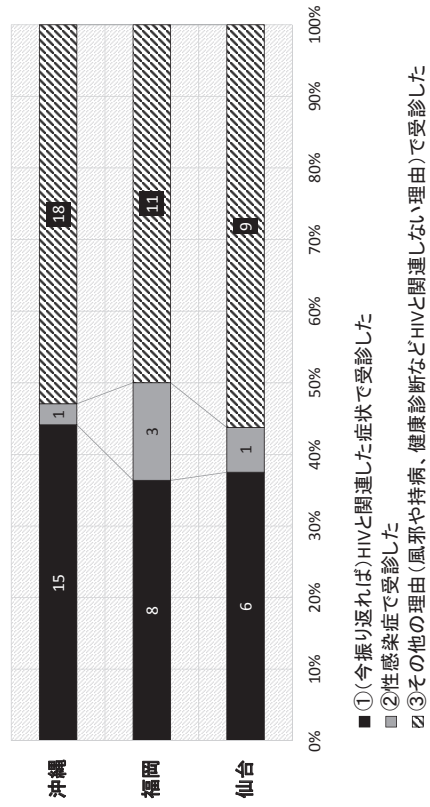
6

図7. 感染が判明する前のHIV検査は  
心理的に受けやすかったですか？



Pearson's chi-square test P=0.18 7

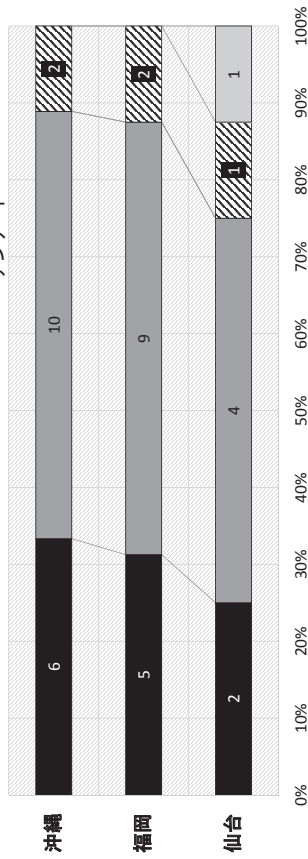
図8. HIV感染症が判明する前に最後に病院や  
医院・クリニックに行った理由は何か？



8

図9. HIV検査の勧奨の有無

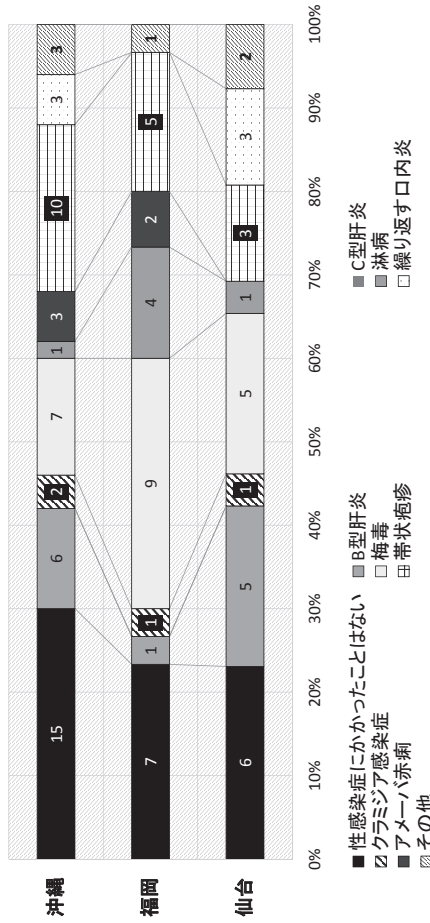
前問で①②と回答した者へのアンケート



- HIVの検査を勧められた
- HIVの検査は勧められなかった
- HIVの検査を勧められたが、あなたがHIV検査は断った
- HIVの検査を勧められたが、あなたはHIV検査を受けたと思う
- もし医師がHIVの検査を勧めたら、あなたはHIV検査を受けたと思う
- 覚えていない

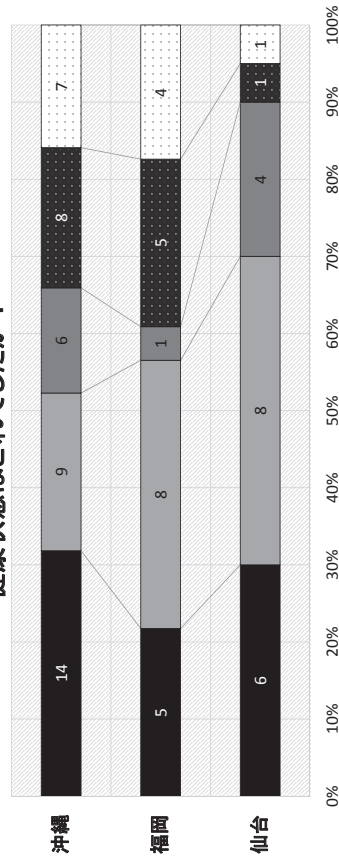
9

図10. HIV感染が判明する前に、性感染症にかかったことがありますか？



10

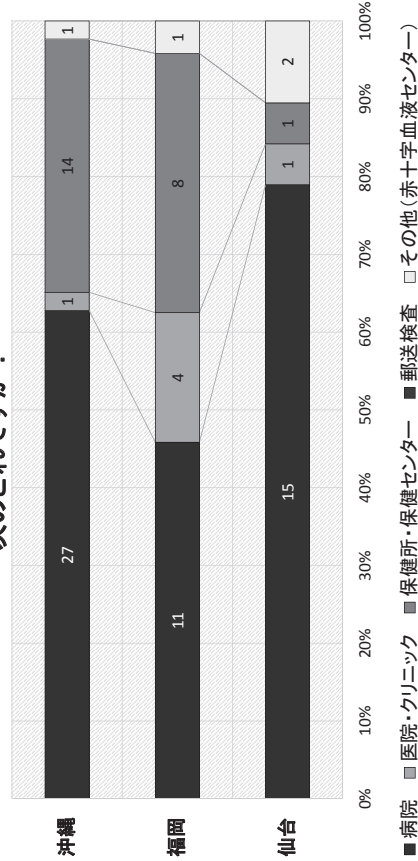
図11. HIVに感染が判明した時に病院から告げられたあなたの健康状態はどれでしたか？



- エイズ
- 無症状
- エイズではないがなんらかの症状はあった
- 急性HIV感染症
- わからない

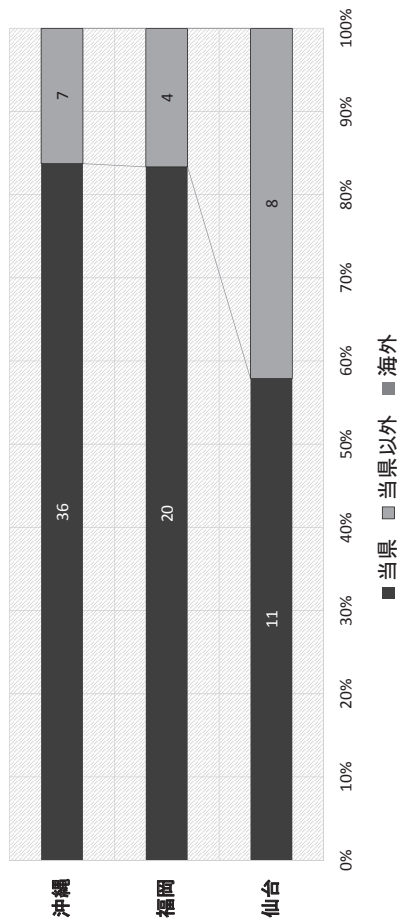
Pearson's chi-square test P=0.261<sup>1</sup>

図12. HIVに感染が判明した時の検査機関・医療機関は次のどれですか？



Pearson's chi-square test P=0.0484<sup>12</sup>

図13. HIVに感染が判明した時の、HIV検査が行われた地域はどこですか？



Pearson's chi-square test P=0.0585<sup>13</sup>

14 Pearson's chi-square test P=0.0408

図14. 急性HIV感染症について、以下のようなことは記憶にありますか？

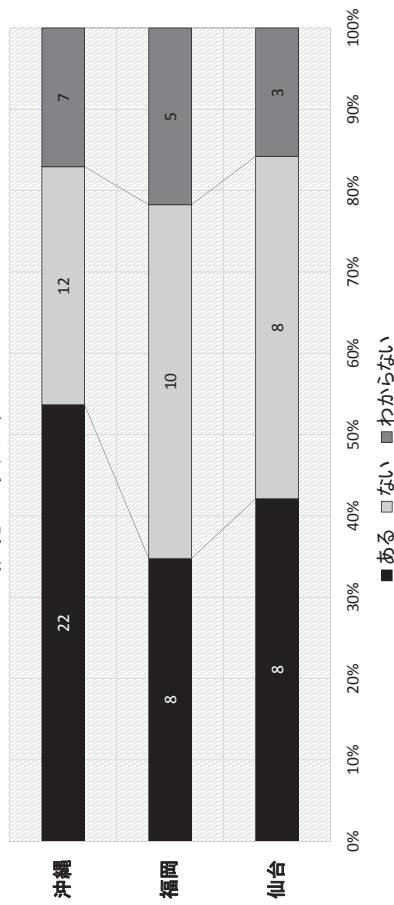
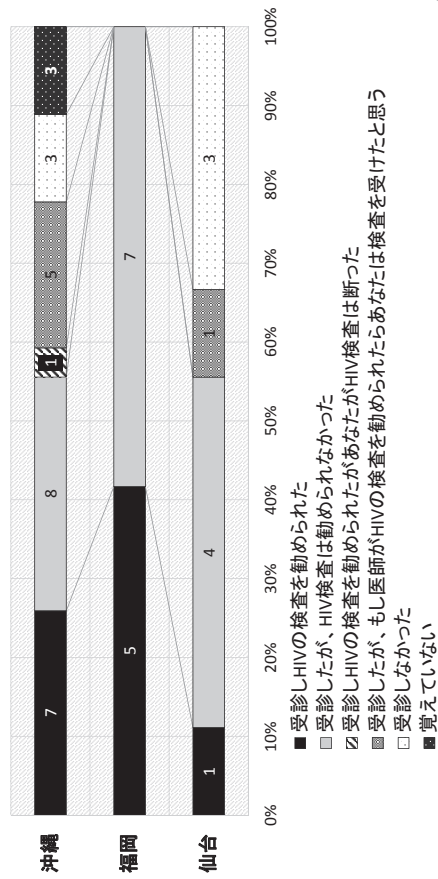
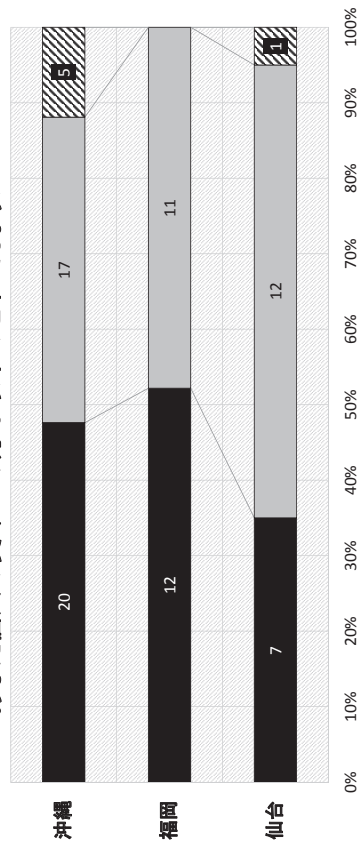


図15. 急性HIV感染症の症状が出た方にお尋ねします。医療機関に受診しましたか？



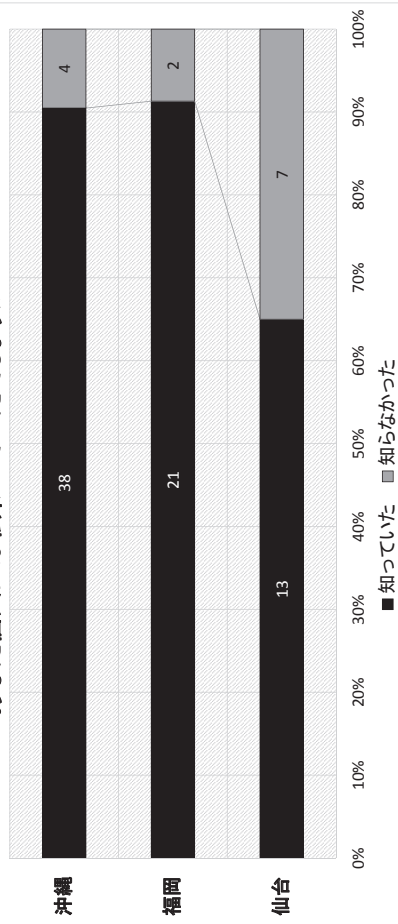
Pearson's chi-square test P=0.328<sup>15</sup>

図16. HIV感染の予防に関する啓発情報について、あなた個人の方の受け止め方は以下のどれでしょうか？



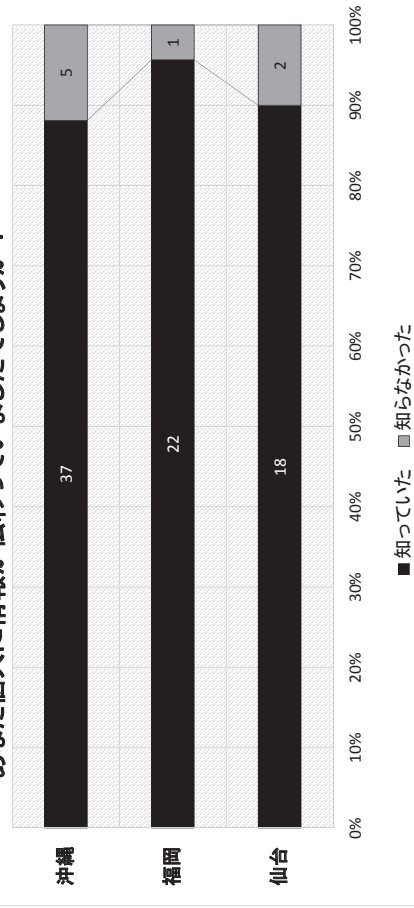
■ 知っていたのでHIV感染に注意していた □ 知っていたがHIV感染は気にしなかった ▨ 知らなかった

図17. 日本でHIV感染者が増えていることについて、  
あなた個人には伝わっていましたか？



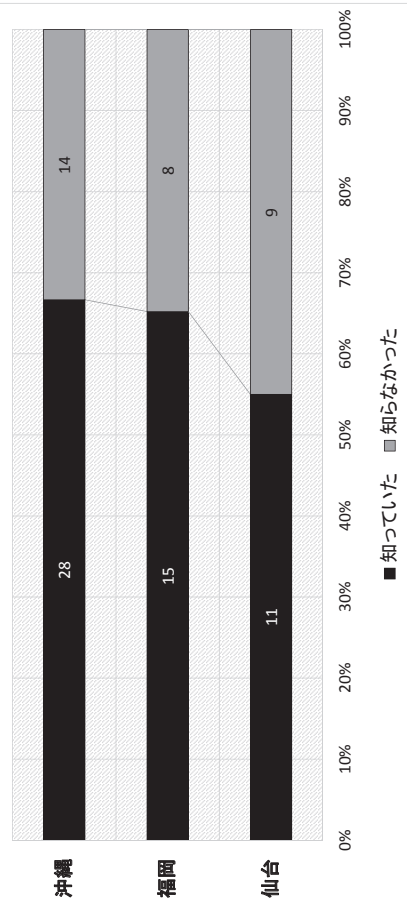
17

図18. 保健所でHIV検査が匿名で受けられることは、  
あなた個人に情報が伝わっていましたか？



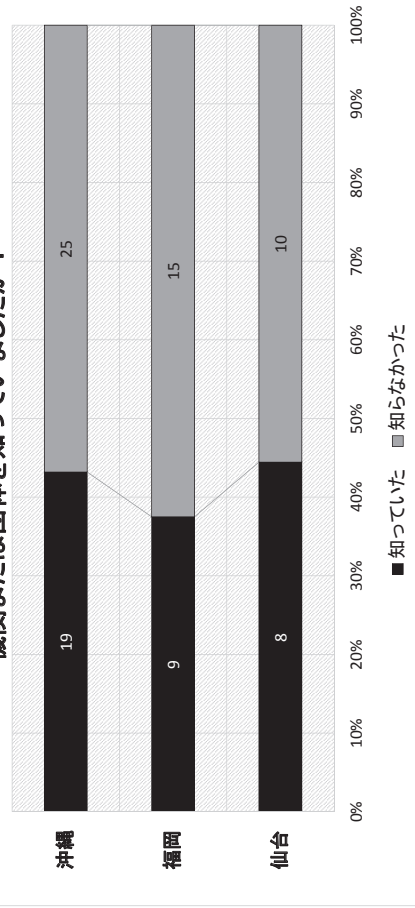
18

図19. 献血ではHIV検査の結果は教えてもらえないことは、  
あなた個人に情報が伝わっていましたか？



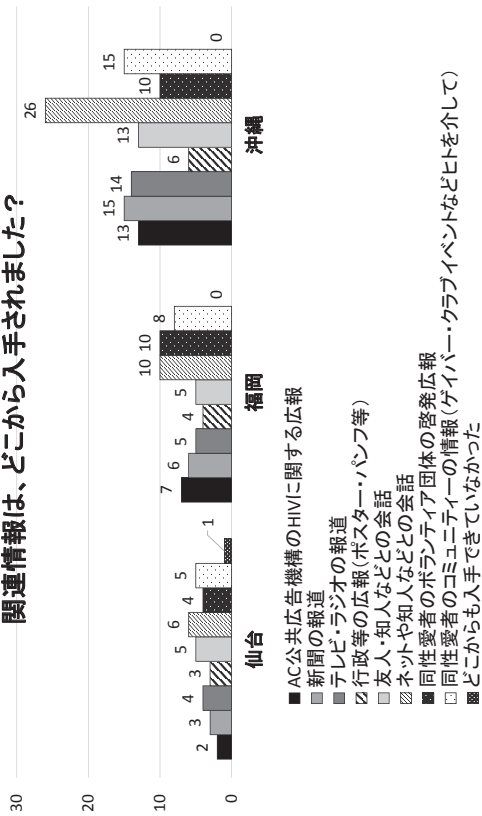
19

図20. あなたは、HIVやエイズについて相談できる  
機関または団体を知っていましたか？



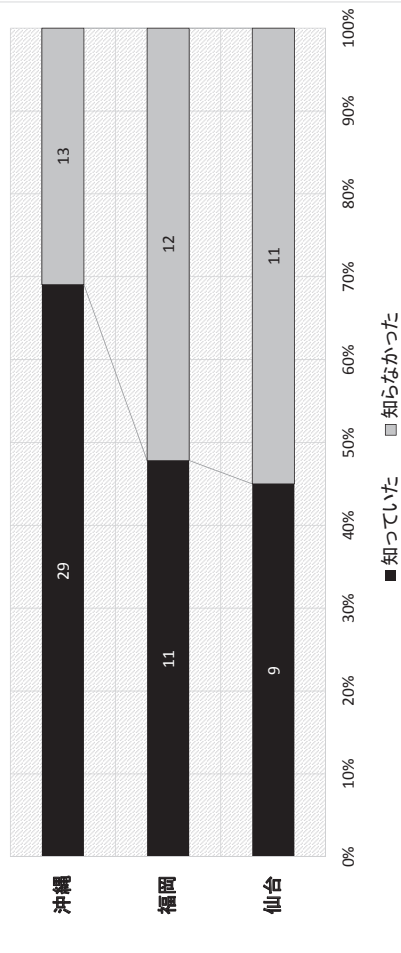
20

図21. HIV感染がわかる前、男性同性間のHIV感染の  
関連情報は、どこから入手されましたか？



21

図22. 男性同性愛者の当事者によるHIV予防啓発団体  
(nankr沖縄、mabui、aktaなど)の存在を知っていましたか？



Pearson's chi-square test P=0.1078

22

## MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較 (1) - MSM における検査・予防行動、地域間移動に伴う性行動 -

研究分担者：金子典代(名古屋市立大学看護学部 准教授)

本間隆之(山梨県立看護大学 講師)

研究協力者：塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)、太田貴(やろっこ)、岩橋恒太(特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団)、荒木順子(特定非営利活動法人 akta/公益財団法人エイズ予防財団)、石田敏彦(ALN)、町登志雄(MASH 大阪/公益財団法人エイズ予防財団)、後藤大輔(MASH 大阪)、新山賢(HaaT えひめ)、牧園祐也(LAF/公益財団法人エイズ予防財団)、玉城祐貴(nankr) 金城健(前 nankr)、市川誠一(人間環境大学)

### 研究要旨

本研究の目的は、東北、東京、名古屋、大阪、中四国、福岡、沖縄のゲイ向けイベントに参加した MSM の地域間移動の実態を明らかにすることである。平成 27 年度、平成 28 年度それぞれ、各地域のクラブイベントと NGO が協働し対象者リクルートを行った。インターネット調査法を用い、対象者には研究班が独自にイベントごとに開設したアンケートサイトでの回答を依頼した。初回回答者に限定し、平成 27 年度は、869 名が、平成 28 年度は 1111 名が分析対象者となった。過去 6 か月の居住地以外の都市(仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県)への訪問経験については、平成 27 年度調査、28 年度調査ともに、東北地域、東海地域在住者は、東京都への移動経験が多く、西日本、中四国では大阪市への訪問経験があるものが 46%と高かった。直近の訪問先での商業施設利用については、ゲイバーの利用割合が 63.4%と最も高く、直近の訪問地でアナルセックスを行ったものは全体で 34.3%であった。訪問先でのアナルセックス時のコンドーム使用と直近のアナルセックス時のコンドーム使用は、訪問時のアナルセックス時は 68.2%であり、直近のアナルセックスのコンドーム使用割合の 64.9%と有意差は認められなかった。過去 6 か月間の外国籍 MSM とのアナルセックス経験を尋ねたところ、平成 27 年度は 581 名のうち 18.6%、平成 28 年度は、758 名のうち、21%に外国籍 MSM との性行為経験を有していた。また外国籍 MSM と性行為を行った場所は、平成 27 年度は 76.9%、平成 28 年度は 74.2%は日本国内で性行為を行っていた。コミュニティセンターがある都市と比して、ない都市では検査行動の低さや検査の受検のしづらさも確認され、今後地方都市にも検査や予防行動をとりやすい介入展開が望まれる。

### A. 研究目的

本研究の目的は、2015 年、6 月から 10 月、2016 年 5 月から 11 月にかけて開催された東北、東京、名古屋、中四国、福岡、沖縄のゲイコミュニティ内でゲイ向けクラブイベント

参加した MSM における地域間移動と移動に伴う性行動を明らかにすることである。地域間移動については、過去 6 か月の外国籍 MSM との性交経験、国内での過去 6 か月の他都市への移動経験と移動先での性行動と移動に伴う



性行動や予防行動の規範に焦点を当てた。

## B. 研究方法

本研究班が開発した GCQ アンケートシステムを用いてインターネットサイト上に本調査専用のサイトを開設した。本研究班の介入地域である東北、関東、東海、近畿、中四国、九州、沖縄県に居住するゲイ・バイセクシュアル男性を対象者としてインターネットによる横断調査を実施した。平成 27 年度は総計 9 イベント、平成 28 年は総計 12 イベントと協働し、各イベント固有の調査サイトを開設し調査を実施した。対象者のリクルートは、各地域の CBO がゲイ向けクラブイベントのオーガナイザーと協力し、広報資材やインターネットサイトに本調査の回答協力依頼の広告を掲載し対象者に調査実施と協力を依頼する方法をとった。イベント実施前から広報を開始し、イベント開始前の調査への回答を依頼した。対象者は、調査回答終了画面（または画面を印刷したもの）をイベント入場時に受付に提示することで受ける入場料割引（1000 円相当）を本調査の謝礼とした。

質問項目は基本属性、資材認知、HIV 検査受検、過去 6 か月の外国籍 MSM との性行動経験、移動先での行動規範、国内での仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、那覇市への移動/旅行経験と移動/旅行先での性行動等、2015 年は総計 85 問、2016 年は総計 50 問であった。

地域間移動、移動に伴う性行動に関する分析については、重複回答を除く初回答者を対象者とした。平成 27 年度は、869 名、平成 28 年度は 1,111 名を対象に 25 歳未満、25 歳から 35 歳未満、35 歳以上の 3 群に分けて分析を行った。また適宜、コミュニティセンターがある地域、ない地域に居住地を 2 分した分析を適宜実施した。

データ集計には SPSS ver 21 を用い、項目間の関連を見る際にはカイ二乗検定を行った。

ただし期待度数が 5 未満の際は Fisher の正確検定を行った。統計学的有意水準は 5% を採用した。

（倫理面への配慮）

本研究の研究計画については、名古屋市立大学看護学部倫理委員会より実施の承認（14025-3）を得て実施した。

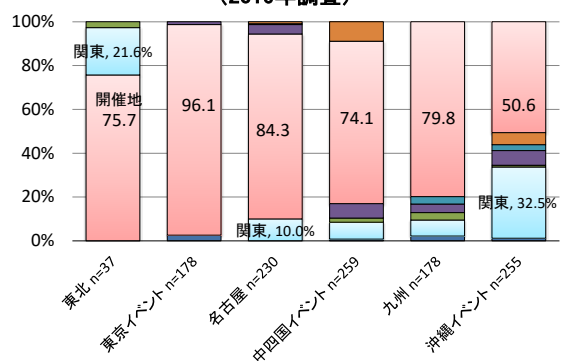
## C. 研究結果

### 1) 回答者の基礎属性

2015 年調査の有効回答数は、1101 件、2016 年調査の有効回答数は 1,517 件であった。収集したデータについて、複数調査地で回答したものが含まれていたため、初回答者に限定したところ平成 27 年度は、869 名が、平成 28 年度は 1111 名が分析対象者となった。

各イベントでの回答者について、イベント開催地に居住するものの割合を分析したところ、平成 28 年度の調査では、沖縄地域では関東地域在住者が 32.5% を占めておりツーリストの割合が高かった（図 1）。平成 27 年度も沖縄地域のイベントでは同様の傾向であった。

図1 イベント地域別イベント開催地居住割合 (2016年調査)



過去 6 か月間のゲイ向け商業施設の利用については、平成 27 年度、平成 28 年度の調査ともに、ゲイバー利用について年齢と関連が見られ、25-35 歳未満が最も利用割合が高かった。過去 6 か月の HIV/AIDS に関する対話



経験は、平成 27 年度、平成 28 年度ともに、25 歳未満群がそれぞれ 58.0%、62.8%と最も高かった。

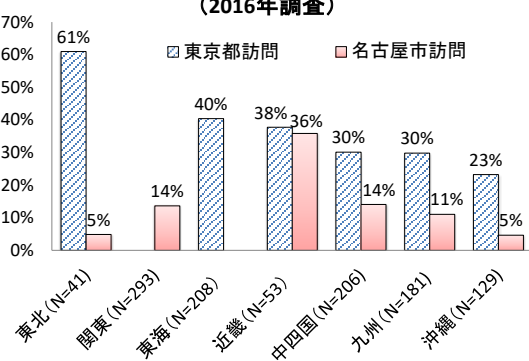
過去 6 か月のアナルセックス時のコンドーム常用割合は、平成 27 年度、平成 28 年度の調査ともに 25 歳未満群が最も低く、平成 27 年度は 40%、平成 28 年度は 44%であった。過去 6 か月間のセックス時の併用品は、バイアグラの使用においてのみ年齢と有意な関連が見られ、35 歳以上の群での使用割合は、平成 27 年度は 12%、平成 28 年度は 14.1%であった。

HIV 検査受検行動については、生涯の検査経験は 25 歳未満が最も低く、平成 27 年度は 50%、平成 28 年度は 52%であった。

## 2) 過去 6 か月間の居住地以外の都市への移動経験

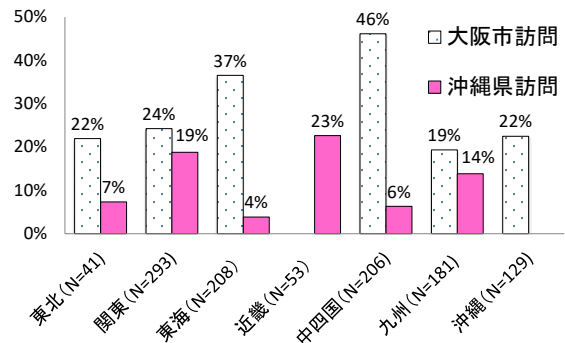
平成 27 年度の調査から、対象者全体では 73%のものが、平成 28 年度は 72.5%が過去 6 か月に居住地以外の都市（仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県）を訪れた経験があった。過去 6 か月の居住地以外の都市への移動経験については、平成 27 年度調査、28 年度調査ともに、東日本地域居住者では、東京都への移動、西日本、中四国では大阪市への訪問経験があるものが多かった。平成 28 年度の調査では東海地域在住者には 40%のものが過去 6 か月に東京都への訪問経験があり（図 2）、中四国在住者では 46%

図2 居住地別 過去6か月の東京都、名古屋市訪問経験 (2016年調査)



に過去 6 か月に大阪市への訪問経験が見られた（図 3）。

図3 居住地別 過去6か月の大阪市、沖縄県訪問経験 (2016年調査)



また過去 6 か月に直近に移動した先でのゲイ向け商業施設利用については、ゲイバーの利用割合が全体では 63.4%と最も高かった。過去 6 か月間の居住地以外の移動先でのゲイバーの利用については年齢と関連が見られ、25-35 歳未満が最も利用割合が高かった。過去 6 か月間に居住地以外への移動経験があるもののうち、21.7%が有料ハッテン場を利用していた。

## 3) 過去 6 か月に直近に移動した先での性行動

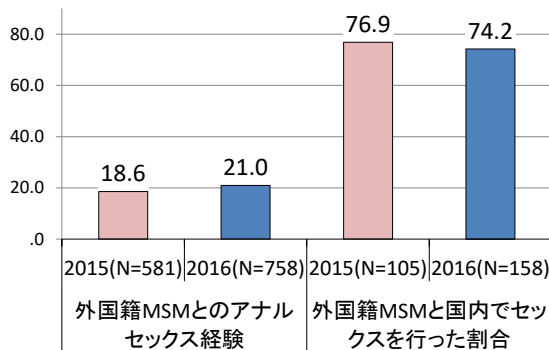
平成 28 年度の調査において、過去 6 か月に性行動経験があるものに限定し、過去 6 か月に居住地以外に直近に訪問地でアナルセックスを行ったものは全体で 34.3%であった。訪問先でのアナルセックス時のコンドーム使用と直近のアナルセックス時のコンドーム使用を比較すると、訪問時のアナルセックス時は 68.2%であり、直近のアナルセックスのコンドーム使用割合の 64.9%と有意差は認められなかった。

## 3) 過去 6 か月の外国籍 MSM とのアナルセックス経験

過去 6 か月に性行為経験があるものに限定し、過去 6 か月間の外国籍 MSM とのアナルセックス経験を尋ねたところ、平成 27 年度は 581

名のうち 18.6%、平成 28 年度は、758 名のうち、21%に外国籍 MSM との性行為経験を有していた(図 4)。また性行為を行った場所を国内、国外の 2 択で尋ねたところ、平成 27 年度は 76.9%、平成 28 年度は 74.2%が日本国内で性行為を行っていた。

図4 過去6か月 外国籍MSMとのアナルセックス経験割合,国内での経験割合



また外国籍 MSM とのアナルセックス経験割合について、対象者の居住地との関連を検討したところ、人口 700 万以上の都道府県居住者の外国籍 MSM との性交経験は 24%と 700 万より少ない都道府県在住者の 19%より割合は高かったいが有意差はみられなかった。居住地におけるコミュニティセンターの有無で比較しても外国籍 MSM との性交経験割合に有意差は見られなかった(図 5)。

#### 4) 移動先の性行動に関する規範

移動先における性行動や居住地以外での HIV 検査受検希望について尋ね、年齢 3 群別に分析を行った。平成 27 年度調査については、旅行するなら旅先のゲイと出会いたい、旅先に住む人とセックスしたい、旅行するならセックスドラッグを持っていく、旅行先では複数の人とセックスしたい、において年齢と関連が見られた。いずれも年齢層が上がるほど同意割合が高かった。また平成 27 年調査、28 年調査双方において、旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を

入手しておきたい、移動先でのハッテン場利用希望については年齢間で差が見られた。旅先での情報入手への同意度は年齢層が高いほど高かった。移動先でのハッテン場の利用希望については、25-35 歳層において最も高かった。

平成 28 年の調査について、居住地以外の場所での検査受検について尋ねたところ、人口規模が小さい都道府県居住者のほうが、またコミュニティセンターが設置されていない都道府県居住者のほうが居住地以外のほうが HIV 検査を受けやすいと同意している割合が有意に高かった(図 6)。

図5 居住都市規模、コミセンの有無別 外国籍MSMとのアナルセックス経験割合

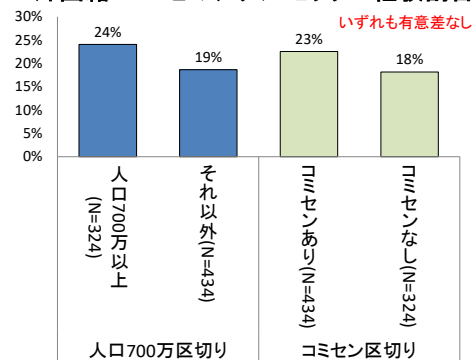
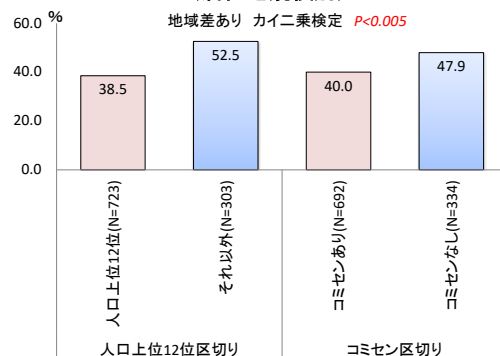


図6 居住地以外の方がHIV検査を受けやすい (居住地規模別)



## D. 考察

ゲイコミュニティ内でのクラブイベントに来場する MSM を対象に GCQ システムを用いた量的調査を実施し、全国から 1,000 件を超す有効回答を得ることができた。本報告では、初回答者に限定し、平成 27 年度は 869 名、

平成28年度は1111名を対象に分析を行った。平成27年、平成28年とほぼ同じ調査項目を用いて、基礎属性、検査、コンドーム使用、過去6か月の国内移動や移動先での性行動、外国籍MSMとの性交経験についてもデータを得た。各地域イベントの対象者の居住地については、特に沖縄地域で開催するイベントについては、関東圏居住者の割合が高く（平成28年32.5%）とツーリズムの活発さの実態を示す結果となった。

HIVやエイズに関する対話経験は、年齢別にみると25歳未満が多年齢層より高いが、コンドーム常用割合は40-44%と50%を切っており、生涯のHIV検査受検行動については他の年齢層より低く約50%であり、さらなる介入の必要性が示された。

過去6か月間の国内移動については、平成27年度調査、28年度調査ともに、東日本地域居住者では、東京都への移動、西日本、中四国では大阪市への訪問経験があるものが多かった。特に、都市から地方都市（沖縄）、地方都市から都市部と活発な移動が両年とも確認された。これらの移動の傾向を考慮に入れて、例えば大阪地域でも中四国の検査情報を配布するなど、予防啓発資材の開発や配置についても地域間連携を行う必要性が示唆された。

また性行為経験者において外国籍MSMとのアナルセックス経験が20%程度あることが平成27年、28年ともに確認された。商業施設等で、外国籍MSMにも配慮した予防啓発資材を設置するなど海外のMSMや交流にも配慮した予防啓発や介入展開の必要性が示唆された。

移動先の性行動と規範についても実態を把握した結果、旅行先での出会いや複数パートナーとの性行為への希望、セックスドラッグの使用希望を持つ傾向があることも確認でき、移動先でも常に予防啓発資材が配布され、予防行動をとりやすい環境を整備する必要性が

示された。またHIV検査行動については、地方都市やコミュニティセンターがない地域では、居住地以外の場所で検査を希望する割合が高く、今後はその理由や改善策の究明も求められる。

## E. 結論

平成27年度、平成28年度と連続して、東北、関東、東海、関西、中四国、九州、沖縄地域のコミュニティイベントと連動した調査を実施し各地域の予防行動や検査行動の実態と国内間移動に関する基礎資料を得た。

商業施設を利用するMSMにおける性行動、性感染症リスクは商業施設を利用しないMSMより高いことが本研究班の先行調査から示されている。商業施設利用者に対して現状に即した有用な情報提供を継続的に実施するためにも、また情報の浸透、行動変容におよぼす効果を評価するためにも、今後もコミュニティ内で実施されるイベントと協働した行動、介入評価調査を継続的に実施する必要がある

## F. 発表論文等

### 1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性のHIV検査受検, 知識, HIV関連情報入手状況, HIV陽性者の身近さの実態 - 2009年調査と2012年調査の比較-. 日本エイズ学会誌. 19巻1号, 16-23, 2017.
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men)におけるHIV感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32(5): 1029-1038, 2016.

### 2. 学会発表 (国内)

- 1) 横幕能行, 金子典代, 石田敏彦. 名古屋市無料HIV検査会がHIV感染症対策に関し個別施策層へ及ぼした効果と今後の課題. 第

30 回日本エイズ学会総会、2016 年、鹿児島県、2016.

Noriyo Kaneko: Correlates of cervical cancer screening behavior among

unmarried sexually active Japanese women aged 20-29 years old: Results from an Internet-based survey, 19th IUSTI ASIA PACIFIC conference, Okayama, 2016.

表 1-1 2015 年 GCQ 年齢別の対象者の基礎属性、性行動（初回答者限定 N=869）

	25歳未満 (N=153)	25歳 - 35歳未満 (N= 378)	35歳以上 (N=338)	合計 (N=869)	$\chi^2$ 検定 有意差
<b>現在居住地 居住期間</b>					
産まれてからずっと	57 37.3%	119 31.5%	74 21.9%	250 28.8%	.000
1年未満	23 15.0%	46 12.2%	36 10.7%	105 12.1%	
1-5年未満	49 32.0%	90 23.8%	56 16.6%	195 22.4%	
5-10年未満	7 4.6%	43 11.4%	47 13.9%	97 11.2%	
10-20年未満	10 6.5%	26 6.9%	51 15.1%	87 10.0%	
20年以上	7 4.6%	54 14.3%	74 21.9%	135 15.5%	
<b>セクシュアリティ</b>					
ゲイ	108 70.6%	316 83.6%	286 84.6%	710 81.7%	.001
バイセクシュアル	39 25.5%	47 12.4%	35 10.4%	121 13.9%	
ヘテロセクシュアル	1 0.7%	1 0.3%	2 0.6%	4 0.5%	
分からない	4 2.6%	6 1.6%	12 3.6%	22 2.5%	
決めたくない	1 0.7%	7 1.9%	1 0.3%	9 1.0%	
その他	0 0.0%	1 0.3%	2 0.6%	3 0.3%	
<b>過去6カ月間の商業施設利用</b>					
ゲイバー	100 65.4%	282 74.6%	243 71.9%	625 71.9%	0.165
ゲイナイト	43 28.1%	198 52.4%	143 42.3%	384 44.2%	0.000
ゲイショップ	35 22.9%	92 24.3%	97 28.7%	224 25.8%	0.196
PC出会い系サイト	23 15.0%	65 17.2%	66 19.5%	154 17.7%	0.271
携帯出会い系サイト	38 24.8%	127 33.6%	113 33.4%	278 32.0%	0.072
mixiなどSNS	24 15.7%	86 22.8%	95 28.1%	205 23.6%	0.291
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	7 4.6%	31 8.2%	33 9.8%	71 8.2%	0.580
スマートフォンゲイ向けアプリ (Grindr等)	87 56.9%	249 65.9%	193 57.1%	529 60.9%	0.553
ゲイ向けサークル	12 7.8%	41 10.8%	37 10.9%	90 10.4%	0.987
ゲイ向け合コン	3 2.0%	22 5.8%	11 3.3%	36 4.1%	0.042
ゲイの乱バ	2 1.3%	20 5.3%	17 5.0%	39 4.5%	0.140
有料のハッテン場	51 33.3%	136 36.0%	111 32.8%	298 34.3%	0.381
野外のハッテン場	6 3.9%	30 7.9%	35 10.4%	71 8.2%	0.426
ハッテン場で有名な銭湯・プールなど	21 13.7%	68 18.0%	77 22.8%	166 19.1%	0.694
いずれもない	17 11.1%	17 4.5%	8 2.4%	42 4.8%	0.007
<b>過去6カ月恋人・彼氏、友達とHIVエイズ対話</b>					
ある	89 58.2%	215 56.9%	188 55.6%	492 56.6%	0.862
ない	64 41.8%	163 43.1%	150 44.4%	377 43.4%	
<b>生涯 男性とセックス(キスやフェラチオ含)経験</b>					
ある	140 91.5%	366 96.8%	329 97.3%	835 96.1%	.005
ない	13 8.5%	12 3.2%	9 2.7%	34 3.9%	
<b>生涯の男性とアナルセックス経験</b>					
ある	122 79.7%	353 93.4%	312 92.3%	787 90.6%	.000
ない	31 20.3%	25 6.6%	26 7.7%	82 9.4%	
<b>一番最近にアナルセックス時期</b>					
現在から過去 6 か月の間	89 73.0%	256 72.5%	187 59.9%	532 67.6%	.000
過去 6 か月から過去 1 年の間	8 6.6%	42 11.9%	33 10.6%	83 10.5%	
一年以上前	20 16.4%	44 12.5%	86 27.6%	150 19.1%	
覚えていない	5 4.1%	11 3.1%	6 1.9%	22 2.8%	
<b>一番最近にアナルセックスした相手</b>					
彼氏や恋人	47 38.5%	106 30.0%	92 29.5%	245 31.1%	.077
友達やセクフレ	44 36.1%	133 37.7%	95 30.4%	272 34.6%	
その場限りの相手	29 23.8%	107 30.3%	117 37.5%	253 32.1%	
その他	2 1.6%	7 2.0%	8 2.6%	17 2.2%	
<b>一番最近アナルセックスした時コンドーム使用</b>					
使った	81 66.4%	248 70.3%	230 73.7%	559 71.0%	.054
使わなかった	40 32.8%	89 25.2%	76 24.4%	205 26.0%	
覚えていない	1 0.8%	16 4.5%	6 1.9%	23 2.9%	
<b>過去6カ月間男性とアナルセックスをしましたか</b>					
はい	96 78.7%	278 78.8%	207 66.3%	581 73.8%	.001
いいえ	26 21.3%	75 21.2%	105 33.7%	206 26.2%	
<b>過去6カ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？</b>					
1人	37 38.5%	91 32.7%	76 36.7%	204 35.1%	.359
2人	19 19.8%	51 18.3%	33 15.9%	103 17.7%	
3人	19 19.8%	40 14.4%	25 12.1%	84 14.5%	
4人	3 3.1%	14 5.0%	15 7.2%	32 5.5%	
5人	3 3.1%	14 5.0%	6 2.9%	23 4.0%	
6人以上	15 15.6%	68 24.5%	52 25.1%	135 23.2%	
<b>過去6カ月間のアナルセックスで、コンドームをどのくらい使いましたか？</b>					
必ず使った	38 39.6%	123 44.2%	103 49.8%	264 45.4%	.215
使うことが多かった	29 30.2%	67 24.1%	47 22.7%	143 24.6%	
五分五分	10 10.4%	39 14.0%	14 6.8%	63 10.8%	
使わないほうが多かった	7 7.3%	25 9.0%	20 9.7%	52 9.0%	
全く使わなかった	12 12.5%	24 8.6%	23 11.1%	59 10.2%	

表 1-2 2015 年 GQC 年齢別の性行動、受検行動、性感染症既往 (初回答者限定 N=869)

	25歳未満 (N=153)	25歳-35歳未満 (N= 378)	35歳以上 (N=338)	合計 (N=869)	$\chi^2$ 検定 有意差
<b>過去6カ月間に、外国の方とアナルセックスをした経験</b>					
ある	18 18.8%	57 20.5%	33 15.9%	108 18.6%	.442
ない	78 81.3%	221 79.5%	174 84.1%	473 81.4%	
<b>外国籍MSMとセックスをした場所 (経験者のみ)</b>					
日本国内	15 83.3%	44 77.2%	24 72.7%	83 76.9%	.689
海外	3 16.7%	13 22.8%	9 27.3%	25 23.1%	
<b>過去6カ月間併用品</b>					
ローション	116 75.8%	324 85.7%	259 76.6%	699 80.4%	0.010
ぼっき薬(バイアグラなど)	3 2.0%	25 6.6%	42 12.4%	70 8.1%	0.000
ラッシュ	0 0.0%	18 4.8%	22 6.5%	40 4.6%	0.094
SMEO_DIPT(ゴメオ、フォクシー)	1 0.7%	1 0.3%	0 0.0%	2 0.2%	0.369
いずれもなし	35 22.9%	49 13.0%	76 22.5%	160 18.4%	0.003
<b>生涯でのHIV抗体検査 (エイズ検査) 受検経験</b>					
ある	76 49.7%	278 73.5%	247 73.1%	601 69.2%	.000
ない	77 50.3%	100 26.5%	91 26.9%	268 30.8%	
<b>一番最近にHIV検査 (エイズ検査) を受検した</b>					
過去6か月の間	50 65.8%	114 41.0%	84 34.0%	248 41.3%	.000
過去6か月から1年の間	14 18.4%	52 18.7%	38 15.4%	104 17.3%	
過去1年から3年の間	10 13.2%	74 26.6%	54 21.9%	138 23.0%	
過去3年以上前	2 2.6%	38 13.7%	71 28.7%	111 18.5%	
<b>生涯STIでの罹患経験</b>					
梅毒	10 6.5%	31 8.2%	49 14.5%	90 10.4%	0.000
A型肝炎	2 1.3%	1 0.3%	6 1.8%	9 1.0%	0.725
B型肝炎	2 1.3%	21 5.6%	37 10.9%	60 6.9%	0.013
C型肝炎	1 0.7%	2 0.5%	3 0.9%	6 0.7%	0.710
クラミジア	2 1.3%	27 7.1%	27 8.0%	56 6.4%	0.003
尖圭コンジローマ	2 1.3%	27 7.1%	16 4.7%	45 5.2%	0.023
淋病	1 0.7%	11 2.9%	14 4.1%	26 3.0%	0.103
HIV感染症	2 1.3%	23 6.1%	26 7.7%	51 5.9%	0.005
赤痢アメーバ	0 0.0%	0 0.0%	10 3.0%	10 1.2%	0.004
毛じらみ	10 6.5%	90 23.8%	113 33.4%	213 24.5%	0.000
性器ヘルペス	1 0.7%	3 0.8%	9 2.7%	13 1.5%	0.002
その他	0 0.0%	3 0.8%	7 2.1%	10 1.2%	0.155
いずれもない	129 84.3%	235 62.2%	157 46.4%	521 60.0%	<0.001

表 1-3 2015 年 GCQ 年齢別の対象者の過去 6 か月の移動都市数と移動に伴う規範

(初回答者限定 N=869 )

	25歳未満 (N=153)		25歳-35歳未満 (N= 378)		35歳以上 (N=338)		合計 (N=869)		$\chi^2$ 検定 有意差
過去6か月居住地以外訪問地域数 (仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、岡山市、福岡市、沖縄県)									
いずれもなし	47	31%	99	26%	87	26%	233	27%	.259
1地域のみ	61	40%	149	39%	113	33%	323	37%	
2地域	30	20%	85	22%	87	26%	202	23%	
3地域以上	15	10%	45	12%	51	15%	111	13%	
規範1 旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人と出会いたい									
そう思う/ややそう思う	113	74%	294	78%	283	84%	690	79%	.025
あまりそう思わない/全くそう思わない	40	26%	84	22%	55	16%	179	21%	
規範2 旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人とセックスしたい									
そう思う/ややそう思う	80	52%	248	66%	229	68%	557	64%	.036
あまりそう思わない/全くそう思わない	73	48%	130	34%	109	32%	312	36%	
規範3 旅行するなら、セックスドラッグを持っていくと									
そう思う/ややそう思う	11	7%	30	8%	44	13%	85	10%	.003
あまりそう思わない/全くそう思わない	142	93%	348	92%	294	87%	784	90%	
規範4 旅行するなら、複数のゲイの人とセックスしたい									
そう思う/ややそう思う	31	20%	127	34%	119	35%	277	32%	.003
あまりそう思わない/全くそう思わない	122	80%	251	66%	219	65%	592	68%	
規範5 旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を入手しておきたい									
そう思う/ややそう思う	92	60%	254	67%	261	77%	607	70%	.000
あまりそう思わない/全くそう思わない	61	40%	124	33%	77	23%	262	30%	
規範6 旅行に行く前や道中で旅先居住のゲイの人と会えるように事前にアプリ掲示板を使って相手を探す									
そう思う/ややそう思う	72	47%	196	52%	181	54%	449	52%	.409
あまりそう思わない/全くそう思わない	81	53%	182	48%	157	46%	420	48%	
規範7 旅先では、ビジネスホテルや旅館より、有料のハッテン場に泊まりたいと思う									
そう思う/ややそう思う	21	14%	94	25%	44	13%	159	18%	.000
あまりそう思わない/全くそう思わない	132	86%	284	75%	294	87%	710	82%	
規範8 旅先では、地元でのセックスより刺激的なセックスができる									
そう思う/ややそう思う	76	50%	209	55%	178	53%	463	53%	.481
あまりそう思わない/全くそう思わない	77	50%	169	45%	160	47%	406	47%	
規範9 旅先では、地元でのセックスより開放的なセックスができる									
そう思う/ややそう思う	58	38%	181	48%	157	46%	396	46%	.103
あまりそう思わない/全くそう思わない	95	62%	197	52%	181	54%	473	54%	
規範10 旅先では、HIV抗体検査を利用しやすいと思う									
そう思う/ややそう思う	52	34%	115	30%	109	32%	276	32%	.705
あまりそう思わない/全くそう思わない	101	66%	263	70%	229	68%	593	68%	

表 2-1 2016 年 GCQ 年齢別の対象者の基礎属性、コミュニティセンターや啓発資材認知

(初回答者限定 N=1,111)

	初回答者限定 年齢 3 群								Pearson カイ 2 乗	
	25歳未満 (n=180)		25-35歳未満 (n=520)		35歳以上 (n=411)		合計 (n=1111)			
<b>地域ブロック</b>										
東北	8	4.4%	18	3.5%	15	3.6%	41	3.7%	<0.01	
関東	32	17.8%	115	22.1%	146	35.5%	293	26.4%		
東海	40	22.2%	107	20.6%	61	14.8%	208	18.7%		
関西	6	3.3%	23	4.4%	24	5.8%	53	4.8%		
中四国	36	20.0%	98	18.8%	72	17.5%	206	18.5%		
九州	37	20.6%	95	18.3%	49	11.9%	181	16.3%		
沖縄	21	11.7%	64	12.3%	44	10.7%	129	11.6%		
<b>現在お住まいの地域にどれくらいの期間住んでいますか？</b>										
産まれてからずっと	88	48.9%	165	31.7%	103	25.1%	356	32.0%	<0.01	
1年未満	20	11.1%	70	13.5%	44	10.7%	134	12.1%		
1-5年未満	40	22.2%	108	20.8%	62	15.1%	210	18.9%		
5-10年未満	10	5.6%	67	12.9%	44	10.7%	121	10.9%		
10-20年未満	13	7.2%	53	10.2%	85	20.7%	151	13.6%		
20年以上	9	5.0%	57	11.0%	73	17.8%	139	12.5%		
<b>セクシュアリティ</b>										
ゲイ	143	79.4%	437	84.0%	334	81.3%	914	82.3%	.265	
バイセクシュアル	25	13.9%	68	13.1%	52	12.7%	145	13.1%		
ヘテロセクシュアル	2	1.1%	1	.2%	5	1.2%	8	.7%		
分からない	6	3.3%	8	1.5%	7	1.7%	21	1.9%		
決めたくない	2	1.1%	5	1.0%	8	1.9%	15	1.4%		
その他	2	1.1%	1	.2%	5	1.2%	8	.7%		
<b>過去6か月間に、以下の施設やサービスを利用しましたか（複数回答）</b>										
ゲイバー	134	74.4%	408	78.5%	290	70.6%	832	74.9%	.022	
ゲイナイト	69	38.3%	207	39.8%	143	34.8%	419	37.7%		
ゲイショップ	37	20.6%	99	19.0%	97	23.6%	233	21.0%		
PC出会い系サイト	18	10.0%	71	13.7%	60	14.6%	149	13.4%		
携帯出会い系サイト	43	23.9%	132	25.4%	127	30.9%	302	27.2%		
mixiなどSNS	33	18.3%	96	18.5%	96	23.4%	225	20.3%		
工口系SNS	6	3.3%	28	5.4%	35	8.5%	69	6.2%		
スマホゲイ向けアプリ	101	56.1%	314	60.4%	237	57.7%	652	58.7%		
ゲイ向けサークル	25	13.9%	45	8.7%	42	10.2%	112	10.1%		
ゲイ向け合コン	6	3.3%	22	4.2%	7	1.7%	35	3.2%		
ゲイの乱バ	4	2.2%	13	2.5%	16	3.9%	33	3.0%		
有料のハッテン場	50	27.8%	160	30.8%	138	33.6%	348	31.3%		
野外のハッテン場	10	5.6%	37	7.1%	41	10.0%	88	7.9%		
ハッテン場で有名な銭湯・プール	17	9.4%	89	17.1%	95	23.1%	201	18.1%		
いずれもない	10	5.6%	17	3.3%	21	5.1%	48	4.3%		
<b>過去6か月間恋人・彼氏、友達とHIVやエイズ対話経験</b>										
ある	113	62.8%	270	51.9%	220	53.5%	603	54.3%		.039
ない	67	37.2%	250	48.1%	191	46.5%	508	45.7%		
<b>過去6か月間に、コンドームをすくに使えよういつも身近に持っていましたか？</b>										
いつも持っていた	64	35.6%	194	37.3%	160	38.9%	418	37.6%		.468
時々持っていた	43	23.9%	150	28.8%	112	27.3%	305	27.5%		
持っていなかった	73	40.6%	176	33.8%	139	33.8%	388	34.9%		
<b>コミュニティセンターの認知（複数回答）</b>										
ZEL(宮城県仙台市)	10	5.6%	31	6.0%	33	8.0%	74	6.7%	.368	
akta(東京都新宿区)	21	11.7%	122	23.5%	169	41.1%	312	28.1%		
rise(愛知県名古屋)	20	11.1%	60	11.5%	63	15.3%	143	12.9%		
dista(大阪府大阪市)	12	6.7%	58	11.2%	76	18.5%	146	13.1%		
haco(福岡県福岡市)	21	11.7%	95	18.3%	71	17.3%	187	16.8%		
mabui(沖縄県那覇市)	21	11.7%	73	14.0%	66	16.1%	160	14.4%		
いずれも知らない	99	55.0%	217	41.7%	128	31.1%	444	40.0%		
<b>コミュニティペーパーの認知（複数回答）</b>										
コミュニティペーパー-ZEL	12	6.7%	31	6.0%	28	6.8%	71	6.4%	.858	
フリーペーパー-akta monthly paper	8	4.4%	76	14.6%	103	25.1%	187	16.8%		
コミュニティペーパー-h.a.n.a.	4	2.2%	24	4.6%	26	6.3%	54	4.9%		
南界堂通信	2	1.1%	8	1.5%	14	3.4%	24	2.2%		
ゲイコミュニティペーパー-Fight!!	5	2.8%	28	5.4%	26	6.3%	59	5.3%		
コミュニティペーパー-season	3	1.7%	30	5.8%	36	8.8%	69	6.2%		
コミュニティペーパー-nankr	14	7.8%	39	7.5%	47	11.4%	100	9.0%		
さくら通信	4	2.2%	10	1.9%	11	2.7%	25	2.3%		
いずれも知らない	142	78.9%	337	64.8%	226	55.0%	705	63.5%		
<b>akta セーフアークスキャンを見ることがありますか？</b>										
ある	37	20.6%	127	24.4%	122	29.7%	286	25.7%		.042
ない	143	79.4%	393	75.6%	289	70.3%	825	74.3%		
<b>aktaが配布している、HIV検査キット、HIVチェックを知っていますか？</b>										
利用した	10	5.6%	40	7.7%	17	4.1%	67	6.0%	.225	
認知のみ、利用したことはない	68	37.8%	189	36.3%	164	39.9%	421	37.9%		
知らない	102	56.7%	291	56.0%	230	56.0%	623	56.1%		
<b>やるプロキャンペーン画像を見たことがありますか？</b>										
ある	109	60.6%	286	55.0%	178	43.3%	573	51.6%	<0.01	
ない	71	39.4%	234	45.0%	233	56.7%	538	48.4%		
<b>これまでに「やる！プロジェクト」で配布されている資材をもらったことがありますか？</b>										
過去6か月以内にもらった	31	28.4%	100	35.0%	52	29.2%	183	31.9%	.024	
過去6か月以前にもらった	4	3.7%	28	9.8%	25	14.0%	57	9.9%		
もらったことはない	74	67.9%	158	55.2%	101	56.7%	333	58.1%		



表 2-2 2016 年 GCQ 年齢別の性行動、予防行動、受検行動、性感染症既往

(初回答者限定 N=1,111)

	25歳未満 (n=180)		25-35歳未満 (n=520)		35歳以上 (n=411)		合計 (n=1111)		Pearson カイ二乗
<b>男性とセックス(キスやフェラチオ、アナルセックス等)をしたことがありますか？</b>									
ある	168	93.3%	504	96.9%	394	95.9%	1066	95.9%	.108
ない	12	6.7%	16	3.1%	17	4.1%	45	4.1%	
<b>男性とアナルセックスをしたことがありますか？</b>									
ある	159	88.3%	474	91.2%	371	90.3%	1004	90.4%	.541
ない	21	11.7%	46	8.8%	40	9.7%	107	9.6%	
<b>一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？</b>									
現在から過去6か月の間	127	79.9%	338	71.3%	242	65.2%	707	70.4%	<0.01
過去6か月から過去1年の間	11	6.9%	47	9.9%	26	7.0%	84	8.4%	
一年以上前	17	10.7%	69	14.6%	93	25.1%	179	17.8%	
覚えていない	4	2.5%	20	4.2%	10	2.7%	34	3.4%	
<b>一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？</b>									
彼氏や恋人	54	34.0%	171	36.1%	102	27.5%	327	32.6%	.066
友達やセフレ	63	39.6%	161	34.0%	132	35.6%	356	35.5%	
その場限りの相手	40	25.2%	134	28.3%	126	34.0%	300	29.9%	
その他	2	1.3%	8	1.7%	11	3.0%	21	2.1%	
<b>一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使いましたか？</b>									
使った	110	69.2%	308	65.0%	234	63.1%	652	64.9%	.536
使わなかった	45	28.3%	148	31.2%	118	31.8%	311	31.0%	
覚えていない	4	2.5%	18	3.8%	19	5.1%	41	4.1%	
<b>過去6か月に、男性とアナルセックスをしましたか？</b>									
はい	138	86.8%	366	77.2%	254	68.5%	758	75.5%	<0.01
いいえ	21	13.2%	108	22.8%	117	31.5%	246	24.5%	
<b>過去6か月にアナルセックスをした相手(複数回答)</b>									
彼氏恋人	49	27.2%	150	28.8%	71	17.3%	270	24.3%	<0.01
友達セフレ	66	36.7%	151	29.0%	121	29.4%	338	30.4%	.137
その場限りの相手	40	22.2%	112	21.5%	104	25.3%	256	23.0%	.383
その他	2	1.1%	7	1.3%	6	1.5%	15	1.4%	.944
<b>過去6か月に全部で何人とアナルセックスをしましたか？</b>									
1人	47	34.1%	139	38.0%	74	29.1%	260	34.3%	.238
2人	24	17.4%	67	18.3%	48	18.9%	139	18.3%	
3人	24	17.4%	49	13.4%	30	11.8%	103	13.6%	
4人	8	5.8%	27	7.4%	17	6.7%	52	6.9%	
5人	6	4.3%	13	3.6%	11	4.3%	30	4.0%	
6人以上	29	21.0%	71	19.4%	74	29.1%	174	23.0%	
<b>過去6か月のアナルセックスで、コンドームをどのくらい使いましたか？</b>									
必ず使った	61	44.2%	157	42.9%	111	43.7%	329	43.4%	.188
使うことが多かった	41	29.7%	94	25.7%	57	22.4%	192	25.3%	
五分五分	10	7.2%	52	14.2%	46	18.1%	108	14.2%	
使わないほうが多かった	14	10.1%	27	7.4%	21	8.3%	62	8.2%	
全く使わなかった	12	8.7%	36	9.8%	19	7.5%	67	8.8%	
<b>過去6か月に、外国の方とアナルセックスをしたことがありますか？</b>									
ある	25	18.1%	79	21.6%	55	21.7%	159	21.0%	.659
ない	113	81.9%	287	78.4%	199	78.3%	599	79.0%	
<b>外国の方とセックスをした場所は国内、海外のどちらですか？</b>									
日本国内	18	72.0%	63	79.7%	37	67.3%	118	74.2%	.258
海外	7	28.0%	16	20.3%	18	32.7%	41	25.8%	
<b>過去6か月間併用品(複数回答)</b>									
ローション	141	78.3%	416	80.0%	308	74.9%	865	77.9%	.179
ハンドクリーム	3	1.7%	6	1.2%	3	.7%	12	1.1%	.583
ぼっき薬(バイアグラなど)	4	2.2%	29	5.6%	58	14.1%	91	8.2%	<0.01
ラッシュ	1	.6%	15	2.9%	9	2.2%	25	2.3%	.191
5MEO_DIPT(ゴメオ、フォクシー)	0	.0%	0	.0%	2	.5%	2	.2%	.182
スピード・エクスタシー(MDMAなど)	0	.0%	2	.4%	2	.5%	4	.4%	.656
その他セックスドラッグ(合ドラや威哥王)	0	.0%	5	1.0%	9	2.2%	14	1.3%	.063
脱法ハーブ	0	.0%	1	.2%	2	.5%	3	.3%	.517
静脈注射のドラッグ	0	.0%	1	.2%	1	.2%	2	.2%	.810
違法ドラッグ(マリファナ・コカイン等)	0	.0%	1	.2%	1	.2%	2	.2%	.810
いずれも使用していない	37	20.6%	100	19.2%	96	23.4%	233	21.0%	.304
<b>これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？</b>									
ある	93	51.7%	346	66.5%	305	74.2%	744	67.0%	<0.01
ない	87	48.3%	174	33.5%	106	25.8%	367	33.0%	
<b>一番最近にHIV検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか？</b>									
過去6か月の間	47	50.5%	140	40.5%	85	27.9%	272	36.6%	<0.01
過去6か月から1年の間	18	19.4%	52	15.0%	50	16.4%	120	16.1%	
過去1年から3年の間	25	26.9%	86	24.9%	84	27.5%	195	26.2%	
過去3年以上前	3	3.2%	68	19.7%	86	28.2%	157	21.1%	
<b>生涯STI罹患(複数回答)</b>									
梅毒	3	1.7%	39	7.5%	65	15.8%	107	9.6%	<0.01
A型肝炎	3	1.7%	1	.2%	10	2.4%	14	1.3%	.008
B型肝炎	5	2.8%	31	6.0%	49	11.9%	85	7.7%	<0.01
C型肝炎	0	.0%	3	.6%	7	1.7%	10	.9%	.074
クラミジア	6	3.3%	28	5.4%	39	9.5%	73	6.6%	.007
尖圭コンジローマ	1	.6%	19	3.7%	28	6.8%	48	4.3%	.002
淋病	4	2.2%	19	3.7%	27	6.6%	50	4.5%	.028
HIV感染症	4	2.2%	17	3.3%	24	5.8%	45	4.1%	.056
赤痢アメーバ	0	.0%	3	.6%	6	1.5%	9	.8%	.137
毛じらみ	18	10.0%	120	23.1%	145	35.3%	283	25.5%	<0.01
性器ヘルペス	1	.6%	6	1.2%	15	3.6%	22	2.0%	.008
その他	1	.6%	8	1.5%	7	1.7%	16	1.4%	.541
いずれもなし	147	81.7%	323	62.1%	171	41.6%	641	57.7%	<0.01

表 2-3 2016 年 GCQ 年齢別の移動先での規範、過去 6 か月間の国内移動

(初回答者限定 N=1,111)

	25歳未満 (n=180)		25-35歳未満 (n=520)		35歳以上 (n=411)		合計 (n=1111)		Pearson カイ二乗
<b>旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人と出会いたい</b>									
そう思わない	42	23.3%	112	21.5%	80	19.5%	234	21.1%	.533
そう思う	138	76.7%	408	78.5%	331	80.5%	877	78.9%	
<b>旅行するなら、旅先に住んでいるゲイの人とセックスしたい</b>									
そう思わない	67	37.2%	181	34.8%	137	33.3%	385	34.7%	.655
そう思う	113	62.8%	339	65.2%	274	66.7%	726	65.3%	
<b>旅行するなら、セックスドラッグを持っていくと思う</b>									
そう思わない	156	86.7%	455	87.5%	374	91.0%	985	88.7%	.162
そう思う	24	13.3%	65	12.5%	37	9.0%	126	11.3%	
<b>旅行するなら、複数のゲイの人とセックスしたい</b>									
そう思わない	122	67.8%	344	66.2%	259	63.0%	725	65.3%	.450
そう思う	58	32.2%	176	33.8%	152	37.0%	386	34.7%	
<b>旅行に行く前や道中では、旅先にあるゲイ向け商業施設の情報を入手しておきたい</b>									
そう思わない	87	48.3%	181	34.8%	115	28.0%	383	34.5%	<0.01
そう思う	93	51.7%	339	65.2%	296	72.0%	728	65.5%	
<b>旅行に行く前や道中では、旅先に住んでいるゲイの人と会えるように事前にアプリ掲示板を使って相手を探す</b>									
そう思わない	82	45.6%	240	46.2%	186	45.3%	508	45.7%	.962
そう思う	98	54.4%	280	53.8%	225	54.7%	603	54.3%	
<b>旅先では、ビジネスホテルや旅館より、有料のハッテン場に泊まりたいと思う</b>									
そう思わない	136	75.6%	384	73.8%	344	83.7%	864	77.8%	.001
そう思う	44	24.4%	136	26.2%	67	16.3%	247	22.2%	
<b>旅先では、地元でのセックスより刺激的なセックスができる</b>									
そう思わない	100	55.6%	259	49.8%	218	53.0%	577	51.9%	.352
そう思う	80	44.4%	261	50.2%	193	47.0%	534	48.1%	
<b>旅先では、地元でのセックスより開放的なセックスができる</b>									
そう思わない	87	48.3%	231	44.4%	208	50.6%	526	47.3%	.165
そう思う	93	51.7%	289	55.6%	203	49.4%	585	52.7%	
<b>居住地以外の場所の方が、HIV抗体検査を利用しやすい</b>									
そう思わない	105	58.3%	297	57.1%	225	54.7%	627	56.4%	.657
そう思う	75	41.7%	223	42.9%	186	45.3%	484	43.6%	
<b>過去6か月間に出張、旅行、イベント参加、冠婚葬祭イベントで以下の都市を訪れたことがありますか？ (複数回答)</b>									
仙台市	13	7.2%	30	5.8%	27	6.6%	70	6.3%	.757
東京都	64	35.6%	190	36.5%	182	44.3%	436	39.2%	.030
名古屋市	34	18.9%	117	22.5%	94	22.9%	245	22.1%	.530
大阪市	41	22.8%	160	30.8%	148	36.0%	349	31.4%	.006
岡山市	16	8.9%	46	8.8%	32	7.8%	94	8.5%	.825
福岡市	38	21.1%	119	22.9%	80	19.5%	237	21.3%	.448
沖縄県	14	7.8%	60	11.5%	79	19.2%	153	13.8%	<0.01
いずれも訪れていない	63	35.0%	140	26.9%	102	24.8%	305	27.5%	.036
<b>過去6か月間に最後に訪れた場所で、以下の施設やサービスを利用しましたか？ (複数回答)</b>									
ゲイバー	109	60.6%	353	67.9%	242	58.9%	704	63.4%	.013
ゲイナイト	42	23.3%	138	26.5%	84	20.4%	264	23.8%	.094
ゲイショップ	15	8.3%	63	12.1%	51	12.4%	129	11.6%	.322
PC出会い系サイト	10	5.6%	37	7.1%	32	7.8%	79	7.1%	.624
携帯出会い系サイト	17	9.4%	64	12.3%	68	16.5%	149	13.4%	.040
mixiなどSNS	13	7.2%	52	10.0%	46	11.2%	111	10.0%	.334
エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	6	3.3%	14	2.7%	11	2.7%	31	2.8%	.890
スマートフォンのゲイ向けアプリ	58	32.2%	199	38.3%	167	40.6%	424	38.2%	.153
ゲイ向けサークル	11	6.1%	14	2.7%	21	5.1%	46	4.1%	.065
ゲイ向け合コン	0	.0%	9	1.7%	5	1.2%	14	1.3%	.199
ゲイの乱パ	2	1.1%	10	1.9%	6	1.5%	18	1.6%	.720
有料のハッテン場	33	18.3%	108	20.8%	100	24.3%	241	21.7%	.208
野外のハッテン場	3	1.7%	16	3.1%	19	4.6%	38	3.4%	.160
ハッテン場で有名な銭湯・プールなどの施設	6	3.3%	33	6.3%	48	11.7%	87	7.8%	.001
いずれもない	36	20.0%	67	12.9%	75	18.2%	178	16.0%	.024
<b>過去6か月に最後に訪れた場所であナルセックスをしましたか？</b>									
はい	63	35.0%	180	34.6%	138	33.6%	381	34.3%	.924
いいえ	117	65.0%	340	65.4%	273	66.4%	730	65.7%	
<b>過去6か月に最後に訪れた場所であナルセックスをした相手 (複数回答)</b>									
彼氏恋人	18	10.0%	62	11.9%	21	5.1%	101	9.1%	.001
友達セフレ	28	15.6%	76	14.6%	55	13.4%	159	14.3%	.757
ネットで面識あり実際会うのは初めて	10	5.6%	27	5.2%	18	4.4%	55	5.0%	.783
その場限り	21	11.7%	55	10.6%	70	17.0%	146	13.1%	.012
その他	1	.6%	3	.6%	3	.7%	7	.6%	.949
<b>そのときのあナルセックスでコンドームを使用しましたか？</b>									
使った	46	73.0%	123	68.3%	91	65.9%	260	68.2%	.305
使わなかった	10	15.9%	45	25.0%	39	28.3%	94	24.7%	
覚えていない	7	11.1%	12	6.7%	8	5.8%	27	7.1%	

**MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較 (2)**  
**-Community-Based Organization による HIV 予防啓発活動のプログラム評価-**

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部 講師）

金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究協力者：岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta）、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta）、柴田恵、阿部甚兵、大島岳（特定非営利活動法人 akta）、市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

**研究要旨**

研究 1 では、当該 CBO が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することにより適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することで、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的としている。東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。有効回答は 190 件。コミュニティ活動への共感に関する 5 項目は「雰囲気は溶け込んだ活動をしている」を除き、有意に生涯の HIV 検査受検経験があることと関連しており、検査受検群では CBO による予防啓発活動親和性の高い人の割合が高かった。akta の活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿二丁目に溶け込んだ活動をしているとの項目で 3 年以内の HIV 検査受検と関連していた。一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の 60.5% であり、HIV や性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちに共感される HIV/AIDS 予防啓発活動を行うことによって、検査受検行動及びコンドーム使用といった HIV/AIDS 予防行動を促進していく必要がある。

研究 2 では、若年層の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象を調査し、今後の予防介入方法の検討に資する基礎データを得ることを目的としてインタビュー調査を行い、語りについてまとめた。知識の不足による経済負担への懸念、HIV 感染を具体的にイメージできないことによる検査動機の喪失、検査の障壁としてのカミングアウト、メディア表現を妄信していることなどの様子を伺うことができた。

**A. 研究目的**

**《研究 1》**

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV/AIDS の予防啓発を担う Community-Based Organization (CBO) は、啓発活動を行うにあたり、おおまかに 2 つのプロセスを重視して

活動していることが、これまでに本研究班で実施したプログラム評価研究によって明らかになっている。

一つ目のプロセスは、新宿二丁目の文化や価値観、文脈を尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員(仲間)

としての存在感を示し、コミュニティからの信頼と共感を得るプロセスである。もう一つのプロセスは、信頼のおける身近な仲間が、自分たちの街を盛り上げながら行っている HIV 予防啓発活動として受け入れてもらうことによって、CBO が出すメッセージは自分たちに対するメッセージだと感じてもらうことである。これらが達成されることによって、対象者に対して高い訴求力を持つメッセージとして伝えることが可能になる。

本研究は、当該 CBO が実施している HIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによって、適切なプログラム評価指標を策定する。さらにそれらの指標を測定することによって、コミュニティへの HIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的とする。

昨年度に引き続き CBO が想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重とコミュニティメンバーとしての受け入れと共感」及び「コミュニティ感覚」というコンセプトと予防行動との関連性を検討した。

## 《研究 2》

若年層の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象をインタビューによる語りによって質的に調査し、今後の予防介入方法の検討に資する基礎データを得る。

## B. 研究方法

### 《研究 1》

【調査の実施】東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設等を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査実施を告知するポスターの掲示とともに、調査サイトへのリンク (QR コード) を記したカードを「東京レインボー祭り」会場にて配布した。参加

者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、調査に参加した。質問票サイトのトップページにおいて、質問への回答をもって調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を記した。謝礼はコミュニティセンターakta にて回答終了画面を確認の上、「東京レインボー祭り」開催期間中の 15 時から 18 時の間に 1,000 円分の QUO カードを謝礼として手渡した。

【調査期間】平成 28 年 8 月 14 日 (日) に開催された「東京レインボー祭り」のおおよそ 3 日前からポスター等を配布しイベント終了時刻の 18 時までの謝礼引き渡しとした。

【質問項目】年齢、居住地、利用施設、コミュニティセンターの認知、コミュニティペーパー等の認知、キャンペーンの認知、HIV 感染予防行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感 (5 項目)、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚 (4 項目) それぞれについて選択形式で尋ねた。コミュニティ感覚は Sense of Community index (McMillan & Chavis, 1986) の日本語版 (笹尾ら, 2003) の構成概念を参考に作成した。新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる (メンバーシップ)、新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる (メンバーシップ)、新宿二丁目ではか得られないものがある (統合とニーズの充足)、新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたい (情緒的結合の共有) の 4 項目について、そう思うからそう思わないまでの 5 件法でたずねた。

【分析方法】質問項目ごとに記述集計を行った。年齢階級、生涯の HIV 検査受検経験、過去 1 年以内の HIV 検査受検経験、性感染症の罹患経験、一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用行動とのクロス集計を行って、関連を検討した。

【倫理面への配慮】本研究は侵襲を伴わない連結不可能匿名化のデータを収集する疫学調

査である。本研究の研究計画については名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した(承認番号 14025-3)。

### 《研究2》

【調査の実施】研究参加者の取り込み基準は、概ね30歳未満のゲイ・バイセクシュアル男性とした。参加者のリクルートはNPO法人aktaが運営するコミュニティセンターに依頼して、ボランティアスタッフやその知人等に呼びかけてもらい、参加者を集めた。

実施日及び場所は参加者の都合を優先して設定し行った。調査方法は、半構造的グループインタビューとし、インタビュアーは研究者が行った。グループは5名以内として対象者の話しやすさとプライバシーの確保に配慮を行った。調査実施は、平成28年12月。

【質問項目】自身あるいは知人がHIV検査に対してどのようなエピソードや印象を持っているか。最近の若い人がHIVやAIDSの予防についてどのように感じていると思うか。検査を受けることについてどう感じているか。セクシュアルヘルスに関する情報源について、一問一答ではない雑談形式で話を進めた。

【分析方法】ICレコーダによる録音データをテキスト起こし、検査、予防、セクシュアルヘルスと言ったキーワードを基にテキストマイニングを行った。テキストマイニングは、分析対象とする単語から距離をスコア化し、関連する語を抽出する方法で行った。テキストマイニングには「KH Coder」を用いて行った(<http://khc.sourceforge.net/>)。

【倫理面への配慮】研究の参加または不参加に伴い、一切の不利益を伴わないことをリクルート時に説明した。また、リクルートをするものは仲介を行うものであり、確保人数の多少に関して、利益あるいは不利益を伴わないことを確認した。本研究の研究計画については山梨県立大学看護学部研究倫理審査委員会より承認を得て実施した(承認番号1629)。

## C. 研究結果

### 《研究1》

【調査参加者の属性】調査サイトへのアクセス数は248であったが有効回答データ190件を分析対象とした。

東京および近県の居住者が92.1%と多数を占めていた。年齢は24歳以下16.3%、25-29歳25.3%、30-39歳30.0%、40歳以上28.4%であった(表1)。

【過去6ヵ月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況】コミュニティの街頭イベントでリクルートを行ったこともあり、バーの利用者が81.6%と最多であった。近年調査や啓発等で活用されることの多いスマートフォンのゲイ向けアプリは61.1%の人が使用しており、年齢階級による利用状況の傾向はみられなかった。有料のハッテン場の利用は40.5%であり、年齢との関係は見られなかった(表1)。

【CBOによる予防活動の認知】コミュニティセンターの認知は、コミュニティセンターを知っていて行ったことがある54.7%、知っているがまだ行ったことはなく行ってみたいと思っている14.7%であった。資料の認知割合はヤローページ49.5%、akta monthly paperが55.3%と約半数の人が今後も見かけたら読むとの好意的な認知をしている。(表2)

【CBOによる予防啓発活動に対する共感、年齢階級別】特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる、自分へのメッセージだと感じる、活動に共感する、の3項目は年齢が高くなるほどそう思う/まあそう思うと回答した人の割合が高くなっている(表3)。

【コミュニティ感覚、年齢階級別】「二丁目ではしか得られないものがあると思う」は24歳以下の層で比較的高く、年齢が上がると低下している。HIVについて話すことにタブー感(ためらい)を感じるは24歳以下で48.4%と高く、その他の世代では約3割ほどであった。(表4)

【HIV検査の受検経験、年齢階級別】HIV検査



の生涯受検割合は若年層で低い傾向にある。若年層では一番最近に検査を受けた時期が1年以内である人が6割であるのに対して、年齢が高くなるにつれ、その割合が下がってくる。

【性感染症の既往】性感染症では毛じらみが25.8%と最も多いが、梅毒12.6%、B型肝炎11.6%といった感染症の罹患者も多い(表5)。

【検査受検とコミュニティ活動の指標】コミュニティ活動への共感に関する5項目は「雰囲気に溶け込んだ活動をしている」を除き、有意に生涯のHIV検査受検経験があることと関連しており、検査受検群ではCBOによる予防啓発活動親和性の高い人の割合が高かった。コミュニティ感覚の項目と生涯の検査受検には関連が見られなかった。aktaの活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿二丁目に溶け込んだ活動をしているとの項目で3年以内のHIV検査受検と関連していた。(表6)

【コンドーム使用行動とコミュニティ活動の指標】一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の60.5%でありCBO活動への共感とは有意な関連が見られなかったが、HIVや性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。(表7)

## 《研究2》

5名に対して1回のグループインタビューを行った。会話時間は60分。

検査について、予防とセクシュアルヘルスに関するかたりをまとめた。(別表)

【検査について】検査を受けることによって、ゲイであることを近親者にカミングアウトしなければならないと考えており、検査に行くと感染がわかることよりも、ゲイであることをカミングアウトすることの障壁を高く感じていた。「まだ未成年だから、親のこととか考えると、自分がただでさえ世間の風当たりが激しいじゃないですか、ゲイだということ。なのに、HIVとかというふうに言われたとし

たら、もし、言われたとしたら、本当に、さっき言ったような最悪の形で親に言わないといけないし、そのHIVについても、親とかは、あんまり知識がないわけだから、そこで、また親から差別される」

一方、ゲイであることのカミングアウトに関して親に理解があれば検査に支障を感じないという語りもあった。「カミングアウトして、親があっけらかんとすれば、多分受けに行きなよぐらいは言ってくれると思う。」

感染した後の生活についての具体的イメージの欠如によって、その入り口である検査ということの意義を見出すことができていない。「その後の生活が、まずビジョンが見えてこない、まず。感染したら、まず何をするのか。何をどうして、どう生活をしていったらいいんだろうというのが全く見えないから、感染したらね、何、どうすればみたい。してないといいんだけど、とりあえず検査受ければわかるからという感じではある」

【予防と受検】メディアの影響を示唆する語りが複数見られた。「AVで、こう、アナルセックスは気持ちいいもんだみたいなイメージがつけ加えられてて、生でやる映像も確かある」、「漫画とかも、結構生でやってる」、「漫画に書いてあることは正しいってやっちゃう」

知識が不足していること、経済的に自立していないため検査受検や保険、医療費負担について負担を懸念していることが伺える。

「20歳を超えてたらさ、何か自己責任で自分で全部できそうじゃん。超えてなかったら、親とかにバレたらどうしようみたい。」「まず保健所で無料で受けれるということも知らないし、何かお金がかかるというイメージ。だから、若い子はお金がないから、なかったりするから、受けれない」

## D. 考察

### 《研究1》

コミュニティセンターの認知は、コミュニティセンターを知っていて行ったことがある

54.7%、知っているがまだ行ったことはなく行ってみたいと思っている 14.7%であったのに対して、名前を知っているが行ってみようと思わないあるいは名前は聞いたこと程度で何かよく知らないが合わせて 18.4%であった。知っているか否かを問う単純な認知割合では、CBO が運営するコミュニティセンターとしての認知のされ方に乖離があることがわかる。コミュニティペーパーにおいても同様に、ヤローページを知っている人は 74.2%であるが、うち 24.7%は読んだことはあるが今後読もうとは思わないまたは見かけたことはあるが読んだことがないであった。akta monthly paper も 75.8%が見たことがあるが、20.6%が読んだことはあるが今後読もうとは思わないまたは見かけたことはあるが読んだことがない人であった。介入名称の認知の有無だけでコミュニティにおける予防啓発活動の評価指標とすることは大きな誤差を生じることが考えられる。また、啓発に曝露されている集団の中にもそのメッセージや手法がフィットする人とそうではない人がいることが明らかになった。コミュニティの予防啓発では一つのやり方だけではなく、フォーマティブリサーチを行いつつ、様々な対象層へ向けた情報コミュニケーションが重要であることが示唆される。

生涯の HIV 検査受検経験は全体で 74.7%であり、これまでの類似の調査と同等の結果であった。過去 1 年間の HIV 検査受検経験は全体で 57%であり、新宿二丁目を中心としたサンプリングによる調査と同等の結果であった(金子, 2015.)。

CBO による予防啓発活動に対する共感の 3 項目は年齢が高くなるほどそう思う/まあそう思うと回答した人の割合が高くなっている。若年層に対する共感や信頼を獲得するとともに、若年層に向けたコミュニケーション手段の検討が必要であることが示唆される。ただし、若年層は相対的に CBO 介入への曝露期間が短いことによる影響も考えられる。この場

合は継続的にコミュニティに来てもらうためのアプローチ方法を検討することが必要になる。

生涯の HIV 検査受検経験は全体で 74.7%であった。生涯経験なので年齢が若いと低い傾向にあるが、それでも 54.8%は受検経験のある対象であった。ただし、近年は年間数回の定期的な検査が推奨されているため、過去の検査履歴だけではなく、最近の性行為等で感染の可能性がある人に対して、検査ができる機会を紹介していくことも重要となる。

コミュニティ活動に対する共感や共感、特に検査受検行動に関連していたが、コミュニティ感覚は予防行動にあまり関連が見られなかった。今後はこの理由に関する検証と評価指標の再検討および活動プロセスの見直しが必要になると考える。

#### 《研究 2》

若い人の特徴として、コミュニティに出てこない人に関しては特に知識が不足していて、検査や HIV/AIDS の予防に関する基本的な情報を得ることができていない状況がうかがわれる。そのため、HIV 検査を受けることの意義を自分の中で見出すことができず、費用負担やきっかけがないこと、都合を合わせることに難しいことなどが理由の一端となっていることが推察される。また、メディアによる影響は大きく、インターネットの情報や動画、漫画などの性描写において、予防に関する描写が行われていないことを真実と捉え、自身の行動に反映している可能性がある。

### E. 結論

#### 《研究 1》

今回の調査においても CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちが CBO に対して共感 (empathy) と信頼を持っていることが重要であることが確認された。当該 CBO をコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気

や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持つことによって、CBO が発信するメッセージが自分に向けたものだと感じる。そのメッセージを受け入れることによって、検査受検行動などの HIV/AIDS 予防行動に発展していくものと考えられる。

コミュニティセンターはコミュニティのメンバーあるいは街の人がコミュニティの課題や問題を自らの力で解決していこうという“コミュニティ活動”を実践するための拠点である。コミュニティの課題をわかりやすい形で提示するとともに課題の重要性や緊急性を共有すること、双方向の自由かつ対等なコミュニケーションの場を提供することによって、信頼あるコミュニケーションセンターとして機能することができる。今後の HIV/AIDS の予防における PrEP や PEP などの最新の医療情報に備えて、医療者とコミュニティの情報の非対称性を緩和するヘルスコミュニケーションの場として、信頼に基づく対等で自由な関係性を担保したコミュニケーションを行うことのできるコミュニティセンターとしての役割を強化していくことが期待される。

#### 《研究 2》

若い人の特徴は予防に関する基本的な情報の到達度と関連していると考えられた。すなわち、セクシュアルヘルスと HIV/AIDS の予防に関する十分な知識がないことによって、予防行動が妨げられている状況がうかがわれる。これはコミュニティセンター等のある都市部では多少カバーされるが、地方においては十分な情報提供の機会が少なく、またその状況においては信頼のおける情報源自力でたどり着くことが難しい。「若い世代」を対象とする HIV 予防啓発に於いては商業施設を中心とするコミュニティ以外の場所へ向けても、信頼できる支援につながることもできる情報発信を試みるべきであると考えられる。

#### F. 発表論文等

市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太: MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域, 32(5):1029-1038, 2016.

#### G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

#### 引用文献

笹尾敏明, 小山梓, 池田満. 次世代型ファカルティ・ディベロップメント (FD)・プログラムに向けて: コミュニティ心理学的視座からの検討 国際基督教大学学報 1-A, 教育研究, 45:55-71, 2003.

金子典代: MSM およびゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較(1): 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果の評価に関する研究」, 2015.



表1. 居住地および利用施設等、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
<b>首都圏在住</b>											
それ以外	1	(3.2%)	4	(8.3%)	5	(8.8%)	5	(9.3%)	15	(7.9%)	
東京千葉埼玉神奈川在住	30	(96.8%)	44	(91.7%)	52	(91.2%)	49	(90.7%)	175	(92.1%)	
<b>利用している施設など（過去6か月）</b>											
1 ゲイバー	28	(90.3%)	41	(85.4%)	42	(73.7%)	44	(81.5%)	155	(81.6%)	
2 ゲイナイト	17	(54.8%)	18	(37.5%)	26	(45.6%)	12	(22.2%)	73	(38.4%)	
3 ゲイショップ	12	(38.7%)	22	(45.8%)	23	(40.4%)	25	(46.3%)	82	(43.2%)	
4 PC出会い系サイト	5	(16.1%)	8	(16.7%)	7	(12.3%)	11	(20.4%)	31	(16.3%)	
5 携帯出会い系サイト	10	(32.3%)	10	(20.8%)	12	(21.1%)	18	(33.3%)	50	(26.3%)	
6 mixi などの SNS	10	(32.3%)	11	(22.9%)	16	(28.1%)	20	(37.0%)	57	(30.0%)	
7 エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	0	(0.0%)	5	(10.4%)	3	(5.3%)	6	(11.1%)	14	(7.4%)	
8 ゲイ向けアプリ	21	(67.7%)	28	(58.3%)	38	(66.7%)	29	(53.7%)	116	(61.1%)	
9 ゲイ向けサークル	9	(29.0%)	2	(4.2%)	13	(22.8%)	8	(14.8%)	32	(16.8%)	
10 ゲイ向け合コン	3	(9.7%)	4	(8.3%)	2	(3.5%)	2	(3.7%)	11	(5.8%)	
11 ゲイの乱バ	3	(9.7%)	2	(4.2%)	2	(3.5%)	3	(5.6%)	10	(5.3%)	
12 有料のハッテン場	14	(45.2%)	14	(29.2%)	29	(50.9%)	20	(37.0%)	77	(40.5%)	
13 野外のハッテン場	5	(16.1%)	1	(2.1%)	5	(8.8%)	2	(3.7%)	13	(6.8%)	
14 ハッテン場で有名な銭湯・プール等	9	(29.0%)	13	(27.1%)	15	(26.3%)	13	(24.1%)	50	(26.3%)	
15 いずれもない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	3	(5.3%)	5	(9.3%)	10	(5.3%)	
<b>過去6か月間に恋人・彼氏、友達とHIVやエイズについて話したことがありますか？</b>											
ある	20	(64.5%)	26	(54.2%)	36	(63.2%)	35	(64.8%)	117	(61.6%)	
ない	11	(35.5%)	22	(45.8%)	21	(36.8%)	19	(35.2%)	73	(38.4%)	
<b>過去6か月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？</b>											
いつも持っていた	9	(29.0%)	14	(29.2%)	14	(24.6%)	18	(33.3%)	55	(28.9%)	
時々持っていた	12	(38.7%)	16	(33.3%)	17	(29.8%)	19	(35.2%)	64	(33.7%)	
持っていなかった	10	(32.3%)	18	(37.5%)	26	(45.6%)	17	(31.5%)	71	(37.4%)	

表2. CBOによる予防啓発活動の認知、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
	<b>新宿2丁目にある「コミュニティセンターakta」という場所を、知っていますか？</b>									
知っている/行ったことがある	16	(51.6%)	25	(52.1%)	36	(63.2%)	27	(50.0%)	104	(54.7%)
知っていて行ってみたい/まだ行ったことはな	4	(12.9%)	8	(16.7%)	3	(5.3%)	13	(24.1%)	28	(14.7%)
知っているが行ってみようとは思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	4	(2.1%)
名前は聞いたことがある程度で何か良く知らな	3	(9.7%)	9	(18.8%)	8	(14.0%)	11	(20.4%)	31	(16.3%)
名前も聞いたことがない	7	(22.6%)	5	(10.4%)	8	(14.0%)	3	(5.6%)	23	(12.1%)
<b>aktaが作っているヤローページを読んだことがありますか？</b>										
読んだことがあります今後読みたい	7	(22.6%)	12	(25.0%)	15	(26.3%)	18	(33.3%)	52	(27.4%)
読んだことがあります見かけたら読む	3	(9.7%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	12	(22.2%)	42	(22.1%)
読んだことはあるが今後は読もうとは思わない	1	(3.2%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	0	(0.0%)	4	(2.1%)
見かけたことはあるが読んだことはない	11	(35.5%)	10	(20.8%)	11	(19.3%)	11	(20.4%)	43	(22.6%)
知らない	9	(29.0%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	13	(24.1%)	49	(25.8%)
<b>aktaが発行しているakta monthly paperを読んだことがありますか？</b>										
読んだことがあります今後読みたい	11	(35.5%)	14	(29.2%)	19	(33.3%)	24	(44.4%)	68	(35.8%)
読んだことがあります見かけたら読む	1	(3.2%)	11	(22.9%)	15	(26.3%)	10	(18.5%)	37	(19.5%)
読んだことはあるが今後は読もうとは思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	6	(3.2%)
見かけたことはあるが読んだことはない	5	(16.1%)	8	(16.7%)	8	(14.0%)	12	(22.2%)	33	(17.4%)
知らない	14	(45.2%)	13	(27.1%)	12	(21.1%)	7	(13.0%)	46	(24.2%)
<b>新宿二丁目でコンドームなどを配布しているデリバリーボーイズを見かけたことがありますか？</b>										
参加したことがある	5	(16.1%)	7	(14.6%)	8	(14.0%)	4	(7.4%)	24	(12.6%)
見かけたことがある	15	(48.4%)	21	(43.8%)	26	(45.6%)	34	(63.0%)	96	(50.5%)
見たことがない	3	(9.7%)	9	(18.8%)	11	(19.3%)	10	(18.5%)	33	(17.4%)
知らない	8	(25.8%)	11	(22.9%)	12	(21.1%)	6	(11.1%)	37	(19.5%)
<b>aktaが運営している下のWEBサイトをみたことがありますか？</b>										
見たことがある	12	(38.7%)	22	(45.8%)	22	(38.6%)	29	(53.7%)	85	(44.7%)
見たことがない	19	(61.3%)	26	(54.2%)	35	(61.4%)	25	(46.3%)	105	(55.3%)

表3. CBOによる予防啓発活動に対する共感、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
	<b>aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。</b>									
そう思う	10	(32.3%)	16	(33.3%)	22	(38.6%)	23	(42.6%)	71	(37.4%)
ややそう思う	8	(25.8%)	9	(18.8%)	14	(24.6%)	15	(27.8%)	46	(24.2%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	7	(14.6%)	7	(12.3%)	5	(9.3%)	24	(12.6%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	4	(8.3%)	2	(3.5%)	5	(9.3%)	14	(7.4%)
そう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	2	(3.7%)	8	(4.2%)
aktaの活動を知らない	5	(16.1%)	10	(20.8%)	8	(14.0%)	4	(7.4%)	27	(14.2%)
<b>aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。</b>										
そう思う	8	(25.8%)	8	(16.7%)	18	(31.6%)	17	(31.5%)	51	(26.8%)
ややそう思う	7	(22.6%)	16	(33.3%)	21	(36.8%)	14	(25.9%)	58	(30.5%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	12	(25.0%)	6	(10.5%)	11	(20.4%)	36	(18.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	5	(9.3%)	10	(5.3%)
そう思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
aktaの活動を知らない	6	(19.4%)	9	(18.8%)	7	(12.3%)	6	(11.1%)	28	(14.7%)
<b>aktaの活動に共感する。</b>										
そう思う	11	(35.5%)	16	(33.3%)	27	(47.4%)	27	(50.0%)	81	(42.6%)
ややそう思う	7	(22.6%)	17	(35.4%)	14	(24.6%)	16	(29.6%)	54	(28.4%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	5	(10.4%)	5	(8.8%)	6	(11.1%)	21	(11.1%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	0	(0.0%)	5	(2.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
aktaの活動を知らない	6	(19.4%)	8	(16.7%)	8	(14.0%)	5	(9.3%)	27	(14.2%)
<b>aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。</b>										
そう思う	13	(41.9%)	12	(25.0%)	22	(38.6%)	23	(42.6%)	70	(36.8%)
ややそう思う	6	(19.4%)	17	(35.4%)	16	(28.1%)	13	(24.1%)	52	(27.4%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	9	(18.8%)	6	(10.5%)	9	(16.7%)	29	(15.3%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	2	(3.7%)	5	(2.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	4	(2.1%)
aktaの活動を知らない	7	(22.6%)	8	(16.7%)	9	(15.8%)	6	(11.1%)	30	(15.8%)
<b>aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。</b>										
そう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	22	(38.6%)	20	(37.0%)	68	(35.8%)
ややそう思う	11	(35.5%)	16	(33.3%)	18	(31.6%)	17	(31.5%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	4	(12.9%)	8	(16.7%)	6	(10.5%)	8	(14.8%)	26	(13.7%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(5.6%)	3	(1.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
aktaの活動を知らない	5	(16.1%)	9	(18.8%)	9	(15.8%)	6	(11.1%)	29	(15.3%)

表4. コミュニティ感覚、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
<b>新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。</b>										
そう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	20	(35.1%)	21	(38.9%)	67	(35.3%)
ややそう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	18	(31.6%)	18	(33.3%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	11	(22.9%)	11	(19.3%)	7	(13.0%)	36	(18.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	7	(14.6%)	4	(7.0%)	6	(11.1%)	19	(10.0%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	4	(7.0%)	2	(3.7%)	6	(3.2%)
<b>新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。</b>										
そう思う	10	(32.3%)	10	(20.8%)	12	(21.1%)	14	(25.9%)	46	(24.2%)
ややそう思う	7	(22.6%)	15	(31.3%)	16	(28.1%)	24	(44.4%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	12	(38.7%)	16	(33.3%)	16	(28.1%)	9	(16.7%)	53	(27.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	6	(12.5%)	6	(10.5%)	4	(7.4%)	18	(9.5%)
そう思わない	0	(0.0%)	1	(2.1%)	7	(12.3%)	3	(5.6%)	11	(5.8%)
<b>新宿二丁目でしか得られないものがあると思う。</b>										
そう思う	17	(54.8%)	24	(50.0%)	19	(33.3%)	32	(59.3%)	92	(48.4%)
ややそう思う	11	(35.5%)	19	(39.6%)	19	(33.3%)	11	(20.4%)	60	(31.6%)
どちらともいえない	3	(9.7%)	4	(8.3%)	7	(12.3%)	6	(11.1%)	20	(10.5%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	9	(15.8%)	3	(5.6%)	12	(6.3%)
そう思わない	0	(0.0%)	1	(2.1%)	3	(5.3%)	2	(3.7%)	6	(3.2%)
<b>新宿二目的のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。</b>										
そう思う	15	(48.4%)	14	(29.2%)	17	(29.8%)	18	(33.3%)	64	(33.7%)
ややそう思う	8	(25.8%)	17	(35.4%)	23	(40.4%)	19	(35.2%)	67	(35.3%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	12	(25.0%)	8	(14.0%)	14	(25.9%)	41	(21.6%)
あまりそう思わない	1	(3.2%)	3	(6.3%)	5	(8.8%)	2	(3.7%)	11	(5.8%)
そう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
<b>新宿二目的のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。</b>										
そう思う	12	(38.7%)	10	(20.8%)	20	(35.1%)	17	(31.5%)	59	(31.1%)
ややそう思う	8	(25.8%)	21	(43.8%)	20	(35.1%)	21	(38.9%)	70	(36.8%)
どちらともいえない	8	(25.8%)	12	(25.0%)	10	(17.5%)	11	(20.4%)	41	(21.6%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	4	(7.4%)	13	(6.8%)
そう思わない	0	(0.0%)	3	(6.3%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
<b>新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をするごとに、タブー感（ためらい）がある。</b>										
そう思う	10	(32.3%)	6	(12.5%)	6	(10.5%)	7	(13.0%)	29	(15.3%)
ややそう思う	5	(16.1%)	8	(16.7%)	16	(28.1%)	11	(20.4%)	40	(21.1%)
どちらともいえない	10	(32.3%)	16	(33.3%)	13	(22.8%)	17	(31.5%)	56	(29.5%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	10	(20.8%)	7	(12.3%)	13	(24.1%)	33	(17.4%)
そう思わない	3	(9.7%)	8	(16.7%)	15	(26.3%)	6	(11.1%)	32	(16.8%)
<b>新宿二丁目にHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。</b>										
そう思う	25	(80.6%)	35	(72.9%)	42	(73.7%)	44	(81.5%)	146	(76.8%)
ややそう思う	5	(16.1%)	9	(18.8%)	9	(15.8%)	9	(16.7%)	32	(16.8%)
どちらともいえない	0	(0.0%)	3	(6.3%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	8	(4.2%)
あまりそう思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)

表 5. HIV 検査受検経験と性感染症罹患経験、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
<b>生涯のHIV検査受検経験</b>											
ある	17	(54.8%)	35	(72.9%)	43	(75.4%)	47	(87.0%)	142	(74.7%)	
ない	14	(45.2%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	7	(13.0%)	48	(25.3%)	
<b>一番最近にHIV検査を受けた時期</b>											
6か月以内	10	(58.8%)	18	(51.4%)	17	(39.5%)	12	(25.5%)	57	(40.1%)	
6か月から1年以内	3	(17.6%)	5	(14.3%)	6	(14.0%)	10	(21.3%)	24	(16.9%)	
1年から3年以内	4	(23.5%)	7	(20.0%)	12	(27.9%)	18	(38.3%)	41	(28.9%)	
3年以上前	0	(0.0%)	5	(14.3%)	8	(18.6%)	7	(14.9%)	20	(14.1%)	
<b>これまでに罹患したことがある性感染症</b>											
1 梅毒	0	(0.0%)	3	(6.3%)	10	(17.5%)	11	(20.4%)	24	(12.6%)	
2 A型肝炎	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	3	(5.6%)	5	(2.6%)	
3 B型肝炎	1	(3.2%)	1	(2.1%)	6	(10.5%)	14	(25.9%)	22	(11.6%)	
4 C型肝炎	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.8%)	0	(0.0%)	1	(0.5%)	
5 クラミジア	1	(3.2%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	8	(14.8%)	12	(6.3%)	
6 尖圭コンジローマ	0	(0.0%)	2	(4.2%)	2	(3.5%)	7	(13.0%)	11	(5.8%)	
7 淋病	1	(3.2%)	1	(2.1%)	3	(5.3%)	4	(7.4%)	9	(4.7%)	
8 HIV 感染症	1	(3.2%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	10	(18.5%)	17	(8.9%)	
9 赤痢アメーバ	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.8%)	2	(3.7%)	3	(1.6%)	
10 毛じらみ	4	(12.9%)	12	(25.0%)	12	(21.1%)	21	(38.9%)	49	(25.8%)	
11 性器ヘルペス	1	(3.2%)	1	(2.1%)	2	(3.5%)	5	(9.3%)	9	(4.7%)	
12 その他	0	(0.0%)	2	(4.2%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)	
13 いずれもない	24	(77.4%)	30	(62.5%)	33	(57.9%)	14	(25.9%)	101	(53.2%)	

表6. CBO活動への共感とコミュニティ感覚（2区分）、HIV検査受検経験別

	生涯でのHIV検査受検経験			1年以内のHIV検査受検			3年以内のHIV検査受検		
	ある		p値	ある		p値	ある		p値
	n (列%)	n (列%)		n (列%)	n (列%)		n (列%)	n (列%)	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。									
そう思う/まあそう思う	94 (66.2%)	23 (47.9%)	0.024	50 (61.7%)	67 (61.5%)	0.971	79 (64.8%)	38 (55.9%)	0.228
それ以外	48 (33.8%)	25 (52.1%)		31 (38.3%)	42 (38.5%)		43 (35.2%)	30 (44.1%)	
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。									
そう思う/まあそう思う	88 (62.0%)	21 (43.8%)	0.027	51 (63.0%)	58 (53.2%)	0.179	75 (61.5%)	34 (50.0%)	0.125
それ以外	54 (38.0%)	27 (56.3%)		30 (37.0%)	51 (46.8%)		47 (38.5%)	34 (50.0%)	
aktaの活動に共感する。									
そう思う/まあそう思う	108 (76.1%)	27 (56.3%)	0.009	60 (74.1%)	75 (68.8%)	0.429	93 (76.2%)	42 (61.8%)	0.035
それ以外	34 (23.9%)	21 (43.8%)		21 (25.9%)	34 (31.2%)		29 (23.8%)	26 (38.2%)	
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。									
そう思う/まあそう思う	98 (69.0%)	24 (50.0%)	0.018	58 (71.6%)	64 (58.7%)	0.067	85 (69.7%)	37 (54.4%)	0.035
それ以外	44 (31.0%)	24 (50.0%)		23 (28.4%)	45 (41.3%)		37 (30.3%)	31 (45.6%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。									
そう思う/まあそう思う	102 (71.8%)	28 (58.3%)	0.082	60 (74.1%)	70 (64.2%)	0.148	88 (72.1%)	42 (61.8%)	0.141
それ以外	40 (28.2%)	20 (41.7%)		21 (25.9%)	39 (35.8%)		34 (27.9%)	26 (38.2%)	
新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。									
そう思う/まあそう思う	101 (71.1%)	28 (58.3%)	0.1008	64 (79.0%)	65 (59.6%)	0.005	91 (74.6%)	38 (55.9%)	0.008
それ以外	41 (28.9%)	20 (41.7%)		17 (21.0%)	44 (40.4%)		31 (25.4%)	30 (44.1%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。									
そう思う/まあそう思う	86 (60.6%)	22 (45.8%)	0.0749	47 (58.0%)	61 (56.0%)	0.777	72 (59.0%)	36 (52.9%)	0.418
それ以外	56 (39.4%)	26 (54.2%)		34 (42.0%)	48 (44.0%)		50 (41.0%)	32 (47.1%)	
新宿二丁目ですっかり得られないものがあると思う。									
そう思う/まあそう思う	118 (83.1%)	34 (70.8%)	0.0663	72 (88.9%)	80 (73.4%)	0.008	101 (82.8%)	51 (75.0%)	0.198
それ以外	24 (16.9%)	14 (29.2%)		9 (11.1%)	29 (26.6%)		21 (17.2%)	17 (25.0%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたと思う。									
そう思う/まあそう思う	100 (70.4%)	31 (64.6%)	0.4497	59 (72.8%)	72 (66.1%)	0.318	86 (70.5%)	45 (66.2%)	0.538
それ以外	42 (29.6%)	17 (35.4%)		22 (27.2%)	37 (33.9%)		36 (29.5%)	23 (33.8%)	
新宿二丁目のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたと思う。									
そう思う/まあそう思う	101 (71.1%)	28 (58.3%)	0.1008	58 (71.6%)	71 (65.1%)	0.345	89 (73.0%)	40 (58.8%)	0.046
それ以外	41 (28.9%)	20 (41.7%)		23 (28.4%)	38 (34.9%)		33 (27.0%)	28 (41.2%)	
新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をすることに、タブー感（ためらい）がある。									
そう思う/まあそう思う	53 (37.3%)	16 (33.3%)	0.6192	34 (42.0%)	35 (32.1%)	0.162	46 (37.7%)	23 (33.8%)	0.594
それ以外	89 (62.7%)	32 (66.7%)		47 (58.0%)	74 (67.9%)		76 (62.3%)	45 (66.2%)	
新宿二丁目HIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。									
そう思う/まあそう思う	136 (95.8%)	42 (87.5%)	0.042	79 (97.5%)	99 (90.8%)	0.060	118 (96.7%)	60 (88.2%)	0.021
それ以外	6 (4.2%)	6 (12.5%)		2 (2.5%)	10 (9.2%)		4 (3.3%)	8 (11.8%)	

表7. CB0 活動への共感とコミュニティ感覚、性感染症罹患経験別、アナルセックス時のコンドーム使用別

コミュニティ感覚と性感染症罹患経験 コンドーム使用										
	何らかの性感染症に罹患した経験			一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用						
	ある (n=89)		ない (n=101)	p 値	使った (n=115)		使わなかった/不明 (n=58)			
	n	(列%)	n		(列%)	n		(列%)		
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
そう思う/まあそう思う	62	(69.7%)	55	(54.5%)	0.032	76	(66.1%)	34	(58.6%)	0.335
それ以外	27	(30.3%)	46	(45.5%)		39	(33.9%)	24	(41.4%)	
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。										
そう思う/まあそう思う	56	(62.9%)	53	(52.5%)	0.146	70	(60.9%)	32	(55.2%)	0.472
それ以外	33	(37.1%)	48	(47.5%)		45	(39.1%)	26	(44.8%)	
aktaの活動に共感する。										
そう思う/まあそう思う	69	(77.5%)	66	(65.3%)	0.065	82	(71.3%)	42	(72.4%)	0.878
それ以外	20	(22.5%)	35	(34.7%)		33	(28.7%)	16	(27.6%)	
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
そう思う/まあそう思う	58	(65.2%)	64	(63.4%)	0.796	73	(63.5%)	39	(67.2%)	0.625
それ以外	31	(34.8%)	37	(36.6%)		42	(36.5%)	19	(32.8%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
そう思う/まあそう思う	64	(71.9%)	66	(65.3%)	0.331	76	(66.1%)	45	(77.6%)	0.119
それ以外	25	(28.1%)	35	(34.7%)		39	(33.9%)	13	(22.4%)	
新宿二丁目にいと、安心感のようなものを感じる。										
そう思う/まあそう思う	59	(66.3%)	70	(69.3%)	0.657	75	(65.2%)	44	(75.9%)	0.154
それ以外	30	(33.7%)	31	(30.7%)		40	(34.8%)	14	(24.1%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
そう思う/まあそう思う	55	(61.8%)	53	(52.5%)	0.195	64	(55.7%)	36	(62.1%)	0.420
それ以外	34	(38.2%)	48	(47.5%)		51	(44.3%)	22	(37.9%)	
新宿二丁目ではしか得られないものがあると思う。										
そう思う/まあそう思う	71	(79.8%)	81	(80.2%)	0.942	95	(82.6%)	45	(77.6%)	0.427
それ以外	18	(20.2%)	20	(19.8%)		20	(17.4%)	13	(22.4%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
そう思う/まあそう思う	63	(70.8%)	68	(67.3%)	0.607	83	(72.2%)	36	(62.1%)	0.176
それ以外	26	(29.2%)	33	(32.7%)		32	(27.8%)	22	(37.9%)	
新宿二丁目のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
そう思う/まあそう思う	63	(70.8%)	66	(65.3%)	0.423	85	(73.9%)	34	(58.6%)	0.040
それ以外	26	(29.2%)	35	(34.7%)		30	(26.1%)	24	(41.4%)	
新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をするごとに、タブー感（ためらい）がある。										
そう思う/まあそう思う	34	(38.2%)	35	(34.7%)	0.612	42	(36.5%)	23	(39.7%)	0.688
それ以外	55	(61.8%)	66	(65.3%)		73	(63.5%)	35	(60.3%)	
新宿二丁目にはHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。										
そう思う/まあそう思う	87	(97.8%)	91	(90.1%)	0.030	111	(96.5%)	55	(94.8%)	0.593
それ以外	2	(2.2%)	10	(9.9%)		4	(3.5%)	3	(5.2%)	



## 表.検査についての特徴的な語り

### 《検査を受ける意味》

・別に自分なんかいい、自分の人生なんか別にどうでもいいかなっていうか、そんなに自分を大事にして生きていこうという意識が、ちょっとゲイってことで薄れちゃって、結婚とか未来とか将来とかっていうことが、ほぼないという時代というか、まあ今は、そういう風潮じゃない。若い世代の中で、そんなに長生きしたくないという。とか言う子もいるよね。自暴自棄までいかないけど、何かちょっと開き直った、どうにかなるんじゃないみたいな。死なないからいいやみたいな。

・その後の生活が、まずビジョンが見えてこない、まず。感染したら、まず何をするのか。何をどうして、どう生活をしていったらいいんだろうというのが全く見えないから、感染したらね、何、どうすればみたいな。してないといいんだけど、とりあえず検査受ければわかるからという感じではあるから。

・カミングアウトしてて、親があっけらかんとしてれば、多分受けに行きなよぐらいは言ってくれると思う。

・何か自分が感染していない状態というのを確認してから東京へ行きかけた。ここで何もなかった、地元で何もなかったよというのを確認して。

・まだ未成年だから、親のこととか考えると、自分が、ただでさえ世間の風当たりが激しいじゃないですか、ゲイだというと。なのに、HIVとかというふうに言われたとしたら、もし、だから言われたとしたら、本当に、さっき言ったような最悪の形で親に言わないといけないし、そのHIVについても、親とかは、あんまり知識がないわけだから、そこで、また親から差別される

・B型肝炎になって、それがきっかけで親に、もう言わざるを得なくなっちゃって、何でこんな病気になったのって、それでカミングアウトしたという子がいた。

・もし宣告されたときっていう、そのものの怖さっていうか、っていう覚悟がないと、なかなか

・そもそも保健所って、まず行ったことがないってところでの見知らぬ人しかいない。そこでaktaのパンフレットを見たときに安堵感は受けたけど、そこまで行かないと、もう知らぬ人。この人は検査する、受ける人なんだということ自体も、何か同じ人なんだとは思えないみたいなのも、隔離されたような人って感じの心境ではあったかな。

### 《地域と検査》

・そこら辺の地元でさ、「えっ」って思われたくないってなれば、やっぱりちょっと遠めのところに行こうかなとなれば、交通費だとかかかるし。

・一番最初は、めちゃめちゃ不安があったり、電話4、5回かけたけど、1回切って。結構入ったら行きやすかった。

#### 《検査環境》

・月に現状で、毎日とかではないんだよね。何週目の何曜日の何とかとかなんだよね。だから、そういうのも、何だろう、悪い意味でタイミングを逃せちゃうということはあるのかな。だって覚悟が必要なんだよね。何日のこの日に行こうという覚悟が。

・都内のほうが、そういう情報も、陽性になったときの病院だったり、何かそういう制度だったり、そういうのも、ちゃんと確立してるはずだから、安心感はある。

・とりあえず地元で受けるしかないって。

・活動しよっぱなぐらいのときだから、とりあえず即日検査で安全なところ、ゲイにちゃんと理解があるようなところで。

#### 《感染可能性の認知、検査の必要性》

・感染してるかもしれないという恐怖心に駆られたから行ったけど、多分そういうことがない限りは、まあフェラぐらいじゃ移らないだろうみたいな、アナルセックス、ゴムしてるし、移らないだろう。

・バックだけゴムつけばみたいな、何か変な2丁目の常識というか、とりあえず、そのね。自分は大丈夫だろうという過信は結構してると思う。

・100人の人がセックスをしてたら、多分100人の人は心当たりもあって、なってるかもしれないで生活してる人が多分いるんだろうなと思う。

#### 《その他》

・問診票みたいなのを書くのがあって、何も考えずに男性って丸つけたらそれについて（医師から）聞かれるもんだと、てっきり思ってたので、何か、どう思ったかというよりは驚いた。

#### 「若い人」についての特徴的な語り

#### 《検査》

・年齢は低ければ低いほど、ハードルは高いのかな。

・ただ1回行けば、別にもう2回目、3回目のハードルは、そんなに高くないのかなという気がする

・二十歳を超えてたらさ、何か自己責任で自分で全部できそうじゃん。超えてなかったら、親とかにバレたらどうしようみたいな。

・2丁目とか、こういう場所に出てくる人たちは、情報にやっぱり触れてる。（そうではない人は）まず保健所で無料で受けれるということも知らないし、何かお金がかかるというイメージ。

だから、若い子はお金がないから、なかつたりするから、受けれないと。《メディアの影響》

・AVの影響もあると思う。AVで、こう、アナルセックスは気持ちいいもんだみたいなイメージがつけ加えられてて、生でやる映像も確かあるじゃん、

・BL漫画みたいな。漫画とかも、結構生でやってる。

・漫画に書いてあることは正しいってやっちゃう

《予防について》

・快感をとにかく重要視、生でやっても大丈夫だろうという考え

・コンドームとかオイルって買えないよね

・高校生の人なら、逆にコンドームが手に入りづらい

・最初買ったの、ネットじゃないかな。

・勉強して・・・恐怖心にあおられて。

・この人感染してないから大丈夫、次の人も感染してないから大丈夫っていう連鎖はある。

《情報・広告》

・ポップアップと、あとポップバナーがあるんですけど、ポップアップは毎回出てくるんですよ、課金してても。けども、今後表示しないっていうボタンがあって、それを押すと、もう出てこないというような。

・サイトにアクセスまではいかないんで、あ、こういうのがあるんだ、うっとうしい、

・何かこの前、全部のアンケートに答えて500円くれますみたいなのがあって。先着で書いてあるから、まず無理だろうと思ってやったけど、普通にもらった。30分ぐらいかかりますと書いてあって、まあいいよ、別にいいしみたいな。

## 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 -初性交時周辺に焦点をあてた予防介入-

研究分担者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部/MASH 大阪）

研究協力者：鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）、後藤大輔、町登志雄、  
宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、  
大畑泰次郎、伴仲昭彦、飯塚諒（MASH 大阪）、新山賢（HaaT えひめ）  
松本健二（大阪市保健所感染症対策監）、  
半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）、  
安井典子（大阪市保健所感染症対策課）、  
柴田敏之（大阪府健康医療部保健医療室医療対策課長）

### 研究要旨

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的としている。啓発介入は CBO と協働で開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価することとした。本年度は啓発介入プロジェクトを展開し、新型啓発介入に展開・評価するための体制構築を目的とした。

連続横断調査を用いて啓発介入の効果評価を実施した結果、介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は 2.7%（調査 1）、10.2%（調査 2）、16.0%（調査 3）、25.3%（調査 4）、45.1%（調査 5）、52.3%（調査 6）と上昇し、新型介入以降の上昇が顕著であった。介入認知別に分析した結果では HIV 抗体検査受検経験で有意差がみられ、生涯受検割合が非認知群（59.2%）に比べ認知群（72.1%）で高く（ $p=0.02$ ）、過去 1 年間の受検割合も非認知群（31.2%）に比べ認知群（47.3%）で高かった（ $p=0.01$ ）。一方で大阪府内の保健所受検者を対象とした質問紙調査でも介入認知割合は 2014 年、2015 年に比べ 2016 年で高くなっており、大阪市で 7.9%（第 1 四半期）～12.7%（第 3 四半期）、大阪府で 6.3%（第 1 四半期）～11.7%（第 3 四半期）、chot CAST なんばで 5.6%（第 1 四半期）～14.6%（第 2 四半期）であった。受検者における MSM 割合は、大阪市では 2014 年 5 月（20.5%）から 12 月（13.0%）と低下傾向であったが、2015 年（年間 14.2%）は横這いとなり、2016 年は 1 月（12.9%）から 7 月（18.0%）にかけて上昇傾向であった。大阪府では 2014 年 2 月（6.3%）から 11 月（12.2%）と徐々に上昇し、2015 年（年間 10.1%）、2016 年も 2 月（8.9%）から 8 月（14.8%）にかけて上昇傾向であった。chot CAST なんばでは 2014 年（年間 18.6%）、2015 年（年間 21.1%）とほぼ横這いであったが、2016 年は 1 月（20.8%）から 6 月（28.9%）にかけて上昇傾向であった。

本研究による介入プログラム「やる!プロジェクト」は MSM における検査行動を促進させた可能性が示唆された。

## A. 研究目的

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的としている。啓発介入は CBO と協働で開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価することとした。初年度から継続し、2 年度目も啓発介入プロジェクトを実施あるいは他地域に拡大し、新型啓発介入の体制を他地域も含めた体制として構築した。また評価するための基礎資料を得ることを目的として大阪地域では上記の2つの調査を実施した。

## B. 研究方法

### 1 初性交時周辺に焦点をあてた予防介入

#### 「やる!プロジェクト」の実施と展開

最終年度も継続して CBO (Community-based organization) と協働し、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を 24 歳以下の若年層と仮定して、初年度に得られた基礎資料と先行研究の結果にもとづき、予防や性感染症の情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を展開した。2 年度目の進行が遅れたために、新規介入の期間を 2016 年 4 月から 7 月として、この時期に進学や就職で移動する若年層を対象に配布先を選定した。

展開する過程で、インターネットにおける訴求性や地域連携を考慮して、他地域の CBO の意見をふまえて展開できる体制の維持を目指し、6 月に連携会議を開催した。その結果、連携体制は、初年度近畿地域 (大阪)・中国・四国地方 (愛媛)・沖縄だったが、2 年度目には東海地域 (名古屋) が展開に加わり、最終年度には関東地域 (横浜)・東北地域 (仙台) が「やる!プロジェクト」の資材配布に加わった。また関東地域 (東京) とは 10 月下旬から MSM ALL JAPAN の枠組みの中でコラボレーションを行いキャ

ンペーンの展開を図った。この MSM ALL JAPAN の取り組みについては効果評価よりも枠組みの構築を優先した。そのため研究デザインとしては初年度から継続して近畿地域のゲイ・バイセクシュアル男性を対象として効果評価を行うことにした。

### 2 コミュニティベース調査

#### 1) 調査方法

初性交時の状況を明らかにし、展開した従来型啓発介入における訴求性を示すベースラインを得るために、コミュニティベース質問紙調査 (GCQ アンケート) を初年度と同様の方法・質問項目で実施した。第 5 回目の調査は平成 28 年 7 月 1 日から 8 月 13 日までの 44 日間とし、研究終了後の啓発効果の持続性を検討する目的で第 6 回目の調査を平成 28 年 11 月 27 日から平成 29 年 1 月 9 日の 44 日間の実施とした。

#### 2) 分析方法

得られたすべての回答のうち、近畿地域に居住する MSM およびゲイ・バイセクシュアル男性を分析対象とした。それぞれの調査について年齢を 24 歳以下、25 歳-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40-44 歳、45 歳以上の 6 区分の年齢層に分類し、比較した。次いで調査回答者の属性・検査行動・性行動・啓発介入への接触状況に関して、第 1 回目と第 2 回目、第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目、第 6 回目の調査結果についてカイ 2 乗検定を用いて分析した。また「やる!プロジェクト」認知別に分析し、認知群と非認知群の特性を明らかにしようとした。

データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 23 を用いた。統計的有意水準は 5% 未満とした。

なお、本調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。(2014 年 4 月 27 日、ID 番号 14025-3)

### 3 HIV 抗体検査受検者を対象とした調査

## 1) 調査方法

啓発介入に効果があった場合には、MSM における検査行動が促進されることとなり、保健所等の HIV 抗体検査を利用する MSM が増加することが考えられる。副次項目の指標とする目的で、本研究では大阪市・大阪府の施策担当者に研究協力者となっただき、大阪市・大阪府の実施する HIV 抗体検査の受検者を対象とした無記名自記式質問紙調査を集計・分析し、MSM 受検者の動向を把握することとした。

## 2) 分析方法

分析に用いた質問項目は年齢、居住地、性別、性行為経験、生涯における性行為相手の性別、過去 6 ヶ月間の金銭を介した性行為経験、HIV 抗体検査受検経験と受検時の状況であり、個人を特定する情報は含まなかった。

分析では年齢を 19 歳以下、20 歳-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳、60 歳以上の 6 区分の年齢層に分類した。居住地については大阪府内在住者とそれ以外の都道府県在住者に分類した。

本研究では MSM を「これまでに同性間性的接触を有した男性」と定義し、性別の他に、これまでに性行為をした相手の性別について尋ねた。選択肢は、性別では男性、女性、その他とし、性行為をした相手の性別は男性のみ、女性のみ、男性と女性の両方とした。分析ではこれまでに男性もしくは男性と女性の両方と性行為経験のあった男性を MSM として分類し、MSM 以外の男性、女性、MSM の 3 群を性的指向として分析を進めた。また検査場所の満足度として、話し方や言葉づかい、質問しやすい雰囲気、安心できる雰囲気、プライバシー保護について 4 件法で尋ねた。

データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 23 (Windows) を用いた。

なお、本調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。(2015

年 4 月 21 日、ID 番号 14032-4)

## C. 研究結果

### 1 初性交時周辺に焦点をあてた予防介入「やる!プロジェクト」のアウトカム

平成 28 年度は初性交周辺の対象者に必要な知識として、これまでに作成したポストカードを中心にコンドームやローションとともにセットにして近畿、中国・四国、沖縄、東海の 4 地域で配布した。

近畿圏では平成 28 年 4 月～平成 29 年 8 月までの配布実績としては配布総数 3,476 セットであり、ゲイ向けイベント (16 イベント)、ゲイ向け商業施設 (151 軒) に配布した。ポストカードの裏面の情報を検査情報などに変更することによって、大阪府 (四條畷、岸和田、泉佐野など) や岡山県との連携が可能となり、検査情報と本研究班で作成した情報を、配布先の雰囲気に合わせてイラストを変更し、他の資材と混ぜて配布した。またゲイツーリズムを背景に、このプロジェクトで連携している 4 地域の CBO (MASH 大阪、HaaT えひめ、nankr 沖縄、ANGEL LIFE NAGOYA) で意見交換会を 2 回 (平成 28 年 3 月、6 月) もち、「やる!プロジェクト」の展開や方向性について検討した。本プロジェクトは、性行動の活発な MSM を対象として、彼らの資材の潜在的な需要をベースに、HIV や性感染症の知識の普及や意識の向上を通じて、セーフセックスの規範を身近なものに変容していくことを目的として、ゲイツーリズムを踏まえて展開していくことを共有した。

### 2 コミュニティベース調査

本研究では近畿地域において新型啓発介入の前後に調査を実施した。概要を表 1 に示す。

本報告では調査 5、調査 6 について年齢層別の状況を集計し付表 4-1 から付表 4-4、付表 5-1 から付表 5-4 に示した。

表1 コミュニティベース調査の概要

調査	実施期間	回答者数
1	平成26年 7月31日から8月17日	991人
2	平成26年12月12日から平成 27年1月13日	478人
3	平成27年 6月30日から8月17日	934人
4	平成27年12月8日から 平成28年1月13日	567人
5	平成28年 7月1日から8月13日	677人
6	平成28年11月27日から 平成29年1月9日	579人

調査5では677人の回答を得た。そのうち重複回答を除く、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMは286人であった(有効回答率42.2%)。分析対象となった286人の年齢層は24歳以下61人(21.3%)、25-29歳79人(27.6%)、30-34歳68人(23.8%)、35-39歳36人(12.6%)、40-44歳26人(9.1%)、45歳以上は16人(5.6%)であった。居住地は大阪府が最も多く65.7%、次いで兵庫県19.2%、京都府が7.7%であった。HIV性感染症の既往については全体で3.5%であり、40-44歳が最も高く7.7%であった。[付表4-1から付表4-4]

調査6では579人の回答を得た。そのうち重複回答を除く、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMは300人であった(有効回答率51.8%)。分析対象となった300人の年齢層は24歳以下35人(11.7%)、25-29歳95人(31.7%)、30-34歳76人(25.3%)、35-39歳51人(17.0%)、40-44歳16人(5.3%)、45歳以上は27人(9.0%)であった。居住地は大阪府が最も多く63.0%、次いで兵庫県21.0%、京都府が9.3%であった。HIV性感染症の既往については全体で3.7%であり、40-44歳が最も高く12.5%であった。[付表5-1から付表5-4]

### 1) 年齢層別認知割合の推移

3年間で実施した、調査1・調査2・調査3・調査4をあわせて比較した結果を付表1、付表2に示した。全体で本プロジェクトの認知割合は2.7% (調査1)、10.2% (調査2)、16.0% (調査3)、25.3% (調査4)、45.1% (調査5)、52.3% (調査6)と上昇していた。調査5、調査6では年齢層別に有意差はみられなかった。

また過去1年間のHIV抗体検査受検経験では年齢層別に有意差がみられ、調査5では24歳以下の若年層で最も高く49.2%、次いで25-29歳が46.8%であり( $p=0.01$ )、調査6では25-29歳の若年層で最も高く50.5%、次いで30-34歳が50.0%であった( $p=0.02$ )。[付表4-1、5-1]

HIV性感染症既往については全体で3.5% (調査5、 $p=0.31$ )、3.7% (調査6、 $p=0.42$ )であり年齢層における有意差はみられなかった。梅毒既往についても同様に全体で11.2% (調査5、 $p=0.57$ )、10.7% (調査6、 $p=0.42$ )であり年齢層における有意差はみられなかった。[付表4-2、5-2]

### 2) 啓発介入認知別検査行動および予防行動

本研究による啓発介入認知別に分析した結果を付表3-1、付表3-2に示した。HIV抗体検査受検経験では有意差がみられ、調査5では生涯受検割合が認知群では72.1%と非認知群の59.2%と比べて高く( $p=0.02$ )、過去1年間の受検割合も認知群で47.3%と非認知群31.2%に比べて高かった( $p=0.01$ )。調査6では過去1年間の受検割合のみ認知群で49.0%と非認知群35.7%に比べて高かった( $p=0.02$ )。

一方でコンドーム使用に関して、過去6ヵ月間のコンドーム使用状況やコンドーム使用意図、コンドーム携帯状況では明らかな有意差はみられず、過去6ヶ月間のコンドーム常用割合は全体で48.7% (調査5)、50.0% (調査6)に留まった。年齢層別にみても同様の傾向であった。



### 3 HIV抗体検査受検者を対象とした調査

大阪市・大阪府が保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象に質問紙調査を行っており、本研究では大阪市 3 保健福祉センター・chot CAST なんば・大阪府 13 保健所の回答について 2014 年 1 月から 2016 年 9 月までを分析した。2016 年 1 月から 2016 年 9 月までの回収率は、大阪市 3 保健福祉センターで 62.7%、大阪府 12 保健所では 88.2%、chot CAST なんばでは 94.8%であった。平均受検者数は大阪市 3 保健福祉センターでは、406.7 人/月 (2014 年)、382.3 人/月 (2015 年)、379.4 人/月 (2016 年) であり、大阪府 12 保健所では、275.2 人/月 (2014 年)、216.5 人/月 (2015 年)、181.6 人/月 (2016 年) であった。ここでは MSM 受検者の動向に焦点をあてて分析した結果を報告する。

#### 1) 大阪府内の MSM 受検者数の推移 (付表 6-3)

大阪府内の受検者調査はエイズ予防のための戦略研究で 2008 年末から開始されたものであるが、本報告では参考として開始から 2016 年 9 月までの受検者中の MSM 割合を算出した。MSM 受検者の割合について大阪市では 2014 年 5 月 (20.5%) から 12 月 (13.0%) と低下傾向であったが、2015 年 (年間 14.2%) は横這いとなり、2016 年は 1 月 (12.9%) から 7 月 (18.0%) にかけて上昇傾向であった。大阪府では 2014 年 2 月 (6.3%) から 11 月 (12.2%) と徐々に上昇し、2015 年 (年間 10.1%)、2016 年も 2 月 (8.9%) から 8 月 (14.8%) にかけて上昇傾向であった。chot CAST なんばでは 2014 年 (年間 18.6%)、2015 年 (年間 21.1%) とほぼ横這いであったが、2016 年は 1 月 (20.8%) から 7 月 (28.9%) にかけて上昇傾向であった。

#### 2) MSM における広報資材認知割合

近畿地域では MSM 受検者の拡大に向けて、大阪市保健所や厚労省・男性同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業などによって「季刊誌南

界堂通信」が発行されている。これは AIDS を発症で報告されることが多い中高年層 MSM 向けのプログラムである。MSM 以外の男性、女性、MSM 別に受検者における広報認知割合を四半期別に分析した結果を付表 7-1 から付表 7-3 に示した。大阪府内の検査機関全体の MSM 受検者で「季刊誌南界堂通信」の認知割合の四半期別推移をみたところ、2014 年、2015 年に比べて 2016 年では認知割合はやや高くなっており、大阪府で 4.5% (第 1 四半期) ~8.5% (第 2 四半期)、大阪府で 2.0% (第 2 四半期) ~4.0% (第 1 四半期)、chot CAST なんばで 3.3% (第 3 四半期) ~5.6% (第 2 四半期) であった。

同様に本研究における介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合も 2014 年、2015 年に比べて 2016 年では高くなっており、大阪府で 7.9% (第 1 四半期) ~12.7% (第 3 四半期)、大阪府で 6.3% (第 1 四半期) ~11.7% (第 3 四半期)、chot CAST なんばで 5.6% (第 1 四半期) ~14.6% (第 2 四半期) であった。

2016 年 4 月~9 月については検査機関別の検査受検者の年齢層、受検経験、広報認知、満足度を付表 8-1 から付表 8-4 に示した。無回答を除かずに集計した結果、満足度は「話し方・言葉づかい」がとても満足だった割合は 60.6% (和泉保健所) ~89.3% (岸和田保健所)、「質問しやすい雰囲気」は 57.6% (和泉保健所) ~87.5% (岸和田保健所)、「安心できる雰囲気」は 58.2% (吹田保健所) ~83.3% (池田保健所)、「プライバシー保護」は 50.0% (和泉保健所) ~80.4% (岸和田保健所) であった。

なお、本分析結果は速報として大阪府・大阪市に還元しており、以下の対策会議等で一部引用されている。HIV 及び性感染症対策推進会議 (平成 28 年 11 月 11 日)、大阪府感染症対策審議会エイズ対策及び医療連携推進部会エイズ医療委員会 (平成 29 年 2 月 8 日)、大阪府感染症対策審議会エイズ対策及び医療連携推進部会 (平成 29 年 3 月 8 日)、平成 28 年度 第 2

回大阪市エイズ対策評価委員会作業班会議（平成 29 年 2 月 21 日）。

#### D. 考察

本研究では MASH 大阪、HaaT えひめと協働し、24 歳以下の若年層を、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM と仮定して、初年度に得られた基礎資料と先行研究の結果にもとづき、予防や性感染症の情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を継続的に展開した。本年度はこの取り組みが他の地域にも広がり、10 月下旬から MSM ALL JAPAN の枠組みの中でコラボレーションを行いキャンペーンの展開を図った。ALL JAPAN のコラボレーションでは、全国にあるゲイタウンをつなぐネットワークを見据えて取り組み、全国紙であるゲイメディアの協力、コミュニティセンターや各地域にある約 1000 軒のゲイ向け商業施設でキャンペーングッズが配布された。また情報提供には、連動したウェブサイトを作成し、その可能性を検証した。今回の ALL JAPAN のキャンペーンに参加した NGO にとって、この取り組みは、地域のコミュニティで、また日本全国で、HIV の予防啓発においてどのようなメッセージを出していくかを検討するボードを構築する経験となったが、以下の課題も見出された。①プログラムの進め方（配布物の確定や実際の動き方など）では地域間で詰め切れていない部分があったこと、②参加地域によってキャンペーンの捉え方が様々となり十分な共有の機会を持てなかったこと、③WEB 広報やゲイメディアとの連携については東京中心になってしまい負担を等分にできなかったこと、④コミュニティセンターのない地域でインターネットや郵送を通じて展開できる可能性があったが、現時点でその仕組みはまだ完成されているとは言えないこと、⑤ゲイコミュニティにおける HIV 感染者の割合はどの地域でも 5%前後であり啓発介入、特に連動した取り組みにはこれらの現状や地域の偏見の

差を踏まえ可視化できる仕組みも必要であった。

一方で先行して展開してきた近畿地域ではコミュニティベースの調査結果に基づく効果評価が明らかとなった。本研究が対象とした若年層では介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は有意に上昇し、本年度は年齢層における有意差はみられず MSM 全体に訴求した可能性が考えられる。浸透度は 20 歳代から 30 歳代へと徐々に拡大し、本格的な新型介入以降は顕著であった。認知上昇とともに生涯および過去 1 年間の受検割合も認知群では上昇しており、保健所受検者における MSM 割合も上昇していた。しかし連続横断調査の限界として夏季（調査 1、調査 3、調査 5）と冬季（調査 2、調査 4、調査 6）に行われた調査結果では回答者の性行動がやや異なる傾向であり、比較するには限界がある。また、単年度の調査でプログラム認知別にみると、HIV 抗体検査受検では有意差がみられ認知群で高いが、コンドーム使用行動では有意差はみられないことは先行研究と一致しており、ベースラインを基軸とした経年的な分析方法が必要であると考えられる。

#### E. 結論

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的とした。啓発介入は CBO と協働で開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等で HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価することとした。連続横断調査を用いて従来型啓発介入の効果評価を実施した結果、介入プログラム「やる!プロジェクト」の認知割合は有意に上昇しており、浸透度は 20 歳代から 30 歳代以上へと徐々に拡大していることが示唆された。一方で HIV 抗体検査受検割合も上昇しており、保健所受検者における介入プログラム資料の認知割合や MSM 割合も高くなっていることから、本研

究による介入プログラム「やる!プロジェクト」は MSM における検査行動を促進させた可能性が示唆された。

## G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

## F. 発表論文等

### 1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一: 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エイズ学会誌, 19, (1):16-23, 2017
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太: MSM における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域, 32(5):1029-1038, 2016.

### 2. 学会発表（国内）

- 1) 塩野徳史: エイズとコミュニティ-MASH 大阪とは何か?. 第75回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」2016 年 10 月, 大阪.
- 2) 鬼塚哲郎: MASH 大阪のはじまりと 10 年の歩み-地域コミュニティの形成と人材の成長. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」2016 年 10 月, 大阪.
- 3) 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 駒野淳, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 柴田敏之, 木下 優. 塩野徳史: 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 27 年度実績報告. 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月、鹿児島.

### 3. 学会発表（国外）

なし

付表 1 近畿地域における調査別分析① 基本属性・検査行動・性意識

	調査 1 n=602	調査 2 n=236	調査 3 n=500	調査 4 n=296	調査 5 n=286	調査 6 n=300	合計 n=2220	Pearsonの カイ2乗							
年齢層															
24歳以下	139	23.1%	66	28.0%	109	21.8%	49	16.6%	61	21.3%	35	11.7%	459	20.7%	<b>&lt;0.01</b>
25-29歳	200	33.2%	60	25.4%	175	35.0%	73	24.7%	79	27.6%	95	31.7%	682	30.7%	
30-34歳	115	19.1%	53	22.5%	94	18.8%	59	19.9%	68	23.8%	76	25.3%	465	20.9%	
35-39歳	82	13.6%	26	11.0%	59	11.8%	53	17.9%	36	12.6%	51	17.0%	307	13.8%	
40-44歳	40	6.6%	22	9.3%	38	7.6%	39	13.2%	26	9.1%	16	5.3%	181	8.2%	
45歳以上	26	4.3%	9	3.8%	25	5.0%	23	7.8%	16	5.6%	27	9.0%	126	5.7%	
居住形態															
1人暮らし	282	46.8%	124	52.5%	250	50.0%	147	49.7%	143	50.0%	177	59.0%	1123	50.6%	0.13
同性のパートナー・友達	76	12.6%	20	8.5%	49	9.8%	34	11.5%	30	10.5%	25	8.3%	234	10.5%	
親・家族・異性・その他	244	40.5%	92	39.0%	201	40.2%	115	38.9%	113	39.5%	98	32.7%	863	38.9%	
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？															
正規雇用	347	57.6%	129	54.7%	291	58.2%	168	56.8%	181	63.3%	201	67.0%	1317	59.3%	0.06
非正規雇用	62	10.3%	27	11.4%	48	9.6%	37	12.5%	26	9.1%	27	9.0%	227	10.2%	
パートタイマー	9	1.5%	0	0.0%	8	1.6%	4	1.4%	5	1.7%	2	.7%	28	1.3%	
アルバイト	60	10.0%	24	10.2%	46	9.2%	22	7.4%	19	6.6%	22	7.3%	193	8.7%	
経営者	30	5.0%	6	2.5%	13	2.6%	15	5.1%	13	4.5%	13	4.3%	90	4.1%	
学生	62	10.3%	37	15.7%	51	10.2%	35	11.8%	28	9.8%	25	8.3%	238	10.7%	
その他	32	5.3%	13	5.5%	43	8.6%	15	5.1%	14	4.9%	10	3.3%	127	5.7%	
「やる！プロジェクト」で配布されている資料を知っていますか？															
知っている	16	2.7%	24	10.2%	80	16.0%	75	25.3%	129	45.1%	157	52.3%	481	21.7%	<b>&lt;0.01</b>
知らない	586	97.3%	212	89.8%	420	84.0%	221	74.7%	157	54.9%	143	47.7%	1739	78.3%	
これまでに「やる！プロジェクト」で配布されている資料をもらったことがありますか？															
もらったことはない	601	99.8%	230	97.5%	462	92.4%	245	82.8%	233	81.5%	222	74.0%	1993	89.8%	<b>&lt;0.01</b>
過去6か月以内にもらった	1	.2%	6	2.5%	38	7.6%	51	17.2%	53	18.5%	78	26.0%	227	10.2%	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ある	378	62.8%	160	67.8%	333	66.6%	218	73.6%	186	65.0%	211	70.3%	1486	66.9%	<b>0.02</b>
ない	224	37.2%	76	32.2%	167	33.4%	78	26.4%	100	35.0%	89	29.7%	734	33.1%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？*															
1回だけ	138	36.5%	66	41.3%	138	41.4%	90	41.3%	75	40.3%	69	32.7%	576	38.8%	0.34
2回	74	19.6%	30	18.8%	53	15.9%	40	18.3%	35	18.8%	45	21.3%	277	18.6%	
3回	54	14.3%	24	15.0%	45	13.5%	25	11.5%	31	16.7%	21	10.0%	200	13.5%	
4回以上	112	29.6%	40	25.0%	97	29.1%	63	28.9%	45	24.2%	76	36.0%	433	29.1%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ない	392	65.1%	137	58.1%	296	59.2%	181	61.1%	176	61.5%	172	57.3%	1354	61.0%	0.18
ある	210	34.9%	99	41.9%	204	40.8%	115	38.9%	110	38.5%	128	42.7%	866	39.0%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？															
ない	451	74.9%	169	71.6%	357	71.4%	216	73.0%	207	72.4%	217	72.3%	1617	72.8%	0.84
ある	151	25.1%	67	28.4%	143	28.6%	80	27.0%	79	27.6%	83	27.7%	603	27.2%	
過去6ヶ月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか？															
意図なし	198	32.9%	72	30.5%	175	35.0%	81	27.4%	97	33.9%	82	27.3%	705	31.8%	0.11
意図あり	404	67.1%	164	69.5%	325	65.0%	215	72.6%	189	66.1%	218	72.7%	1515	68.2%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？															
いつも持っていた	250	41.5%	118	50.0%	211	42.2%	138	46.6%	122	42.7%	151	50.3%	990	44.6%	0.05
時々持っていた	144	23.9%	56	23.7%	120	24.0%	77	26.0%	70	24.5%	77	25.7%	544	24.5%	
持っていなかった	208	34.6%	62	26.3%	169	33.8%	81	27.4%	94	32.9%	72	24.0%	686	30.9%	
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしましたか？															
はい	388	64.5%	165	69.9%	349	69.8%	220	74.3%	195	68.2%	226	75.3%	1543	69.5%	<b>0.01</b>
いいえ	214	35.5%	71	30.1%	151	30.2%	76	25.7%	91	31.8%	74	24.7%	677	30.5%	

\*生涯に HIV 抗体検査受検経験のある人を対象として分析したため総数は異なる。

付表2 近畿地域における調査別分析② 性交時の予防行動

	調査1	調査2	調査3	調査4	調査5	調査6	合計	Pearsonの カイ2乗
	n=388	n=165	n=349	n=220	n=195	n=226	n=1543	
過去6カ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？								
1人	121 31.2%	27 16.4%	105 30.1%	73 33.2%	60 30.8%	67 29.6%	453 29.4%	0.05
2人-3人	108 27.8%	65 39.4%	101 28.9%	66 30.0%	59 30.3%	66 29.2%	465 30.1%	
4人以上	159 41.0%	73 44.2%	143 41.0%	81 36.8%	76 39.0%	93 41.2%	625 40.5%	
過去6カ月間にアナルセックスをどのくらいしましたか？								
月に数回	331 85.3%	139 84.2%	310 88.8%	191 86.8%	159 81.5%	196 86.7%	1326 85.9%	0.06
週1回程度	40 10.3%	21 12.7%	25 7.2%	21 9.5%	17 8.7%	21 9.3%	145 9.4%	
週2回以上	17 4.4%	5 3.0%	14 4.0%	8 3.6%	19 9.7%	9 4.0%	72 4.7%	
過去6カ月間の併用品								
なし	334 86.1%	143 86.7%	307 88.0%	191 86.8%	174 89.2%	193 85.4%	1342 87.0%	<0.01
ほっき葉のみ	22 5.7%	14 8.5%	21 6.0%	14 6.4%	14 7.2%	29 12.8%	114 7.4%	
ドラッグ併用	32 8.2%	8 4.8%	21 6.0%	15 6.8%	7 3.6%	4 1.8%	87 5.6%	
過去6カ月間のコンドーム使用状況								
非常用	216 55.7%	97 58.8%	209 59.9%	128 58.2%	100 51.3%	113 50.0%	863 55.9%	0.15
常用	172 44.3%	68 41.2%	140 40.1%	92 41.8%	95 48.7%	113 50.0%	680 44.1%	

付表 3-1 ヤる!プロジェクト認知別分析

	調査5「やる!プロジェクト」				合計		Pearsonの カイ2乗
	知っている		知らない		n=286		
	n=129		n=157				
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?							
ある	93	72.1%	93	59.2%	186	65.0%	<b>0.02</b>
ない	36	27.9%	64	40.8%	100	35.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?							
ない	68	52.7%	108	68.8%	176	61.5%	<b>0.01</b>
ある	61	47.3%	49	31.2%	110	38.5%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?							
ない	83	64.3%	124	79.0%	207	72.4%	<b>0.01</b>
ある	46	35.7%	33	21.0%	79	27.6%	
過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験							
ない	60	46.5%	89	56.7%	149	52.1%	0.09
ある	69	53.5%	68	43.3%	137	47.9%	
過去6ヶ月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか?							
意図なし	42	32.6%	55	35.0%	97	33.9%	0.66
意図あり	87	67.4%	102	65.0%	189	66.1%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるようにいつも身近に持っていましたか?							
いつも持っていた	65	50.4%	57	36.3%	122	42.7%	0.06
時々持っていた	27	20.9%	43	27.4%	70	24.5%	
持っていなかった	37	28.7%	57	36.3%	94	32.9%	
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしましたか?							
はい	104	80.6%	91	58.0%	195	68.2%	<b>&lt;0.01</b>
いいえ	25	19.4%	66	42.0%	91	31.8%	
過去6ヶ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか?*							
1人	24	23.1%	36	39.6%	60	30.8%	<b>0.04</b>
2人-3人	33	31.7%	26	28.6%	59	30.3%	
4人以上	47	45.2%	29	31.9%	76	39.0%	
過去6ヶ月間にアナルセックスをどのくらいしましたか?*							
月に数回	86	82.7%	73	80.2%	159	81.5%	0.86
週1回程度	9	8.7%	8	8.8%	17	8.7%	
週2回以上	9	8.7%	10	11.0%	19	9.7%	
過去6ヶ月間の併用品*							
なし	93	89.4%	81	89.0%	174	89.2%	0.95
ぼつき薬のみ	7	6.7%	7	7.7%	14	7.2%	
ドラッグ併用	4	3.8%	3	3.3%	7	3.6%	
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*							
非常用	52	50.0%	48	52.7%	100	51.3%	0.70
常用	52	50.0%	43	47.3%	95	48.7%	

\*過去6ヶ月間に男性とのアナルセックス経験のある人を対象として分析したため総数は異なる。

付表 3-2 ヤる!プロジェクト認知別分析

	調査6「やる!プロジェクト」				合計		Pearsonの カイ2乗
	知っている		知らない		n=300		
	n=157		n=143				
これまでHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?							
ある	117	74.5%	94	65.7%	211	70.3%	0.10
ない	40	25.5%	49	34.3%	89	29.7%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?							
ない	80	51.0%	92	64.3%	172	57.3%	<b>0.02</b>
ある	77	49.0%	51	35.7%	128	42.7%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか?							
ない	105	66.9%	112	78.3%	217	72.3%	<b>0.03</b>
ある	52	33.1%	31	21.7%	83	27.7%	
過去6ヶ月間のHIVやエイズについての対話経験							
ない	79	50.3%	81	56.6%	160	53.3%	0.27
ある	78	49.7%	62	43.4%	140	46.7%	
過去6ヶ月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか?							
意図なし	38	24.2%	44	30.8%	82	27.3%	0.20
意図あり	119	75.8%	99	69.2%	218	72.7%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるようにいつも身近に持っていましたか?							
いつも持っていた	83	52.9%	68	47.6%	151	50.3%	<b>&lt;0.01</b>
時々持っていた	51	32.5%	26	18.2%	77	25.7%	
持っていなかった	23	14.6%	49	34.3%	72	24.0%	
過去6ヶ月間に男性とアナルセックスをしましたか?							
はい	124	79.0%	102	71.3%	226	75.3%	0.12
いいえ	33	21.0%	41	28.7%	74	24.7%	
過去6ヶ月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか?*							
1人	33	26.6%	34	33.3%	67	29.6%	0.50
2人-3人	39	31.5%	27	26.5%	66	29.2%	
4人以上	52	41.9%	41	40.2%	93	41.2%	
過去6ヶ月間にアナルセックスをどのくらいしましたか?*							
月に数回	110	88.7%	86	84.3%	196	86.7%	0.62
週1回程度	10	8.1%	11	10.8%	21	9.3%	
週2回以上	4	3.2%	5	4.9%	9	4.0%	
過去6ヶ月間の併用品*							
なし	110	88.7%	83	81.4%	193	85.4%	0.28
ぼっき薬のみ	12	9.7%	17	16.7%	29	12.8%	
ドラッグ併用	2	1.6%	2	2.0%	4	1.8%	
過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*							
非常用	66	53.2%	47	46.1%	113	50.0%	0.28
常用	58	46.8%	55	53.9%	113	50.0%	

\*過去6ヶ月間に男性とのアナルセックス経験のある人を対象として分析したため総数は異なる。



付表 4-1 【第 5 回目】年齢層別-居住地・基本属性・検査行動

	年齢層												合計 n=286	Pearson カイ2乗	
	24歳以下 n=61		25-29歳 n=79		30-34歳 n=68		35-39歳 n=36		40-44歳 n=26		45歳以上 n=16				
<b>居住地</b>															
滋賀県	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.4%	0.38
京都府	5	8.2%	8	10.1%	3	4.4%	2	5.6%	1	3.8%	3	18.8%	22	7.7%	
大阪府	36	59.0%	53	67.1%	45	66.2%	22	61.1%	23	88.5%	9	56.3%	188	65.7%	
兵庫県	15	24.6%	15	19.0%	13	19.1%	7	19.4%	2	7.7%	3	18.8%	55	19.2%	
奈良県	3	4.9%	3	3.8%	4	5.9%	1	2.8%	0	0.0%	1	6.3%	12	4.2%	
和歌山県	2	3.3%	0	0.0%	1	1.5%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.7%	
<b>居住形態</b>															
1人暮らし	27	44.3%	43	54.4%	27	39.7%	23	63.9%	14	53.8%	9	56.3%	143	50.0%	0.15
同性のパートナー・友達	7	11.5%	5	6.3%	8	11.8%	2	5.6%	6	23.1%	2	12.5%	30	10.5%	
親・家族・異性・その他	27	44.3%	31	39.2%	33	48.5%	11	30.6%	6	23.1%	5	31.3%	113	39.5%	
<b>あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？</b>															
正規雇用	23	37.7%	52	65.8%	46	67.6%	29	80.6%	21	80.8%	10	62.5%	181	63.3%	<0.01
非正規雇用	6	9.8%	11	13.9%	4	5.9%	1	2.8%	2	7.7%	2	12.5%	26	9.1%	
パートタイマー	1	1.6%	1	1.3%	0	0.0%	1	2.8%	0	0.0%	2	12.5%	5	1.7%	
アルバイト	8	13.1%	5	6.3%	5	7.4%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	19	6.6%	
経営者	1	1.6%	2	2.5%	5	7.4%	3	8.3%	1	3.8%	1	6.3%	13	4.5%	
学生	18	29.5%	6	7.6%	4	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	28	9.8%	
その他	4	6.6%	2	2.5%	4	5.9%	2	5.6%	1	3.8%	1	6.3%	14	4.9%	
<b>性的指向</b>															
ゲイ	43	70.5%	63	79.7%	58	85.3%	30	83.3%	24	92.3%	11	68.8%	229	80.1%	0.39
バイ	16	26.2%	13	16.5%	9	13.2%	5	13.9%	2	7.7%	5	31.3%	50	17.5%	
その他	2	3.3%	3	3.8%	1	1.5%	1	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	7	2.4%	
<b>これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？</b>															
ある	31	50.8%	53	67.1%	46	67.6%	24	66.7%	20	76.9%	12	75.0%	186	65.0%	0.15
ない	30	49.2%	26	32.9%	22	32.4%	12	33.3%	6	23.1%	4	25.0%	100	35.0%	
<b>これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？*1</b>															
1回だけ	17	54.8%	20	37.7%	12	26.1%	13	54.2%	7	35.0%	6	50.0%	75	40.3%	0.31
2回	5	16.1%	12	22.6%	10	21.7%	4	16.7%	2	10.0%	2	16.7%	35	18.8%	
3回	5	16.1%	11	20.8%	10	21.7%	2	8.3%	3	15.0%	0	0.0%	31	16.7%	
4回以上	4	12.9%	10	18.9%	14	30.4%	5	20.8%	8	40.0%	4	33.3%	45	24.2%	
<b>一番最近にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか？</b>															
現在から過去6か月間の間	23	37.7%	26	32.9%	16	23.5%	4	11.1%	8	30.8%	2	12.5%	79	27.6%	<0.01
過去6か月間から過去1年間の間	7	11.5%	11	13.9%	9	13.2%	2	5.6%	1	3.8%	1	6.3%	31	10.8%	
過去1年以上前から過去3年の間	1	1.6%	11	13.9%	11	16.2%	7	19.4%	5	19.2%	6	37.5%	41	14.3%	
過去3年以上前	0	0.0%	5	6.3%	10	14.7%	11	30.6%	6	23.1%	3	18.8%	35	12.2%	
生涯なし	30	49.2%	26	32.9%	22	32.4%	12	33.3%	6	23.1%	4	25.0%	100	35.0%	
<b>過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがあるのはどこですか？(複数回答)</b>															
chot CAST なんば	8	13.1%	22	27.8%	12	17.6%	4	11.1%	6	23.1%	2	12.5%	54	18.9%	0.12
府内の保健所・保健福祉センター	9	14.8%	9	11.4%	11	16.2%	4	11.1%	8	30.8%	3	18.8%	44	15.4%	0.17
府外の保健所・保健福祉センター	8	13.1%	16	20.3%	5	7.4%	3	8.3%	0	0.0%	2	12.5%	34	11.9%	0.02
病院・診療所・クリニック	5	8.2%	11	13.9%	14	20.6%	4	11.1%	6	23.1%	4	25.0%	44	15.4%	0.27
イベント検査	1	1.6%	3	3.8%	2	2.9%	0	0.0%	2	7.7%	1	6.3%	9	3.1%	0.33
distaでちえっくん	1	1.6%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	0.36
郵送検査	1	1.6%	1	1.3%	2	2.9%	1	2.8%	1	3.8%	0	0.0%	6	2.1%	0.49
その他	5	8.2%	4	5.1%	9	13.2%	8	22.2%	1	3.8%	1	6.3%	28	9.8%	0.03
<b>過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？(再掲)</b>															
ある	30	49.2%	37	46.8%	25	36.8%	6	16.7%	9	34.6%	3	18.8%	110	38.5%	0.01
ない	31	50.8%	42	53.2%	43	63.2%	30	83.3%	17	65.4%	13	81.3%	176	61.5%	
<b>過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？(再掲)</b>															
ある	23	37.7%	26	32.9%	16	23.5%	4	11.1%	8	30.8%	2	12.5%	79	27.6%	0.04
ない	38	62.3%	53	67.1%	52	76.5%	32	88.9%	18	69.2%	14	87.5%	207	72.4%	

\*1 生涯にHIV抗体検査受検経験のある人(n=186)を対象として分析したため総数が異なる。

付表 4-2 【第 5 回目】年齢層別-性感染症既往・過去 6 カ月間の商業施設利用、  
過去 6 カ月間の対話経験

	年齢層												合計 n=286	Pearson カイ2乗	
	24歳以下 n=61		25-29歳 n=79		30-34歳 n=68		35-39歳 n=36		40-44歳 n=26		45歳以上 n=16				
次の中で、これまでにかかったことがある性感染症はありますか？(複数回答)															
梅毒	6	9.8%	5	6.3%	9	13.2%	6	16.7%	4	15.4%	2	12.5%	32	11.2%	0.57
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0.67
B型肝炎	1	1.6%	3	3.8%	6	8.8%	3	8.3%	1	3.8%	1	6.3%	15	5.2%	0.48
C型肝炎	0	0.0%	1	1.3%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	3	1.0%	0.34
クラミジア	1	1.6%	3	3.8%	7	10.3%	2	5.6%	5	19.2%	2	12.5%	20	7.0%	<b>0.04</b>
尖圭コンジローマ	0	0.0%	2	2.5%	3	4.4%	3	8.3%	2	7.7%	0	0.0%	10	3.5%	0.22
淋病	1	1.6%	5	6.3%	7	10.3%	0	0.0%	3	11.5%	0	0.0%	16	5.6%	0.09
HIV感染症	0	0.0%	2	2.5%	4	5.9%	2	5.6%	2	7.7%	0	0.0%	10	3.5%	0.31
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	1	0.3%	0.07
毛じらみ	6	9.8%	14	17.7%	19	27.9%	16	44.4%	5	19.2%	4	25.0%	64	22.4%	<b>&lt;0.01</b>
性器ヘルペス	1	1.6%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	1	3.8%	1	6.3%	4	1.4%	0.36
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	46	75.4%	54	68.4%	34	50.0%	19	52.8%	12	46.2%	8	50.0%	173	60.5%	<b>0.01</b>
次の中で、過去1年間にかかったことがある性感染症はありますか？(複数回答)															
梅毒	5	8.2%	2	2.5%	3	4.4%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	11	3.8%	0.34
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	0	0.0%	3	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.0%	0.16
C型肝炎	1	1.6%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	0.83
クラミジア	0	0.0%	1	1.3%	2	2.9%	0	0.0%	1	3.8%	1	6.3%	5	1.7%	0.42
尖圭コンジローマ	0	0.0%	1	1.3%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	0.86
淋病	0	0.0%	2	2.5%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.0%	0.66
HIV感染症	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	2	0.7%	0.37
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	1	1.6%	4	5.1%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.1%	0.39
性器ヘルペス	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	2	0.7%	0.10
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	53	86.9%	67	84.8%	61	89.7%	36	100.0%	23	88.5%	14	87.5%	254	88.8%	0.29
過去6か月間に、以下の施設やサービスを利用しましたか？(複数回答)															
ゲイバー	43	70.5%	59	74.7%	40	58.8%	23	63.9%	16	61.5%	9	56.3%	190	66.4%	0.33
ゲイナイト	21	34.4%	33	41.8%	24	35.3%	11	30.6%	8	30.8%	5	31.3%	102	35.7%	0.83
ゲイショップ	9	14.8%	16	20.3%	16	23.5%	10	27.8%	4	15.4%	6	37.5%	61	21.3%	0.33
PC出会い系サイト	5	8.2%	11	13.9%	9	13.2%	2	5.6%	3	11.5%	1	6.3%	31	10.8%	0.70
携帯出会い系サイト	16	26.2%	18	22.8%	21	30.9%	11	30.6%	4	15.4%	4	25.0%	74	25.9%	0.67
mixiなどのSNS	9	14.8%	13	16.5%	9	13.2%	4	11.1%	4	15.4%	2	12.5%	41	14.3%	0.98
エロ系SNS	3	4.9%	6	7.6%	5	7.4%	3	8.3%	0	0.0%	2	12.5%	19	6.6%	0.64
スマートフォンのゲイ向けアプリ	34	55.7%	50	63.3%	42	61.8%	22	61.1%	13	50.0%	7	43.8%	168	58.7%	0.62
ゲイ向けサークル	3	4.9%	5	6.3%	2	2.9%	3	8.3%	1	3.8%	2	12.5%	16	5.6%	0.68
ゲイ向け合コン	0	0.0%	8	10.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	2.8%	<b>&lt;0.01</b>
ゲイの乱歩	4	6.6%	2	2.5%	2	2.9%	2	5.6%	1	3.8%	0	0.0%	11	3.8%	0.75
有料のハッテン場	15	24.6%	29	36.7%	32	47.1%	9	25.0%	8	30.8%	6	37.5%	99	34.6%	0.10
ハッテン場で有名な公共施設	0	0.0%	2	2.5%	7	10.3%	4	11.1%	1	3.8%	2	12.5%	16	5.6%	<b>0.04</b>
野外のハッテン場	3	4.9%	17	21.5%	13	19.1%	4	11.1%	5	19.2%	5	31.3%	47	16.4%	<b>0.05</b>
いずれもない	3	4.9%	3	3.8%	7	10.3%	1	2.8%	0	0.0%	1	6.3%	15	5.2%	0.33
過去6か月間に、親や兄弟姉妹などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	7	11.5%	6	7.6%	9	13.2%	3	8.3%	3	11.5%	1	6.3%	29	10.1%	0.76
ない	49	80.3%	68	86.1%	56	82.4%	33	91.7%	22	84.6%	13	81.3%	241	84.3%	
家族はいない	5	8.2%	5	6.3%	3	4.4%	0	0.0%	1	3.8%	2	12.5%	16	5.6%	
過去6か月間に、彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	12	19.7%	16	20.3%	21	30.9%	7	19.4%	8	30.8%	4	25.0%	68	23.8%	<b>0.04</b>
ない	37	60.7%	52	65.8%	36	52.9%	28	77.8%	11	42.3%	6	37.5%	170	59.4%	
恋人はいなかった	12	19.7%	11	13.9%	11	16.2%	1	2.8%	7	26.9%	6	37.5%	48	16.8%	
過去6か月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	28	45.9%	32	40.5%	29	42.6%	13	36.1%	14	53.8%	9	56.3%	125	43.7%	0.51
ない	31	50.8%	45	57.0%	39	57.4%	23	63.9%	12	46.2%	6	37.5%	156	54.5%	
友達はいなかった	2	3.3%	2	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	5	1.7%	

付表 4-3 【第 5 回目】年齢層別-過去 6 カ月間の性行動

	年齢層										合計 n=286	Pearson カイ2乗			
	24歳以下 n=61	25-29歳 n=79	30-34歳 n=68	35-39歳 n=36	40-44歳 n=26	45歳以上 n=16									
過去6か月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか？															
意図なし	30	49.2%	16	20.3%	23	33.8%	14	38.9%	8	30.8%	6	37.5%	97	33.9%	<b>0.02</b>
意図あり	31	50.8%	63	79.7%	45	66.2%	22	61.1%	18	69.2%	10	62.5%	189	66.1%	
過去6か月間に、コンドームをすぐに使えるようにも身近に持っていましたか？															
いつも持っていた	22	36.1%	39	49.4%	29	42.6%	11	30.6%	12	46.2%	9	56.3%	122	42.7%	0.68
時々持っていた	18	29.5%	18	22.8%	15	22.1%	9	25.0%	7	26.9%	3	18.8%	70	24.5%	
持っていなかった	21	34.4%	22	27.8%	24	35.3%	16	44.4%	7	26.9%	4	25.0%	94	32.9%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？															
はい	52	85.2%	72	91.1%	62	91.2%	30	83.3%	25	96.2%	14	87.5%	255	89.2%	0.07
いいえ	3	4.9%	4	5.1%	5	7.4%	6	16.7%	1	3.8%	2	12.5%	21	7.3%	
生涯セックスなし	6	9.8%	3	3.8%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.5%	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？*1															
現在から過去6か月間の間	47	90.4%	61	84.7%	46	74.2%	16	53.3%	17	68.0%	8	57.1%	195	76.5%	<b>0.01</b>
過去6か月間から過去1年間の間	2	3.8%	4	5.6%	2	3.2%	3	10.0%	0	0.0%	2	14.3%	13	5.1%	
1年以上前	2	3.8%	7	9.7%	10	16.1%	9	30.0%	7	28.0%	4	28.6%	39	15.3%	
覚えていない	1	1.9%	0	0.0%	4	6.5%	2	6.7%	1	4.0%	0	0.0%	8	3.1%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？*1															
彼氏や恋人	15	28.8%	17	23.6%	23	37.1%	4	13.3%	10	40.0%	3	21.4%	72	28.2%	0.35
友達やセクフレ	19	36.5%	34	47.2%	24	38.7%	14	46.7%	10	40.0%	5	35.7%	106	41.6%	
その場限りの相手	16	30.8%	21	29.2%	15	24.2%	11	36.7%	4	16.0%	5	35.7%	72	28.2%	
その他	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.3%	1	4.0%	1	7.1%	5	2.0%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使用しましたか？*1															
使った	29	55.8%	55	76.4%	42	67.7%	18	60.0%	18	72.0%	13	92.9%	175	68.6%	0.06
使わなかった	20	38.5%	15	20.8%	19	30.6%	8	26.7%	5	20.0%	1	7.1%	68	26.7%	
覚えていない	3	5.8%	2	2.8%	1	1.6%	4	13.3%	2	8.0%	0	0.0%	12	4.7%	
過去6か月間に男性とアナルセックスをしましたか？(再掲)															
はい	47	77.0%	61	77.2%	46	67.6%	16	44.4%	17	65.4%	8	50.0%	195	68.2%	<b>0.01</b>
いいえ	5	8.2%	11	13.9%	16	23.5%	14	38.9%	8	30.8%	6	37.5%	60	21.0%	
生涯なし	9	14.8%	7	8.9%	6	8.8%	6	16.7%	1	3.8%	2	12.5%	31	10.8%	
過去6か月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？*2															
1人	12	25.5%	18	29.5%	19	41.3%	3	18.8%	6	35.3%	2	25.0%	60	30.8%	0.21
2人	12	25.5%	10	16.4%	8	17.4%	2	12.5%	2	11.8%	0	0.0%	34	17.4%	
3人	9	19.1%	5	8.2%	5	10.9%	3	18.8%	1	5.9%	2	25.0%	25	12.8%	
4人	3	6.4%	4	6.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	17.6%	0	0.0%	10	5.1%	
5人	0	0.0%	3	4.9%	3	6.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.1%	
6人以上	11	23.4%	21	34.4%	11	23.9%	8	50.0%	5	29.4%	4	50.0%	60	30.8%	
過去6か月間にアナルセックスをどのくらいしましたか？*2															
月に1回程度以下	32	68.1%	31	50.8%	29	63.0%	11	68.8%	10	58.8%	3	37.5%	116	59.5%	0.75
月に2~3回	6	12.8%	16	26.2%	10	21.7%	2	12.5%	5	29.4%	4	50.0%	43	22.1%	
週1回程度	4	8.5%	8	13.1%	3	6.5%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	17	8.7%	
週2~4回	3	6.4%	5	8.2%	3	6.5%	1	6.3%	2	11.8%	1	12.5%	15	7.7%	
週5回以上	2	4.3%	1	1.6%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.1%	
過去6か月間に、使用したものはありますか？(複数回答)*2															
水溶性ローション(潤滑剤)	43	91.5%	57	93.4%	43	93.5%	15	93.8%	17	100.0%	8	100.0%	183	93.8%	0.83
ハンドクリーム	0	0.0%	2	3.3%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%	
ぼっき薬(バイアグラなど)	2	4.3%	3	4.9%	5	10.9%	2	12.5%	2	11.8%	0	0.0%	14	7.2%	0.57
ラッシュ	3	6.4%	0	0.0%	2	4.3%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	6	3.1%	
SMEO-DIPT(ゴメオ、フォクシー)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	1	0.5%	0.06
スピード・エクスタシー(MDMAなど)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
その他のセックスドラッグ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	0.5%	<0.01
脱法ハーブ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
静脈注射のドラッグ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
違法ドラッグ(マリファナ・コカイン等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
いずれも使用していない	3	6.4%	3	4.9%	2	4.3%	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	9	4.6%	0.89
過去6か月間の併用品(再掲)*2															
なし	42	89.4%	58	95.1%	39	84.8%	14	87.5%	14	82.4%	7	87.5%	174	89.2%	0.45
ぼっき薬のみ	2	4.3%	3	4.9%	5	10.9%	2	12.5%	2	11.8%	0	0.0%	14	7.2%	
ドラッグ併用	3	6.4%	0	0.0%	2	4.3%	0	0.0%	1	5.9%	1	12.5%	7	3.6%	
過去6か月間にアナルセックスをした相手(複数回答)*2															
彼氏や恋人	16	34.0%	14	23.0%	15	32.6%	2	12.5%	7	41.2%	1	12.5%	55	28.2%	0.27
友達やセクフレ	24	51.1%	37	60.7%	26	56.5%	9	56.3%	7	41.2%	4	50.0%	107	54.9%	
その場限り・その他	18	38.3%	22	36.1%	14	30.4%	9	56.3%	7	41.2%	6	75.0%	76	39.0%	
過去6か月間のコンドーム使用状況*2															
非常用	28	59.6%	26	42.6%	25	54.3%	9	56.3%	8	47.1%	4	50.0%	100	51.3%	0.61
常用	19	40.4%	35	57.4%	21	45.7%	7	43.8%	9	52.9%	4	50.0%	95	48.7%	
彼氏や恋人などの相手のコンドーム使用状況*3															
非常用	13	54.2%	18	48.6%	11	42.3%	5	55.6%	4	57.1%	2	50.0%	53	49.5%	0.96
常用	11	45.8%	19	51.4%	15	57.7%	4	44.4%	3	42.9%	2	50.0%	54	50.5%	
友達やセクフレなどの相手とのコンドーム使用状況*4															
非常用	9	50.0%	8	36.4%	12	85.7%	6	66.7%	4	57.1%	3	50.0%	42	55.3%	0.10
常用	9	50.0%	14	63.6%	2	14.3%	3	33.3%	3	42.9%	3	50.0%	34	44.7%	
その場限りの相手とのコンドーム使用状況*5															
非常用	28	59.6%	26	42.6%	25	54.3%	9	56.3%	8	47.1%	4	50.0%	100	51.3%	0.61
常用	19	40.4%	35	57.4%	21	45.7%	7	43.8%	9	52.9%	4	50.0%	95	48.7%	

\*1 生涯に男性との性交経験のある人(n=255)を対象として分析したため総数が異なる。

\*2 過去6か月間に男性とのアナルセックス経験のある人(n=195)を対象として分析したため総数が異なる。

\*3 過去6か月間に彼氏や恋人などの相手との性交経験のある人(n=55)を対象として分析したため総数が異なる。

\*4 過去6か月間に友達やセクフレなどの相手との性交経験のある人(n=107)を対象として分析したため総数が異なる。

\*5 過去6か月間にその場限りの相手との性交経験のある人(n=76)を対象として分析したため総数が異なる。

付表 4-4 【第 5 回目】年齢層別-CBO 活動の認知

	年齢層										合計	Pearson カイ2乗			
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45歳以上									
大阪のコミュニティセンターdista(ディスタ)を知っていますか？															
知っている	26	42.6%	39	49.4%	36	52.9%	23	63.9%	15	57.7%	10	62.5%	149	52.1%	0.36
知らない	35	57.4%	40	50.6%	32	47.1%	13	36.1%	11	42.3%	6	37.5%	137	47.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
これまでにdista(ディスタ)に行ったことがありますか？															
過去6か月以内に行った	8	13.1%	7	8.9%	5	7.4%	2	5.6%	1	3.8%	0	0.0%	23	8.0%	0.25
過去6か月より以前に行った	4	6.6%	14	17.7%	13	19.1%	11	30.6%	4	15.4%	4	25.0%	50	17.5%	
行ったことはない	14	23.0%	18	22.8%	18	26.5%	10	27.8%	10	38.5%	6	37.5%	76	26.6%	
知らない	35	57.4%	40	50.6%	32	47.1%	13	36.1%	11	42.3%	6	37.5%	137	47.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
dista(ディスタ)で実施している次のプログラムを知っていますか？															
STEP PARTY	9	14.8%	10	12.7%	7	10.3%	1	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	27	9.4%	0.10
南界堂茶会	1	1.6%	2	2.5%	5	7.4%	2	5.6%	2	7.7%	4	25.0%	16	5.6%	0.01
専門家による暖話室(専門相談会)	0	0.0%	3	3.8%	1	1.5%	4	11.1%	0	0.0%	2	12.5%	10	3.5%	0.02
distaでちえっくん(HIV&梅毒検査)	6	9.8%	8	10.1%	13	19.1%	7	19.4%	4	15.4%	6	37.5%	44	15.4%	0.07
いずれも知らない	13	21.3%	22	27.8%	17	25.0%	12	33.3%	10	38.5%	2	12.5%	76	26.6%	0.37
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
南界堂通信を知っていますか？															
知っている	5	8.2%	5	6.3%	6	8.8%	4	11.1%	4	15.4%	5	31.3%	29	10.1%	0.07
知らない	56	91.8%	74	93.7%	62	91.2%	32	88.9%	22	84.6%	11	68.8%	257	89.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
これまでに南界堂通信を読んだことがありますか？															
過去6か月以内に読んだ	2	3.3%	2	2.5%	1	1.5%	1	2.8%	0	0.0%	2	12.5%	8	2.8%	0.21
過去6か月より以前に読んだ	1	1.6%	1	1.3%	1	1.5%	1	2.8%	1	3.8%	2	12.5%	7	2.4%	
読んだことはない	2	3.3%	2	2.5%	4	5.9%	2	5.6%	3	11.5%	1	6.3%	14	4.9%	
知らない	56	91.8%	74	93.7%	62	91.2%	32	88.9%	22	84.6%	11	68.8%	257	89.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
あなたとイクッ街のマップ「イクッなび」を知っていますか？															
知っている	3	4.9%	14	17.7%	5	7.4%	3	8.3%	0	0.0%	1	6.3%	26	9.1%	0.04
知らない	58	95.1%	65	82.3%	63	92.6%	33	91.7%	26	100.0%	15	93.8%	260	90.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
これまでに「イクッなび」を読んだことがありますか？															
過去6か月以内に読んだ	3	4.9%	4	5.1%	2	2.9%	1	2.8%	0	0.0%	1	6.3%	11	3.8%	0.17
過去6か月より以前に読んだ	0	0.0%	2	2.5%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.4%	
読んだことはない	0	0.0%	8	10.1%	1	1.5%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	11	3.8%	
知らない	58	95.1%	65	82.3%	63	92.6%	33	91.7%	26	100.0%	15	93.8%	260	90.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
「やる！プロジェクト」で配布されている資料を知っていますか？															
知っている	32	52.5%	42	53.2%	23	33.8%	15	41.7%	9	34.6%	8	50.0%	129	45.1%	0.14
知らない	29	47.5%	37	46.8%	45	66.2%	21	58.3%	17	65.4%	8	50.0%	157	54.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	
これまでに「やる！プロジェクト」で配布されている資料をもらったことがありますか？															
過去6か月以内にもらった	14	23.0%	19	24.1%	8	11.8%	6	16.7%	3	11.5%	3	18.8%	53	18.5%	0.49
過去6か月より以前にもらった	4	6.6%	8	10.1%	8	11.8%	4	11.1%	3	11.5%	3	18.8%	30	10.5%	
もらったことはない	14	23.0%	15	19.0%	7	10.3%	5	13.9%	3	11.5%	2	12.5%	46	16.1%	
知らない	29	47.5%	37	46.8%	45	66.2%	21	58.3%	17	65.4%	8	50.0%	157	54.9%	
合計	61	100.0%	79	100.0%	68	100.0%	36	100.0%	26	100.0%	16	100.0%	286	100.0%	

付表 5-1 【第 6 回目】年齢層別-居住地・基本属性・検査行動

	年齢層										合計 n=300	Pearson カイ2乗			
	24歳以下 n=35	25-29歳 n=95	30-34歳 n=76	35-39歳 n=51	40-44歳 n=16	45歳以上 n=27									
居住地															
滋賀県	5	14.3%	3	3.2%	0	0.0%	2	3.9%	0	0.0%	2	7.4%	12	4.0%	<b>0.02</b>
京都府	5	14.3%	10	10.5%	6	7.9%	5	9.8%	1	6.3%	1	3.7%	28	9.3%	
大阪府	20	57.1%	66	69.5%	49	64.5%	25	49.0%	15	93.8%	14	51.9%	189	63.0%	
兵庫県	5	14.3%	13	13.7%	19	25.0%	17	33.3%	0	0.0%	9	33.3%	63	21.0%	
奈良県	0	0.0%	2	2.1%	0	0.0%	2	3.9%	0	0.0%	1	3.7%	5	1.7%	
和歌山県	0	0.0%	1	1.1%	2	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.0%	
居住形態															
1人暮らし	17	48.6%	61	64.2%	43	56.6%	31	60.8%	10	62.5%	15	55.6%	177	59.0%	<b>0.03</b>
同性のパートナー・友達	0	0.0%	6	6.3%	10	13.2%	2	3.9%	4	25.0%	3	11.1%	25	8.3%	
親・家族・異性・その他	18	51.4%	28	29.5%	23	30.3%	18	35.3%	2	12.5%	9	33.3%	98	32.7%	
あなたの現在の職業として、もっとも近いのは次のどれですか？															
正規雇用	13	37.1%	68	71.6%	48	63.2%	39	76.5%	11	68.8%	22	81.5%	201	67.0%	<b>&lt;0.01</b>
非正規雇用	2	5.7%	9	9.5%	7	9.2%	3	5.9%	4	25.0%	2	7.4%	27	9.0%	
パートタイマー	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	2	0.7%	
アルバイト	2	5.7%	8	8.4%	8	10.5%	3	5.9%	0	0.0%	1	3.7%	22	7.3%	
経営者	0	0.0%	1	1.1%	8	10.5%	3	5.9%	0	0.0%	1	3.7%	13	4.3%	
学生	17	48.6%	5	5.3%	2	2.6%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	25	8.3%	
その他	1	2.9%	3	3.2%	3	3.9%	2	3.9%	1	6.3%	0	0.0%	10	3.3%	
性的指向															
ゲイ	25	71.4%	77	81.1%	59	77.6%	40	78.4%	15	93.8%	23	85.2%	239	79.7%	0.64
バイ	8	22.9%	11	11.6%	13	17.1%	10	19.6%	1	6.3%	3	11.1%	46	15.3%	
その他	2	5.7%	7	7.4%	4	5.3%	1	2.0%	0	0.0%	1	3.7%	15	5.0%	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？															
ある	19	54.3%	68	71.6%	60	78.9%	31	60.8%	12	75.0%	21	77.8%	211	70.3%	0.07
ない	16	45.7%	27	28.4%	16	21.1%	20	39.2%	4	25.0%	6	22.2%	89	29.7%	
これまでに何回HIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？*1															
1回だけ	8	42.1%	26	38.2%	19	31.7%	6	19.4%	4	33.3%	6	28.6%	69	32.7%	0.62
2回	5	26.3%	15	22.1%	10	16.7%	7	22.6%	3	25.0%	5	23.8%	45	21.3%	
3回	1	5.3%	9	13.2%	5	8.3%	5	16.1%	1	8.3%	0	0.0%	21	10.0%	
4回以上	5	26.3%	18	26.5%	26	43.3%	13	41.9%	4	33.3%	10	47.6%	76	36.0%	
一番最近にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたのはいつですか？															
現在から過去6カ月間の間	7	20.0%	33	34.7%	26	34.2%	8	15.7%	2	12.5%	7	25.9%	83	27.7%	0.07
過去6カ月間から過去1年間の間	5	14.3%	15	15.8%	12	15.8%	6	11.8%	1	6.3%	6	22.2%	45	15.0%	
過去1年以上前から過去3年の間	5	14.3%	15	15.8%	13	17.1%	10	19.6%	4	25.0%	3	11.1%	50	16.7%	
過去3年以上前	2	5.7%	5	5.3%	9	11.8%	7	13.7%	5	31.3%	5	18.5%	33	11.0%	
生涯なし	16	45.7%	27	28.4%	16	21.1%	20	39.2%	4	25.0%	6	22.2%	89	29.7%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがあるのはどこですか？(複数回答)															
shot CAST なんば	2	5.7%	20	21.1%	19	25.0%	0	0.0%	2	12.5%	5	18.5%	48	16.0%	<b>0.01</b>
府内の保健所・保健福祉センター	3	8.6%	22	23.2%	6	7.9%	8	15.7%	3	18.8%	5	18.5%	47	15.7%	
府外の保健所・保健福祉センター	6	17.1%	9	9.5%	5	6.6%	4	7.8%	4	25.0%	2	7.4%	30	10.0%	<b>0.03</b>
病院・診療所・クリニック	3	8.6%	8	8.4%	17	22.4%	5	9.8%	1	6.3%	2	7.4%	36	12.0%	
イベント検査	1	2.9%	3	3.2%	2	2.6%	2	3.9%	3	18.8%	0	0.0%	11	3.7%	<b>0.01</b>
distaでちえっくん	1	2.9%	3	3.2%	2	2.6%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	2.3%	
郵送検査	1	2.9%	2	2.1%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.3%	0.18
その他	2	5.7%	5	5.3%	7	9.2%	3	5.9%	0	0.0%	2	7.4%	19	6.3%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？(再掲)															
ある	12	34.3%	48	50.5%	38	50.0%	14	27.5%	3	18.8%	13	48.1%	128	42.7%	<b>0.02</b>
ない	23	65.7%	47	49.5%	38	50.0%	37	72.5%	13	81.3%	14	51.9%	172	57.3%	
過去6ヶ月間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？(再掲)															
ある	7	20.0%	33	34.7%	26	34.2%	8	15.7%	2	12.5%	7	25.9%	83	27.7%	0.06
ない	28	80.0%	62	65.3%	50	65.8%	43	84.3%	14	87.5%	20	74.1%	217	72.3%	

\*1 生涯にHIV抗体検査受検経験のある人(n=211)を対象として分析したため総数が異なる。

付表 5-2 【第 6 回目】年齢層別-性感染症既往・過去 6 カ月間の商業施設利用、  
過去 6 カ月間の対話経験

	年齢層												合計 n=300	Pearson カイ2乗	
	24歳以下 n=35		25-29歳 n=95		30-34歳 n=76		35-39歳 n=51		40-44歳 n=16		45歳以上 n=27				
次の中で、これまでにかかったことがある性感染症はありますか？(複数回答)															
梅毒	2	5.7%	10	10.5%	12	15.8%	5	9.8%	0	0.0%	3	11.1%	32	10.7%	0.42
A型肝炎	0	0.0%	2	2.1%	1	1.3%	2	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.7%	0.69
B型肝炎	1	2.9%	1	1.1%	8	10.5%	6	11.8%	1	6.3%	2	7.4%	19	6.3%	0.07
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	0	0.0%	6	6.3%	7	9.2%	3	5.9%	1	6.3%	5	18.5%	22	7.3%	0.13
尖圭コンジローマ	1	2.9%	4	4.2%	6	7.9%	4	7.8%	1	6.3%	4	14.8%	20	6.7%	0.43
淋病	0	0.0%	6	6.3%	3	3.9%	2	3.9%	0	0.0%	1	3.7%	12	4.0%	0.63
HIV感染症	0	0.0%	3	3.2%	3	3.9%	2	3.9%	2	12.5%	1	3.7%	11	3.7%	0.42
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.4%	2	0.7%	<0.01
毛じらみ	6	17.1%	15	15.8%	14	18.4%	17	33.3%	1	6.3%	11	40.7%	64	21.3%	0.01
性器ヘルペス	1	2.9%	1	1.1%	1	1.3%	1	2.0%	1	6.3%	0	0.0%	5	1.7%	0.68
その他	0	0.0%	1	1.1%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.4%	4	1.3%	0.11
いずれもない	26	74.3%	65	68.4%	42	55.3%	22	43.1%	11	68.8%	11	40.7%	177	59.0%	<0.01
次の中で、過去1年間にかかったことがある性感染症はありますか？(複数回答)															
梅毒	1	2.9%	7	7.4%	4	5.3%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	4.3%	0.40
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0.71
B型肝炎	1	2.9%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%	0.51
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	0	0.0%	3	3.2%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	1	3.7%	5	1.7%	0.53
尖圭コンジローマ	0	0.0%	5	5.3%	2	2.6%	1	2.0%	1	6.3%	0	0.0%	9	3.0%	0.49
淋病	1	2.9%	4	4.2%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.0%	0.42
HIV感染症	0	0.0%	2	2.1%	1	1.3%	0	0.0%	1	6.3%	1	3.7%	5	1.7%	0.50
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	4	11.4%	6	6.3%	2	2.6%	2	3.9%	1	6.3%	0	0.0%	15	5.0%	0.32
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	28	80.0%	74	77.9%	67	88.2%	45	88.2%	13	81.3%	25	92.6%	252	84.0%	0.28
過去6か月間に、以下の施設やサービスを利用しましたか？(複数回答)															
ゲイバー	22	62.9%	65	68.4%	48	63.2%	25	49.0%	10	62.5%	12	44.4%	182	60.7%	0.13
ゲイナイト	8	22.9%	42	44.2%	29	38.2%	14	27.5%	11	68.8%	12	44.4%	116	38.7%	0.01
ゲイショップ	6	17.1%	26	27.4%	18	23.7%	13	25.5%	5	31.3%	13	48.1%	81	27.0%	0.13
PC出会い系サイト	2	5.7%	17	17.9%	6	7.9%	8	15.7%	3	18.8%	3	11.1%	39	13.0%	0.28
携帯出会い系サイト	8	22.9%	19	20.0%	16	21.1%	17	33.3%	4	25.0%	9	33.3%	73	24.3%	0.43
mixiなどのSNS	6	17.1%	11	11.6%	7	9.2%	9	17.6%	2	12.5%	8	29.6%	43	14.3%	0.15
エロ系SNS	0	0.0%	4	4.2%	1	1.3%	1	2.0%	1	6.3%	4	14.8%	11	3.7%	0.03
スマートフォンのゲイ向けアプリ	20	57.1%	60	63.2%	50	65.8%	32	62.7%	11	68.8%	16	59.3%	189	63.0%	0.95
ゲイ向けサークル	2	5.7%	5	5.3%	3	3.9%	3	5.9%	0	0.0%	2	7.4%	15	5.0%	0.91
ゲイ向け合コン	0	0.0%	8	8.4%	2	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	3.3%	0.03
ゲイの乱歩	0	0.0%	4	4.2%	2	2.6%	3	5.9%	1	6.3%	0	0.0%	10	3.3%	0.56
有料のハッテン場	12	34.3%	39	41.1%	33	43.4%	26	51.0%	8	50.0%	16	59.3%	134	44.7%	0.37
ハッテン場で有名な公共施設	2	5.7%	6	6.3%	6	7.9%	5	9.8%	1	6.3%	2	7.4%	22	7.3%	0.98
野外のハッテン場	4	11.4%	13	13.7%	15	19.7%	10	19.6%	4	25.0%	9	33.3%	55	18.3%	0.21
LGBT関係のボランティア	1	2.9%	3	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.3%	0.38
いずれもない	3	8.6%	3	3.2%	2	2.6%	1	2.0%	0	0.0%	1	3.7%	10	3.3%	0.55
過去6か月間に、親や兄弟姉妹などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	3	8.6%	13	13.7%	12	15.8%	4	7.8%	2	12.5%	0	0.0%	34	11.3%	0.47
ない	28	80.0%	74	77.9%	60	78.9%	45	88.2%	13	81.3%	26	96.3%	246	82.0%	
家族はいない	4	11.4%	8	8.4%	4	5.3%	2	3.9%	1	6.3%	1	3.7%	20	6.7%	
過去6か月間に、彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	3	8.6%	18	18.9%	15	19.7%	12	23.5%	7	43.8%	3	11.1%	58	19.3%	0.13
ない	21	60.0%	55	57.9%	40	52.6%	25	49.0%	7	43.8%	12	44.4%	160	53.3%	
恋人はいなかった	11	31.4%	22	23.2%	21	27.6%	14	27.5%	2	12.5%	12	44.4%	82	27.3%	
過去6か月間に、友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	13	37.1%	47	49.5%	29	38.2%	19	37.3%	8	50.0%	6	22.2%	122	40.7%	0.36
ない	21	60.0%	47	49.5%	46	60.5%	30	58.8%	8	50.0%	21	77.8%	173	57.7%	
友達はいなかった	1	2.9%	1	1.1%	1	1.3%	2	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.7%	

付表 5-3 【第 6 回目】年齢層別-過去 6 カ月間の性行動

	年齢層						合計 n=300	Pearson カイ2乗							
	24歳以下 n=35	25-29歳 n=95	30-34歳 n=76	35-39歳 n=51	40-44歳 n=16	45歳以上 n=27									
過去6か月間を振り返ってコンドームについてどのように思っていましたか？															
意図なし	10	28.6%	20	21.1%	21	27.6%	19	37.3%	4	25.0%	8	29.6%	82	27.3%	0.47
意図あり	25	71.4%	75	78.9%	55	72.4%	32	62.7%	12	75.0%	19	70.4%	218	72.7%	
過去6か月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？															
いつも持っていた	13	37.1%	50	52.6%	41	53.9%	21	41.2%	10	62.5%	16	59.3%	151	50.3%	0.57
時々持っていた	13	37.1%	25	26.3%	17	22.4%	13	25.5%	3	18.8%	6	22.2%	77	25.7%	
持っていなかった	9	25.7%	20	21.1%	18	23.7%	17	33.3%	3	18.8%	5	18.5%	72	24.0%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？															
はい	29	82.9%	89	93.7%	71	93.4%	46	90.2%	13	81.3%	24	88.9%	272	90.7%	0.30
いいえ	6	17.1%	6	6.3%	5	6.6%	5	9.8%	3	18.8%	3	11.1%	28	9.3%	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？*1															
現在から過去6か月間の間	28	96.6%	74	83.1%	61	85.9%	37	80.4%	10	76.9%	16	66.7%	226	83.1%	0.14
過去6か月間から過去1年間の間	1	3.4%	8	9.0%	5	7.0%	0	0.0%	1	7.7%	2	8.3%	17	6.3%	
1年以上前	0	0.0%	6	6.7%	3	4.2%	7	15.2%	2	15.4%	5	20.8%	23	8.5%	
覚えていない	0	0.0%	1	1.1%	2	2.8%	2	4.3%	0	0.0%	1	4.2%	6	2.2%	
一番最近にアナルセックスした相手はどれにあてはまりますか？*1															
彼氏や恋人	5	17.2%	16	18.0%	14	19.7%	11	23.9%	2	15.4%	2	8.3%	50	18.4%	0.95
友達やセクフレ	10	34.5%	37	41.6%	28	39.4%	21	45.7%	5	38.5%	10	41.7%	111	40.8%	
その場限りの相手	13	44.8%	33	37.1%	28	39.4%	14	30.4%	6	46.2%	11	45.8%	105	38.6%	
その他	1	3.4%	3	3.4%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.2%	6	2.2%	
一番最近にアナルセックスした時、コンドームを使用しましたか？*1															
使った	21	72.4%	71	79.8%	49	69.0%	28	60.9%	11	84.6%	19	79.2%	199	73.2%	0.34
使わなかった	8	27.6%	16	18.0%	21	29.6%	15	32.6%	2	15.4%	4	16.7%	66	24.3%	
覚えていない	0	0.0%	2	2.2%	1	1.4%	3	6.5%	0	0.0%	1	4.2%	7	2.6%	
過去6か月間に男性とアナルセックスをしましたか？(再掲)															
はい	28	80.0%	74	77.9%	61	80.3%	37	72.5%	10	62.5%	16	59.3%	226	75.3%	0.14
いいえ	1	2.9%	15	15.8%	10	13.2%	9	17.6%	3	18.8%	8	29.6%	46	15.3%	
生涯なし	6	17.1%	6	6.3%	5	6.6%	5	9.8%	3	18.8%	3	11.1%	28	9.3%	
過去6か月間に全部で何人とアナルセックスをしましたか？*2															
1人	12	42.9%	20	27.0%	17	27.9%	10	27.0%	5	50.0%	3	18.8%	67	29.6%	0.82
2人	8	28.6%	13	17.6%	12	19.7%	7	18.9%	1	10.0%	3	18.8%	44	19.5%	
3人	2	7.1%	5	6.8%	8	13.1%	5	13.5%	1	10.0%	1	6.3%	22	9.7%	
4人	2	7.1%	5	6.8%	2	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	10	4.4%	
5人	1	3.6%	5	6.8%	5	8.2%	4	10.8%	1	10.0%	2	12.5%	18	8.0%	
6人以上	3	10.7%	26	35.1%	17	27.9%	11	29.7%	2	20.0%	6	37.5%	65	28.8%	
過去6か月間にアナルセックスをどのくらいしましたか？*2															
月に1回程度以下	21	75.0%	36	48.6%	38	62.3%	19	51.4%	6	60.0%	8	50.0%	128	56.6%	0.34
月に2~3回	6	21.4%	24	32.4%	12	19.7%	16	43.2%	4	40.0%	6	37.5%	68	30.1%	
週1回程度	1	3.6%	8	10.8%	9	14.8%	1	2.7%	0	0.0%	2	12.5%	21	9.3%	
週2~4回	0	0.0%	4	5.4%	2	3.3%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.1%	
週5回以上	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
過去6か月間に、使用したものはありますか？(複数回答)*2															
水溶性ローション(潤滑剤)	24	85.7%	71	95.9%	59	96.7%	36	97.3%	10	100.0%	16	100.0%	216	95.6%	0.15
ハンドクリーム	2	7.1%	8	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	11	4.9%	0.03
ぼっき葉(パイアグラなど)	1	3.6%	6	8.1%	7	11.5%	9	24.3%	2	20.0%	6	37.5%	31	13.7%	0.01
ラッシュ	1	3.6%	0	0.0%	1	1.6%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.3%	0.70
5MEO-DIPT(ゴメオ、フォクシー)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
スピード・エクスタシー(MDMAなど)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0.40
その他のセックスドラッグ	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	0.71
脱法ハーブ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
静脈注射のドラッグ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
違法ドラッグ(マリファナ・コカイン等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれも使用していない	2	7.1%	2	2.7%	1	1.6%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.7%	0.68
過去6か月間の併用品(再掲)*2															
なし	26	92.9%	68	91.9%	54	88.5%	27	73.0%	8	80.0%	10	62.5%	193	85.4%	0.02
ぼっき葉のみ	1	3.6%	6	8.1%	6	9.8%	8	21.6%	2	20.0%	6	37.5%	29	12.8%	
ドラッグ併用	1	3.6%	0	0.0%	1	1.6%	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.8%	
過去6か月間にアナルセックスをした相手(複数回答)*2															
彼氏や恋人	7	25.0%	21	28.4%	13	21.3%	7	18.9%	2	20.0%	3	18.8%	53	23.5%	0.87
友達やセクフレ	13	46.4%	38	51.4%	33	54.1%	22	59.5%	5	50.0%	8	50.0%	119	52.7%	0.94
その場限りの・その他	14	50.0%	36	48.6%	29	47.5%	19	51.4%	5	50.0%	11	68.8%	114	50.4%	0.78
過去6か月間のコンドーム使用状況*2															
非常用	14	50.0%	39	52.7%	30	49.2%	19	51.4%	4	40.0%	7	43.8%	113	50.0%	0.97
常用	14	50.0%	35	47.3%	31	50.8%	18	48.6%	6	60.0%	9	56.3%	113	50.0%	
彼氏や恋人などの相手のコンドーム使用状況*3															
非常用	5	71.4%	10	47.6%	9	69.2%	7	100.0%	2	100.0%	2	66.7%	35	66.0%	0.16
常用	2	28.6%	11	52.4%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	18	34.0%	
友達やセクフレなどの相手のコンドーム使用状況*4															
非常用	9	69.2%	22	57.9%	19	57.6%	10	45.5%	2	40.0%	4	50.0%	66	55.5%	0.76
常用	4	30.8%	16	42.1%	14	42.4%	12	54.5%	3	60.0%	4	50.0%	53	44.5%	
その場限りの相手のコンドーム使用状況*5															
非常用	2	14.3%	20	55.6%	14	48.3%	9	47.4%	2	40.0%	4	36.4%	51	44.7%	0.19
常用	12	85.7%	16	44.4%	15	51.7%	10	52.6%	3	60.0%	7	63.6%	63	55.3%	

\*1 生涯に男性との性交経験のある人(n=272)を対象として分析したため総数が異なる。

\*2 過去6か月間に男性とのアナルセックス経験のある人(n=226)を対象として分析したため総数が異なる。

\*3 過去6か月間に彼氏や恋人などの相手の性交経験のある人(n=53)を対象として分析したため総数が異なる。

\*4 過去6か月間に友達やセクフレなどの相手の性交経験のある人(n=119)を対象として分析したため総数が異なる。

\*5 過去6か月間にその場限りの相手の性交経験のある人(n=114)を対象として分析したため総数が異なる。



付表 5-4 【第 6 回目】年齢層別-CBO 活動の認知

	年齢層										合計	Pearson カイ2乗			
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45歳以上									
大阪のコミュニティセンターdista(ディスタ)を知っていますか？															
知っている	16	45.7%	50	52.6%	46	60.5%	26	51.0%	13	81.3%	18	66.7%	169	56.3%	0.13
知らない	19	54.3%	45	47.4%	30	39.5%	25	49.0%	3	18.8%	9	33.3%	131	43.7%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
これまでにdista(ディスタ)に行ったことがありますか？															
過去6か月以内に行った	6	17.1%	13	13.7%	8	10.5%	2	3.9%	1	6.3%	2	7.4%	32	10.7%	0.16
過去6か月より以前に行った	5	14.3%	14	14.7%	15	19.7%	9	17.6%	7	43.8%	6	22.2%	56	18.7%	
行ったことはない	5	14.3%	23	24.2%	23	30.3%	15	29.4%	5	31.3%	10	37.0%	81	27.0%	
知らない	19	54.3%	45	47.4%	30	39.5%	25	49.0%	3	18.8%	9	33.3%	131	43.7%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
dista(ディスタ)で実施している次のプログラムを知っていますか？															
STEP PARTY	6	17.1%	8	8.4%	6	7.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	21	7.0%	<b>0.04</b>
南界堂茶会	2	5.7%	4	4.2%	5	6.6%	4	7.8%	4	25.0%	4	14.8%	23	7.7%	
専門家による暖話室(専門相談会)	1	2.9%	2	2.1%	4	5.3%	4	7.8%	2	12.5%	4	14.8%	17	5.7%	0.11
distaでちえっくん(HIV&梅毒検査)	6	17.1%	12	12.6%	17	22.4%	11	21.6%	5	31.3%	8	29.6%	59	19.7%	
いずれも知らない	6	17.1%	29	30.5%	23	30.3%	12	23.5%	4	25.0%	8	29.6%	82	27.3%	0.68
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
南界堂通信を知っていますか？															
知っている	4	11.4%	12	12.6%	14	18.4%	5	9.8%	5	31.3%	8	29.6%	48	16.0%	0.09
知らない	31	88.6%	83	87.4%	62	81.6%	46	90.2%	11	68.8%	19	70.4%	252	84.0%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
これまでに南界堂通信を読んだことがありますか？															
過去6か月以内を読んだ	2	5.7%	5	5.3%	5	6.6%	2	3.9%	0	0.0%	1	3.7%	15	5.0%	0.13
過去6か月より以前を読んだ	0	0.0%	3	3.2%	3	3.9%	1	2.0%	3	18.8%	3	11.1%	13	4.3%	
読んだことはない	2	5.7%	4	4.2%	6	7.9%	2	3.9%	2	12.5%	4	14.8%	20	6.7%	
知らない	31	88.6%	83	87.4%	62	81.6%	46	90.2%	11	68.8%	19	70.4%	252	84.0%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
あなたとイクッ街のマップ「イクッなび」を知っていますか？															
知っている	6	17.1%	14	14.7%	16	21.1%	4	7.8%	2	12.5%	1	3.7%	43	14.3%	0.20
知らない	29	82.9%	81	85.3%	60	78.9%	47	92.2%	14	87.5%	26	96.3%	257	85.7%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
これまでに「イクッなび」を読んだことがありますか？															
過去6か月以内を読んだ	3	8.6%	9	9.5%	6	7.9%	2	3.9%	0	0.0%	1	3.7%	21	7.0%	0.49
過去6か月より以前を読んだ	1	2.9%	1	1.1%	5	6.6%	2	3.9%	1	6.3%	0	0.0%	10	3.3%	
読んだことはない	2	5.7%	4	4.2%	5	6.6%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	12	4.0%	
知らない	29	82.9%	81	85.3%	60	78.9%	47	92.2%	14	87.5%	26	96.3%	257	85.7%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
「やる！プロジェクト」で配布されている資料を知っていますか？															
知っている	18	51.4%	49	51.6%	44	57.9%	26	51.0%	7	43.8%	13	48.1%	157	52.3%	0.89
知らない	17	48.6%	46	48.4%	32	42.1%	25	49.0%	9	56.3%	14	51.9%	143	47.7%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	
これまでに「やる！プロジェクト」で配布されている資料をもらったことがありますか？															
過去6か月以内にもらった	8	22.9%	32	33.7%	27	35.5%	3	5.9%	2	12.5%	6	22.2%	78	26.0%	<b>0.01</b>
過去6か月より以前にもらった	4	11.4%	7	7.4%	9	11.8%	14	27.5%	4	25.0%	5	18.5%	43	14.3%	
もらったことはない	6	17.1%	10	10.5%	8	10.5%	9	17.6%	1	6.3%	2	7.4%	36	12.0%	
知らない	17	48.6%	46	48.4%	32	42.1%	25	49.0%	9	56.3%	14	51.9%	143	47.7%	
合計	35	100.0%	95	100.0%	76	100.0%	51	100.0%	16	100.0%	27	100.0%	300	100.0%	

付表 6-1 大阪府・大阪市・chotCAST なんば別 年齢層（月別：2014年1月～2016年9月）

	2014年													2015年													2016年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計			
大阪市	N	256	237	246	287	264	255	257	239	196	207	166	162	2772	181	203	126	132	128	151	112	154	149	209	230	167	1942	155	213	213	185	221	285	283	299	286	2140		
19歳以下		6	8	9	5	8	1	6	6	3	3	2	7	64	4	8	5	1	2	4	2	4	6	10	3	8	57	1	3	6	4	1	7	2	1	8	33		
		2.3%	3.4%	3.7%	1.7%	3.0%	0.4%	2.3%	2.5%	1.5%	1.4%	1.2%	4.3%	2.3%	2.2%	3.9%	4.0%	0.8%	1.6%	2.6%	1.8%	2.6%	4.0%	4.8%	1.3%	4.8%	2.9%	0.6%	1.4%	2.8%	2.2%	0.5%	2.5%	0.7%	0.3%	2.8%	1.5%		
20-29歳		88	72	81	80	77	80	93	68	65	54	49	38	845	61	62	34	44	45	40	34	48	54	75	44	595	52	85	59	50	65	83	105	93	78	670			
		34.4%	30.4%	32.9%	27.9%	29.2%	31.4%	36.2%	28.5%	33.2%	26.1%	29.5%	23.5%	30.5%	33.7%	30.5%	27.0%	33.3%	35.2%	26.5%	30.4%	31.2%	36.2%	25.8%	32.6%	26.3%	30.6%	33.5%	39.9%	27.7%	27.0%	29.4%	29.1%	37.1%	31.1%	27.3%	31.3%		
30-39歳		64	75	59	91	68	68	61	59	50	54	49	44	742	46	51	36	33	37	48	30	45	37	51	66	38	518	42	42	48	41	66	77	64	77	80	537		
		25.0%	31.6%	24.0%	31.7%	25.8%	26.7%	23.7%	24.7%	25.5%	26.1%	29.5%	27.2%	26.8%	25.4%	25.1%	28.6%	25.0%	28.9%	31.8%	26.8%	29.2%	24.8%	24.4%	28.7%	22.8%	26.7%	27.1%	19.7%	22.5%	22.2%	29.9%	27.0%	22.6%	25.8%	28.0%	25.1%		
40-49歳		52	32	44	55	56	49	38	40	33	43	29	28	499	23	35	25	19	13	24	18	21	18	35	38	29	298	26	37	35	35	40	60	44	69	58	404		
		20.3%	13.5%	17.9%	19.2%	21.2%	19.2%	14.8%	16.7%	16.8%	20.8%	17.5%	17.3%	18.0%	12.7%	17.2%	19.8%	14.4%	10.2%	15.9%	16.1%	13.6%	12.1%	16.7%	16.5%	17.4%	15.3%	16.8%	17.4%	16.4%	18.9%	18.1%	21.1%	15.5%	23.1%	20.3%	18.9%		
50-59歳		21	19	18	9	14	22	12	21	20	15	14	16	201	15	14	10	11	10	8	7	13	12	20	16	22	158	18	16	17	18	19	18	20	26	27	179		
		8.2%	8.0%	7.3%	3.1%	5.3%	8.6%	4.7%	8.8%	10.2%	7.2%	8.4%	9.9%	7.3%	8.3%	6.9%	7.9%	8.3%	7.8%	5.3%	6.3%	8.4%	8.1%	9.6%	7.0%	13.2%	8.1%	11.6%	7.5%	8.0%	9.7%	8.6%	6.3%	7.1%	8.7%	9.4%	8.4%		
60歳以上		14	13	15	10	12	4	17	13	11	9	9	12	139	9	5	6	10	6	6	8	6	5	17	11	14	103	3	11	15	14	9	9	19	14	21	115		
		5.5%	5.5%	6.1%	3.5%	4.5%	1.6%	6.6%	5.4%	5.6%	4.3%	5.4%	7.4%	5.0%	5.0%	2.5%	4.8%	7.6%	4.7%	4.0%	7.1%	3.9%	3.4%	8.1%	4.8%	8.4%	5.3%	1.9%	5.2%	7.0%	7.6%	4.1%	3.2%	6.7%	4.7%	7.3%	5.4%		
無回答		11	18	20	37	29	31	30	32	14	29	14	17	282	23	28	10	14	15	21	13	17	17	22	21	12	213	13	19	33	23	21	31	29	19	14	202		
		4.3%	7.6%	8.1%	12.9%	11.0%	12.2%	11.7%	13.4%	7.1%	14.0%	8.4%	10.5%	10.2%	12.7%	13.8%	7.9%	10.6%	11.7%	13.9%	11.6%	11.0%	11.4%	10.5%	9.1%	7.2%	11.0%	8.4%	8.9%	15.5%	12.4%	9.5%	10.9%	10.2%	6.4%	4.9%	9.4%		
大阪府	N	300	269	259	203	260	266	217	232	213	239	213	187	2858	210	212	215	189	151	212	186	195	174	192	171	209	2316	176	187	207	149	119	155	149	155	145	1442		
19歳以下		9	15	16	8	10	11	6	16	5	4	3	7	110	5	9	9	8	4	2	8	8	5	7	4	6	75	7	9	7	8	3	5	6	9	3	57		
		3.0%	5.6%	6.2%	3.9%	3.8%	4.1%	2.8%	6.9%	2.3%	1.7%	1.4%	3.7%	3.8%	2.4%	4.2%	4.2%	2.6%	0.9%	4.3%	4.1%	2.9%	3.6%	2.3%	2.9%	3.2%	4.0%	4.8%	3.4%	5.4%	2.5%	3.2%	4.0%	5.8%	2.1%	4.0%			
20-29歳		129	91	112	65	98	109	81	90	84	88	74	66	1087	74	72	73	59	48	65	64	69	68	68	56	65	781	63	56	74	51	35	57	47	68	45	496		
		43.0%	33.8%	43.2%	32.0%	37.7%	41.0%	37.3%	38.8%	39.4%	36.8%	34.7%	35.3%	38.0%	35.2%	34.0%	34.0%	31.2%	31.8%	30.7%	34.4%	35.4%	39.1%	35.4%	32.7%	31.1%	33.7%	35.8%	29.9%	35.7%	34.2%	29.4%	36.8%	31.5%	43.9%	31.0%	34.4%		
30-39歳		81	73	59	61	69	56	65	48	53	58	54	47	724	62	53	63	57	40	69	50	53	38	61	44	58	648	36	48	46	40	33	25	41	28	42	339		
		27.0%	27.1%	22.8%	30.0%	26.5%	21.1%	30.0%	20.7%	24.9%	24.3%	25.4%	25.1%	25.3%	29.5%	25.0%	29.3%	30.2%	26.5%	32.5%	26.9%	27.2%	21.8%	31.8%	25.7%	27.8%	28.0%	20.5%	25.7%	22.2%	26.8%	27.7%	16.1%	27.5%	18.1%	29.0%	23.5%		
40-49歳		36	35	41	19	29	39	29	31	37	28	40	21	380	31	37	28	30	29	36	20	34	31	29	27	35	367	29	39	44	18	24	26	27	20	21	248		
		12.0%	13.0%	15.8%	9.4%	11.2%	14.7%	13.4%	13.4%	15.5%	11.3%	18.8%	11.2%	13.3%	14.8%	17.5%	13.0%	15.9%	19.2%	17.0%	10.8%	17.4%	17.8%	15.1%	15.8%	16.7%	15.8%	16.5%	20.9%	21.3%	12.1%	20.2%	16.8%	18.1%	12.9%	14.5%	17.2%		
50-59歳		3	6	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	145	11	12	7	8	8	10	9	14	8	5	11	18	121	12	12	7	15	6	19	12	10	5	98		
		3.3%	6.3%	3.5%	4.9%	3.8%	4.9%	6.0%	6.0%	6.6%	6.7%	3.3%	6.4%	5.1%	5.2%	5.7%	3.3%	4.2%	5.3%	4.7%	4.8%	7.2%	4.6%	2.6%	6.4%	8.6%	5.2%	6.8%	6.4%	3.4%	10.1%	5.0%	12.3%	8.1%	6.5%	3.4%	6.8%		
60歳以上		19	18	6	18	16	17	10	10	10	14	11	11	160	10	15	18	11	7	12	16	10	7	13	14	16	149	11	11	13	11	10	11	9	12	19	107		
		6.3%	6.7%	2.3%	8.9%	6.2%	6.4%	4.6%	4.3%	4.7%	5.9%	5.2%	5.9%	5.6%	4.8%	7.1%	8.4%	5.8%	4.6%	5.7%	8.6%	5.1%	4.0%	6.8%	8.2%	7.7%	6.4%	6.3%	5.9%	6.3%	7.4%	8.4%	7.1%	6.0%	7.7%	13.1%	7.4%		
無回答		16	20	16	22	28	21	13	23	14	32	24	23	252	17	14	17	16	15	18	19	7	17	9	15	11	175	18	12	16	6	8	12	7	8	10	97		
		5.3%	7.4%	6.2%	10.8%	10.8%	7.9%	6.0%	9.9%	6.6%	13.4%	11.3%	12.3%	8.8%	8.1%	6.6%	7.9%	8.5%	9.9%	8.5%	10.2%	3.6%	9.8%	4.7%	8.8%	5.3%	7.6%	10.2%	6.4%	7.7%	4.0%	6.7%	7.7%	4.7%	5.2%	6.9%	6.7%		
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599		
19歳以下		14	19	23	18	14	15	25	10	13	12	11	12	186	3	13	13	15	13	16	11	8	16	11	14	15	148	12	17	14	9	10	13	13	8	8	104		
		2.3%	3.2%	3.5%	3.2%	2.5%	2.0%	3.7%	1.8%	2.3%	2.0%	1.7%	2.4%	2.6%	0.6%	2.5%	2.4%	2.9%	2.3%	2.6%	2.1%	1.5%	3.0%	1.9%	2.4%	2.2%	2.2%	2.0%	3.2%	2.5%	1.9%	2.1%	2.7%	2.4%	2.0%	1.6%	2.3%		
20-29歳		272	274	255	246	246	337	306	257	252	253	260	223	3181	247	227	240	212	255	265	190	223	246	247	237	244	2833	258	218	220	200	217	207	211	164	207	1902		
		44.6%	46.8%	39.1%	44.4%	43.3%	45.7%	45.4%	45.5%	44.8%	42.0%	40.6%	43.9%	43.8%	47.3%	44.1%	43.6%	41.2%	45.5%	43.9%	36.7%	40.8%	45.7%	41.7%	40.5%	36.5%	42.2%	42.2%	40.7%	39.5%	41.3%	45.5%	43.3%	39.3%	40.7%	40.2%	41.4%		
30-39歳		194	160	205	158	179	199	187	170	166	180	215	134	2147	152	151	166	155	176	181	169	165	145	178	173	209	2020	177	158	154	136	137	120	164	118	150	1314		
		31.8%	27.4%	31.4%	28.5%	31.5%	27.0%	27.7%	30.1%	29.5%	29.9%	33.5%	26.4%	29.6%	29.1%	29.3%	30.2%	30.2%	31.4%	30.0%	32.6%	30.2%	27.0%	30.0%	29.6%	31.3%	30.1%	28.9%	29.5%	27.6%	28.1%	28.7%	25.1%	30.5%	29.3%	29.1%	28.6%		
40-49歳		82	73	111	80	85	115	100	76	89	96	98	77	1082	77	73	76	76	66	82	79	96	69	94	103	117	1008	104	90	108	72	67	73	83	58	97	752		
		13.4%	12.5%	17.0%	14.4%	15.0%	15.6%	14.8%	13.5%	15.8%	15.9%	15.3%	15.2%	14.9%	14.8%	14.2%	13.8%	14.8%	11.8%	13.6%	15.3%	17.6%	12.8%	15.9%	17.6%	17.5%	15.0%	17.0%	16.8%	19.4%	14.9%	14.0%	15.3%	15.5%	14.4%	18.8%	16.4%		
50-59歳		19	27	29	19	24	33	23	27	22	27	29	29	306	2																								

付表 6-2 大阪府・大阪市・chotCAST なんば別 生涯の受検経験（月別：2014年1月～2016年9月）

	2014年													2015年												2016年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	
大阪市	<b>N</b>	<b>256</b>	<b>237</b>	<b>246</b>	<b>287</b>	<b>264</b>	<b>255</b>	<b>257</b>	<b>239</b>	<b>196</b>	<b>207</b>	<b>166</b>	<b>162</b>	<b>2772</b>	<b>181</b>	<b>203</b>	<b>126</b>	<b>132</b>	<b>128</b>	<b>151</b>	<b>112</b>	<b>154</b>	<b>149</b>	<b>209</b>	<b>230</b>	<b>167</b>	<b>1942</b>	<b>155</b>	<b>213</b>	<b>213</b>	<b>185</b>	<b>221</b>	<b>285</b>	<b>283</b>	<b>299</b>	<b>286</b>	<b>2140</b>
	初受検	128	119	111	120	111	108	114	107	85	84	77	70	1234	82	96	50	51	56	68	45	67	68	84	94	75	836	62	96	91	74	76	107	127	135	124	892
		50.0%	50.2%	45.1%	41.8%	42.0%	42.4%	44.4%	44.8%	43.4%	40.6%	46.4%	43.2%	44.5%	45.3%	47.3%	39.7%	38.6%	43.8%	45.0%	40.2%	43.5%	45.6%	40.2%	40.9%	44.9%	43.0%	40.0%	45.1%	42.7%	40.0%	34.4%	37.5%	44.9%	45.2%	43.4%	41.7%
	再受検	122	103	118	142	136	127	125	116	102	102	79	75	1347	87	87	67	70	62	70	59	78	70	113	120	85	968	87	101	98	93	133	158	139	151	154	1114
		47.7%	43.5%	48.0%	49.5%	51.5%	49.8%	48.6%	48.5%	52.0%	49.3%	47.6%	46.3%	48.6%	48.1%	42.9%	53.2%	53.0%	48.4%	46.4%	52.7%	50.6%	47.0%	54.1%	52.2%	50.9%	49.8%	56.1%	47.4%	46.0%	50.3%	60.2%	55.4%	49.1%	50.5%	53.8%	52.1%
	無回答	6	15	17	25	17	20	18	16	9	21	10	17	191	12	20	9	11	10	13	8	9	11	12	16	7	138	6	16	24	18	12	20	17	13	8	134
		2.3%	6.3%	6.9%	8.7%	6.4%	7.8%	7.0%	6.7%	4.6%	10.1%	6.0%	10.5%	6.9%	6.6%	9.9%	7.1%	8.3%	7.8%	8.6%	7.1%	5.8%	7.4%	5.7%	7.0%	4.2%	7.1%	3.9%	7.5%	11.3%	9.7%	5.4%	7.0%	6.0%	4.3%	2.8%	6.3%
大阪府	<b>N</b>	<b>300</b>	<b>269</b>	<b>259</b>	<b>203</b>	<b>260</b>	<b>266</b>	<b>217</b>	<b>232</b>	<b>213</b>	<b>239</b>	<b>213</b>	<b>187</b>	<b>2858</b>	<b>210</b>	<b>212</b>	<b>215</b>	<b>189</b>	<b>151</b>	<b>212</b>	<b>186</b>	<b>195</b>	<b>174</b>	<b>192</b>	<b>171</b>	<b>209</b>	<b>2316</b>	<b>176</b>	<b>187</b>	<b>207</b>	<b>149</b>	<b>119</b>	<b>155</b>	<b>149</b>	<b>155</b>	<b>145</b>	<b>1442</b>
	初受検	199	147	170	125	159	155	125	137	113	127	122	101	1680	117	108	121	105	89	103	106	119	109	104	84	139	1304	107	106	112	82	69	81	84	97	92	830
		66.3%	54.6%	65.6%	61.6%	61.2%	58.3%	57.6%	59.1%	53.1%	53.1%	57.3%	54.0%	58.8%	55.7%	50.9%	56.3%	55.6%	58.9%	48.6%	57.0%	61.0%	62.6%	54.2%	49.1%	66.5%	56.3%	60.8%	56.7%	54.1%	55.0%	58.0%	52.3%	56.4%	62.6%	63.4%	57.6%
	再受検	101	120	88	77	101	108	92	95	98	112	90	85	1167	92	103	94	84	62	107	80	75	65	88	86	70	1006	68	79	94	67	50	72	65	58	50	603
		33.7%	44.6%	34.0%	37.9%	38.8%	40.6%	42.4%	40.9%	46.0%	46.9%	42.3%	45.5%	40.8%	43.8%	48.6%	43.7%	44.4%	41.1%	50.5%	43.0%	38.5%	37.4%	45.8%	50.3%	33.5%	43.4%	38.6%	42.2%	45.4%	45.0%	42.0%	46.5%	43.6%	37.4%	34.5%	41.8%
	無回答	0	2	1	1	0	3	0	0	2	0	1	1	11	1	1	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	6	1	2	1	0	0	2	0	0	3	9
		0.0%	0.7%	0.4%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.3%	0.6%	1.1%	0.5%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	2.1%	0.6%
chotCAST なんば	<b>N</b>	<b>610</b>	<b>585</b>	<b>652</b>	<b>554</b>	<b>568</b>	<b>737</b>	<b>674</b>	<b>565</b>	<b>563</b>	<b>602</b>	<b>641</b>	<b>508</b>	<b>7259</b>	<b>522</b>	<b>515</b>	<b>550</b>	<b>514</b>	<b>560</b>	<b>604</b>	<b>518</b>	<b>547</b>	<b>538</b>	<b>593</b>	<b>585</b>	<b>668</b>	<b>6714</b>	<b>612</b>	<b>536</b>	<b>557</b>	<b>484</b>	<b>477</b>	<b>478</b>	<b>537</b>	<b>403</b>	<b>515</b>	<b>4599</b>
	初受検	332	315	366	281	310	396	357	308	328	297	313	242	3845	258	263	250	256	269	299	253	265	261	269	285	295	3223	285	263	248	237	203	228	235	173	223	2095
		54.4%	53.8%	56.1%	50.7%	54.6%	53.7%	53.0%	54.5%	58.3%	49.3%	48.8%	47.6%	53.0%	49.4%	51.1%	45.5%	49.8%	48.0%	49.5%	48.8%	48.4%	48.5%	45.4%	48.7%	44.2%	48.0%	46.6%	49.1%	44.5%	49.0%	42.6%	47.7%	43.8%	42.9%	43.3%	45.6%
	再受検	262	246	273	262	248	327	303	251	227	293	318	254	3264	256	244	289	245	281	288	237	263	252	302	287	345	3289	317	254	292	239	266	240	291	220	278	2397
		43.0%	42.1%	41.9%	47.3%	43.7%	44.4%	45.0%	44.4%	40.3%	48.7%	49.6%	50.0%	45.0%	49.0%	47.4%	52.5%	47.7%	50.2%	47.7%	45.8%	48.1%	46.8%	50.9%	49.1%	51.6%	49.0%	51.8%	47.4%	52.4%	49.4%	55.8%	50.2%	54.2%	54.6%	54.0%	52.1%
	無回答	16	24	13	11	10	14	14	6	8	12	10	12	150	8	8	11	13	10	17	28	19	25	22	13	28	202	10	19	17	8	8	10	11	10	14	107
		2.6%	4.1%	2.0%	2.0%	1.8%	1.9%	2.1%	1.1%	1.4%	2.0%	1.6%	2.4%	2.1%	1.5%	1.6%	2.0%	2.5%	1.8%	2.8%	5.4%	3.5%	4.6%	3.7%	2.2%	4.2%	3.0%	1.6%	3.5%	3.1%	1.7%	1.7%	2.1%	2.0%	2.5%	2.7%	2.3%

付表 6-3 大阪府・大阪市・chatCAST なんば別 性的指向 3 群-M S M以外男性・女性・M S M (月別：2014年1月～2016年9月)

	2014年													2015年												2016年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	
大阪市	<b>N</b>	<b>256</b>	<b>237</b>	<b>246</b>	<b>287</b>	<b>264</b>	<b>255</b>	<b>257</b>	<b>239</b>	<b>196</b>	<b>207</b>	<b>166</b>	<b>162</b>	<b>2772</b>	<b>181</b>	<b>203</b>	<b>126</b>	<b>132</b>	<b>128</b>	<b>151</b>	<b>112</b>	<b>154</b>	<b>149</b>	<b>209</b>	<b>230</b>	<b>167</b>	<b>1942</b>	<b>155</b>	<b>213</b>	<b>213</b>	<b>185</b>	<b>221</b>	<b>285</b>	<b>283</b>	<b>299</b>	<b>286</b>	<b>2140</b>
MSM以外の男性	128	123	101	138	122	122	128	112	98	97	87	89	<b>1345</b>	98	90	59	62	67	72	45	78	62	108	118	85	<b>944</b>	87	106	106	93	120	136	131	155	148	<b>1082</b>	
	50.0%	51.9%	41.1%	48.1%	46.2%	47.8%	49.8%	46.9%	50.0%	46.9%	52.4%	54.9%	<b>48.5%</b>	54.1%	44.3%	46.8%	47.0%	52.3%	47.7%	40.2%	50.6%	41.6%	51.7%	51.3%	50.9%	<b>48.6%</b>	56.1%	49.8%	49.8%	50.3%	54.3%	47.7%	46.3%	51.8%	51.7%	<b>50.6%</b>	
女性	79	64	89	72	71	67	67	66	54	57	47	35	<b>768</b>	44	67	42	38	38	44	34	47	43	53	57	57	<b>564</b>	40	57	45	34	47	79	80	73	87	<b>542</b>	
	30.9%	27.0%	36.2%	25.1%	26.9%	26.3%	26.1%	27.6%	27.6%	27.5%	28.3%	21.6%	<b>27.7%</b>	24.3%	33.0%	33.3%	28.8%	29.7%	29.1%	30.4%	30.5%	28.9%	25.4%	24.8%	34.1%	<b>29.0%</b>	25.8%	26.8%	21.1%	18.4%	21.3%	27.7%	28.3%	24.4%	30.4%	<b>25.3%</b>	
MSM	42	34	37	49	54	44	43	41	33	32	24	21	<b>454</b>	28	23	16	19	11	24	24	17	30	31	38	15	<b>276</b>	20	33	36	36	37	45	51	53	38	<b>349</b>	
	16.4%	14.3%	15.0%	17.1%	20.5%	17.3%	16.7%	17.2%	16.8%	15.5%	14.5%	13.0%	<b>16.4%</b>	15.5%	11.3%	12.7%	14.4%	8.6%	15.9%	21.4%	11.0%	20.1%	14.8%	16.5%	9.0%	<b>14.2%</b>	12.9%	15.5%	16.9%	19.5%	16.7%	15.8%	18.0%	17.7%	13.3%	<b>16.3%</b>	
不明(性別がその他また)	7	16	19	28	17	22	19	20	11	21	8	17	<b>205</b>	11	23	9	13	12	11	9	12	14	17	17	10	<b>158</b>	8	17	26	22	17	25	21	18	13	<b>167</b>	
	2.7%	6.8%	7.7%	9.8%	6.4%	8.6%	7.4%	8.4%	5.6%	10.1%	4.8%	10.5%	<b>7.4%</b>	6.1%	11.3%	7.1%	9.8%	9.4%	7.3%	8.0%	7.8%	9.4%	8.1%	7.4%	6.0%	<b>8.1%</b>	5.2%	8.0%	12.2%	11.9%	7.7%	8.8%	7.4%	6.0%	4.5%	<b>7.8%</b>	
大阪府	<b>N</b>	<b>300</b>	<b>269</b>	<b>259</b>	<b>203</b>	<b>260</b>	<b>266</b>	<b>217</b>	<b>232</b>	<b>213</b>	<b>239</b>	<b>213</b>	<b>187</b>	<b>2858</b>	<b>210</b>	<b>212</b>	<b>215</b>	<b>189</b>	<b>151</b>	<b>212</b>	<b>186</b>	<b>195</b>	<b>174</b>	<b>192</b>	<b>171</b>	<b>209</b>	<b>2316</b>	<b>176</b>	<b>187</b>	<b>207</b>	<b>149</b>	<b>119</b>	<b>155</b>	<b>149</b>	<b>155</b>	<b>145</b>	<b>1442</b>
MSM以外の男性	183	169	144	127	155	129	134	129	124	131	140	108	<b>1673</b>	126	139	131	110	91	112	111	107	99	100	96	133	<b>1355</b>	95	113	120	92	74	97	88	77	78	<b>834</b>	
	61.0%	62.8%	55.6%	62.6%	59.6%	48.5%	61.8%	55.6%	58.2%	54.8%	65.7%	57.8%	<b>58.5%</b>	60.0%	65.6%	60.9%	58.2%	60.3%	52.8%	59.7%	54.9%	56.9%	52.1%	56.1%	63.6%	<b>58.5%</b>	54.0%	60.4%	58.0%	61.7%	62.2%	62.6%	59.1%	49.7%	53.8%	<b>57.8%</b>	
女性	94	83	92	59	81	99	64	88	64	85	46	60	<b>915</b>	61	57	65	61	39	77	48	71	58	69	52	57	<b>715</b>	59	56	59	36	29	43	41	55	48	<b>426</b>	
	31.3%	30.9%	35.5%	29.1%	31.2%	37.2%	29.5%	37.9%	30.0%	35.6%	21.6%	32.1%	<b>32.0%</b>	29.0%	26.9%	30.2%	32.3%	25.8%	36.3%	25.8%	36.4%	33.3%	35.9%	30.4%	27.3%	<b>30.9%</b>	33.5%	29.9%	28.5%	24.2%	24.4%	27.7%	27.5%	35.5%	33.1%	<b>29.5%</b>	
MSM	23	17	21	17	23	35	18	15	23	22	26	18	<b>258</b>	21	15	18	17	21	21	26	16	16	23	22	19	<b>235</b>	21	16	27	21	16	13	20	23	17	<b>174</b>	
	7.7%	6.3%	8.1%	8.4%	8.8%	13.2%	8.3%	6.5%	10.8%	9.2%	12.2%	9.6%	<b>9.0%</b>	10.0%	7.1%	8.4%	9.0%	13.9%	9.9%	14.0%	8.2%	9.2%	12.0%	12.9%	9.1%	<b>10.1%</b>	11.9%	8.6%	13.0%	14.1%	13.4%	8.4%	13.4%	14.8%	11.7%	<b>12.1%</b>	
不明(性別がその他または不明)	0	0	2	0	1	3	1	0	2	1	1	1	<b>12</b>	2	1	1	1	0	2	1	1	1	0	1	0	<b>11</b>	1	2	1	0	0	2	0	0	2	<b>8</b>	
	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.4%	1.1%	0.5%	0.0%	0.9%	0.4%	0.5%	0.5%	<b>0.4%</b>	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.9%	0.5%	0.5%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	<b>0.5%</b>	0.6%	1.1%	0.5%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	1.4%	<b>0.6%</b>	
chatCAST	<b>N</b>	<b>610</b>	<b>585</b>	<b>652</b>	<b>554</b>	<b>568</b>	<b>737</b>	<b>674</b>	<b>565</b>	<b>563</b>	<b>602</b>	<b>641</b>	<b>508</b>	<b>7259</b>	<b>522</b>	<b>515</b>	<b>550</b>	<b>514</b>	<b>560</b>	<b>604</b>	<b>518</b>	<b>547</b>	<b>538</b>	<b>593</b>	<b>585</b>	<b>668</b>	<b>6714</b>	<b>612</b>	<b>536</b>	<b>557</b>	<b>484</b>	<b>477</b>	<b>478</b>	<b>537</b>	<b>403</b>	<b>515</b>	<b>4599</b>
なんば	MSM以外の男性	326	315	331	287	301	364	357	291	291	307	349	251	<b>3770</b>	279	243	277	258	270	278	275	278	269	263	297	349	<b>3336</b>	313	247	275	256	225	220	247	200	246	<b>2229</b>
	53.4%	53.8%	50.8%	51.8%	53.0%	49.4%	53.0%	51.5%	51.7%	51.0%	54.4%	49.4%	<b>51.9%</b>	53.4%	47.2%	50.4%	50.2%	48.2%	46.0%	53.1%	50.8%	50.0%	44.4%	50.8%	52.2%	<b>49.7%</b>	51.1%	46.1%	49.4%	52.9%	47.2%	46.0%	46.0%	49.6%	47.8%	<b>48.5%</b>	
女性	166	159	191	125	167	215	175	172	172	163	150	136	<b>1991</b>	128	146	134	124	151	187	125	138	130	152	154	179	<b>1748</b>	161	155	123	117	119	112	119	83	121	<b>1110</b>	
	27.2%	27.2%	29.3%	22.6%	29.4%	29.2%	26.0%	30.4%	30.6%	27.1%	23.4%	26.8%	<b>27.4%</b>	24.5%	28.3%	24.4%	24.1%	27.0%	31.0%	24.1%	25.2%	24.2%	25.6%	26.3%	26.8%	<b>26.0%</b>	26.3%	28.9%	22.1%	24.2%	24.9%	23.4%	22.2%	20.6%	23.5%	<b>24.1%</b>	
MSM	106	94	120	128	90	144	126	95	93	115	132	107	<b>1350</b>	108	115	128	116	131	120	88	109	111	154	121	113	<b>1414</b>	127	113	138	102	122	132	155	107	133	<b>1129</b>	
	17.4%	16.1%	18.4%	23.1%	15.8%	19.5%	18.7%	16.8%	16.5%	19.1%	20.6%	21.1%	<b>18.6%</b>	20.7%	22.3%	23.3%	22.6%	23.4%	19.9%	17.0%	19.9%	20.6%	26.0%	20.7%	16.9%	<b>21.1%</b>	20.8%	21.1%	24.8%	21.1%	25.6%	27.6%	28.9%	26.6%	25.8%	<b>24.5%</b>	
不明(性別がその他または不明)	12	17	10	14	10	14	16	7	7	17	10	14	<b>148</b>	7	11	11	16	8	19	30	22	28	24	13	27	<b>216</b>	11	21	21	9	11	14	16	13	15	<b>131</b>	
	2.0%	2.9%	1.5%	2.5%	1.8%	1.9%	2.4%	1.2%	1.2%	2.8%	1.6%	2.8%	<b>2.0%</b>	1.3%	2.1%	2.0%	3.1%	1.4%	3.1%	5.8%	4.0%	5.2%	4.0%	2.2%	4.0%	<b>3.2%</b>	1.8%	3.9%	3.8%	1.9%	2.3%	2.9%	3.0%	3.2%	2.9%	<b>2.8%</b>	

付表 6-4 大阪市・chotCAST なんば別 過去 6 ヶ月間に相手にお金を払ったセックス経験（月別：2014 年 1 月～2016 年 9 月）

		2014年												2015年												2016年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
大阪市	N	256	237	246	287	264	255	257	239	196	207	166	162	2772	181	203	126	132	128	151	112	154	149	209	230	167	1942	155	213	213	185	221	285	283	299	286	2140
	ない(無回答含む)	182	166	182	210	187	185	189	174	132	147	114	114	1982	123	168	97	90	96	108	81	114	112	151	163	112	1415	102	146	155	121	149	203	197	200	204	1477
		71.1%	70.0%	74.0%	73.2%	70.8%	72.5%	73.5%	72.8%	67.3%	71.0%	68.7%	70.4%	71.5%	68.0%	82.8%	77.0%	68.2%	75.0%	71.5%	72.3%	74.0%	75.2%	72.2%	70.9%	67.1%	72.9%	65.8%	68.5%	72.8%	65.4%	67.4%	71.2%	69.6%	66.9%	71.3%	69.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	431	399	473	385	398	525	499	384	400	417	436	355	5102	367	372	384	350	401	458	358	375	383	425	396	458	4727	409	391	411	339	336	352	398	282	368	3286
		70.7%	68.2%	72.5%	69.5%	70.1%	71.2%	74.0%	68.0%	71.0%	69.3%	68.0%	69.9%	70.3%	70.3%	72.2%	69.8%	68.1%	71.6%	75.8%	69.1%	68.6%	71.2%	71.7%	67.7%	68.6%	70.4%	66.8%	72.9%	73.8%	70.0%	70.4%	73.6%	74.1%	70.0%	71.5%	71.5%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	431	399	473	385	398	525	499	384	400	417	436	355	5102	367	372	384	350	401	458	358	375	383	425	396	458	4727	409	391	411	339	336	352	398	282	368	3286
		70.7%	68.2%	72.5%	69.5%	70.1%	71.2%	74.0%	68.0%	71.0%	69.3%	68.0%	69.9%	70.3%	70.3%	72.2%	69.8%	68.1%	71.6%	75.8%	69.1%	68.6%	71.2%	71.7%	67.7%	68.6%	70.4%	66.8%	72.9%	73.8%	70.0%	70.4%	73.6%	74.1%	70.0%	71.5%	71.5%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	431	399	473	385	398	525	499	384	400	417	436	355	5102	367	372	384	350	401	458	358	375	383	425	396	458	4727	409	391	411	339	336	352	398	282	368	3286
		70.7%	68.2%	72.5%	69.5%	70.1%	71.2%	74.0%	68.0%	71.0%	69.3%	68.0%	69.9%	70.3%	70.3%	72.2%	69.8%	68.1%	71.6%	75.8%	69.1%	68.6%	71.2%	71.7%	67.7%	68.6%	70.4%	66.8%	72.9%	73.8%	70.0%	70.4%	73.6%	74.1%	70.0%	71.5%	71.5%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714	612	536	557	484	477	478	537	403	515	4599
	ない(無回答含む)	587	567	631	529	539	706	650	535	535	574	619	482	6954	506	497	525	490	536	571	504	530	510	562	560	638	6429	589	510	536	469	456	460	516	378	501	4415
		96.2%	96.9%	96.8%	95.5%	94.9%	95.8%	96.4%	94.7%	95.0%	95.3%	96.6%	94.9%	95.8%	96.9%	96.5%	95.5%	95.3%	95.7%	94.5%	97.3%	96.9%	94.8%	94.8%	95.7%	95.5%	95.8%	96.2%	95.1%	96.2%	96.9%	95.6%	96.2%	96.1%	93.8%	97.3%	96.0%
chotCAST なんば	N	610	585	652	554	568	737	674	565	563	602	641	508	7259	522	515	550	514	560	604	518	547	538	593	585	668	6714										

付表 7-1 大阪市 性的指向 3 群別 広報資材認知（四半期別：2014 年 1 月～2016 年 9 月、複数回答）

	MSM以外の男性												女性												MSM											
	2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
<b>N</b>	352	382	338	273	247	201	185	311	299	349	434		232	210	187	139	153	120	124	167	142	160	240		113	147	117	77	67	54	71	84	89	118	142	
大阪市ホームページ	35.2%	38.7%	44.1%	37.0%	43.7%	42.8%	47.6%	37.6%	47.8%	45.6%	47.9%		30.6%	32.4%	31.6%	36.0%	35.3%	48.3%	37.1%	44.9%	38.0%	38.1%	40.4%		38.9%	36.7%	37.6%	44.2%	40.3%	35.2%	38.0%	39.3%	34.8%	39.8%	40.8%	
大阪府ホームページ(PC用)	13.9%	15.2%	18.6%	13.6%	15.8%	16.9%	17.3%	18.6%	16.7%	16.6%	14.3%		9.9%	12.9%	11.8%	10.1%	7.8%	7.5%	6.5%	6.0%	10.6%	6.3%	10.0%		10.6%	15.6%	19.7%	13.0%	20.9%	9.3%	11.3%	11.9%	13.5%	10.2%	7.7%	
大阪府ホームページ(携帯用)	9.7%	7.3%	8.6%	10.3%	13.8%	15.4%	17.3%	14.1%	10.7%	16.6%	15.0%		14.2%	16.2%	16.0%	12.9%	20.3%	15.0%	28.2%	18.0%	19.7%	20.0%	21.7%		3.5%	4.1%	8.5%	10.4%	9.0%	16.7%	9.9%	13.1%	15.7%	15.3%	9.2%	
季刊誌 南界堂通信	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%		0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%		4.4%	2.7%	2.6%	0.0%	4.5%	5.6%	1.4%	4.8%	4.5%	8.5%	4.9%	
コミュニティセンター(chotCASTなんば)	3.4%	2.6%	4.1%	4.4%	3.7%	3.5%	8.1%	4.2%	5.0%	4.0%	7.4%		5.6%	4.3%	4.8%	5.8%	7.9%	7.5%	6.5%	4.8%	5.6%	7.5%	5.8%		8.8%	10.2%	9.4%	11.7%	11.9%	24.1%	11.3%	11.9%	11.2%	13.6%	10.6%	
コミュニティセンター(dista)	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	2.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%		0.9%	0.5%	0.5%	1.4%	0.7%	1.7%	1.6%	0.6%	1.4%	1.3%	0.0%		13.3%	18.4%	9.4%	14.3%	10.4%	24.1%	18.3%	17.9%	21.3%	17.8%	16.9%	
HIV検査・相談マップ	17.6%	15.4%	11.2%	17.9%	14.2%	15.4%	18.9%	10.6%	13.4%	14.0%	14.7%		25.0%	20.0%	27.3%	14.4%	22.9%	23.3%	18.5%	15.6%	22.5%	16.3%	20.0%		26.5%	21.1%	27.4%	22.1%	34.3%	33.3%	15.5%	27.4%	21.3%	22.0%	19.0%	
おおさかエイズ情報NOWホームページ					6.5%	5.4%	4.5%		6.0%	5.4%	5.8%						7.5%	13.7%	3.6%		9.2%	11.3%	6.7%						18.5%	8.5%	7.1%		12.4%	10.2%	12.7%	
おおさかエイズ情報NOW冊子	1.0%	4.1%	3.7%		5.0%								2.4%	4.3%	4.3%		8.1%								1.4%	6.8%	7.8%		19.7%							
やる!プロジェクト					0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%						0.0%	0.8%	0.0%		0.7%	0.6%	0.0%						0.0%	0.0%	1.2%		7.9%	10.2%	12.7%	
エイズのはなし(大阪市)	11.4%	10.7%	9.5%	7.7%	1.2%								10.8%	15.2%	11.2%	6.5%	1.3%								28.3%	21.1%	23.9%	23.4%	1.5%							
エイズのはなし(大阪市)高校生のあなたに	2.0%	0.5%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.5%	1.0%	0.7%	1.1%	0.5%		2.2%	1.0%	1.1%	0.7%	0.0%	1.7%	4.8%	1.2%	0.7%	3.1%	0.0%		1.8%	3.4%	1.7%	2.6%	0.0%	3.7%	2.8%	2.4%	3.4%	1.7%	0.7%	
HIV検査啓発ポスター	5.7%	5.5%	4.1%	5.5%	4.5%	6.0%	5.9%	5.8%	4.3%	3.7%	5.5%		3.0%	5.2%	4.3%	4.3%	3.9%	5.0%	4.8%	3.6%	6.3%	1.9%	1.7%		5.3%	6.8%	10.3%	5.2%	4.5%	11.1%	1.4%	8.3%	6.7%	3.4%	5.6%	
青少年向けポスター					1.0%	0.5%	0.3%		0.3%	0.3%	0.2%						0.0%	0.8%	0.6%		0.7%	0.0%	0.4%						0.0%	1.4%	0.0%		0.0%	1.7%	0.7%	

\* 質問紙等の変更により項目がないものを除外して集計したため累計は異なる

付表 7-2 大阪府 性的指向 3 群別 広報資材認知 (四半期別: 2014 年 1 月~2016 年 9 月、複数回答)

	MSM以外の男性												女性												MSM								
	2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年				2014年			2015年			2016年		
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	1-3月	4-6月	7-9月	1-3月	4-6月	7-9月	1-3月	4-6月	7-9月	
<b>N</b>	496	411	387	379	396	313	317	329	328	263	243	269	239	216	191	183	177	177	178	174	108	144	61	75	56	66	54	59	58	64	64	50	60
大阪市ホームページ	1.6%	2.4%	2.3%	3.7%	4.0%	4.8%	3.5%	3.3%	2.4%	3.4%	2.9%	2.2%	2.9%	1.4%	3.7%	3.8%	1.1%	4.0%	4.5%	4.0%	2.8%	4.9%	0.0%	8.0%	5.4%	7.6%	5.6%	3.4%	10.3%	4.7%	7.8%	6.0%	1.7%
大阪府ホームページ(PC用)	12.9%	16.8%	16.3%	17.2%	15.4%	17.9%	15.5%	15.8%	13.4%	18.3%	18.9%	12.3%	10.0%	11.1%	11.0%	16.9%	10.7%	15.8%	11.8%	15.5%	10.2%	12.5%	9.8%	10.7%	17.9%	22.7%	9.3%	25.4%	24.1%	17.2%	21.9%	20.0%	25.0%
大阪府ホームページ(携帯用)	3.4%	5.6%	5.9%	6.9%	6.6%	6.4%	7.6%	5.8%	8.2%	5.7%	7.4%	7.8%	7.9%	8.3%	6.8%	9.3%	10.2%	6.2%	7.9%	6.3%	7.4%	6.3%	3.3%	10.7%	8.9%	10.6%	5.6%	8.5%	3.4%	9.4%	7.8%	6.0%	6.7%
季刊誌 南界堂通信	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	1.6%	2.7%	1.8%	0.0%	3.7%	6.8%	1.7%	3.1%	4.7%	2.0%	3.3%
コミュニティセンター(chotCASTなんば)	3.6%	4.4%	3.4%	2.2%	3.0%	3.5%	2.5%	3.3%	4.3%	0.8%	2.1%	2.6%	5.0%	3.7%	4.3%	6.0%	6.2%	4.5%	3.9%	1.7%	2.8%	4.2%	9.8%	8.0%	14.3%	0.0%	1.9%	15.3%	12.1%	12.5%	15.6%	10.0%	0.0%
コミュニティセンター(dista)	0.0%	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.3%	0.0%	0.6%	0.6%	0.4%	0.8%	0.4%	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.6%	0.0%	0.0%	14.8%	6.7%	8.9%	10.6%	9.3%	16.9%	13.8%	15.6%	12.5%	16.0%	13.3%
HIV検査・相談マップ	27.8%	28.5%	31.5%	25.7%	24.2%	28.8%	23.0%	25.5%	23.8%	20.5%	26.7%	42.0%	28.0%	29.2%	30.5%	31.7%	35.6%	29.4%	27.5%	26.4%	26.9%	25.7%	54.1%	48.0%	44.6%	45.5%	48.1%	47.5%	43.1%	56.3%	32.8%	26.0%	46.7%
おおさかエイズ情報NOWホームページ	3.8%	4.1%	5.2%	4.9%	7.3%	7.3%	8.2%	8.2%	4.3%	8.4%	2.9%	2.2%	4.6%	1.9%	4.3%	6.6%	5.1%	6.8%	6.7%	3.4%	1.9%	3.5%	1.6%	6.7%	3.6%	3.0%	3.7%	10.2%	13.8%	10.9%	9.4%	4.0%	3.3%
おおさかエイズ情報NOW冊子	1.2%	2.6%	2.2%	3.0%	2.2%	3.2%	4.9%	3.7%	3.4%	1.2%	0.8%	5.1%	4.3%	6.0%	4.0%	6.8%	5.6%	3.4%	6.5%	1.4%	4.0%	0.0%	0.0%	1.9%	5.1%	3.4%	3.1%	12.5%	2.0%	6.7%			
やる!プロジェクト					0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	1.2%					0.0%	0.6%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%								1.7%	3.4%	1.6%	6.3%	10.0%	11.7%
保健所ホームページ	43.1%	42.6%	41.1%	39.6%	37.1%	40.6%	43.8%	40.7%	41.2%	42.6%	45.7%	39.8%	40.2%	43.5%	35.1%	42.1%	44.6%	41.2%	49.2%	37.9%	36.1%	37.5%	52.5%	41.3%	46.4%	48.5%	59.3%	37.3%	46.6%	46.9%	39.1%	46.0%	36.7%
大阪府くまカード	0.4%	0.2%	0.5%	1.1%	0.8%							0.7%	0.8%	0.5%	3.1%	0.5%							0.0%	0.0%	1.8%	1.5%	0.0%						
アイヤン	0.6%	1.0%	0.8%	0.8%	0.3%	1.6%	0.3%	1.5%	1.5%	0.8%	1.2%	0.7%	0.4%	2.3%	1.0%	0.5%	2.8%	3.4%	4.5%	3.4%	1.9%	4.2%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	3.7%	1.7%	3.4%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%

\* 質問紙等の変更により項目がないものを除外して集計したため累計は異なる

付表 7-3 chotCAST なんば 性的指向 3 群別 広報資材認知 (四半期別 : 2014 年 1 月 ~ 2016 年 9 月、複数回答)

	MSM以外の男性												女性												MSM											
	2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年				2014年				2015年				2016年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
<b>N</b>	972	952	939	907	799	806	822	909	835	701	693		516	507	519	449	408	462	393	485	439	348	323		320	362	314	354	351	367	308	388	378	356	395	
大阪市ホームページ	16.0%	16.5%	18.2%	19.1%	18.3%	18.2%	17.9%	17.5%	18.0%	17.0%	18.3%		16.1%	17.6%	17.5%	18.9%	13.5%	14.7%	14.2%	16.1%	11.4%	18.4%	18.6%		14.4%	13.3%	13.7%	15.8%	14.2%	15.3%	13.6%	13.9%	14.0%	12.9%	15.7%	
大阪府ホームページ(PC用)	13.6%	15.1%	14.9%	14.9%	13.0%	12.8%	12.4%	12.2%	9.8%	10.7%	9.1%		9.5%	7.9%	7.9%	6.9%	7.4%	5.4%	4.6%	5.4%	6.2%	6.0%	5.3%		10.0%	11.0%	11.8%	10.5%	9.7%	7.1%	7.5%	10.3%	6.1%	7.6%	6.3%	
大阪府ホームページ(携帯用)	7.3%	9.1%	8.6%	7.8%	7.5%	8.8%	8.0%	10.6%	7.7%	10.0%	11.5%		9.9%	11.2%	10.4%	9.8%	13.7%	13.2%	8.7%	10.9%	12.3%	9.5%	9.9%		3.8%	6.6%	4.8%	7.6%	6.8%	5.4%	9.4%	5.9%	5.0%	6.2%	4.3%	
季刊誌 南界堂通信	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%		0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.5%	0.4%	0.5%	0.4%	0.2%	0.3%	0.6%		1.6%	0.3%	1.9%	1.4%	3.4%	4.9%	6.8%	2.1%	4.2%	5.6%	3.3%	
コミュニティセンター(chotCASTなんば)	38.8%	37.9%	37.4%	35.7%	44.1%	38.7%	42.6%	46.4%	41.2%	42.1%	39.2%		40.5%	39.6%	38.5%	41.6%	44.4%	43.1%	43.0%	43.1%	43.5%	43.7%	42.1%		41.9%	41.7%	43.0%	49.4%	50.1%	47.4%	55.5%	54.1%	54.0%	54.8%	56.7%	
コミュニティセンター(dista)	0.4%	0.5%	0.4%	0.6%	0.3%	0.5%	0.6%	0.6%	0.7%	0.3%	1.0%		0.4%	0.6%	0.2%	0.9%	0.0%	0.2%	1.0%	0.6%	1.4%	0.9%	0.9%		16.6%	16.0%	10.5%	13.0%	14.8%	15.3%	18.5%	14.9%	12.4%	18.0%	12.7%	
HIV検査・相談マップ	35.9%	34.6%	30.4%	28.4%	30.2%	28.9%	33.5%	29.6%	31.0%	26.2%	31.3%		42.1%	31.8%	33.5%	31.0%	33.1%	36.1%	36.1%	30.1%	29.8%	29.6%	35.9%		40.0%	43.9%	38.9%	36.4%	38.2%	37.3%	43.5%	43.3%	38.4%	34.6%	37.5%	
おおさかエイズ情報NOWホームページ					3.2%	3.6%	3.3%		3.8%	2.1%	3.8%						4.3%	2.8%	4.5%		3.6%	2.3%	3.4%						1.6%	3.6%	3.4%		3.7%	3.1%	2.3%	
おおさかエイズ情報NOW冊子	1.3%	2.6%	2.0%	3.0%									3.0%	1.7%	4.7%	3.9%									2.8%	2.5%	4.0%	1.7%								
やる!プロジェクト					0.1%	0.1%	0.1%		0.5%	0.0%	0.6%						0.2%	0.3%	0.0%		0.2%	0.0%	0.6%						3.0%	6.5%	2.8%		5.6%	14.6%	13.4%	
エイズのはなし(大阪市)	2.8%	4.0%	2.4%	3.1%	1.3%								2.5%	3.6%	2.5%	4.0%	1.0%								6.3%	5.8%	4.8%	2.5%	0.3%							
エイズのはなし(大阪市)高校生のあなたに	0.4%	0.7%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.4%	0.9%	0.4%	1.0%	1.3%		1.2%	0.2%	0.8%	1.3%	0.5%	0.9%	1.5%	3.3%	1.1%	0.3%	1.2%		0.9%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.8%	1.6%	0.8%	1.3%	0.8%	0.3%	
HIV検査啓発ポスター	5.1%	4.9%	5.0%	4.2%	5.4%	3.0%	3.2%	4.1%	3.5%	3.1%	2.3%		7.4%	6.7%	5.4%	4.9%	3.7%	4.8%	3.3%	3.3%	2.3%	2.9%	5.0%		5.9%	8.3%	8.6%	5.9%	8.3%	5.2%	6.2%	6.2%	4.8%	6.2%	5.1%	
青少年向けポスター					0.9%	0.5%	0.3%		1.0%	0.4%	0.6%						0.2%	1.0%	0.2%		0.7%	0.6%	0.3%						1.6%	1.0%	1.5%		1.1%	1.4%	0.3%	

\* 質問紙等の変更により項目がないものを除外して集計したため累計は異なる



付表 8-1 大阪府・大阪市・chotCAST なんば 各施設別 年齢層・生涯の受検経験・検査時間帯（2016年4月～9月）

	大阪府				大阪府													chotCASTなんば		
	淀川区	北区	中央区	計	泉佐野	八尾	守口	岸和田	寝屋川	吹田	四條畷	藤井寺	茨木	富田林	和泉	池田	計	SLN	JHC	計
N	231	881	447	1559	45	48	64	56	57	98	55	149	123	39	66	72	872	2103	791	2894
年齢層																				
19歳以下	5	13	5		1	4	2	3	2	1	4	3	3	1	3	7		41	20	
	2.2%	1.5%	1.1%		2.2%	8.3%	3.1%	5.4%	3.5%	1.0%	7.3%	2.0%	2.4%	2.6%	4.5%	9.7%		1.9%	2.5%	
20-29歳	74	267	133		16	17	20	19	19	48	18	55	39	14	18	20		820	386	
	32.0%	30.3%	29.8%		35.6%	35.4%	31.3%	33.9%	33.3%	49.0%	32.7%	36.9%	31.7%	35.9%	27.3%	27.8%		39.0%	48.8%	
30-39歳	40	246	119		10	10	18	11	13	13	12	44	38	8	13	19		612	213	
	17.3%	27.9%	26.6%		22.2%	20.8%	28.1%	19.6%	22.8%	13.3%	21.8%	29.5%	30.9%	20.5%	19.7%	26.4%		29.1%	26.9%	
40-49歳	53	172	81		10	8	8	6	13	17	8	19	17	5	14	11		366	84	
	22.9%	19.5%	18.1%		22.2%	16.7%	12.5%	10.7%	22.8%	17.3%	14.5%	12.8%	13.8%	12.8%	21.2%	15.3%		17.4%	10.6%	
50-59歳	26	67	35		4	3	7	9	4	7	4	9	9	2	4	5		126	30	
	11.3%	7.6%	7.8%		8.9%	6.3%	10.9%	16.1%	7.0%	7.1%	7.3%	6.0%	7.3%	5.1%	6.1%	6.9%		6.0%	3.8%	
60歳以上	17	41	28		3	4	6	5	4	8	6	8	3	8	10	7		45	4	
	7.4%	4.7%	6.3%		6.7%	8.3%	9.4%	8.9%	7.0%	8.2%	10.9%	5.4%	2.4%	20.5%	15.2%	9.7%		2.1%	0.5%	
無回答	16	75	46		1	2	3	3	2	4	3	11	14	1	4	3		93	54	
	6.9%	8.5%	10.3%		2.2%	4.2%	4.7%	5.4%	3.5%	4.1%	5.5%	7.4%	11.4%	2.6%	6.1%	4.2%		4.4%	6.8%	
受検経験																				
初受検	111	342	190		25	30	39	34	30	60	33	80	66	24	37	47		894	405	
	48.1%	38.8%	42.5%		55.6%	62.5%	60.9%	60.7%	52.6%	61.2%	60.0%	53.7%	53.7%	61.5%	56.1%	65.3%		42.5%	51.2%	
再受検	110	494	224		20	17	24	22	27	38	22	69	56	15	27	25		1163	371	
	47.6%	56.1%	50.1%		44.4%	35.4%	37.5%	39.3%	47.4%	38.8%	40.0%	46.3%	45.5%	38.5%	40.9%	34.7%		55.3%	46.9%	
無回答	10	45	33		0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0		46	15	
	4.3%	5.1%	7.4%		0.0%	2.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	3.0%	0.0%		2.2%	1.9%	
検査時間帯																				
午前	63	584	340																	
	27.3%	66.3%	76.1%																	
午後	168	297	107																	
	72.7%	33.7%	23.9%																	

付表 8-2 大阪府・大阪市・chotCAST なんば 各施設別 性的指向 3 群・過去 6 ヶ月間の金銭の授受を伴う性交経験 (2016 年 4 月～9 月)

	大阪市				大阪府												chotCASTなんば			
	淀川区	北区	中央区	計	泉佐野	八尾	守口	岸和田	寝屋川	吹田	四条畷	藤井寺	茨木	富田林	和泉	池田	計	SLN	JHC	計
	N	231	881	447	1559	45	48	64	56	57	98	55	149	123	39	66	72	872	2103	791
性指向別3群																				
MSM以外の男性	113	423	247		29	28	42	38	27	55	28	82	67	27	38	45		1037	357	
	48.9%	48.0%	55.3%		64.4%	58.3%	65.6%	67.9%	47.4%	56.1%	50.9%	55.0%	54.5%	69.2%	57.6%	62.5%		49.3%	45.1%	
女性	80	205	115		6	15	20	11	26	33	20	42	24	11	22	22		463	208	
	34.6%	23.3%	25.7%		13.3%	31.3%	31.3%	19.6%	45.6%	33.7%	36.4%	28.2%	19.5%	28.2%	33.3%	30.6%		22.0%	26.3%	
MSM	25	185	50		9	4	2	7	4	10	7	25	31	1	5	5		543	208	
	10.8%	21.0%	11.2%		20.0%	8.3%	3.1%	12.5%	7.0%	10.2%	12.7%	16.8%	25.2%	2.6%	7.6%	6.9%		25.8%	26.3%	
不明(性別がその他または不明)	13	68	35		1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0		60	18	
	5.6%	7.7%	7.8%		2.2%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.5%	0.0%		2.9%	2.3%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？																				
ない(無回答含む)	161	615	298															1486	589	
	69.7%	69.8%	66.7%															70.7%	74.5%	
ある	70	266	149															617	202	
	30.3%	30.2%	33.3%															29.3%	25.5%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？																				
ない(無回答含む)	213	781	422															2014	766	
	92.2%	88.6%	94.4%															95.8%	96.8%	
ある	18	100	25															89	25	
	7.8%	11.4%	5.6%															4.2%	3.2%	

付表 8-3 大阪府・大阪市・chotCAST なんば 各施設別 受検の満足度①（2016年4月～9月）

	大阪市				大阪府													chotCASTなんば		
	淀川区	北区	中央区	計	泉佐野	八尾	守口	岸和田	寝屋川	吹田	四条畷	藤井寺	茨木	富田林	和泉	池田	計	SLN	JHC	計
	N	231	881	447	1559	45	48	64	56	57	98	55	149	123	39	66	72	872	2103	791
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか？																				
とても満足	160	653	376		38	36	51	50	38	66	43	90	87	29	40	61		1498	671	
	69.3%	74.1%	84.1%		84.4%	75.0%	79.7%	89.3%	66.7%	67.3%	78.2%	60.4%	70.7%	74.4%	60.6%	84.7%		71.2%	84.8%	
やや満足	28	83	37		4	10	11	4	11	20	10	32	20	7	9	5		434	83	
	12.1%	9.4%	8.3%		8.9%	20.8%	17.2%	7.1%	19.3%	20.4%	18.2%	21.5%	16.3%	17.9%	13.6%	6.9%		20.6%	10.5%	
やや不満	1	1	3		0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0		38	1	
	0.4%	0.1%	0.7%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		1.8%	0.1%	
とても不満	0	2	0		1	0	0	0	2	0	1	2	0	1	1	3		6	2	
	0.0%	0.2%	0.0%		2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	1.8%	1.3%	0.0%	2.6%	1.5%	4.2%		0.3%	0.3%	
無回答	42	142	31		2	2	2	2	6	11	1	23	16	2	16	3		127	34	
	18.2%	16.1%	6.9%		4.4%	4.2%	3.1%	3.6%	10.5%	11.2%	1.8%	15.4%	13.0%	5.1%	24.2%	4.2%		6.0%	4.3%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか？																				
とても満足	159	629	362		34	34	49	49	37	61	43	94	84	30	38	60		1453	671	
	68.8%	71.4%	81.0%		75.6%	70.8%	76.6%	87.5%	64.9%	62.2%	78.2%	63.1%	68.3%	76.9%	57.6%	83.3%		69.2%	84.8%	
やや満足	27	101	49		7	12	12	3	9	24	10	28	22	5	10	6		467	81	
	11.7%	11.5%	11.0%		15.6%	25.0%	18.8%	5.4%	15.8%	24.5%	18.2%	18.8%	17.9%	12.8%	15.2%	8.3%		22.2%	10.2%	
やや不満	2	6	6		1	0	1	1	2	1	1	1	1	1	1	0		47	4	
	0.9%	0.7%	1.3%		2.2%	0.0%	1.6%	1.8%	3.5%	1.0%	1.8%	0.7%	0.8%	2.6%	1.5%	0.0%		2.2%	0.5%	
とても不満	0	2	0		1	0	0	0	2	0	0	2	0	1	1	3		8	1	
	0.0%	0.2%	0.0%		2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	2.6%	1.5%	4.2%		0.4%	0.1%	
無回答	43	143	30		2	2	2	3	7	12	1	24	16	2	16	3		126	34	
	18.6%	16.2%	6.7%		4.4%	4.2%	3.1%	5.4%	12.3%	12.2%	1.8%	16.1%	13.0%	5.1%	24.2%	4.2%		6.0%	4.3%	

付表 8-4 大阪府・大阪市・chotCAST なんば 各施設別 受検の満足度②（2016年4月～9月）

	大阪市				大阪府													chotCASTなんば			
	淀川区	北区	中央区	計	泉佐野	八尾	守口	岸和田	寝屋川	吹田	四条畷	藤井寺	茨木	富田林	和泉	池田	計	SLN	JHC	計	
	N	231	881	447	1559	45	48	64	56	57	98	55	149	123	39	66	72	872	2103	791	2894
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?																					
とても満足	155	621	353		35	35	47	42	37	57	43	92	86	28	39	60		1426	654		
	67.1%	70.6%	79.0%		77.8%	72.9%	74.6%	75.0%	64.9%	58.2%	78.2%	61.7%	69.9%	71.8%	59.1%	83.3%		67.9%	82.7%		
やや満足	29	105	55		7	11	12	11	11	25	10	26	20	8	8	6		473	92		
	12.6%	11.9%	12.3%		15.6%	22.9%	19.0%	19.6%	19.3%	25.5%	18.2%	17.4%	16.3%	20.5%	12.1%	8.3%		22.5%	11.6%		
やや不満	2	8	7		0	0	2	0	0	4	0	5	1	0	2	0		61	8		
	0.9%	0.9%	1.6%		0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	3.4%	0.8%	0.0%	3.0%	0.0%		2.9%	1.0%		
とても不満	1	2	1		1	0	0	0	2	0	1	2	0	1	1	3		14	2		
	0.4%	0.2%	0.2%		2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	1.8%	1.3%	0.0%	2.6%	1.5%	4.2%		0.7%	0.3%		
無回答	44	144	31		2	2	2	3	7	12	1	24	16	2	16	3		125	35		
	19.0%	16.4%	6.9%		4.4%	4.2%	3.2%	5.4%	12.3%	12.2%	1.8%	16.1%	13.0%	5.1%	24.2%	4.2%		6.0%	4.4%		
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?																					
とても満足	151	564	317		30	32	50	45	32	57	41	87	81	29	33	56		1410	611		
	65.4%	64.0%	71.1%		66.7%	66.7%	79.4%	80.4%	57.1%	58.2%	74.5%	58.4%	65.9%	74.4%	50.0%	77.8%		67.2%	77.2%		
やや満足	30	125	67		9	11	7	8	12	27	13	30	22	6	11	8		452	110		
	13.0%	14.2%	15.0%		20.0%	22.9%	11.1%	14.3%	21.4%	27.6%	23.6%	20.1%	17.9%	15.4%	16.7%	11.1%		21.5%	13.9%		
やや不満	6	40	29		3	1	3	1	4	2	0	5	4	1	2	2		88	34		
	2.6%	4.5%	6.5%		6.7%	2.1%	4.8%	1.8%	7.1%	2.0%	0.0%	3.4%	3.3%	2.6%	3.0%	2.8%		4.2%	4.3%		
とても不満	1	7	2		1	2	1	0	2	0	0	2	0	1	2	3		24	1		
	0.4%	0.8%	0.4%		2.2%	4.2%	1.6%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	2.6%	3.0%	4.2%		1.1%	0.1%		
無回答	43	145	31		2	2	2	2	6	12	1	25	16	2	18	3		124	35		
	18.6%	16.5%	7.0%		4.4%	4.2%	3.2%	3.6%	10.7%	12.2%	1.8%	16.8%	13.0%	5.1%	27.3%	4.2%		5.9%	4.4%		

## 近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究 ー外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査ー

研究代表者：市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授）

研究協力者：高久道子(人間環境大学大学院看護学研究科)、岩木エリーザ(NGO・CRIATIVOS PROJECTO SAUDE)、金子典代(名古屋市立大学看護学部)、塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)、岩橋恒太 (NPO 法人 akta)

### 研究要旨

近年のエイズ発生動向の特徴は、地方の MSM での HIV/AIDS 報告例の増加、若年層 MSM および外国国籍 MSM の報告例の増加が示されている。これらの MSM の特性、性行動および受検行動等の情報を収集し、その対策を検討することは今後の MSM における HIV 感染対策において重要と考える。

本研究では、多国籍化している訪日外国人、特に MSM について、多言語で日本国内での性経験、検査受検経験、HIV 関連情報の活用状況等を把握し、滞日外国人を対象とする啓発の方向性を探ることを目的とする。

1) 近年の外国国籍 HIV/AIDS 報告の特徴：エイズ発生動向調査における外国国籍感染者・患者の動向を分析し、外国国籍 MSM の動向を明らかにした。HIV/AIDS 報告数を MSM と MSM 以外に分類すると、MSM 以外では 2001 年以降減少が続いているが、MSM では徐々に増加しており、2014 年の報告数は、ほぼ同数となった。HIV 感染の報告が増えるなか国内感染例が過半数を占め、また報告地域は東京、大阪、愛知などの都市部が中心であった。

2) 外国国籍 MSM を対象としたインターネット調査：本研究では、先行研究で行った英語による質問紙調査を軸に、多言語によるインターネット調査システムを開発した。言語は日本語、英語によるシステムをベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の 7 か国語の調査が実施できるシステムを構築した。

愛知県内で毎月、外国国籍の LGBTQ を対象に開催されるクラブイベントと、滞日ブラジル人が多く集うクラブイベントでインターネット調査を実施した。有効回答は 96 件、回答者の属性は男性 66.7%、女性 30.2%、その他 3.1%であった。性経験を有する者は 76 人(79.2%)で、MSM 46.1%、MSM 以外男性 23.7%、女性 26.3%の 3 群に分類して分析を行った。

分析対象者の属性については、年齢層に有意な関連があり、24 歳以下が MSM 34.3%、MSM 以外男性 5.6%、女性 15.0%であった ( $p=0.042$ )。日本語能力は MSM が「読むこと」「話すこと」ともに「よくできる」との回答が 42.9%、48.6%と他の群より有意に高かった ( $p=0.003$ )。日本に来てから HIV や性感染症の検査を受けたいと思った経験については、MSM の方が他の群より高かった ( $p<0.01$ )。一方で、MSM に限らず MSM 以外男性と女性においても母国語で受けられる検査を希望していた (91.4%、72.2%、75.0%、 $p=0.137$ )。生涯の HIV 検査受検経験は MSM 68.6%、MSM 以外男性 27.8%、女性 35.0%であった ( $p=0.006$ ) 一方、日本での受検経験は 3 群間で有意差はなかった (66.7%、40.0%、57.1%、 $p=0.523$ )。

過去 6 か月の性行動については、MSM で 97.1%、MSM 以外男性 94.4%、女性 80.0%で ( $p=0.075$ )、

必ずコンドームを使用したのがMSM44.1%、MSM以外男性23.5%、女性56.3%であった(p=0.014)。最後にセックスをした相手については、MSMはその場限りの相手42.9%の割合が最も高く、MSM以外男性と女性は彼氏や恋人・パートナー、夫/妻が72.2%、75.5%であった(p=0.007)。

参加者の望む言語で回答が可能なインターネット調査システムの構築を行ったことで、滞日外国人を対象とするクラブイベント参加者から回答を得ることができ、MSM およびそれ以外の回答者別の行動調査を可能とした。増加する訪日外国人、滞日外国人を対象とした行動調査は、わが国およびアジア地域のMSMにおけるHIV感染の動向を探り、かつ対策の方向性を評価する上で重要である。ここで開発できた調査システムを活用し、さらに滞日外国人層を拡大した調査が今後は必要となる。

## A. 研究目的

近年のエイズ発生動向の特徴は、地方のMSMでのHIV/AIDS報告例の増加、若年層MSMおよび外国国籍MSMの報告例の増加が示されている。わが国の感染者・患者の大半を占めるMSMにおいて再び増加することなく減少に転じさせるためには、これらのMSM層への予防啓発の促進と共に、MSM全体への早期HIV検査と治療の推進が重要である。

滞日外国人では国内感染例が過半数を占めて増加している。これらのMSM層の特性、性行動および受検行動等の情報を収集し、その対策を検討することは今後のMSMにおけるHIV感染対策において重要と考える。

本研究では、多国籍化している訪日外国人、特にMSMについて、多言語で日本国内での性経験、検査受検経験、HIV関連情報の活用状況等を把握し、滞日外国人を対象とする啓発の方向性を探ることを目的とする。

## B. 研究方法

エイズ発生動向調査における外国国籍感染者・患者の動向を分析し、外国国籍MSMの動向を明らかにした。

また、国内で実施されている滞日外国人対象のHIV関連の調査研究では、外国籍者の多くは日本語への対応が困難であることを示しており、このことから、本研究では母国語によるアンケートを可能とするための多言語に

よるインターネット質問紙調査のシステムを構築することとした(研究2年度)。なお、研究費軽減を図るため、前身の研究班で用いた外国語対応インターネット調査を改変し、調査項目については、国籍、日本国内での性経験、検査受検経験、HIV関連情報の活用状況等に関する質問項目を検討し、滞日外国人への支援活動を行っているCBOと共に内容や調査方法等について検討した。

言語は、最終的に、日本語、英語をベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語に翻訳しシステムを完成した。日本語から翻訳された各言語は2名のネイティブによる確認を行い、また翻訳者とは異なるネイティブ(研究者、外国人支援NGOスタッフ、大学院生など)による確認を加えて確定した。

(倫理面への配慮)

人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を得たのちに調査を実施した(UHE-2016021)。

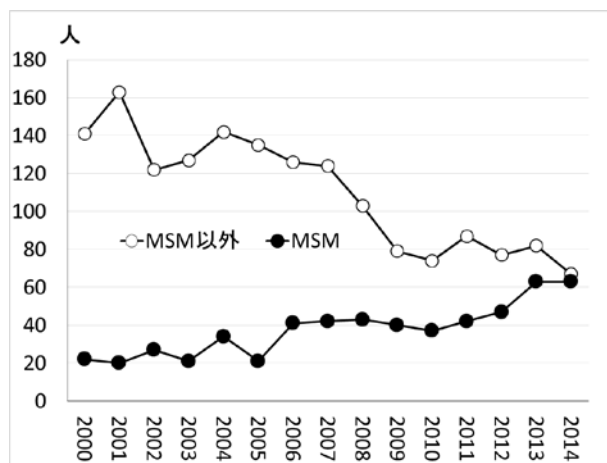
## C. 研究結果

1) 近年の外国国籍HIV/AIDS報告の特徴

外国国籍のHIV感染者、AIDS患者の報告数の動向をみると、総数(HIV/AIDS報告数)は2001年の183件をピークに減少し、2010年は111件となった。しかしその後は124件、145件、130件と再び増加の兆しである。HIV/AIDS

報告数を MSM および MSM 以外に分類してみると、MSM 以外では 2001 年以降減少が続いているが、MSM では徐々に増加しており、2014 年の報告数は、MSM63 件、MSM 以外 67 件とほぼ同数となった(図 1)。MSM の HIV/AIDS 報告数のうち、増加しているのは HIV 感染者であり、国内感染例が過半数を占め、また報告地域は東京、大阪、愛知などの都市部が中心となっている。

図 1. 外国国籍 HIV 感染者・AIDS 患者報告数 -MSM と MSM 以外の年次推移-  
(厚生労働省平成 26 年エイズ発生動向年報)



近年の外国国籍 HIV 陽性者の国籍について、1996-2002 年と 2008-2013 年を比較した研究が報告されている「外国人におけるエイズ予防指針の実効性を高めるための方策に関する研究<sup>1)</sup>」によると、従来、外国人の HIV 症例の大半を占めていたタイ、ブラジル、ミャンマー、ペルー、ウガンダといった地域の出身者から、中国、フィリピン、インドネシア地域の出身者に変ってきている。すなわち、東アジア出身者の割合が増加し、その特徴は平均年齢が若く、比較的日本語能力が高く、保健所などの検査施設を利用しており、独身の男性であることから、比較的若年で日本語能力の高い MSM が多くを占めていると推定されていた。

2) 外国国籍 MSM を対象としたインターネッ

ト調査

日本語による外国国籍を対象とした質問紙調査は、回答が日本語能力に左右され、偏りが伴う調査結果となることが想定される。また、近年の訪日者の特徴として、多国籍化があげられており、英語圏に加え多言語による質問紙が必要となっている。そのため、外国国籍者を対象とした調査はあまり行われていない現状にある。

そこで、本研究では、先行研究で行った英語による質問紙調査を軸に、多言語によるインターネット調査システムを開発した。言語は、日本語、英語によるシステムをベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の 7 か国語の調査が実施できるシステムに改変した。

また、調査項目は、1) 基本属性、日本での生活(滞在期間や日本語能力など)、2) エイズや性感染症に関連したこと(知識、対話経験、検査行動など)、3) 性行動および予防行動、性感染症既往などとした。なお、性、セクシュアリティ、性行動の回答から MSM およびそれ以外に分類できる構成とした。

愛知県内で毎月、外国国籍の LGBTQ を対象に開催されるクラブイベントのオーガナイザーに調査について説明し協力の承諾を得て、2016年12月1日～2017年2月18日にアンケート調査を実施した。またブラジル国籍の商業施設オーナーより調査の承諾を得て、2017年2月にイベント参加者に調査を行った結果、およそ150人から有効回答96件を得た。回答者の属性は男性66.7%、女性30.2%、その他3.1%であった(表1)。性経験を有する者は76人(79.2%)で、MSM46.1%、MSM 以外男性23.7%、女性26.3%で、この3群に分類して分析を行った。

分析対象者(n=73)の属性について、年齢層に有意な関連があり、24歳以下がMSM34.3%、MSM 以外男性5.6%、女性15.0%であった(p=0.042)(表2)。日本語能力についてはMSM群が「読む

こと」「話すこと」とともに「よくできる」と回答している割合が42.9%、48.6%と他の群より有意に高かった(p=0.041、p=0.003)。

滞日外国人の商業施設やSNSの利用については、MSMが他の群よりもクラブ・パーティ(p=0.001)や銭湯・サウナ(p=0.003)の利用が高く、異性愛者も利用する出会い系アプリTinderにおいても利用割合が有意に高かった(p<0.01)(表3)。ゲイ用の出会い系アプリ利用は、Grindrが74.3%と最も高く、9monsters 62.9%、Jack'd 60.0%、Hornet 54.3%であった。

日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思ったことがあると回答した者が、MSMで88.6%と、他の群(33.3%、40.0%)より有意に高かった(p<0.01)。一方で、MSMに限らずMSM以外男性と女性において母国語で受けられるHIVや性感染症の検査を高い割合で希望していた(91.4%、72.2%、75.0%、p=0.137)。外国人またはゲイ・バイセクシュアル男性に向けたHIV/エイズや性感染症の予防啓発を行っているNGO団体認知はともに低かった(p=0.530、p=0.233)。

生涯のHIV検査受検経験はMSMが68.6%で、MSM以外男性(27.8%)、女性(35.0%)と比べて有意に高かった(p=0.006)一方で、日本での受検経験は3群間で差はなかった(66.7%、40.0%、57.1%、p=0.523)(表4)。

過去6か月の性行動については、MSMで97.1%、MSM以外男性94.4%、女性80.0%で(p=0.075)、必ずコンドームを使用したのがMSM44.1%、MSM以外男性23.5%、女性56.3%であった(p=0.014)(表5)。過去6か月間で最後にセックスをした相手は、MSMはその場限りの相手44.1%で、MSM以外男性と女性は彼氏や恋人・パートナー、夫/妻と回答していた(70.6%、87.5%、p=0.003)。その時にコンドームを使ったと回答したのはMSM61.8%、MSM以外男性29.4%、女性50.0%であった(p=0.124)。

## D. 考察

日本語、英語によるシステムをベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語の調査が実施できるインターネット調査システムを構築した。滞日外国人を対象とするクラブイベントの参加者から回答を得ることができ、MSMおよびそれ以外の回答者別の行動調査を可能とした。

訪日外国人が急増している今日、在日の外国人の多様化が今後も進むことが予想される。MSMにおいても、台湾などのアジア圏に移動する日本人MSM、また訪日する外国人MSMがあり、アジアでのMSMにおけるHIV感染拡大が問題となっていることから、これら国際的な移動に伴うHIV感染拡大への対応が重要となっている。

増加する訪日外国人、滞日外国人を対象とした行動調査は、わが国およびアジア地域のMSMにおけるHIV感染の動向を探り、かつ対策の方向性を評価する上で重要である。ここで開発できた調査システムを活用し、さらに滞日外国人層を拡大した調査が今後は必要となる。また、台湾、ベトナム、中国などの地域とも共同調査が可能となる。

## E. 結論

外国国籍MSMのHIV感染者報告が増加している状況を明らかにし、外国国籍MSMの性行動、受検行動、HIV関連情報の認知等を把握することを目的に、英語圏、南米、タイ、中国、韓国等の外国国籍MSMを対象とする多言語によるインターネット調査システムを構築した。

## F. 発表論文等

### 1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一:



成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-, 日本エイズ学会誌, 19 (1), 16 - 23, 2016.

- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太: MSM(Men who have sex with men)における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32 (5) : 1029-1038, 2016
- 3) Nigel Sherriff<sup>1</sup>, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015
- 4) 高久道子, 市川誠一, 金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62(11), 684-693, 2015
- 5) 岡慎一, 市川誠一, 松下修三: HIV 検査と感染予防(座談会), HIV 感染症と AIDS の治療, 6 (2), 4-11, 2015

#### **G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)**

なし

#### 参考文献

- 1) 仲尾唯治: 「外国人におけるエイズ予防指針の実効性を高めるための方策に関する研究 (研究代表者仲尾唯治)」, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業平成 26 年度総括・分担研究報告書, 21-36, 2015.

表1 多言語調査 アンケート回答者の属性 (N=96)

	n	%
<b>回答言語</b>		
日本語	13	13.5
英語	19	19.8
スペイン語	2	2.1
ポルトガル語	61	63.5
中国語（台湾）	1	1.0
<b>年齢層</b>		
24歳以下	23	24.0
25-39歳	53	55.2
40歳以上	20	20.8
<b>性別</b>		
男性	64	66.7
女性	29	30.2
その他	3	3.1
<b>地域別出身</b>		
東ヨーロッパ	1	1.0
アジア	15	15.6
北米	6	6.2
オセアニア	3	3.1
中南米	71	74.0
<b>来日目的</b>		
日本で生まれ育った	11	11.5
留学、研修など	2	2.1
仕事で	73	76.0
旅行で	1	1.0
その他	9	9.4
<b>滞在期間</b>		
1か月～3か月	6	6.3
3か月～1年	4	4.2
1年～5年	17	17.7
5年～10年	10	10.4
10年以上	59	61.5
<b>滞在/在住の都道府県</b>		
愛知県	82	85.4
三重県	4	4.2
静岡県	4	4.2
福島県	1	1.0
岐阜県	5	5.2
<b>あなたは日本語を読むことができますか？</b>		
よくできる	24	25.0
まあまあできる	52	54.2
まったくできない	20	20.8
<b>あなたは日本語を話すことができますか？</b>		
よくできる	25	26.0
まあまあできる	58	60.4
まったくできない	13	13.5
<b>性経験分類</b>		
MSM	35	36.5
異性間男性	18	18.8
異性間女性	14	14.6
同性間女性	1	1.0
バイ女性	5	5.2
その他	3	3.1
セックス未経験と回答した者	20	20.8

表2 滞日外国人の属性 (MSM と MSM 以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)	P値	
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
回答言語	日本語	8	22.9%	0	0.0%	1	5.0%	9	12.3%	<b>0.021</b>
	英語	10	28.6%	1	5.6%	5	25.0%	16	21.9%	
	スペイン語	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	1	1.4%	
	ポルトガル語	17	48.6%	16	88.9%	13	65.0%	46	63.0%	
	中国語 (台湾)	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	1	1.4%	
年齢層	24歳以下	12	34.3%	1	5.6%	3	15.0%	16	21.9%	<b>0.042</b>
	25-39歳	20	57.1%	11	61.1%	11	55.0%	42	57.5%	
	40歳以上	3	8.6%	6	33.3%	6	30.0%	15	20.5%	
就労状況	正規雇用で働いている	28	80.0%	18	100.0%	15	75.0%	61	83.6%	0.068
	パートタイムで働いている	6	17.1%	0	0.0%	2	10.0%	8	11.0%	
	働いていない	1	2.9%	0	0.0%	3	15.0%	4	5.5%	
婚姻状況	結婚していない	34	97.1%	10	55.6%	9	45.0%	53	72.6%	<b>&lt;0.01</b>
	結婚していないが、一緒に生活しているパートナーがいる	0	0.0%	4	22.2%	4	20.0%	8	11.0%	
	結婚している	1	2.9%	4	22.2%	7	35.0%	12	16.4%	
来日目的	日本で生まれ育った	8	22.9%	0	0.0%	1	5.0%	9	12.3%	0.093
	留学、研修など	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	
	仕事で	23	65.7%	18	100.0%	17	85.0%	58	79.5%	
	その他	3	8.6%	0	0.0%	2	10.0%	5	6.8%	
滞日期間	1カ月～3カ月	1	2.9%	1	5.6%	0	0.0%	2	2.7%	0.780
	3カ月～1年	1	2.9%	0	0.0%	2	10.0%	3	4.1%	
	1年～5年	7	20.0%	4	22.2%	2	10.0%	13	17.8%	
	5年～10年	4	11.4%	2	11.1%	3	15.0%	9	12.3%	
	10年以上	22	62.9%	11	61.1%	13	65.0%	46	63.0%	
日本語を読むこと	よくできる	15	42.9%	2	11.1%	2	10.0%	19	26.0%	<b>0.041</b>
	まあまあできる	16	45.7%	13	72.2%	14	70.0%	43	58.9%	
	まったくできない	4	11.4%	3	16.7%	4	20.0%	11	15.1%	
日本語を話すこと	よくできる	17	48.6%	1	5.6%	2	10.0%	20	27.4%	<b>0.003</b>
	まあまあできる	14	40.0%	15	83.3%	16	80.0%	45	61.6%	
	まったくできない	4	11.4%	2	11.1%	2	10.0%	8	11.0%	

表3 滞日外国人の商業施設やSNSの利用、HIV/エイズに関する情報について (MSMとMSM以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)	P値	
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
商業施設やSNSの利用について (複数回答)	バー	32	91.4%	14	77.8%	13	65.0%	59	80.8%	0.053
	クラブ・パーティ	33	94.3%	9	50.0%	15	75.0%	57	78.1%	<b>0.001</b>
	銭湯・サウナ	21	60.0%	2	11.1%	9	45.0%	32	43.8%	<b>0.003</b>
	Tinder	17	48.6%	1	5.6%	2	10.0%	20	27.4%	<b>0.000</b>
	Grindr	26	74.3%	1	5.6%	0	0.0%	27	37.0%	<b>0.000</b>
	Jack'd	21	60.0%	1	5.6%	0	0.0%	22	30.1%	<b>0.000</b>
	9 monsters	22	62.9%	1	5.6%	0	0.0%	23	31.5%	<b>0.000</b>
	SCRUFF	7	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	9.6%	<b>0.015</b>
	Hornet	19	54.3%	2	11.1%	1	5.0%	22	30.1%	<b>0.000</b>
	BODY RUSH	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.577
	KO-MENS TV	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.1%	0.183
	BIG-MEN	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	どれもない	0	0.0%	1	5.6%	1	5.0%	2	2.7%	0.386
日本で、HIV/エイズに関する情報を得たこと	ある	22	62.9%	7	38.9%	7	35.0%	36	49.3%	0.082
	ない	13	37.1%	11	61.1%	13	65.0%	37	50.7%	
日本に来てからHIV/エイズや性感染症のことで相談したいと思ったこと	ある	23	65.7%	6	33.3%	9	45.0%	38	52.1%	0.063
	ない	12	34.3%	12	66.7%	11	55.0%	35	47.9%	
日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思ったこと	ある	31	88.6%	6	33.3%	8	40.0%	45	61.6%	<b>0.000</b>
	ない	4	11.4%	12	66.7%	12	60.0%	28	38.4%	
母国語で受けられるHIVや性感染症の検査があったら	受けたいと思う	32	91.4%	13	72.2%	15	75.0%	60	82.2%	0.137
	受けたいと思わない	3	8.6%	5	27.8%	5	25.0%	13	17.8%	
日本で保健所でHIV検査を無料・匿名で受けられること	知っている	21	60.0%	6	33.3%	8	40.0%	35	47.9%	0.130
	知らない	14	40.0%	12	66.7%	12	60.0%	38	52.1%	
外国人に向けたHIV/エイズや性感染症の予防啓発を行っているNGO団体	知っている	8	22.9%	2	11.1%	3	15.0%	13	17.8%	0.530
	知らない	27	77.1%	16	88.9%	17	85.0%	60	82.2%	
ゲイ・バイセクシュアル男性に向けたHIV/エイズや性感染症の予防啓発を行っているNGO団体	知っている	10	28.6%	3	16.7%	2	10.0%	15	20.5%	0.233
	知らない	25	71.4%	15	83.3%	18	90.0%	58	79.5%	

表 4 滞日外国人の HIV/AIDS についての対話経験、身近感、HIV 検査行動について (MSM と MSM 以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)		P値
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
過去 6ヵ月間に、HIV/エイズについて (複数回答)	家族と話した	8	22.9%	5	27.8%	4	20.0%	17	23.3%	0.849
	友人・知人と話した	26	74.3%	6	33.3%	5	25.0%	37	50.7%	<b>0.000</b>
	彼氏・恋人と話した	9	25.7%	2	11.1%	3	15.0%	14	19.2%	0.378
	誰とも話したことはない	7	20.0%	7	38.9%	9	45.0%	23	31.5%	0.117
友人・知人など身近な人で HIV に感染している人	知っている	13	37.1%	2	11.1%	4	20.0%	19	26.0%	0.161
	知らない	17	48.6%	11	61.1%	14	70.0%	42	57.5%	
	わからない	5	14.3%	5	27.8%	2	10.0%	12	16.4%	
これまでに HIV 検査を受けたこと	ある	24	68.6%	5	27.8%	7	35.0%	36	49.3%	<b>0.006</b>
	ない	11	31.4%	13	72.2%	13	65.0%	37	50.7%	
		(n=24)		(n=5)		(n=7)		(n=36)		
HIV 検査を最後に受けたのはいつ?	1年以内に受けた	12	50.0%	2	40.0%	1	14.3%	15	41.7%	0.240
	1年以上前に受けた	12	50.0%	3	60.0%	6	85.7%	21	58.3%	
日本で HIV 検査を受けたこと	ある	16	66.7%	2	40.0%	4	57.1%	22	61.1%	0.523
	ない	8	33.3%	3	60.0%	3	42.9%	14	38.9%	
		(n=16)		(n=2)		(n=4)		(n=22)		
日本で HIV 検査を最後に受けたのはいつ?	1年以内に受けた	10	62.5%	1	50.0%	1	25.0%	12	54.5%	0.400
	1年以上前に受けた	6	37.5%	1	50.0%	3	75.0%	10	45.5%	
日本で HIV 検査を受けた場所 (複数回答)	病院・クリニック	8	50.0%	1	50.0%	3	75.0%	12	54.5%	0.662
	保健所	9	56.3%	1	50.0%	1	25.0%	11	50.0%	0.535
	郵送検査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.822

表 5 滞日外国人の性感染症の既往、性行動について (MSM と MSM 以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)	P値	
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
これまでに性感染症にかかったこと	ある	6	17.1%	1	5.6%	1	5.0%	8	11.0%	0.267
	ない	29	82.9%	17	94.4%	19	95.0%	65	89.0%	
これまでにセックスした相手	異性のみ	0	0.0%	18	100.0%	14	70.0%	32	43.8%	<b>0.000</b>
	同性のみ	25	71.4%	0	0.0%	1	5.0%	26	35.6%	
	異性と同性	10	28.6%	0	0.0%	5	25.0%	15	20.5%	
過去 6 カ月間のセックス経験	ある	34	97.1%	17	94.4%	16	80.0%	67	91.8%	0.075
	ない	1	2.9%	1	5.6%	4	20.0%	6	8.2%	
		(n=34)		(n=17)		(n=16)		(n=67)		
過去6か月間のセックス時のコンドーム使用	必ず使った	15	44.1%	4	23.5%	9	56.3%	28	41.8%	<b>0.014</b>
	使うことが多かった	7	20.6%	5	29.4%	0	0.0%	12	17.9%	
	五分の割合で使った	8	23.5%	3	17.6%	0	0.0%	11	16.4%	
	使わないことが多かった	3	8.8%	2	11.8%	1	6.3%	6	9.0%	
	全く使わなかった	1	2.9%	3	17.6%	6	37.5%	10	14.9%	
過去6か月間で最後にセックスした相手	彼氏や恋人・パートナー・夫/妻	9	26.5%	12	70.6%	14	87.5%	35	52.2%	<b>0.003</b>
	セックスフレンド	8	23.5%	1	5.9%	1	6.3%	10	14.9%	
	その場限りの相手	15	44.1%	3	17.6%	1	6.3%	19	28.4%	
	その他	2	5.9%	1	5.9%	0	0.0%	3	4.5%	
過去6か月間で最後にセックスした時、コンドーム使用	使った	21	61.8%	5	29.4%	8	50.0%	34	50.7%	0.124
	使わなかった	10	29.4%	11	64.7%	8	50.0%	29	43.3%	
	覚えていない	3	8.8%	1	5.9%	0	0.0%	4	6.0%	

**近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究  
中・四国地方における MSM の HIV 検査状況に関する調査(2016 年)  
ー岡山県の MSM への予防啓発と HIV 検査に関する CBO・自治体連携についてー**

研究代表者：市川誠一(人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授)

研究協力者：新山賢、岡崎好晃(HaaT えひめ)

大山治彦(四国学院大学社会福祉学部/HaaT えひめ)

塩野徳史(名古屋市立大学看護学部/MASH 大阪)

後藤大輔、町登志雄(公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪)

永田佳奈子、坂本三貴(岡山県保健福祉部健康推進課)

石原千嘉(岡山市保健所保健課感染症対策係)

村中沙織(倉敷市保健所保健課感染症係)

和田秀穂(川崎医科大学血液内科学)

**研究要旨**

近年、東京、大阪、名古屋などの都市部では減少や横ばい傾向がみられている一方、他の地域において、男性同性間の性的接触による HIV 感染者、エイズ患者報告数が増加傾向にある。特に HIV 感染者およびエイズ患者の合計に占めるエイズ患者割合が高いことが地方の特徴である。地方の MSM を対象に予防啓発および早期検査と治療の促進を図ることが必要となっている。

岡山県は、岡山市、倉敷市の自治体と連携し、MSM を対象に啓発活動に取り組む CBO・HaaT えひめ、MASH 大阪、あうとび一ちと協力関係を構築し、エイズ拠点病院および泌尿器科クリニック(2015 年 3 施設、2016 年 4 施設)の協力を得て、MSM 向けのクリニック検査キャンペーン「もんげ～性病検査」を年 2 回実施した。CBO・HaaT えひめは、MSM 向けの広報資材を作成し、岡山の当事者団体あうとび一ちと連携して地域の MSM への広報を行い、クリニック検査への誘導を図った。

研究班は、岡山県・岡山市・倉敷市、CBO・HaaT えひめに協力し、地方における MSM へのエイズ対策事例として、その効果を HIV 抗体検査受検者調査により評価した。岡山県内の保健所における受検者では、MSM 以外の男性は 2015 年 59.0%、2016 年 57.1%、女性は各年 29.8%、31.6%、MSM は各年 10.8%、10.9%であった。保健所と拠点病院の受検者を MSM、MSM 以外男性、女性に分類して分析したところ、岡山県の検査広報カードの認知率は MSM が 22.0%と高く(p<0.01)、CBO が配布した場所で受け取っていることが分かった。また CBO や MSM 向け啓発資材の認知も MSM に訴求していることが示された。地域の HIV 検査受検者の特性、特に MSM の動向および地域の広報活動への反応などの知見を得ることができ、地域の HIV 感染対策の資料となった。

「もんげ～性病検査」受検者数は、2015 年 31 件(内、HIV 陽性判明 1 件(3.2%))、2016 年は 46 件(HIV 陽性判明数 0 件)であった。HIV 感染者や AIDS 患者の増加傾向が報告されている中国・四国地域では MSM の早期検査と早期治療が重要であり、行政・CBO・エイズ拠点病院・クリニックが協力した取り組みは、モデル対策事業の一つといえる。岡山県での継続が望まれる。

## A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向調査によれば、近年の HIV 感染者、エイズ患者の動向は、男性同性間の性的接触による報告数が増加から横ばいに転じている。日本国籍の男性同性間の HIV 感染者と AIDS 患者を加えた報告数は、東京、大阪、名古屋の都市部がある地域とそれ以外の地域をみると、都市部のある地域では減少、横ばいであるのに対して、その他の地域は増加が続いている。特に、九州地域、中国・四国地域(中・四国)で増加が目立っている。

図1 地域別・推定MSM人口におけるHIVおよびAIDS報告数(対MSM人口10万人)の年次推移

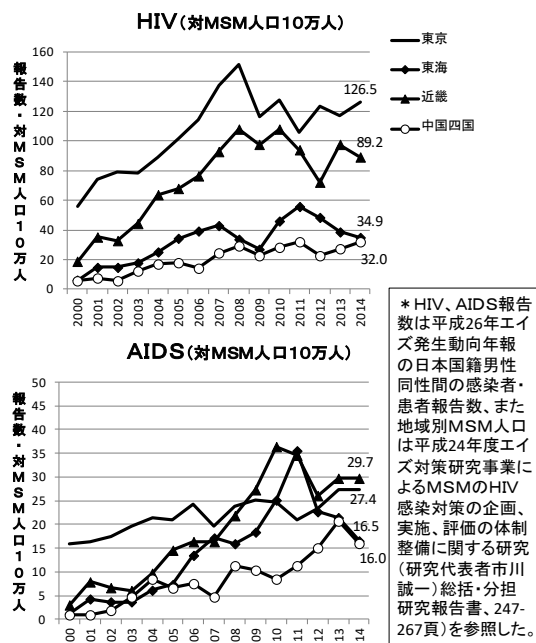


図2 CBOによるMSMを対象としたHIV抗体検査「もんげ～性病検査」の広報資料



本研究班が平成24年度に報告した成人男性に占める MSM(男性と性行為をする男性)の人口割合に基づいて推定したMSM人口10万対のHIVおよびAIDSの報告数の年次推移は、東京、近畿、東海が減少傾向にあるのに対し、中四国では増加傾向にある(図1)。また、中四国の2014年の推定報告数は、HIVおよびAIDS共に東海地域とほぼ同程度であった。地方在住のMSMは都市部在住のMSMに比べて、HIV抗体検査受検行動の低いことが、先行研究で指摘されている。

以上のような背景から、岡山県はMSMに向けた早期検査と早期医療の機会促進を検討し、2015年に岡山県、岡山市、倉敷市と地域のCBO・HaaT えひめが共同し、クリニックおよびエイズ拠点病院の協力を得て、MSMを対象とするクリニック検査キャンペーン「もんげ～性病検査」を実施し、2016年も継続した(図2)。

本研究では、岡山県と協同し、MSM向けのクリニック検査キャンペーンおよび保健所のHIV抗体検査の受検者を対象に質問紙調査を2015年、2016年と実施し、①岡山県内のHIV抗体検査受検者の特性およびMSM受検者の動向の把握、②中国・四国地方のエイズ対策におけるCBO活動の評価(啓発資材の認知等)を分析した。

## B. 研究方法

### 1. MSM向けクリニック検査の広報について

2015年のクリニック検査キャンペーン実施にあたっては、岡山県・岡山市・倉敷市の行政担当者、CBO・HaaT えひめ、CBO/MASH大阪、研究者間で協議し、連携における各々の役割、クリニック検査キャンペーン広報の方法、HIV陽性判明後の支援体制等について協議を重ねた。HIV陽性判明後の支援については、先行研究をもとに、保健所等のHIV検査担当者を対象にMSMや陽性者への対応に関するスキルアップトレーニング研修を実施した。

クリニック検査キャンペーンでは、行政担



当者がクリニックへの協力要請と説明を担当し、エイズ拠点病院および泌尿器科クリニック(3施設)の協力を得た。

クリニック検査キャンペーン実施後には、行政担当者、CBO 団体、協力医療機関医師が集まり意見交換会を行った。

検査キャンペーンの効果を評価する目的で、HaaT えひめ(愛媛)、あうとぴーち(岡山)のCBOを中心に、ロゴ・名称を設定(もんげ～性病検査)し、商業施設へのニュースペーパーとインターネットバナーで広報した。広報はMASH 大阪が大阪府のクリニック検査キャンペーンで実施している方法を参考にした。

2016年のクリニック検査キャンペーン実施にあたっては、2015年と同様に地域のCBOが広報を担当し、保健所等のHIV検査担当者を対象にしたMSMや陽性者への対応に関するスキルアップトレーニング研修を実施した。クリニック検査キャンペーンでは、継続してエイズ拠点病院および泌尿器科クリニックの協力を得て実施した。なお、クリニックが1か所増え、岡山市内2か所、倉敷市内2か所、計4クリニックで受検が可能となった。

なお、「もんげ～性病検査」受検者数は、2015年31件(内、HIV陽性判明1件(3.2%)、2016年は46件(HIV陽性判明数0件)であった。

## 2. HIV抗体検査受検者動向の把握

岡山県内の保健所等で実施するHIV抗体検査の受検者を対象とした無記名自記式質問紙調査(留め置き法)を実施し、MSM受検者の動向を把握した。

本研究では「これまでに同性間性的接触を有した男性」をMSMと定義し、性別の他に、これまでに性行為をした相手の性別について尋ねた。選択肢は、性別では男性、女性、その他とし、性行為をした相手の性別は男性のみ、女性のみ、男性と女性の両方とした。分析では、これまでに男性もしくは男性と女性の両方と性行為経験のあった男性をMSMとし

て分類し、MSM以外の男性、女性、MSMの3群について分析を進めた。2015年2月～2016年9月までの回答者のうち、保健所の受検者について分析した。

また同様の調査を2015年7月からエイズ拠点病院でも郵送法を用いて実施し、同期間の保健所受検者と比較検討した。「もんげ～性病検査」による受検者についても保健所と同様の方法で質問紙調査を実施した。

データの入力には岡山県内の保健所職員が行い、データ集計を本研究で実施した。データの集計および統計処理にはIBM SPSS Statistics 23 (Windows)を用いた。

## 3. 倫理面への配慮

保健所などの受検者を対象とした調査については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。(2015年2月13日改定、ID番号14032-2)。

## C. 研究結果

本報告では2015年2月～2016年9月までの回答者を対象として分析を行った。回収率は保健所全体で2015年92.0%、2016年84.3%であり、拠点病院では2015年21.4%、2016年9.8%、「もんげ～性病検査」に参加した診療所・クリニックでは2015年86.7%、2016年83.7%であった。概要を表1に示した。

### 1. 保健所受検者の四半期別動向(表2～表6)

岡山県内の保健所における受検者について、3カ月ごとの四半期別に動向を分析した。MSM以外の男性は2015年59.0%、2016年57.1%と半数以上を占め、女性は各年29.8%、31.6%、MSMは各年10.8%、10.9%であった。MSM割合は、2015年は6.5%(7月～9月)から13.0%(4月～6月)と四半期ごとに変動がみられていた一方、2016年は9.5%から12.0%に徐々に割合が高くなる傾向にあった(表2、図3)。四半期別の受検者層の割合に有意差は

みられなかった(p=0.39)。

HIV 抗体検査を初めて受検する割合は 2015 年 66.4%、2016 年 63.1%、4 半期ごとでは 60.7~69.7%と 60%台の推移であった(表 3、図 4)。受検経験者の中で、過去 1 年間に受けた割合は 2015 年 26.8%、2016 年 25.0%で、

図3 保健所受検者における四半期別MSM割合

\*Pearson のカイ 2 乗検定によるp値: 4半期別比較p=0.39

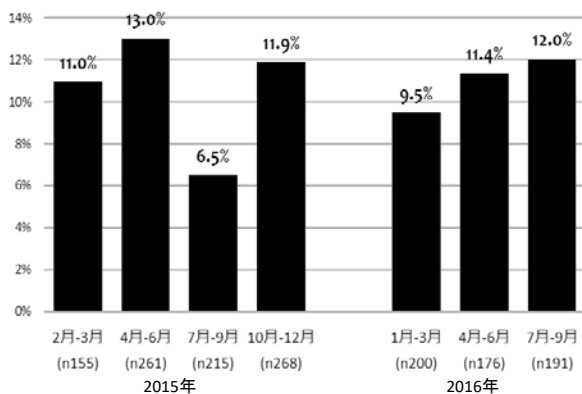


図4 保健所受検者の生涯受検経験(四半期別)

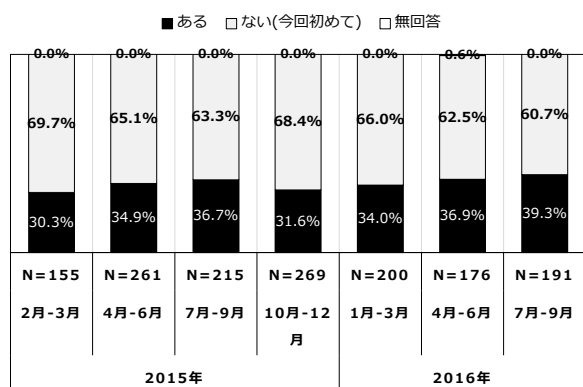
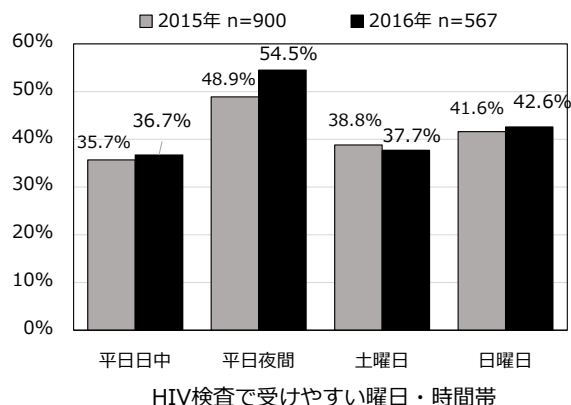


図5 保健所受検者の検査の受けやすい時間帯



ほとんど(80%近く)が保健所で受けており、四半期ごとで大きな変化はなかった(表 3)。保健所受検者は、HIV 検査の受けやすい時間帯について、2015 年、2016 年ともに平日夜間を希望するものが半数を超えていた。

保健所受検者の大半は生涯の性経験を有し、性感染症の既往を有する割合は 2015 年 23.4%、2016 年 22.4%であった(表 5)。

岡山県では検査広報カードを作成し、HIV 検査の周知を図っている。保健所受検者でこの検査広報カードを見たことがある者は 2015 年 6.4%、2016 年 6.0%であった。また MSM 向けに企画実施している「もんげ〜性病検査」カードの認知は 2015 年 0.8%から 2016 年 3.7%と上昇がみられた(p<0.01、表 6)。MSM 研究班で実施している若年層 MSM 向けの予防啓発プログラム「やる!プロジェクト」のロゴ認知も 0.7%から 2.8%に上昇していた(p<0.01)。

## 2. 保健所受検者・拠点病院受検者の MSM 以外男性・女性・MSM の比較(表 7~表 9)

MSM 受検者の特性を把握する目的で、クリニック検査キャンペーン受検者を除く、保健所および拠点病院の受検者について、MSM 以外男性、女性、MSM に分類して比較した。年齢層で有意差がみられ、女性では 20-29 歳層の割合が半数を占めており、MSM 以外男性、MSM と異なっていた(p<0.01、表 7)。

生涯 HIV 検査受検割合は、MSM 以外男性、女性に比べて MSM が高く 63.0%であった(p<0.01)。過去 1 年間に受検した割合は、MSM が 34.9%で最も高く、女性は 20.0%であったが、有意な差異ではなかった(図 6、表 8)。

性感染症既往のある人の割合は、女性が 28.5%、次いで MSM25.0%で、MSM 以外男性は 18.9%であった(p=0.03、表 9)。過去 6 ヶ月間にお金をもらってセックスしたことがある人の割合も女性が 4.5%と最も高く、MSM で 3.0%であった(p<0.01)。一方お金を払って

セックスをしたことがある人の割合はMSM以外男性が48.5%と半数近くを占め、MSMが17.0%、女性が0.4%であった(p<0.01)。

検査情報の認知についてみると、岡山県の検査広報カードの認知率は3群で異なり、MSMが22.0%と高いことが示された(p<0.01、図6、表9)。さらにこのカードを手に入れた場所が3群で異なり、MSMではCBO・HaaT えひめ、あうとぴーちがMSM向けに配布したクラブイベント(p<0.01)、ゲイバー(p=0.01)で入手していることが示された。また、CBOの認知、MSM向けの資材等の認知もMSMで高く、MSMへの訴求性が示されていた。

図6 保健所・拠点病院受検者における検査行動  
- 受検経験、受検時期 -

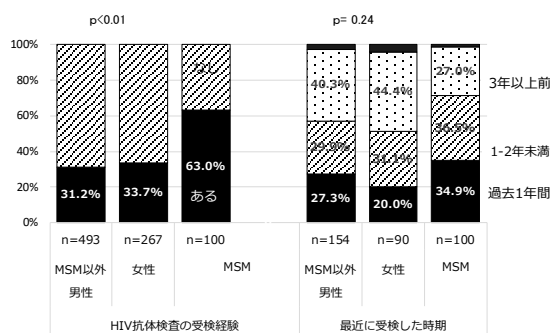


図7 保健所・拠点病院受検者における検査広報、啓発資材・情報、CBO等の認知について

	MSM以外の男性 n=493	女性 n=267	MSM n=100	Pearson カイ2乗
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?				
ある	4.7%	3.4%	22.0%	<0.01
ない	93.9%	95.9%	78.0%	
無回答	1.4%	0.7%	0.0%	
検査広報カードをどこでみましたか? <sup>2</sup>				
トイレ	30.4%	44.4%	27.3%	0.64
会社	13.0%	0.0%	0.0%	0.12
学校・大学	0.0%	11.1%	4.5%	0.31
病院	39.1%	33.3%	22.7%	0.49
クラブイベント	0.0%	0.0%	31.8%	<0.01
ゲイバー	0.0%	0.0%	27.3%	0.01
その他	17.4%	33.3%	40.9%	0.22
検査に来る前に以下の印刷物、ロゴ、ホームページを見たことがある				
岡山県のホームページ	17.4%	13.5%	20.0%	0.23
岡山市のホームページ	18.5%	15.7%	25.0%	0.12
倉敷市のホームページ	11.2%	12.0%	16.0%	0.40
CBO/あうとぴーち	0.4%	0.0%	15.0%	<0.01
CBO/HaaTえひめ	0.4%	0.0%	22.0%	<0.01
fight!! (CBOの情報誌)	0.2%	0.4%	17.0%	<0.01
やる!プロジェクト	0.0%	0.4%	19.0%	<0.01
もんげー性病検査	0.9%	0.0%	28.1%	<0.01

3. 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の特性 (表10～表15)

岡山県内のHIV抗体検査受検者の検査利用に関する選択的特性を明らかにする目的で、2015年7月から2016年9月までの受検者について検査機関別に分析した。

受検者中のMSM割合は、岡山県、岡山市、倉敷市の保健所の受検者間では9.8%～10.7%で差異はみられなかった。拠点病院受検者では回収率が低いためデータの代表性は低い、18.6%と保健所よりはやや高い。一方でクリニック検査キャンペーン「もんげー性病検査」の受検者は98.1%がMSMであった(図8)。

生涯のHIV検査受検経験割合は、保健所が34.9%～36.3%、拠点病院48.8%、クリニック検査キャンペーンが61.1%で、検査機関別に差異があった(p=0.01、表11)。受けやすい

図8 検査機関別受検者中のMSM割合

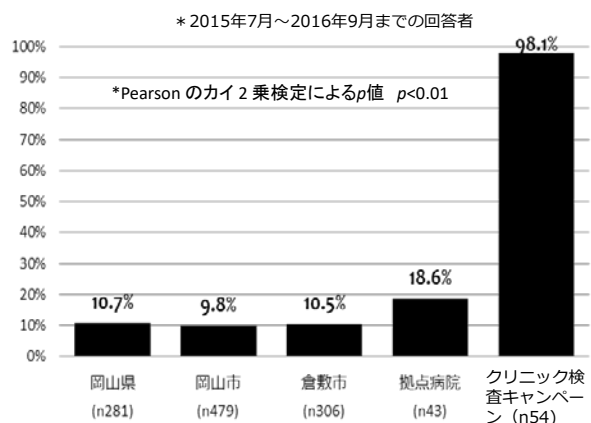
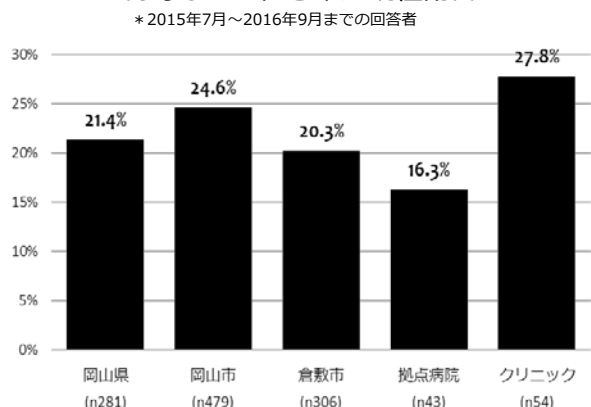


図9 検査機関別受検者のクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症既往割合



曜日や時間帯についてみると、土曜日を選んだ割合は、保健所 34.6%~36.7%、拠点病院 51.2%、クリニック検査キャンペーン受検者が 55.6% (p=0.01)、日曜日である割合は保健所が 38.8%~38.9%、拠点病院 39.5%、クリニック検査が 57.4% (p=0.04)、平日夜間は保健所が 42.7~53.3% (p<0.01) で倉敷市受検者が高い。また拠点病院は 41.9%、クリニック検査は 59.3% (p<0.01) で検査機関によって差異があった。検査情報の認知についてみると、検査広報カードの認知率はクリニック検査キャンペーン受検者が 18.5% と他の機

関に比べて高いことが示された (p<0.01、表 14)。また CBO の認知 (図 10)、MSM 向けの資材等の認知割合はクリニック検査受検者で高く、「もんげ〜性病検査」についてはその受検者のほとんどが認知していた (図 11)。

#### D. 考察

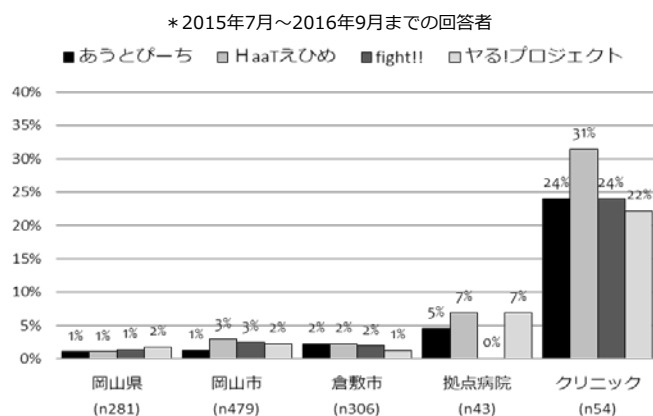
クリニック検査キャンペーン「もんげ〜性病検査」は、地域のクリニックが MSM を対象とする HIV 検査の実施に協力してくれたことで、2015 年から実施が可能となった。「もんげ〜性病検査」は、岡山県が事業化したことで、本年度も昨年と同様にキャンペーンを 2 回実施し、協クリニックも 1 機関増えて 4 クリニックとなった。このため、徐々に利用者数が増加してきている。

「もんげ〜性病検査」に参加した診療所・クリニック以外の保健所等の受検者においても、「もんげ〜性病検査」の認知割合、地域の CBO・あうとぴーちや HaaT えひめの活動の認知割合が MSM において高くなっていることが示され、クリニック検査キャンペーンに関連した啓発活動が、対象とした MSM 層の検査行動の促進に関与している可能性が考えられる。

昨年度のクリニック検査キャンペーンでは、これまでの受検場所でクリニックを利用した人はおらずクリニック検査キャンペーンで初めてクリニックを利用していたことが示されていたが、本年度の調査ではクリニックでの受検経験を有する者は 30% であった。

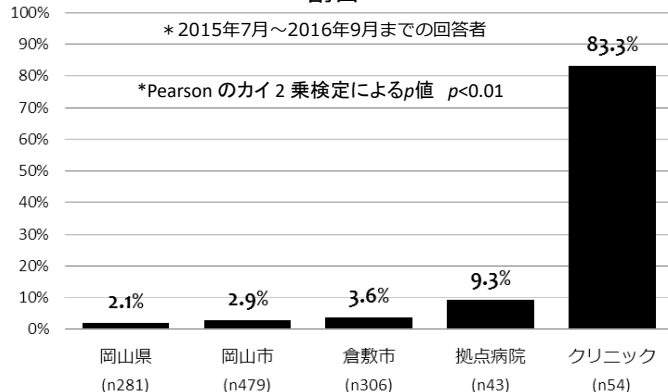
検査の受けやすい曜日については、クリニック検査キャンペーン受検者は、平日夜間を選択した割合が高く、土曜日、日曜日を選択した者も過半数を占めた。保健所で実施している時間帯では受けにくい人たちが、クリニックで

図10 検査機関別受検者のゲイ向けCBO、資材等の認知



参考：保健所・拠点病院受検者におけるMSM受検者(n=100)での認知割合は、「あうとぴーち」15.0%、「HaaT えひめ」22.0%、「fight!!(CBOの情報誌)」17.0%、「やる!プロジェクト(若年層MSM向けの予防プログラム)」19.0%であり、MSMに訴求していることが示されている。

図11 検査機関別受検者の「もんげー性病検査」の認知割合



参考：保健所・拠点病院受検者におけるMSM受検者(n=100)での、「もんげー性病検査」の認知割合は28.1%で、MSMに訴求している。

の検査を利用していたものとする。

2015年の本キャンペーンでは、受検者31件、HIV陽性判明1件(3.2%)であった。本年度、受検者は46件に増えたがHIV陽性判明数は0件であった。このキャンペーンのMSM受検者数は保健所のMSM受検者数の2-3カ月に相当している。HIV感染者やAIDS患者の増加傾向が報告されている中国・四国地域では、HIV感染対策として、MSMの早期検査と早期治療が重要と考えられ、岡山県・市、地域CBO、エイズ拠点病院、そして地域のクリニックが協力して取り組む本検査キャンペーンは、一つのモデル対策事業といえる。岡山県では今後も継続するとともに、他の地域にも拡大していくことが望まれる。

本研究で示したように、直接啓発に接触した対象(クリニック検査受検者)のデータのみではなく、保健所受検者やエイズ拠点病院の受検者データを俯瞰できる体制を構築できたことで、受検者の動向に関する結果等を行政内部や地域の医療者ネットワークでの効果評価の場面でも活用できている。中国・四国地域では今年度より香川県でも同様に、保健所の受検者を対象とした調査が実施されることとなり、先行研究の知見をもとに、CBO・行政・医療者の協働体制の構築が進みつつある。

一方で、行政単位で固有のCBOに連絡・調整が発生することで、CBOの負担は増加し、ひいては介入対象となるコミュニティにおいても類似した情報が普及することによって訴求力に弊害が生じる可能性が考えられる。

HIVを含む性感染症の対策を地方地域で展開する場合には、特に彼らのツーリズムを考慮する必要がある。彼らはセクシュアリティに対する偏見から地元での活動を自粛し、近隣の地域を生活圏とする場合も想定され、検査行動、予防行動に関する情報普及や啓発活動は行政単位を越えて広域事業として実施される必要がある。その点でCBOは行政域を超えて活動することが比較的容易であるが、中

国・四国地域のCBOにはコミュニティセンターがなく、恒常的な事務機能も持つことも困難な状況にある。そのため各地域の行政との個別対応はCBOにとっては加重負担となり、各行政が一体化した連携対応が望まれる。

## E. 自己評価

### 1. 達成度について

岡山県ではCBOと医療者・行政が協働し「もんげ〜性病検査」が事業として継続した。その効果評価の一環として受検者調査を導入し、行政主体で実施・入力し、研究班が集計し、関係者で事業と動向を評価する体制を構築したそのため目標はほぼ達成した。

### 2. 研究成果の学術的・国際的・社会的意義

AIDS患者の発生割合の高い地方地域では保健所に加えて、平日夜間、土曜日にも受検が可能なクリニックでのHIV検査は利便性を高めることになる。また、行政、CBO、医療機関が共同してMSMに検査を促進する取り組みによりMSMに訴求する広報普及が可能であることが示された。保健所等の受検者から得られる情報により、受検者動向や普及活動の効果を把握することができており、地域のエイズ対策に資することが示唆された。香川県でも同様の体制構築が検討されており、岡山県での取り組みや本研究の知見を参考にしており社会的意義が高いと考える。

### 3. 今後の展望について

残された課題として、①広域対策の必要性に対して、コミュニティセンターのない地域のCBOまたは予防啓発の体制が脆弱なこと、②動向委員会の報告を契機に香川県でも取り組みが検討されることとなったが、以前地方行政のHIV感染対策に対する意識には差があり、連携体制の構築も広域で効率的には進めにくいこと、③地方地域のコミュニティにおける予防啓発活動をより効率的な事業とする

ためには、MSM の地域間移動を意識して、コミュニティネットワークを活用する必要があることが挙げられる。

## F. 結論

岡山県、岡山市、倉敷市は、MSM を対象に啓発活動に取り組むCBO・HaaT えひめ、MASH 大阪と協力関係を構築し、エイズ拠点病院および泌尿器科クリニック(4 施設)の協力を得て、MSM 向けのクリニック検査キャンペーン「もんげ〜性病検査」を2年にわたり実施した。CBO との共同で、MSM 向けの広報資材を作成し、岡山の当事者団体と連携して地域の MSM への広報を行い、クリニック検査への誘導を図った。

本研究では、岡山県・岡山市・倉敷市の保健所、拠点病院、クリニックの HIV 抗体検査受検者を対象に実施した質問紙調査により、地方における MSM へのエイズ対策事例として、その効果を HIV 抗体検査受検者調査で評価した。地域の HIV 検査受検者、特に MSM の動向や関連する情報、地域の広報活動への反応などの知見を得ることができ、地域の HIV 感染対策の資料となった。

## G. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

特になし。

## H. 発表論文等

### 1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-. 日本エイズ学会誌(in press).
- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太. MSM(Men who have sex with men)における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32 (5) :

1029-1038, 2016

### 2. 学会発表(国内)

- 1) 塩野徳史. エイズとコミュニティ-MASH 大阪とは何か?. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」2016 年 10 月、大阪.
- 2) 鬼塚哲郎. MASH 大阪のはじまりと 10 年の歩み-地域コミュニティの形成と人材の成長. 第 75 回日本公衆衛生学会総会、シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」2016 年 10 月、大阪.

表1 岡山県内における HIV 抗体検査受検者の調査概要

	2015年														2016年																																					
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	不明	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	不明	合計																												
	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	不明 受 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数	不明 受 検 者 数	受 検 者 数	回 検 者 数																										
保健所	69	65	97	90	75	71	65	64	138	126	68	63	68	63	82	77	56	48	90	80	157	141	0	0	965	888	92.0%	86	72	80	67	75	61	49	41	56	46	107	89	80	68	75	59	82	64	0	15	690	582	84.3%		
備前保健所	14	13	6	5	12	12	12	9	19	17	11	9	9	8	11	11	9	8	11	11	28	26	0	0	142	129	90.8%	5	4	9	9	9	9	7	7	9	9	12	12	9	9	19	19	11	10	0	0	90	88	97.8%		
備前保健所東備支所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	3	3	100.0%	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	5	2	40.0%	
備中保健所	1	1	2	2	3	3	6	6	1	1	1	1	0	0	3	3	0	0	0	0	4	4	0	0	21	21	100.0%	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	2	2	0	0	2	2	0	0	0	20	20	100.0%	
備中保健所井笠支所	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	2	2	1	1	0	2	0	2	1	0	0	16	7	43.8%	4	0	4	0	5	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5	0	2	0	0	0	0	23	2	8.7%	
備北保健所	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	100.0%	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3	100.0%	
備北保健所新見支所	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	5	5	100.0%	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	3	100.0%	
真庭保健所	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0.0%	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0.0%	
美作保健所	4	4	5	5	3	3	5	5	4	4	6	6	6	6	3	3	3	3	2	2	11	10	0	0	52	51	98.1%	3	3	5	5	3	3	3	0	3	0	9	0	4	0	5	0	4	0	15	39	26	66.7%			
美作保健所勝英支所	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4	4	100.0%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%
岡山市保健所	30	29	44	44	42	40	27	25	46	39	42	39	39	37	34	32	32	27	41	38	54	46	0	0	431	396	91.9%	38	32	54	47	36	27	27	22	18	12	42	38	28	25	38	32	33	25	0	0	314	260	82.8%		
倉敷市保健所	16	16	34	29	14	13	15	18	67	65	6	6	9	9	29	27	9	8	30	25	56	53	0	0	285	269	94.4%	30	28	4	3	19	19	8	8	22	21	39	34	33	31	7	7	28	27	0	0	190	178	93.7%		
拠点病院									29	6	28	6	19	3	14	0	21	0	29	0	0	15	0	0	140	30	21.4%	22	0	14	0	8	0	11	0	17	0	16	0	11	0	20	0	13	0	0	13	132	13	9.8%		
川崎医科大学付属病院									2	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	0	29	0	0.0%	6	5	4	2	1	3	3	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0.0%	
岡山大学病院									0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0.0%	1	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0.0%
岡山医療センター									1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	5	0	0.0%	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.0%
岡山済生会総合病院									1	0	0	1	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	6	0	0.0%	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0.0%
岡山赤十字病院									2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0.0%	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%
倉敷中央病院									3	4	1	4	2	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	21	0	0.0%	2	1	0	1	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0.0%
岡山労災病院									3	2	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7	0	0.0%	0	1	0	1	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0.0%
南岡山医療センター									0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0.0%	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0%
川崎病院									13	14	8	3	9	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	57	0	0.0%	11	4	4	5	10	5	3	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	0.0%
津山中央病院									4	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0.0%	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0.0%
クリニック検査キャンペーン									1	0	14	13													15	13	86.7%	6	0	10	16																		49	41	83.7%	
よこやま腎泌尿器科クリニック									1	8	9														9	9	100.0%	4	7	11																			24	24	100.0%	
イマイクリニック									0	2	2														2	2	100.0%	2	3	5																			7	7	100.0%	
ふちもとクリニック									0	4	2														4	2	50.0%	0	0	0																			8	0	0.0%	
たなか内科診療所																																																	10	10	100.0%	

表2 四半期別 保健所受検者の基本属性 (2015年2月~2016年9月まで)

	2015年								2015年		2016年			2016年		Pearsonの カイ2乗 (全体)	Pearsonの カイ2乗 (年比較)			
	2月-3月		4月-6月		7月-9月		10月-12月		合計		1月-3月		4月-6月		7月-9月			合計		
	n=155		n=261		n=215		n=269		n=900		n=200		n=176		n=191				n=567	
保健所区分																				
岡山県	37	23.9%	61	23.4%	65	30.2%	72	26.8%	235	26.1%	44	22.0%	41	23.3%	44	23.0%	129	22.8%	<0.01	0.35
岡山市	73	47.1%	104	39.8%	108	50.2%	111	41.3%	396	44.0%	106	53.0%	72	40.9%	82	42.9%	260	45.9%		
倉敷市	45	29.0%	96	36.8%	42	19.5%	86	32.0%	269	29.9%	50	25.0%	63	35.8%	65	34.0%	178	31.4%		
性的指向																				
MSM以外の男性	91	58.7%	149	57.1%	138	64.2%	153	56.9%	531	59.0%	107	53.5%	105	59.7%	112	58.6%	324	57.1%	0.39	0.88
女性	47	30.3%	78	29.9%	60	27.9%	83	30.9%	268	29.8%	73	36.5%	50	28.4%	56	29.3%	179	31.6%		
MSM	17	11.0%	34	13.0%	14	6.5%	32	11.9%	97	10.8%	19	9.5%	20	11.4%	23	12.0%	62	10.9%		
不明(性別がその他または不明)	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%	1	0.4%	4	0.4%	1	0.5%	1	0.6%	0	0.0%	2	0.4%		
性別																				
男性	108	69.7%	183	70.1%	152	70.7%	185	68.8%	628	69.8%	126	63.0%	125	71.0%	135	70.7%	386	68.1%	0.66	0.77
女性	47	30.3%	78	29.9%	60	27.9%	83	30.9%	268	29.8%	73	36.5%	50	28.4%	56	29.3%	179	31.6%		
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	1	0.4%	3	0.3%	1	0.5%	1	0.6%	0	0.0%	2	0.4%		
年齢層																				
19歳以下	6	3.9%	9	3.4%	6	2.8%	5	1.9%	26	2.9%	8	4.0%	2	1.1%	5	2.6%	15	2.6%	0.28	0.11
20-29歳	58	37.4%	87	33.3%	83	38.6%	103	38.3%	331	36.8%	81	40.5%	64	36.4%	70	36.6%	215	37.9%		
30-39歳	48	31.0%	88	33.7%	77	35.8%	79	29.4%	292	32.4%	58	29.0%	44	25.0%	54	28.3%	156	27.5%		
40-49歳	20	12.9%	40	15.3%	29	13.5%	42	15.6%	131	14.6%	34	17.0%	38	21.6%	37	19.4%	109	19.2%		
50-59歳	11	7.1%	14	5.4%	15	7.0%	16	5.9%	56	6.2%	8	4.0%	10	5.7%	7	3.7%	25	4.4%		
60歳以上	9	5.8%	20	7.7%	2	0.9%	21	7.8%	52	5.8%	7	3.5%	16	9.1%	15	7.9%	38	6.7%		
無回答	3	1.9%	3	1.1%	3	1.4%	3	1.1%	12	1.3%	4	2.0%	2	1.1%	3	1.6%	9	1.6%		
居住地																				
岡山市	78	50.3%	120	46.0%	101	47.0%	122	45.4%	421	46.8%	106	53.0%	76	43.2%	87	45.5%	269	47.4%	<0.01	0.28
倉敷市	38	24.5%	86	33.0%	44	20.5%	86	32.0%	254	28.2%	43	21.5%	61	34.7%	66	34.6%	170	30.0%		
県南東部	10	6.5%	17	6.5%	10	4.7%	24	8.9%	61	6.8%	14	7.0%	13	7.4%	15	7.9%	42	7.4%		
県南西部	10	6.5%	9	3.4%	12	5.6%	9	3.3%	40	4.4%	9	4.5%	9	5.1%	6	3.1%	24	4.2%		
高梁/新見/真庭/津山/英田	12	7.7%	14	5.4%	31	14.4%	23	8.6%	80	8.9%	16	8.0%	7	4.0%	8	4.2%	31	5.5%		
県外・無回答	7	4.5%	15	5.7%	17	7.9%	5	1.9%	44	4.9%	12	6.0%	10	5.7%	9	4.7%	31	5.5%		



表3 四半期別 保健所受検者の検査行動 (2015年2月~2016年9月まで)

	2015年				2015年		2016年			2016年		Pearsonの カイ2乗 (全体)	Pearsonの カイ2乗 (年比較)							
	2月-3月 n=155	4月-6月 n=261	7月-9月 n=215	10月-12月 n=269	合計 n=900		1月-3月 n=200	4月-6月 n=176	7月-9月 n=191	合計 n=567										
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?																				
ある	47	30.3%	91	34.9%	79	36.7%	85	31.6%	302	33.6%	68	34.0%	65	36.9%	75	39.3%	208	36.7%	0.41	0.21
ない(今回初めて)	108	69.7%	170	65.1%	136	63.3%	184	68.4%	598	66.4%	132	66.0%	110	62.5%	116	60.7%	358	63.1%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.2%		
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査(エイズ検査)はいつでしたか? <sup>*1</sup>																				
過去1年間	15	31.9%	21	23.1%	20	25.3%	25	29.4%	81	26.8%	17	25.0%	15	23.1%	20	26.7%	52	25.0%	0.75	0.19
過去1~2年前(過去1年より以前)	11	23.4%	33	36.3%	24	30.4%	28	32.9%	96	31.8%	19	27.9%	24	36.9%	18	24.0%	61	29.3%		
過去3年以上前	21	44.7%	35	38.5%	33	41.8%	32	37.6%	121	40.1%	28	41.2%	24	36.9%	34	45.3%	86	41.3%		
無回答	0	0.0%	2	2.2%	2	2.5%	0	0.0%	4	1.3%	4	5.9%	2	3.1%	3	4.0%	9	4.3%		
これまでのHIV検査受検場所 <sup>*1</sup>																				
保健所	38	80.9%	71	78.0%	63	79.7%	71	83.5%	243	80.5%	54	79.4%	47	72.3%	57	76.0%	158	76.0%	0.98	0.44
エイズ治療拠点病院	3	6.4%	3	3.3%	2	2.5%	3	3.5%	11	3.6%	2	2.9%	2	3.1%	4	5.3%	8	3.8%	0.99	0.99
病院・診療所・クリニック	12	25.5%	18	19.8%	16	20.3%	15	17.6%	61	20.2%	15	22.1%	15	23.1%	18	24.0%	48	23.1%	1.00	0.74
郵送検査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%	2	0.7%	2	2.9%	2	3.1%	0	0.0%	4	1.9%	0.67	0.43
その他	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	1	1.2%	2	0.7%	2	2.9%	1	1.5%	1	1.3%	4	1.9%	0.97	0.43
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか?(複数回答) <sup>*2</sup>																				
平日日中	51	33.3%	92	36.2%	78	36.4%	91	36.1%	312	35.7%	64	34.4%	60	35.9%	70	40.0%	194	36.7%	0.93	0.71
平日夜間	76	49.7%	121	47.6%	100	46.7%	130	51.6%	427	48.9%	101	54.3%	84	50.3%	103	58.9%	288	54.5%	0.24	<b>0.04</b>
土曜日	62	40.5%	99	39.0%	81	37.9%	97	38.5%	339	38.8%	62	33.3%	65	38.9%	72	41.1%	199	37.7%	0.82	0.67
日曜日	64	41.8%	116	45.7%	86	40.2%	97	38.5%	363	41.6%	71	38.2%	80	47.9%	74	42.3%	225	42.6%	0.37	0.70
その他	2	1.3%	11	4.3%	4	1.9%	3	1.2%	20	2.3%	6	3.2%	2	1.2%	6	3.4%	14	2.7%	0.18	0.67

\*1 生涯にHIV抗体検査受検経験をもつ人を対象として分析したため累計は異なる。 \*2 無回答を除いて集計したため累計は異なる。

表4 四半期別 保健所受検者の検査に対する評価 (2015年2月～2016年9月まで)

	2015年								2015年		2016年			2016年		Pearsonの カイ2乗 (全体)	Pearsonの カイ2乗 (年比較)			
	2月-3月		4月-6月		7月-9月		10月-12月		合計		1月-3月		4月-6月	7月-9月				合計		
	n=155		n=261		n=215		n=269		n=900		n=200		n=176		n=191				n=567	
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?																				
とても満足	129	83.2%	229	87.7%	193	89.8%	242	90.0%	793	88.1%	173	86.5%	147	83.5%	165	86.4%	485	85.5%	0.12	<b>0.02</b>
やや満足	21	13.5%	27	10.3%	20	9.3%	25	9.3%	93	10.3%	20	10.0%	20	11.4%	22	11.5%	62	10.9%		
やや不満	2	1.3%	2	0.8%	2	0.9%	1	0.4%	7	0.8%	0	0.0%	3	1.7%	1	0.5%	4	0.7%		
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	3	1.7%	0	0.0%	5	0.9%		
無回答	3	1.9%	3	1.1%	0	0.0%	1	0.4%	7	0.8%	5	2.5%	3	1.7%	3	1.6%	11	1.9%		
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?																				
とても満足	130	83.9%	223	85.4%	191	88.8%	240	89.2%	784	87.1%	173	86.5%	151	85.8%	165	86.4%	489	86.2%	0.18	<b>0.01</b>
やや満足	19	12.3%	33	12.6%	22	10.2%	26	9.7%	100	11.1%	20	10.0%	15	8.5%	20	10.5%	55	9.7%		
やや不満	3	1.9%	2	0.8%	2	0.9%	2	0.7%	9	1.0%	0	0.0%	4	2.3%	2	1.0%	6	1.1%		
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	3	1.7%	1	0.5%	6	1.1%		
無回答	3	1.9%	3	1.1%	0	0.0%	1	0.4%	7	0.8%	5	2.5%	3	1.7%	3	1.6%	11	1.9%		
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?																				
とても満足	125	80.6%	218	83.5%	190	88.4%	228	84.8%	761	84.6%	167	83.5%	143	81.3%	163	85.3%	473	83.4%	0.05	<b>0.03</b>
やや満足	22	14.2%	33	12.6%	24	11.2%	36	13.4%	115	12.8%	25	12.5%	20	11.4%	22	11.5%	67	11.8%		
やや不満	5	3.2%	6	2.3%	1	0.5%	4	1.5%	16	1.8%	1	0.5%	6	3.4%	3	1.6%	10	1.8%		
とても不満	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	2	1.0%	4	2.3%	0	0.0%	6	1.1%		
無回答	3	1.9%	3	1.1%	0	0.0%	1	0.4%	7	0.8%	5	2.5%	3	1.7%	3	1.6%	11	1.9%		
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?																				
とても満足	120	77.4%	201	77.0%	174	80.9%	214	79.6%	709	78.8%	154	77.0%	128	72.7%	152	79.6%	434	76.5%	0.38	<b>0.02</b>
やや満足	25	16.1%	44	16.9%	31	14.4%	42	15.6%	142	15.8%	33	16.5%	28	15.9%	30	15.7%	91	16.0%		
やや不満	7	4.5%	11	4.2%	8	3.7%	12	4.5%	38	4.2%	6	3.0%	11	6.3%	5	2.6%	22	3.9%		
とても不満	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	2	1.0%	4	2.3%	1	0.5%	7	1.2%		
無回答	3	1.9%	4	1.5%	2	0.9%	1	0.4%	10	1.1%	5	2.5%	5	2.8%	3	1.6%	13	2.3%		

表5 四半期別 保健所受検者の性行動、性感染既往 (2015年2月～2016年9月まで)

	2015年				2015年		2016年			2016年		Pearsonの カイ2乗 (全体)	Pearsonの カイ2乗 (年比較)							
	2月-3月 n=155	4月-6月 n=261	7月-9月 n=215	10月-12月 n=269	合計 n=900	1月-3月 n=200	4月-6月 n=176	7月-9月 n=191	合計 n=567											
あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?																				
ある	151	97.4%	259	99.2%	213	99.1%	266	98.9%	889	98.8%	197	98.5%	173	98.3%	187	97.9%	557	98.2%	0.89	0.38
ない	3	1.9%	2	0.8%	1	0.5%	2	0.7%	8	0.9%	2	1.0%	1	0.6%	2	1.0%	5	0.9%		
無回答	1	0.6%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.4%	3	0.3%	1	0.5%	2	1.1%	2	1.0%	5	0.9%		
あなたがこれまでにセックスをした相手の性別は以下のどれにあてはまりますか?																				
男性のみ	51	32.9%	88	33.7%	66	30.7%	88	32.7%	293	32.6%	74	37.0%	56	31.8%	64	33.5%	194	34.2%	0.83	0.36
女性のみ	87	56.1%	145	55.6%	136	63.3%	149	55.4%	517	57.4%	108	54.0%	104	59.1%	110	57.6%	322	56.8%		
男性と女性両方	11	7.1%	23	8.8%	8	3.7%	23	8.6%	65	7.2%	14	7.0%	12	6.8%	12	6.3%	38	6.7%		
性交経験なし	4	2.6%	2	0.8%	2	0.9%	3	1.1%	11	1.2%	3	1.5%	3	1.7%	4	2.1%	10	1.8%		
無回答	2	1.3%	3	1.1%	3	1.4%	6	2.2%	14	1.6%	1	0.5%	1	0.6%	1	0.5%	3	0.5%		
あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?																				
ある	28	18.1%	73	28.0%	48	22.3%	62	23.0%	211	23.4%	37	18.5%	52	29.5%	38	19.9%	127	22.4%	0.18	0.25
ない	118	76.1%	181	69.3%	162	75.3%	196	72.9%	657	73.0%	157	78.5%	121	68.8%	146	76.4%	424	74.8%		
性交経験なし	4	2.6%	2	0.8%	2	0.9%	3	1.1%	11	1.2%	3	1.5%	3	1.7%	4	2.1%	10	1.8%		
無回答	5	3.2%	5	1.9%	3	1.4%	8	3.0%	21	2.3%	3	1.5%	0	0.0%	3	1.6%	6	1.1%		
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか?																				
ある	44	28.4%	58	22.2%	70	32.6%	93	34.6%	265	29.4%	52	26.0%	55	31.3%	59	30.9%	166	29.3%	0.26	0.50
ない	106	68.4%	198	75.9%	140	65.1%	167	62.1%	611	67.9%	143	71.5%	117	66.5%	127	66.5%	387	68.3%		
性交経験なし	4	2.6%	2	0.8%	2	0.9%	3	1.1%	11	1.2%	3	1.5%	3	1.7%	4	2.1%	10	1.8%		
無回答	1	0.6%	3	1.1%	3	1.4%	6	2.2%	13	1.4%	2	1.0%	1	0.6%	1	0.5%	4	0.7%		
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?																				
ある	11	7.1%	4	1.5%	6	2.8%	7	2.6%	28	3.1%	8	4.0%	4	2.3%	3	1.6%	15	2.6%	0.15	0.65
ない	136	87.7%	249	95.4%	202	94.0%	247	91.8%	834	92.7%	187	93.5%	162	92.0%	180	94.2%	529	93.3%		
性交経験なし	4	2.6%	2	0.8%	2	0.9%	3	1.1%	11	1.2%	3	1.5%	3	1.7%	4	2.1%	10	1.8%		
無回答	4	2.6%	6	2.3%	5	2.3%	12	4.5%	27	3.0%	2	1.0%	7	4.0%	4	2.1%	13	2.3%		

表6 四半期別 保健所受検者の検査情報の認知 (2015年2月～2016年9月まで)

	2015年				2015年		2016年			2016年		Pearsonの カイ2乗 (全体)	Pearsonの カイ2乗 (年比較)							
	2月-3月 n=155	4月-6月 n=261	7月-9月 n=215	10月-12月 n=269	合計 n=900		1月-3月 n=200	4月-6月 n=176	7月-9月 n=191	合計 n=567										
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?																				
ある	11	7.1%	19	7.3%	12	5.6%	16	5.9%	58	6.4%	13	6.5%	11	6.3%	10	5.2%	34	6.0%	0.98	0.48
ない	142	91.6%	241	92.3%	201	93.5%	251	93.3%	835	92.8%	185	92.5%	162	92.0%	178	93.2%	525	92.6%		
無回答	2	1.3%	1	0.4%	2	0.9%	2	0.7%	7	0.8%	2	1.0%	3	1.7%	3	1.6%	8	1.4%		
どこで見ましたか? <sup>*2</sup>																				
トイレ	5	45.5%	6	31.6%	4	33.3%	5	31.3%	20	34.5%	6	46.2%	2	18.2%	3	30.0%	11	32.4%	0.64	0.72
会社	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	2	12.5%	3	5.2%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	0.41	0.65
学校・大学	2	18.2%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%	1	7.7%	0	0.0%	1	10.0%	2	5.9%	0.38	0.74
病院	0	0.0%	2	10.5%	4	33.3%	6	37.5%	12	20.7%	4	30.8%	3	27.3%	2	20.0%	9	26.5%	0.23	0.62
クラブイベント	3	27.3%	2	10.5%	0	0.0%	1	6.3%	6	10.3%	2	15.4%	2	18.2%	1	10.0%	5	14.7%	0.47	0.62
ゲイバー	4	36.4%	6	31.6%	1	8.3%	0	0.0%	11	19.0%	1	7.7%	3	27.3%	1	10.0%	5	14.7%	0.12	0.64
その他	2	18.2%	4	21.1%	5	41.7%	4	25.0%	15	25.9%	2	15.4%	6	54.5%	4	40.0%	12	35.3%	0.26	0.49
あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?																				
岡山県のホームページ	24	15.5%	33	12.6%	38	17.7%	38	14.1%	133	14.8%	39	19.5%	31	17.6%	26	13.6%	96	16.9%	0.39	0.27
岡山市のホームページ	31	20.0%	33	12.6%	38	17.7%	49	18.2%	151	16.8%	38	19.0%	34	19.3%	32	16.8%	104	18.3%	0.44	0.44
倉敷市のホームページ	17	11.0%	32	12.3%	16	7.4%	37	13.8%	102	11.3%	18	9.0%	20	11.4%	25	13.1%	63	11.1%	0.34	0.90
あうとぴーち	3	1.9%	4	1.5%	1	0.5%	3	1.1%	11	1.2%	3	1.5%	4	2.3%	5	2.6%	12	2.1%	0.66	0.18
HaaTえひめ	4	2.6%	10	3.8%	3	1.4%	3	1.1%	20	2.2%	5	2.5%	7	4.0%	6	3.1%	18	3.2%	0.35	0.26
fight!!	2	1.3%	5	1.9%	3	1.4%	3	1.1%	13	1.4%	3	1.5%	6	3.4%	7	3.7%	16	2.8%	0.35	0.07
やる!プロジェクト	2	1.3%	1	0.4%	2	0.9%	1	0.4%	6	0.7%	4	2.0%	4	2.3%	8	4.2%	16	2.8%	<b>0.02</b>	<b>&lt;0.01</b>
もんげー性病検査 <sup>*3</sup>					3	1.4%	4	1.5%	7	0.8%	10	5.0%	8	4.5%	3	3.3%	21	3.7%	0.08	<b>&lt;0.01</b>

\*2 検査カードをみた人と回答した人を対象として分析したため累計は異なる。

\*3 2015年7月-9月、2016年7月-9月については質問項目に含まれていない回答を除いて集計したため累計は異なる。

表7 保健所受検者・拠点病院受検者のMSM以外男性・女性・MSMの比較-基本属性

(2015年10月～2016年9月まで、性別が不明またはその他の回答者を除く)

	MSM以外の 男性		女性		MSM		合計		Pearsonの カイ2乗
	n=493		n=267		n=100		n=860		
<b>四半期</b>									
2015年10月-12月	166	33.7%	84	31.5%	32	32.0%	282	32.8%	0.58
2016年1月-3月	107	21.7%	74	27.7%	20	20.0%	201	23.4%	
2016年4月-6月	108	21.9%	53	19.9%	25	25.0%	186	21.6%	
2016年7月-9月	112	22.7%	56	21.0%	23	23.0%	191	22.2%	
<b>保健所</b>									
岡山県	125	25.4%	50	18.7%	24	24.0%	199	23.1%	0.12
岡山市	200	40.6%	129	48.3%	42	42.0%	371	43.1%	
倉敷市	152	30.8%	83	31.1%	28	28.0%	263	30.6%	
拠点病院	16	3.2%	5	1.9%	6	6.0%	27	3.1%	
<b>年齢層</b>									
19歳以下	8	1.6%	10	3.7%	3	3.0%	21	2.4%	<b>&lt;0.01</b>
20-29歳	152	30.8%	140	52.4%	32	32.0%	324	37.7%	
30-39歳	140	28.4%	73	27.3%	31	31.0%	244	28.4%	
40-49歳	99	20.1%	30	11.2%	28	28.0%	157	18.3%	
50-59歳	33	6.7%	5	1.9%	4	4.0%	42	4.9%	
60歳以上	57	11.6%	4	1.5%	2	2.0%	63	7.3%	
無回答	4	0.8%	5	1.9%	0	0.0%	9	1.0%	
<b>居住地</b>									
岡山市	225	45.6%	130	48.7%	48	48.0%	403	46.9%	0.32
倉敷市	152	30.8%	88	33.0%	25	25.0%	265	30.8%	
県南東部	37	7.5%	18	6.7%	12	12.0%	67	7.8%	
県南西部	21	4.3%	9	3.4%	4	4.0%	34	4.0%	
高梁/新見/真庭/津山/英田	40	8.1%	13	4.9%	4	4.0%	57	6.6%	
県外・無回答	18	3.7%	9	3.4%	7	7.0%	34	4.0%	

表 8 保健所受検者・拠点病院受検者のMSM以外男性・女性・MSMの比較-検査行動、検査に対する評価  
(2015年10月～2016年9月まで、性別が不明またはその他の回答者を除く)

	MSM以外の 男性 n=493		女性 n=267		MSM n=100		合計 n=860		Pearsonの カイ2乗
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?									
ある	154	31.2%	90	33.7%	63	63.0%	307	35.7%	<b>&lt;0.01</b>
ない(今回初めて)	339	68.8%	177	66.3%	37	37.0%	553	64.3%	
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査(エイズ検査)はいつでしたか? <sup>*1</sup>									
過去1年間	42	27.3%	18	20.0%	22	34.9%	82	26.7%	0.24
過去1～2年前(過去1年より以前)	46	29.9%	28	31.1%	23	36.5%	97	31.6%	
過去3年以上前	62	40.3%	40	44.4%	17	27.0%	119	38.8%	
無回答	4	2.6%	4	4.4%	1	1.6%	9	2.9%	
これまでのHIV検査受検場所 <sup>*1</sup>									
保健所	124	80.5%	63	70.0%	52	82.5%	239	77.9%	0.11
エイズ治療拠点病院	6	3.9%	2	2.2%	9	14.3%	17	5.5%	
病院・診療所・クリニック	29	18.8%	28	31.1%	9	14.3%	66	21.5%	0.05
郵送検査	3	1.9%	2	2.2%	1	1.6%	6	2.0%	0.70
その他	2	1.3%	0	0.0%	3	4.8%	5	1.6%	0.11
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか?-平日日中									
平日日中	170	34.5%	91	34.1%	37	37.0%	298	34.7%	0.56
平日夜間	236	47.9%	141	52.8%	53	53.0%	430	50.0%	
土曜日	173	35.1%	99	37.1%	37	37.0%	309	35.9%	0.49
日曜日	187	37.9%	97	36.3%	45	45.0%	329	38.3%	0.35
その他	7	1.4%	9	3.4%	1	1.0%	17	2.0%	0.13
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?									
とても満足	432	87.6%	227	85.0%	87	87.0%	746	86.7%	0.84
やや満足	49	9.9%	32	12.0%	11	11.0%	92	10.7%	
やや不満	4	0.8%	1	0.4%	1	1.0%	6	0.7%	
とても不満	2	0.4%	2	0.7%	1	1.0%	5	0.6%	
無回答	6	1.2%	5	1.9%	0	0.0%	11	1.3%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?									
とても満足	427	86.6%	233	87.3%	87	87.0%	747	86.9%	0.63
やや満足	50	10.1%	25	9.4%	11	11.0%	86	10.0%	
やや不満	7	1.4%	2	0.7%	0	0.0%	9	1.0%	
とても不満	3	0.6%	2	0.7%	2	2.0%	7	0.8%	
無回答	6	1.2%	5	1.9%	0	0.0%	11	1.3%	
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?									
とても満足	410	83.2%	228	85.4%	82	82.0%	720	83.7%	0.52
やや満足	67	13.6%	27	10.1%	13	13.0%	107	12.4%	
やや不満	7	1.4%	5	1.9%	3	3.0%	15	1.7%	
とても不満	3	0.6%	2	0.7%	2	2.0%	7	0.8%	
無回答	6	1.2%	5	1.9%	0	0.0%	11	1.3%	
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?									
とても満足	382	77.5%	210	78.7%	73	73.0%	665	77.3%	0.79
やや満足	79	16.0%	39	14.6%	19	19.0%	137	15.9%	
やや不満	20	4.1%	11	4.1%	7	7.0%	38	4.4%	
とても不満	4	0.8%	2	0.7%	1	1.0%	7	0.8%	
無回答	8	1.6%	5	1.9%	0	0.0%	13	1.5%	

\*1 生涯にHIV抗体検査受検経験をもつ人を対象として分析したため累計は異なる。

表9 保健所受検者・拠点病院受検者のMSM以外男性・女性・MSMの比較-性行動、性感染既往、検査情報の認知  
(2015年10月～2016年9月まで、性別が不明またはその他の回答者を除く)

	MSM以外の 男性 n=493		女性 n=267		MSM n=100		合計 n=860		Pearsonの カイ2乗	
あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?										
ある	487	98.8%	260	97.4%	100	100.0%	847	98.5%	0.38	
ない	4	0.8%	4	1.5%	0	0.0%	8	0.9%		
無回答	2	0.4%	3	1.1%	0	0.0%	5	0.6%		
あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?										
ある	93	18.9%	76	28.5%	25	25.0%	194	22.6%	<b>0.03</b>	
ない	386	78.3%	181	67.8%	73	73.0%	640	74.4%		
性交経験なし	6	1.2%	7	2.6%	0	0.0%	13	1.5%		
無回答	8	1.6%	3	1.1%	2	2.0%	13	1.5%		
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか?										
ある	239	48.5%	1	0.4%	17	17.0%	257	29.9%	<b>&lt;0.01</b>	
ない	225	45.6%	252	94.4%	77	77.0%	554	64.4%		
性交経験なし	6	1.2%	7	2.6%	0	0.0%	13	1.5%		
無回答	23	4.7%	7	2.6%	6	6.0%	36	4.2%		
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?										
ある	7	1.4%	12	4.5%	3	3.0%	22	2.6%	<b>&lt;0.01</b>	
ない	441	89.5%	242	90.6%	91	91.0%	774	90.0%		
性交経験なし	6	1.2%	7	2.6%	0	0.0%	13	1.5%		
無回答	39	7.9%	6	2.2%	6	6.0%	51	5.9%		
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?										
ある	23	4.7%	9	3.4%	22	22.0%	54	6.3%	<b>&lt;0.01</b>	
ない	463	93.9%	256	95.9%	78	78.0%	797	92.7%		
無回答	7	1.4%	2	0.7%	0	0.0%	9	1.0%		
どこで見ましたか? <sup>*2</sup>										
トイレ	7	30.4%	4	44.4%	6	27.3%	17	31.5%	0.64	
会社	3	13.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.6%	0.12	
学校・大学	0	0.0%	1	11.1%	1	4.5%	2	3.7%	0.31	
病院	9	39.1%	3	33.3%	5	22.7%	17	31.5%	0.49	
クラブイベント	0	0.0%	0	0.0%	7	31.8%	7	13.0%	<b>&lt;0.01</b>	
ゲイバー	0	0.0%	0	0.0%	6	27.3%	6	11.1%	<b>0.01</b>	
その他	4	17.4%	3	33.3%	9	40.9%	16	29.6%	0.22	
あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?										
岡山県のホームページ	86	17.4%	36	13.5%	20	20.0%	142	16.5%	0.23	
岡山市のホームページ	91	18.5%	42	15.7%	25	25.0%	158	18.4%	0.12	
倉敷市のホームページ	55	11.2%	32	12.0%	16	16.0%	103	12.0%	0.40	
あうとぴーち	2	0.4%	0	0.0%	15	15.0%	17	2.0%	<b>&lt;0.01</b>	
HaaTえひめ	2	0.4%	0	0.0%	22	22.0%	24	2.8%	<b>&lt;0.01</b>	
fight!!	1	0.2%	1	0.4%	17	17.0%	19	2.2%	<b>&lt;0.01</b>	
やる!プロジェクト	0	0.0%	1	0.4%	19	19.0%	20	2.3%	<b>&lt;0.01</b>	
もんげー性病検査 <sup>*3</sup>	4	0.9%	0	0.0%	25	28.1%	29	3.8%	<b>&lt;0.01</b>	

\*2 検査カードをみたと回答した人を対象として分析したため累計は異なる。

\*3 2015年7月-9月、2016年7月-9月については質問項目に含まれていない回答を除いて集計したため累計は異なる。

表 10 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の基本属性 (2015 年 7 月～2016 年 9 月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計		Pearson の カイ 2 乗 (全体)	Pearson の カイ 2 乗 (保健所のみ)
	n=281		n=479		n=306		n=43		n=54		n=1163			
<b>四半期</b>														
2015年7月-9月	65	23.1%	108	22.5%	42	13.7%	15	34.9%	13	24.1%	243	20.9%	-	-
2015年10月-12月	72	25.6%	111	23.2%	86	28.1%	15	34.9%	0	0.0%	284	24.4%		
2016年1月-3月	44	15.7%	106	22.1%	50	16.3%	2	4.7%	16	29.6%	218	18.7%		
2016年4月-6月	41	14.6%	72	15.0%	63	20.6%	11	25.6%	0	0.0%	187	16.1%		
2016年7月-9月	44	15.7%	82	17.1%	65	21.2%	0	0.0%	25	46.3%	216	18.6%		
不明	15	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	1.3%		
<b>性的指向</b>														
MSM以外の男性	175	62.3%	271	56.6%	177	57.8%	27	62.8%	1	1.9%	651	56.0%	<0.01	0.14
女性	72	25.6%	160	33.4%	96	31.4%	7	16.3%	0	0.0%	335	28.8%		
MSM	30	10.7%	47	9.8%	32	10.5%	8	18.6%	53	98.1%	170	14.6%		
不明(性別がその他または不明)	4	1.4%	1	0.2%	1	0.3%	1	2.3%	0	0.0%	7	0.6%		
<b>性別</b>														
男性	205	73.0%	318	66.4%	209	68.3%	35	81.4%	54	100.0%	821	70.6%	-	0.11
女性	72	25.6%	160	33.4%	96	31.4%	7	16.3%	0	0.0%	335	28.8%		
その他	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
無回答	3	1.1%	1	0.2%	1	0.3%	1	2.3%	0	0.0%	6	0.5%		
<b>年齢層</b>														
19歳以下	9	3.2%	15	3.1%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	27	2.3%	<0.01	<0.01
20-29歳	81	28.8%	212	44.3%	116	37.9%	11	25.6%	21	38.9%	441	37.9%		
30-39歳	86	30.6%	138	28.8%	92	30.1%	13	30.2%	15	27.8%	344	29.6%		
40-49歳	52	18.5%	70	14.6%	59	19.3%	8	18.6%	17	31.5%	206	17.7%		
50-59歳	29	10.3%	16	3.3%	13	4.2%	2	4.7%	1	1.9%	61	5.2%		
60歳以上	19	6.8%	24	5.0%	18	5.9%	7	16.3%	0	0.0%	68	5.8%		
無回答	5	1.8%	4	0.8%	6	2.0%	1	2.3%	0	0.0%	16	1.4%		
<b>居住地</b>														
岡山市	91	32.4%	363	75.8%	38	12.4%	17	39.5%	37	68.5%	546	46.9%	<0.01	<0.01
倉敷市	43	15.3%	42	8.8%	215	70.3%	13	30.2%	8	14.8%	321	27.6%		
県南東部	30	10.7%	37	7.7%	9	2.9%	3	7.0%	2	3.7%	81	7.0%		
県南西部	10	3.6%	11	2.3%	24	7.8%	3	7.0%	1	1.9%	49	4.2%		
高梁/新見/真庭/津山/英田	83	29.5%	14	2.9%	3	1.0%	5	11.6%	0	0.0%	105	9.0%		
県外・無回答	24	8.5%	12	2.5%	17	5.6%	2	4.7%	6	11.1%	61	5.2%		



表 11 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の検査行動 (2015 年 7 月～2016 年 9 月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計	Pearson の カイ 2 乗 (全体)	Pearson の カイ 2 乗 (保健所のみ)	
	n=281		n=479		n=306		n=43		n=54		n=1163			
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?														
ある	101	35.9%	167	34.9%	111	36.3%	21	48.8%	33	61.1%	433	37.2%	<b>0.01</b>	0.61
ない(今回初めて)	180	64.1%	312	65.1%	194	63.4%	22	51.2%	21	38.9%	729	62.7%		
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%		
今回を除いて、一番最近に受けたHIV検査(エイズ検査)はいつでしたか? <sup>1</sup>														
過去1年間	21	20.8%	40	24.0%	36	32.4%	8	38.1%	9	27.3%	114	26.3%	0.35	0.51
過去1～2年前(過去1年より以前)	35	34.7%	48	28.7%	33	29.7%	9	42.9%	14	42.4%	139	32.1%		
過去3年以上前	42	41.6%	74	44.3%	39	35.1%	4	19.0%	10	30.3%	169	39.0%		
無回答	3	3.0%	5	3.0%	3	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	2.5%		
これまでのHIV検査受検場所 <sup>1</sup>														
保健所	82	81.2%	129	77.2%	86	77.5%	15	71.4%	26	78.8%	338	78.1%	0.26	<b>0.04</b>
エイズ治療拠点病院	5	5.0%	5	3.0%	3	2.7%	8	38.1%	4	12.1%	25	5.8%	<b>&lt;0.01</b>	0.15
病院・診療所・クリニック	22	21.8%	35	21.0%	24	21.6%	8	38.1%	10	30.3%	99	22.9%	0.17	0.21
郵送検査	1	1.0%	3	1.8%	2	1.8%	1	4.8%	1	3.0%	8	1.8%	0.33	0.20
その他	0	0.0%	3	1.8%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.2%	0.24	0.11
HIV検査(エイズ検査)で受けやすいのはどれですか?														
平日日中	113	40.2%	182	38.0%	72	23.5%	19	44.2%	18	33.3%	404	34.7%	<b>&lt;0.01</b>	<b>&lt;0.01</b>
平日夜間	120	42.7%	245	51.1%	163	53.3%	18	41.9%	32	59.3%	578	49.7%	<b>&lt;0.01</b>	<b>&lt;0.01</b>
土曜日	103	36.7%	175	36.5%	106	34.6%	22	51.2%	30	55.6%	436	37.5%	<b>0.01</b>	0.23
日曜日	109	38.8%	186	38.8%	119	38.9%	17	39.5%	31	57.4%	462	39.7%	<b>0.04</b>	0.22
その他	10	3.6%	5	1.0%	7	2.3%	1	2.3%	4	7.4%	27	2.3%	<b>0.01</b>	<b>0.03</b>

\* 1 生涯にHIV抗体検査受検経験をもつ人を対象として分析したため累計は異なる。

表 12 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の検査に対する評価 (2015 年 7 月～2016 年 9 月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計	Pearson の カイ 2 乗 (全体)	Pearson の カイ 2 乗 (保健所のみ)	
	n=281		n=479		n=306		n=43		n=54		n=1163			
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?														
とても満足	225	80.1%	438	91.4%	269	87.9%	32	74.4%	48	88.9%	1012	87.0%	<b>0.01</b>	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	43	15.3%	35	7.3%	30	9.8%	9	20.9%	6	11.1%	123	10.6%		
やや不満	4	1.4%	1	0.2%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	8	0.7%		
とても不満	2	0.7%	2	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.4%		
無回答	7	2.5%	3	0.6%	4	1.3%	1	2.3%	0	0.0%	15	1.3%		
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?														
とても満足	221	78.6%	442	92.3%	268	87.6%	31	72.1%	41	75.9%	1003	86.2%	<b>&lt;0.01</b>	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	47	16.7%	30	6.3%	28	9.2%	8	18.6%	13	24.1%	126	10.8%		
やや不満	4	1.4%	2	0.4%	4	1.3%	2	4.7%	0	0.0%	12	1.0%		
とても不満	2	0.7%	2	0.4%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	7	0.6%		
無回答	7	2.5%	3	0.6%	4	1.3%	1	2.3%	0	0.0%	15	1.3%		
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?														
とても満足	216	76.9%	434	90.6%	251	82.0%	30	69.8%	45	83.3%	976	83.9%	<b>&lt;0.01</b>	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	47	16.7%	38	7.9%	44	14.4%	8	18.6%	9	16.7%	146	12.6%		
やや不満	8	2.8%	2	0.4%	6	2.0%	3	7.0%	0	0.0%	19	1.6%		
とても不満	3	1.1%	2	0.4%	1	0.3%	1	2.3%	0	0.0%	7	0.6%		
無回答	7	2.5%	3	0.6%	4	1.3%	1	2.3%	0	0.0%	15	1.3%		
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?														
とても満足	203	72.2%	414	86.4%	215	70.3%	28	65.1%	38	70.4%	898	77.2%	<b>&lt;0.01</b>	<b>&lt;0.01</b>
やや満足	56	19.9%	49	10.2%	61	19.9%	10	23.3%	15	27.8%	191	16.4%		
やや不満	11	3.9%	10	2.1%	22	7.2%	4	9.3%	1	1.9%	48	4.1%		
とても不満	3	1.1%	2	0.4%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.6%		
無回答	8	2.8%	4	0.8%	6	2.0%	1	2.3%	0	0.0%	19	1.6%		

表 13 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の性行動、性感染既往 (2015年7月～2016年9月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計		Pearson の カイ 2 乗 (全体)	Pearson の カイ 2 乗 (保健所のみ)
	n=281		n=479		n=306		n=43		n=54		n=1163			
あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?														
ある	274	97.5%	473	98.7%	304	99.3%	42	97.7%	54	100.0%	1147	98.6%	0.38	0.18
ない	5	1.8%	2	0.4%	1	0.3%	1	2.3%	0	0.0%	9	0.8%		
無回答	2	0.7%	4	0.8%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.6%		
あなたがこれまでにセックスをした相手の性別は以下のどれにあてはまりますか?														
男性のみ	81	28.8%	170	35.5%	103	33.7%	9	20.9%	30	55.6%	393	33.8%	<0.01	0.42
女性のみ	172	61.2%	269	56.2%	174	56.9%	27	62.8%	1	1.9%	643	55.3%		
男性と女性両方	18	6.4%	28	5.8%	24	7.8%	6	14.0%	23	42.6%	99	8.5%		
性交経験なし	7	2.5%	6	1.3%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	16	1.4%		
無回答	3	1.1%	6	1.3%	3	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	1.0%		
あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?														
ある	60	21.4%	118	24.6%	62	20.3%	7	16.3%	15	27.8%	262	22.5%	0.21	0.09
ない	206	73.3%	348	72.7%	240	78.4%	35	81.4%	39	72.2%	868	74.6%		
性交経験なし	7	2.5%	6	1.3%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	16	1.4%		
無回答	8	2.8%	7	1.5%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	17	1.5%		
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか?														
ある	85	30.2%	147	30.7%	99	32.4%	0	0.0%	5	9.3%	336	28.9%	<0.01	0.67
ない	186	66.2%	320	66.8%	201	65.7%	0	0.0%	49	90.7%	756	65.0%		
性交経験なし	7	2.5%	6	1.3%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	16	1.4%		
無回答	3	1.1%	6	1.3%	4	1.3%	42	97.7%	0	0.0%	55	4.7%		
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?														
ある	5	1.8%	18	3.8%	5	1.6%	0	0.0%	2	3.7%	30	2.6%	<0.01	0.09
ない	263	93.6%	444	92.7%	286	93.5%	0	0.0%	52	96.3%	1045	89.9%		
性交経験なし	7	2.5%	6	1.3%	2	0.7%	1	2.3%	0	0.0%	16	1.4%		
無回答	6	2.1%	11	2.3%	13	4.2%	42	97.7%	0	0.0%	72	6.2%		

表 14 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の検査情報の認知 (2015年7月～2016年9月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計		Pearson の カイ 2 乗 (全体)	Pearson の カイ 2 乗 (保健所のみ)
	n=281		n=479		n=306		n=43		n=54		n=1163			
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?														
ある	26	9.3%	22	4.6%	14	4.6%	4	9.3%	10	18.5%	76	6.5%	<0.01	0.03
ない	254	90.4%	449	93.7%	289	94.4%	39	90.7%	44	81.5%	1075	92.4%		
無回答	1	0.4%	8	1.7%	3	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	1.0%		
どこで見ましたか? <sup>*2</sup>														
トイレ	10	38.5%	8	36.4%	2	14.3%	1	25.0%	3	30.0%	24	31.6%	0.55	0.22
会社	0	0.0%	3	13.6%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.3%	0.27	0.13
学校・大学	1	3.8%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	0.69	0.40
病院	8	30.8%	9	40.9%	2	14.3%	2	50.0%	2	20.0%	23	30.3%	0.42	0.21
クラブイベント	1	3.8%	2	9.1%	3	21.4%	1	25.0%	3	30.0%	10	13.2%	0.21	0.14
ゲイバー	1	3.8%	2	9.1%	3	21.4%	1	25.0%	7	70.0%	14	18.4%	<0.01	0.14
その他	8	30.8%	6	27.3%	7	50.0%	0	0.0%	2	20.0%	23	30.3%	0.26	0.19
あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?														
岡山県のホームページ	67	23.8%	89	18.6%	20	6.5%	11	25.6%	8	14.8%	195	16.8%	<0.01	<0.01
岡山市のホームページ	43	15.3%	137	28.6%	11	3.6%	7	16.3%	12	22.2%	210	18.1%	<0.01	<0.01
倉敷市のホームページ	14	5.0%	10	2.1%	92	30.1%	4	9.3%	2	3.7%	122	10.5%	<0.01	<0.01
あうとびーち	3	1.1%	6	1.3%	7	2.3%	2	4.7%	13	24.1%	31	2.7%	<0.01	0.40
HaaTえひめ	3	1.1%	14	2.9%	7	2.3%	3	7.0%	17	31.5%	44	3.8%	<0.01	0.25
fight!!	4	1.4%	12	2.5%	6	2.0%	0	0.0%	13	24.1%	35	3.0%	<0.01	0.59
やる!プロジェクト	5	1.8%	11	2.3%	4	1.3%	3	7.0%	12	22.2%	35	3.0%	<0.01	0.60
もんげー性病検査 <sup>*3</sup>	5	2.1%	13	2.9%	10	3.6%	4	9.3%	45	83.3%	77	7.3%	<0.01	0.57

\*2 検査カードをみた人と回答した人を対象として分析したため累計は異なる。

\*3 2015年7月-9月、2016年7月-9月については質問項目に含まれていない回答を除いて集計したため累計は異なる。

表 15 検査機関別 MSM 割合の年度間の推移 (2015 年 2 月～2016 年 9 月まで)

	年度				合計	P値*	年度				合計	P値**	P値***				
	2015年度 <sup>1)</sup>		2016年度 <sup>2)</sup>				2014年度 <sup>3)</sup>		2015年度 <sup>4)</sup>					2016年度 <sup>2)</sup>			
<b>岡山県</b>																	
MSM以外の男性	111	62.7%	64	64.0%	175	63.2%	0.32	24	64.9%	148	62.2%	64	64.0%	236	62.9%	0.32	0.43
女性	49	27.7%	23	23.0%	72	26.0%	(0.54)	7	18.9%	68	28.6%	23	23.0%	98	26.1%		
MSM	17	9.6%	13	13.0%	30	10.8%		6	16.2%	22	9.2%	13	13.0%	41	10.9%		
不明(性別がその他または不明)	4	2.2%	0	0.0%	4	1.4%		0	0.0%	4	1.7%	0	0.0%	4	1.1%		
合計	181	100.0%	100	100.0%	281	100.0%		37	100.0%	242	100.0%	100	100.0%	379	100.0%		
<b>岡山市</b>																	
MSM以外の男性	189	58.3%	82	53.2%	271	56.7%	0.59	42	57.5%	244	57.0%	82	53.2%	368	56.2%	0.72	0.94
女性	106	32.7%	54	35.1%	160	33.5%	(0.49)	23	31.5%	144	33.6%	54	35.1%	221	33.7%		
MSM	29	9.0%	18	11.7%	47	9.8%		8	11.0%	40	9.3%	18	11.7%	66	10.1%		
不明(性別がその他または不明)	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%		0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%		
合計	325	100.0%	154	100.0%	479	100.0%		73	100.0%	429	100.0%	154	100.0%	656	100.0%		
<b>倉敷市</b>																	
MSM以外の男性	98	55.1%	79	62.2%	177	58.0%	0.37	25	55.6%	155	56.6%	79	62.2%	259	58.1%	0.32	0.41
女性	61	34.3%	35	27.6%	96	31.5%	(0.42)	17	37.8%	82	29.9%	35	27.6%	134	30.0%		
MSM	19	10.7%	13	10.2%	32	10.5%		3	6.7%	37	13.5%	13	10.2%	53	11.9%		
不明(性別がその他または不明)	0	0.0%	1	0.8%	1	0.3%		0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.2%		
合計	178	100.0%	128	100.0%	306	100.0%		45	100.0%	274	100.0%	128	100.0%	447	100.0%		
<b>拠点病院</b>																	
MSM以外の男性	24	77.4%	3	27.3%	27	64.3%	0.02										
女性	4	12.9%	3	27.3%	7	16.7%	(0.01)										
MSM	3	9.7%	5	45.5%	8	19.0%											
不明(性別がその他または不明)	1	3.1%	0	0.0%	1	2.3%											
合計	32	100.0%	11	100.0%	43	100.0%											
<b>クリニック</b>																	
MSM以外の男性	1	3.4%	0	0.0%	1	1.9%	0.35										
女性	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	(0.35)										
MSM	28	96.6%	25	100.0%	53	98.1%											
不明(性別がその他または不明)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%											
合計	29	100.0%	25	100.0%	54	100.0%											

\*Pearson のカイ 2 乗検定による年度間比較 (2015年度 vs 2016年度)  
 \*\*Pearson のカイ 2 乗検定による年度間比較 (2015年度 vs 2016年度)  
 \*\*\*Pearson のカイ 2 乗検定による年度間比較 (2014年度 vs 2015年度 vs 2016年度)

□2016年度の岡山県のアンケート調査結果には受検期間不明が15人含まれる。  
 □アンケート調査開始時期が検査機関によって異なるため年度の期間も異なる。  
 1) 2015年7月～2016年3月まで (岡山県9保健所、岡山市、倉敷市、10拠点病院、3クリニック)  
 2) 2016年4月～2016年9月まで (岡山県9保健所、岡山市、倉敷市、10拠点病院、4クリニック)  
 3) 2015年2月～2015年3月まで (岡山県9保健所、岡山市、倉敷市)  
 4) 2015年4月～2016年3月まで (岡山県9保健所、岡山市、倉敷市)

( )内は性的指向が不明の人を除いた有意差を示す。

## HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

研究分担者：佐野 貴子（神奈川県衛生研究所 主任研究員）

研究協力者：今井 光信（田園調布学園大学）、近藤 真規子（神奈川県衛生研究所）、  
須藤 弘二（慶應義塾大学医学部）、加藤 真吾（慶應義塾大学医学部）、  
星野 慎二（特定非営利活動団体 SHIP）、井戸田一朗（しらかば診療所）、  
清水 茂徳（東日本国際大学）、杉浦 太一（株式会社 CINRA）、  
市川 誠一（人間環境大学看護学研究科）

### 研究要旨

保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」（<http://www.hivkensa.com>）の管理・運営を行った。本サイトによる情報提供の効果を調査するため、サイトアクセス解析と受検者および検査担当者へのアンケート調査を行った。また、本年度は外国語ページ（8か国語）の新規作成を行った。

年間サイトアクセス数は、2016 年は約 151 万件であり、2015 年の約 186 万件と比較して 19% 減となった。情報端末別では、スマートフォンからの訪問数は、2016 年は約 122 万件であり、総アクセス数の 81% を占めた。訪問者別割合は、新規訪問者が 63%、リピーターが 37% で、約 4 割は複数回利用していることが分かった。月別アクセス数は、2016 年は毎月 11～14 万件とほぼ横ばいで推移しており、突出してアクセス数が多い月は見られなかった。日別アクセス数でも 2016 年 11 月 30 日の STI/HIV 検査啓発資材（セーラームーン）の報道のみ 18,178 件/日となっており、年間を通して 5,000 件を超えた日は 26 日しかなく、2016 年は国民に対して HIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。

受検者の HIV 検査情報の入手方法を調査するために、MSM 対象の特設検査会で実施されたアンケート調査結果を解析したところ、35% は当サイトから情報を入手していたことが分かった。また、HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査において、本サイトの利用状況等を保健所 HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約 9 割は当サイトを閲覧したことがあり、約 8 割は HIV 検査相談事業に役立っているとの回答であった。

2001 年の開設から 2016 年末で 1,702 万アクセスを超え、現在も多くの方に当サイトを利用いただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等において多方面で紹介されており、行政的にも有効活用されている。検索エンジンでも HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。その結果、自治体等で実施されている HIV 検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、更なる HIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与したいと考えている。

## A. 研究目的

保健所等の HIV 検査相談施設の情報や HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、検査希望者への情報提供・受検サポートや HIV/エイズの理解促進を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>) の管理・運営を行った。また、アクセス解析やアンケート調査を行い、サイト利用状況等の調査を行った。

## B. 研究方法

### 1. 新規情報掲載、情報修正作業

保健所等 HIV 検査相談施設で実施されている常設検査情報や不定期に実施される検査イベント情報、また、HIV/エイズに関する基礎知識等について、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(PC サイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイト) に掲載し、情報提供を行った。PC サイトは 2001 年 9 月に開設、携帯電話サイトは 2003 年 4 月に開設し、2009 年 10 月に PC サイトおよび携帯電話サイトともにリニューアルを行った。2013 年にはスマートフォンサイトを開設した。

定期のページ更新作業としては、新年度の検査日程等の情報確認のため、自治体等の詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を送付し、修正作業を行った。また随時の作業として、新規掲載、掲載情報修正、検査イベント情報の掲載等を行った。また、今年度は外国語ページ(8か国語+やさしい日本語)の新規作成を行った。

### 2. サイト利用状況の調査 — Web 解析 —

本サイトのアクセス解析には「Google Analytics」を用いて、サイトアクセス数(年別、月別、日別)、情報端末別訪問数、新規・リピーター割合、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査し、利用者の動向、HIV/エイズ報道によるアクセス数の影響等を調査した。また、検索エンジン(Google、Yahoo! JAPAN、bing)における検索用語順位解析には「検索順位ツール GRC」を用い、HIV/エ

イズ関連キーワードのによる検索順位を解析した。

3. サイト活用状況の解析 — アンケート調査 —  
特設検査施設(MSM 対象検査会)の受検者および保健所 HIV/エイズ担当者に対しアンケート調査を実施し、サイトの活用状況を解析した。

## C. 研究結果

### 1. 新規情報掲載、情報修正作業の状況

2016 年は保健所等 HIV 検査相談施設 664 箇所の掲載を行った(図 1)。検査イベント情報の掲載依頼は 186 件、情報修正依頼は 373 件であり、2015 年より 1~2 割依頼数が増加した。

今年度は新たに外国語ページ(英語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語)を作成した(図 2)。内容としては、HIV 検査についての解説、検査施設紹介、電話相談リストの掲載を行った。

### 2. サイト利用状況の調査 — Web 解析 —

PC サイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイトでの 2001 年からの合計アクセス数は約 1,702 万件となった(図 3)。2016 年の年間サイトアクセス数は約 151 万件であり、2015 年の約 186 万件と比較して 19% 減となった。情報端末別で見ると、スマートフォンからのアクセス数は、2016 年は 122 万件であり、総アクセス数に占める割合は 81% となった(図 4)。2015 年は約 144 万件、78% であったことから、2016 年のスマートフォンからのアクセス数は 15% の減少となっていたが、利用割合は増加していた。一方、PC からのアクセス数は前年比 27% 減、携帯電話経由は 55% 減となり、どちらの端末も年々減少傾向が続いていることが分かった。訪問者別割合は、新規訪問者が 63%、リピーターが 37% で、約 4 割は複数回利用であった(図 5)。月別アクセス数は、2016 年は毎月 11~14 万件とほぼ横ばいで推移しており、突出してアクセス数が多い月は見られなかった(図 6)。日別訪問数をみると、2016 年で一

番アクセス数が多かった日は、11月30日のSTI/HIV検査啓発資材（セーラームーン）の報道で18,178件であった（図7）。この啓発資材にはHIV検査・相談マップのサイトアドレスも掲載された（図8）。2016年に一日のアクセス数が5,000件を超えた日は合計で26日であり、前年の107日と比べて4分の1と少なかったことが分かった。都道府県別の検索アクセス数では、東京都が最も多く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県、埼玉県、兵庫県と続き、ほぼ人口順であった（図9）。

参照元からのアクセス数を見たところ、Google検索が一番多く約71万件、Yahoo! JAPAN検索が約43万件、直接アクセスが約17万件であった（図10）。チャンネル別のアクセス割合を見ると、検索エンジンからのアクセスが77%、直接アクセスが12%、他サイトからのアクセスが11%、SNSからのアクセスが0.5%であった（図11）。他サイトのリンク元からのアクセス数を見ると、「はじめての性病検査（<http://self-medical.info/>）」からが約4.9万件と最も多かった（図12）。また、ゲイ向けサイトが上位10位中5サイトあり、MSMの方にも利用されていることが示唆された。公共サイトに限ってリンク元を見たところ、「東京都福祉保健局（<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp>）」が5,502件、「東京都南新宿検査相談室（<http://www2.tmsks.jp/>）」が1,489件と多かった（図13）。

検索エンジン（Google、Yahoo! JAPAN、bing）における検索用語別表示順位を調べたところ、検索用語が「HIV」では1位、「エイズ」では2～3位であったが、「AIDS」では15位であった（図14）。「AIDS」と「検査」の検索用語を組み合わせると1位となった。

サイト内の「お問い合わせ」フォームからの問い合わせ内容としては、受検した検査施設の不安、苦情、要望（注射器・手袋からの感染不安、検査施設の対応、予約が取れない等）やHIV

検査を受けるにあたっての質問（結果通知の方法、性感染症検査、聴覚障害者の受検）が多く、その他、リンク・アドレス紹介・内容引用希望、検査結果の解釈について等があった（図15）。

### 3. サイト活用状況の解析 — アンケート調査 —

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、2015年9月から2016年12月に特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどのように得たかを聞いたところ、SHIPのホームページからが53%、HIV検査・相談マップからが35%、9モンスター（MSM向けサイト）が14%であった（図16）。

全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所94%、特設検査施設100%であり（図17、18）、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所81%、特設検査施設100%であった（図19、20）。

## D. 考察

本年度は、外国人の方へも広く日本のHIV検査情報を提供できるよう、外国語ページの作成を行った。今後、利用状況を把握するためにアクセス数等を注視していきたい。

2016年のサイトアクセス数は約151万件であり、2015年の約186万件と比較して19%減となった。月別アクセス数でも毎月11～14万件とほぼ横ばいであり、日別アクセス数でも、2016年11月30日にSTI/HIV検査啓発資材（セーラームーン）の報道で一日に約18,000件のアクセスがあった以外には、突出してアクセス数が高い日は無かった。年間を通して、5,000件を超えた日は26日しかなく、2016年は国民に対してHIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。



参照元からのアクセス数をみると、検索エンジンからのアクセス数が全体の77%を占めており、「HIV」や「エイズ」の検索キーワードで高順位に表示されることから、本サイトへのアクセス誘導に結びついていると思われた。また、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置していただいているサイトからのアクセス数もあることから、MSMの利用率が高いサイトにバナーを設置してもらうことで、感染リスクの高い層へのアプローチが可能になると考えた。

サイト内の「お問い合わせ」フォームへの問い合わせ内容では、受検した検査施設の不安や苦情や HIV 検査を受けるにあたっての質問が多かった。問い合わせに関しては、可能な限り研究班から発信者に返信を行い、正確な情報の提供と過剰な不安の軽減に努めた。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、特定非営利活動法人SHIPで行われた「ゲイのためのエイズ・性感染症検査」において、SHIP検査の情報をどこで得たかを調査したところ、SHIPのホームページを直接見て情報を入手した方が53%であったが、当サイトから情報を入手した方も35%いた。このことから、MSMの方も当サイトを利用してHIV検査を受けていることが分かった。また、全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所94%、特設検査施設100%、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所81%、特設検査施設100%であり、当サイトは自治体HIV/エイズ担当者に認知されており、HIV検査相談事業に寄与していることが示唆された。

2001年の開設から2016年末で1,702万アクセスを超え、現在も多くの方に当サイトを利用していただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓

発用パンフレット等において多方面で紹介されており、行政的にも有効活用されている。検索エンジンでも HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。その結果、自治体等で実施されている HIV 検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、更なる HIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与したいと考えている。

## E. 結論

ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)を運営し、保健所等 HIV 検査相談施設の最新情報や HIV 検査に関する基礎知識等の情報を継続的に提供した。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査した。

本年度はサイトへの訪問数が約 151 万件と前年比 2 割減となったことから、国民の HIV/エイズへの関心の低下が危惧される。アンケート調査結果からは受検者と保健所担当者の双方が当サイトを活用していることが分かり、当サイトの保健所 HIV 検査相談事業への寄与が示唆された。本サイトアドレスは日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等にも多方面で紹介されており、行政的にも非常に有効利用されている。

## F. 発表論文等

### 1. 論文

なし

### 2. 学会発表 (国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一、HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析。第 30 回日本エイ

ズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。

- 2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、今井光信、加藤真吾。中国のMSM間で大流行しているHIV-1 CRF01\_AE variantの日本国内への拡散。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。
- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾。全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。
- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾。HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2015)。第30回日

本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。

- 5) 加藤真吾、須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、藤原 宏、長谷川直樹。CDCが推奨するHIV検査手順の検討とHIV-1/2鑑別検査キットGeeniusの検討。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。

**G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）**  
なし



図1

### ホームページの施設情報、検査イベント情報、 情報修正依頼件数

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
掲載依頼						
施設情報	645	663	664	666	666	664
検査イベント情報	111	173	200	177	157	186
情報修正依頼	379	377	462	591	345	373

図2

### 外国語ページの作成

- 英語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語で作成

外国語対応	英語	ポルトガル語	スペイン語	タイ語	中国語	タガログ語	韓国語	ベトナム語	やさしい日本語
HIV検査について の解説	説明文 と図	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	説明文 と図
検査施設 紹介	8か所	2か所	3か所	3か所	1か所	1か所	3か所	1か所	×
電話相談	8か所	3か所	3か所	4か所	1か所	2か所	1か所	1か所	×

図1：HIV検査の受検から結果を聞くまで

図2：HIV検査の流れ（通常検査、即日検査）

図3

### サイトアクセス数（2001年-2016年）

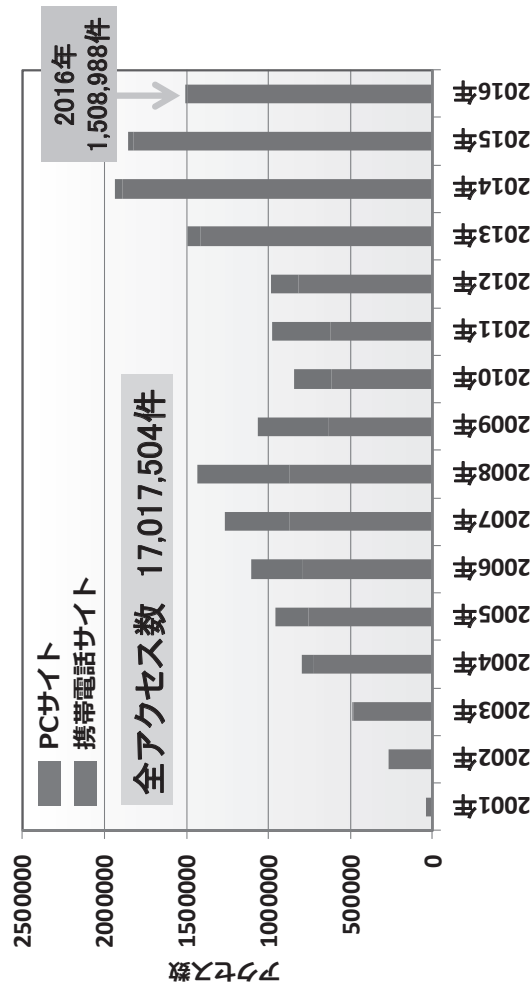


図4

### 情報端末別訪問数の推移（2010年-2016年）

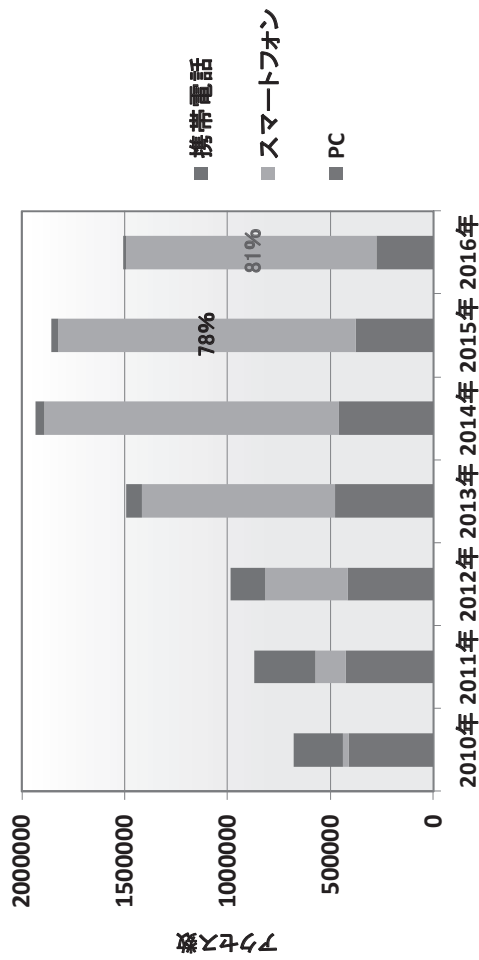


図5

訪問者(新規・リピーター)割合

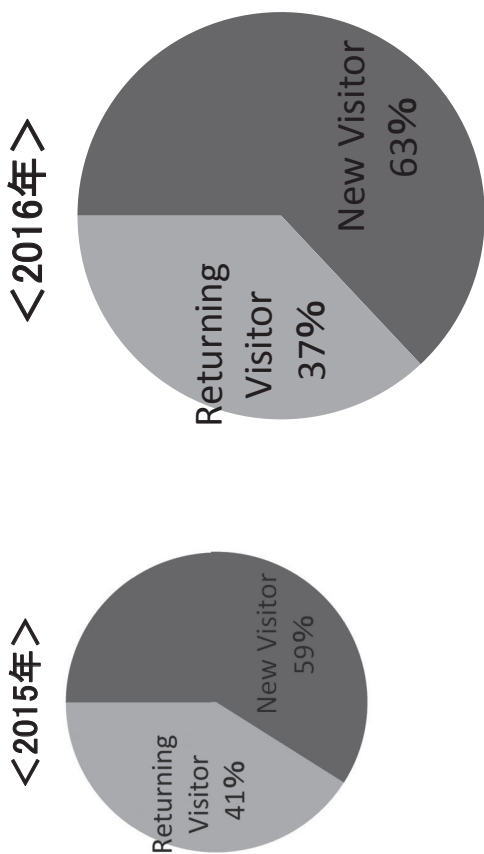


図6 月別アクセス数の推移 (2011年～2016年)

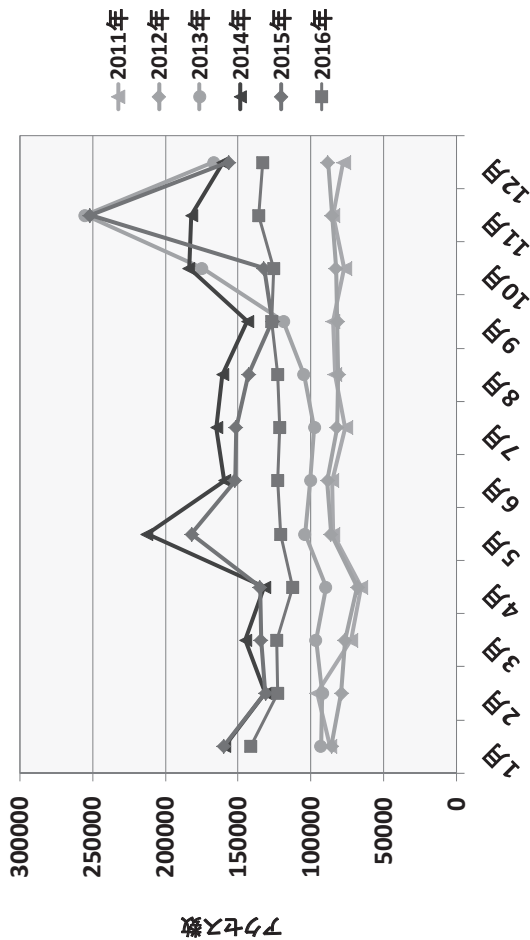


図7

日別訪問数 (2015年、2016年)

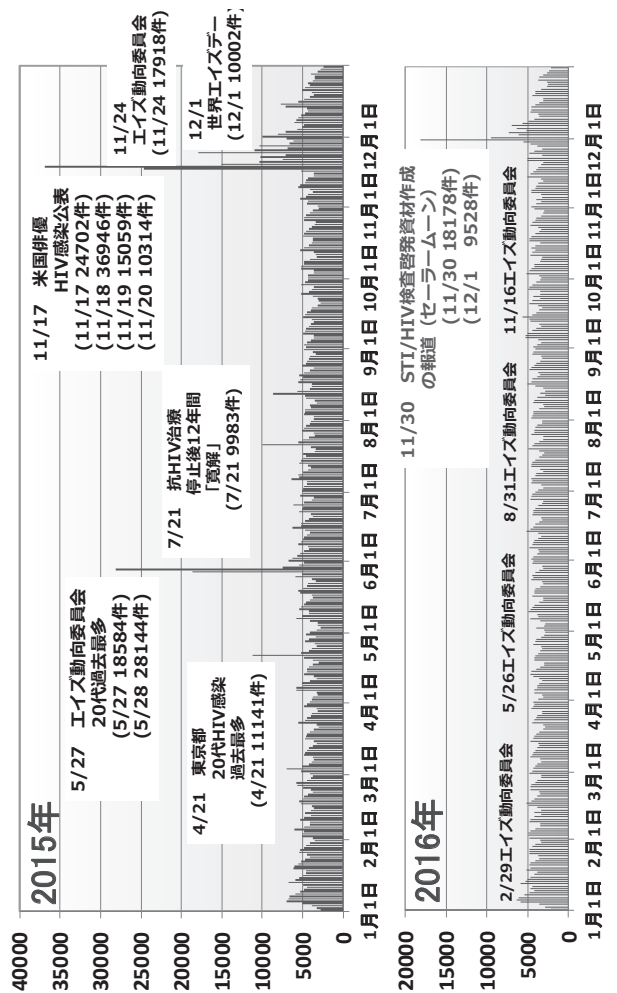
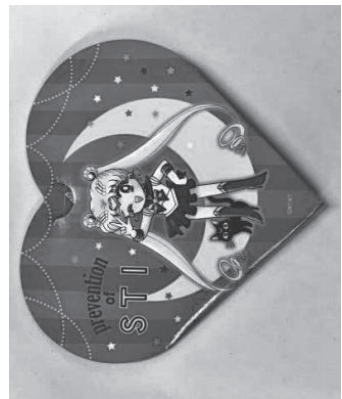


図8

STI/HIV検査啓発教材での サイトアドレシ紹介 (厚生労働省結核感染症課) 2016年11月21日



STI(性感染症)・HIVは 早期発見・治療が大切です。 検査や治療が早ければ命を失うことはありません。各機関に問い合わせください。 必ず検査・相談できる機関を掲載してあります。▶▶▶▶▶

HIV検査相談マップ <http://www.hivkensa.com/>

「コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。」

図9

検索都道府県別アクセス数 (2016年)

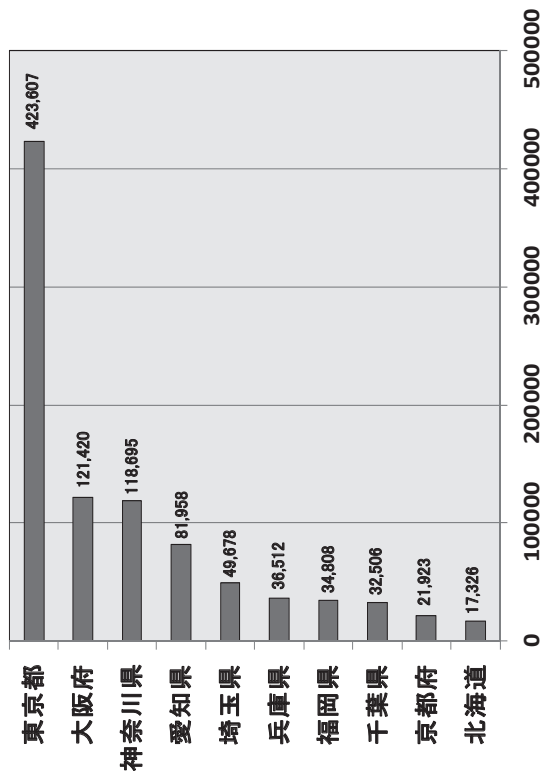


図10

参照元からのアクセス数 (2016年)

順位	参照元	アクセス数
1	Google 検索	706,162
2	Yahoo! JAPAN 検索	430,337
3	Direct access	173,607
4	はじめての性病検査 リンク	48,914
5	Yahoo!ニュース・知恵袋 リンク	20,836
6	bing 検索	20,118
7	ドコモ 検索	15,890
8	HIV感染症(エイズ)の検査・症状100問100答 リンク	13,348
9	東京都 リンク	5,502
10	au 検索	4,701

図11

チャネル別アクセス割合 (2016年)

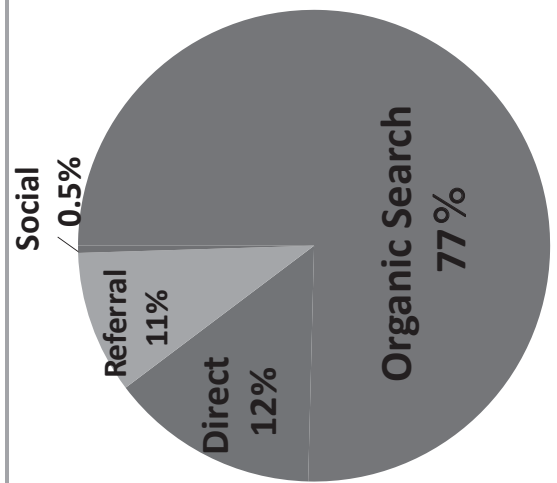


図12

リンク元からのアクセス数 (2016年)

順位	参照元	アクセス数
1	はじめての性病検査	48,914
2	HIV感染症(エイズ)の検査・症状100問100答	13,348
3	東京都	5,502
4	KO MENS.TV *	3,433
5	Men's Net Japan *	1,908
6	G-men *	1,878
7	Twitter	1,537
8	東京都南新宿検査相談室	1,489
9	日本赤十字社	1,280
10	ハッテンナビ 東京*	1,130
11	カナジヨ <small>(女裝子・ニューハーフ・男の娘専用の出会い系サイト)</small>	963

図13

公共サイトからのアクセス数 (2016年)

参照元	アクセス数
1 東京都福祉保健局	5,502
2 東京都南新宿検査相談室	1,489
3 日本赤十字社	1,280
4 HIVマップ	855
5 エイズ予防情報ネット	694
6 神奈川県	614
7 大阪府	556
8 性の健康医学財団	550
9 横浜市	508
10 厚生労働省	437

図14

検索エンジン 検索用語別表示順位

検索エンジン	検索用語順位 (2016年12月)			
	HIV	エイズ	AIDS	AIDS 検査
Google	1	2	15	1
Yahoo! JAPAN	1	2	15	1
bing	1	3	15	1

図15

問い合わせ件数・内容 (2016年)

2016 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	37件
受検した検査施設の不安、苦情、要望 (注射器・手袋からの感染不安、検査施設の対応、予約が取れない)	9
HIV検査を受けるにあたっての質問 (結果通知の方法、性感染症検査、聴覚障害者の受検)	9
リンク・アドレス紹介、内容引用希望	8
検査結果の解釈について(HIV、HBV)	4
HIV検査・相談マップ紹介カード送付依頼	3
感染リスク・感染不安について	2
HIV陽性者の歯科受診について	1
郵送検査について	1

図16

SHIP検査でのアンケート結果 (2015年9月～2016年12月)

Q. 当検査を何で知りましたか？ (複数回答) (n=162)

情報収集手段	回答者数	回答率
SHIPのホームページ	86	53%
HIV検査・相談マップ	56	35%
9モンスター	23	14%
HIVマップ	10	6%
クチコミなど	8	5%
MNJ	5	3%
パンフレットなど	3	2%
Mixi	0	0%
HuGs	0	0%
Mens Mixi	0	0%
テレビ・新聞など	0	0%
電話相談など	0	0%

図17

(2016年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を  
ご覧になったことはありますか？(保健所)

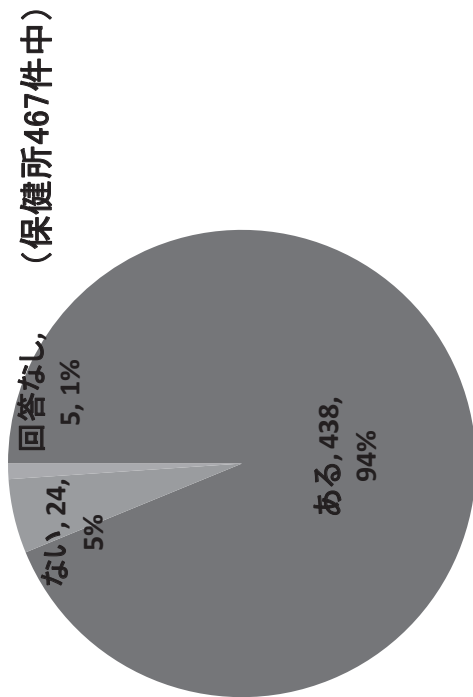


図18

(2016年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を  
ご覧になったことはありますか？(特設)

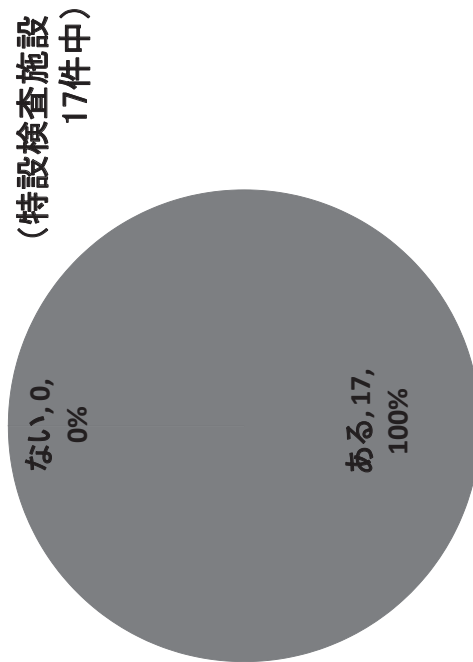


図19

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に  
役立っていると思いますか？(保健所)

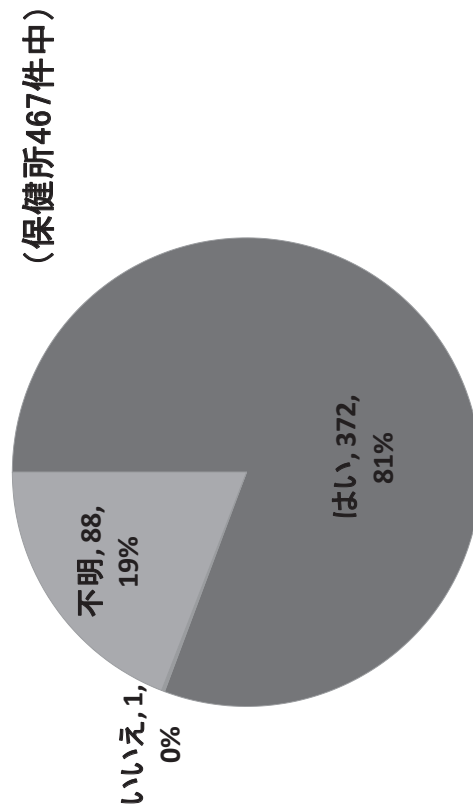
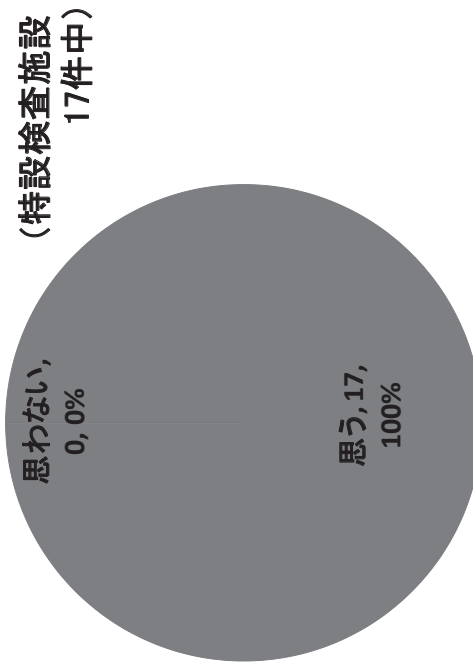


図20

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に  
役立っていると思いますか？(特設)



## 保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査

研究分担者：今井光信（田園調布学園大学 副学長）

研究協力者：近藤真規子、佐野貴子（神奈川県衛生研究所微生物部）、大野理恵（神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班）、須藤弘二、加藤真吾（慶應義塾大学医学部微生物部・免疫学教室）、市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

### 研究要旨

HIV 感染者の対策を考える上でも、また、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所等 HIV 無料匿名検査実施施設を対象とした HIV 検査・相談に関するアンケート調査を実施した。

なお、今回は梅毒検査についてもアンケート調査を行い、その実施状況を把握し、今後の課題について検討した。アンケートは平成 28 年 1 月～12 月までの 1 年間のデータを解析するため、平成 29 年 1 月に実施し解析を行った。

今回の全国保健所アンケート調査(HIV)においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 563 箇所（保健所及びその支所等）中、469 施設（83.3%）から回答を得ることができた。アンケート結果では、平成 28 年の 1 年間に、HIV 検査相談事業を行っているという回答の得られた 467 施設で合計 75,584 件の HIV 検査が実施され、221 件（0.29%）が陽性であった。陽性であった 221 件中 209 件（94.6%）が陽性結果を受け取っており、その中の 162 件（77.5%）については、その後医療機関を受診していることが保健所等において確認されていることが分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 28 年に陽性と分かった 221 件中の 121 件（54.8%）については自施設からの報告が行われていることが分かった。

また、東京都南新宿 HIV 検査・相談室等の特設検査機関へのアンケート結果では、21 か所中 17 か所（81.0%）から回答があり、それらの検査相談機関において、22,183 件の検査が行われ、138 件（0.63%）が陽性であった。陽性であった 138 件中 128 件（92.7%）において、結果が伝えられ、そのうち、108 件（84.4%）については受診したことが把握されていた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった 138 件中 119 件（86.2%）について自施設から報告が行われていた。

以上のことから、平成 28 年の保健所等と特設の HIV 無料検査においては、合計で 359 件の陽性件中 337 件において陽性の結果が伝えられ、その中の 270 件において医療機関への受診が確認されていることが分かった。現在、郵送検査等での HIV 受検者の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についても検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが 144 施設（30.8%）、即日検査の



みが 213 施設 (45.6%)、通常検査と即日検査が 110 施設 (23.6%) で、その比率は昨年とほぼ同じであった。また検査の曜日、時間帯に関しては、平日昼のみが 227 施設 (48.6%)、平日夜間検査が 174 施設 (37.3%)、土日検査が 66 施設 (14.1%) と、その比率も昨年と比べほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態が続いていることが分かった。

保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94.4%、特設検査相談施設の 94.1%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っているという回答している。また、受検者について把握している内容については、性別、年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期について 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握しているという回答している。一方、性的指向に関しては特設検査相談施設の 94.1%が把握しているという回答したのに対して、保健所で把握しているという回答は 42.8%であった。これら把握内容を事業改善等に活用しているという回答した保健所は 58.5%で、活用していないという回答した保健所が 32.8%であった。各施設の状況・受検者層に配慮した把握内容の検討とその把握内容の活用に関しては今後の各施設における課題である。

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV 検査と共に梅毒検査を実施しているという回答のあった保健所等施設は 469 施設中 327 施設 (69.7%) で、特設検査相談施設では、17 施設中 6 施設 (35.3%) であった。実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件 (74.0%)、予算の増額 54 件 (42.5%)、マニュアルの配布 31 件 (24.4%)、職員の増員 31 件 (24.4%)、医療機関の協力・連携 24 件 (18.9%) 等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設 (40.0%)、マニュアルの配布 2 施設 (20.0%)、即日で信頼できる試薬が 3 施設 (30.0%)、医療機関の協力・連携 1 施設 (10.0%) 等の意見であった。

現在、梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件 (84.1%) で、有料検査が 44 件 (13.5%) であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件 (33.6%)、有料検査が 47 件 (13.5%) であった。なお、有料の場合の費用については、500 円以下が 14 件、500 円～1,000 円が 25 件、1,500 円～2,000 円が 40 件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査の方法と結果については、STS 法による検査を行っている保健所は 259 件 (79.2%) で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件 (1.2%) であった。TP 抗体検査を実施しているという回答は 290 件 (88.7%) で、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件 (2.5%) であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 6,665 件、陽性は 428 件 (6.4%) であった。TP 抗体検査を実施しているという回答は、6 施設で、その検査数は 1,471 件で陽性は 413 件 (28.1%) であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが 206 件 (63.0%) で、結果説明のみが 77 件 (23.5%) であった。特設の検査相談施設においては、医療機関を紹介するが 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、

本年度においては HIV 検査に関する報告は 0 件であったが、STI 検査に関して、梅毒検査で 1 件、クラミジア検査で 1 件、合計 2 件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るといった人為的ミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は二重チェックの徹底等、再発防止策の強化に努めているとのことであった。保健所等における HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名（番号・記号）による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

## A. 目的

HIV 感染者の対策を考える上でも、また HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所等を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

また、本年度は梅毒検査についても保健所等での実施状況を把握するため同時にアンケート調査を実施した。

## B. 方法

全国の保健所およびその支所等 563 箇所の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等 21 箇所の特設 HIV 検査相談施設とを対象に、平成 29 年 1 月 4 日に HIV 検査相談及び梅毒検査に関するアンケート調査票を郵送し、平成 29 年 1 月 20 日を締め切り日として、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

## C. 結果

### 1 保健所等における HIV 検査相談に関するアンケート調査

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の 563 施設中 469 施設からアンケート結果が返送され、アンケートの回収率は 83.3%であった。また、特設検査相談機関については、

対象とした 21 施設中 17 施設（81.0%）からアンケート結果を回収できた。

#### ① 保健所における HIV 検査相談の実施率

回答のあった 469 保健所等施設の中で 467 施設とほとんどの施設が HIV 検査相談を実施していた。

#### ② HIV 検査総数と陽性率

上記 467 保健所等施設で平成 28 年に行った HIV 検査相談の検査総数は 75,584 件で、陽性は 221 件（0.29%）であった。

一方、回答のあった 17 特設検査相談機関で平成 28 年に行った HIV 検査相談の検査総数は 22,183 件で、陽性は 138 件（0.63%）であった。

#### ③ 年間検査件数別保健所数およびその陽性率

年間検査数が 50 件未満の保健所等施設が 186 件（39.8%）で、そこでの検査数合計は 3,814 件と多くはないが、陽性件数が 9 件あり、その陽性率が 0.24%と全体の平均陽性率 0.29 と大差はなく、それぞれの地域で一定の役割を果たしていることがわかった。

一方、年間検査数 1,000 件以上の保健所が 9 件（1.9%）あり、そこでの検査数は 14,706 件、陽性件数が 59 件で、陽性率は 0.40%と全国平均 0.29%に比べかなり高い。これら保健所の検査施設のほとんどが東京、大阪、名古屋等の都市部にあり、感染リスクのより高い受検者の利用が多いためと思われる。



#### ④ HIV 検査結果の受け取り状況

HIV の検査結果の受け取り状況に関しては、検査結果を受け取りに来なかった受検者数は、保健所等での全検査 75,584 件中 1,825 件 (2.4%) であった。検査結果の陰性・陽性で比べると、陰性の場合 75,363 件中 1,813 件 (2.4%)、陽性の場合 221 件中 12 件 (5.4%) であった。また、即日検査と通常検査で比べると、結果を受け取りに来なかった受検者数 (率) は、即日検査では 1.1% (陰性) と 4.7% (陽性)、通常では 4.3% (陰性) と 7.3% (陽性) で、即日に比べ通常検査では陰性時・陽性時の双方において結果を受け取りに来ない受検者の率が高いことがわかった。

#### ⑤ 陽性者の医療機関への受診についての把握について

陽性者が医療機関を受診したかどうか把握するための仕組みの有無については、陽性経験のある保健所等 (274 か所) では 82.9% があるとの回答であったが陽性経験のない保健所等 (180 か所) では 17.1% と低かった。

また、陽性結果を受け取った 209 人中、医療機関を受診したことを把握できている受検者は 162 人 (77.5%) であった。

特設検査での HIV 検査陽性の 138 件において、受検者が陽性の確認検査を受け取ったのは 128 件 (92.7%) であった。この中で医療機関を受診したことが確認されている事例は 108 例であり、陽性結果を伝えられた 128 件中の 84.4% であった。

#### ⑥ HIV の確認検査陽性例の報告

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、保健所では、平成 28 年に陽性と分かった 221 件中の 121 件 (54.8%) については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

特設検査では、138 件中の 119 件 (86.2%) については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼して

いることが分かった。

#### ⑦ HIV 検査以外の性感染症検査について

HIV 検査と同時に行っている性感染症検査に関しては 415 施設 (88.9%) の保健所等で実施しており、その内訳は、梅毒検査 319 施設 (76.9%)、B 型肝炎 308 施設 (74.2%)、C 型肝炎 301 施設 (72.5%)、クラミジア抗原 146 施設 (35.2%)、クラミジア抗体 115 施設 (27.7%)、淋菌 50 施設 (12.0%) であった。梅毒検査及び B 型肝炎と C 型肝炎のウイルス検査に関しては、70% を上回る施設で実施されていることが分かった。

特設検査相談機関では、8 施設 (47.1%) で性感染症検査を実施しており、その内訳は、梅毒検査 6 施設、B 型肝炎 6 施設、淋菌 2 施設、C 型肝炎 1 施設、クラミジア抗原 1 施設、クラミジア抗体 0 施設、であった。

#### ⑧ 受検者について把握している内容

保健所では、性別と年齢・年代についてはほとんどの保健所が把握しており、受検動機については 85.7%、感染機会の時期については 82.4%、感染リスクについては 72.6%、受検経験については 71.9% の保健所が把握しているとの回答であった。一方、居住地については 44.5% の保健所で把握しているとの回答であり、性的指向については 42.8% の保健所が把握しているとの回答であった。また、これら把握した内容を事業改善等に活用していると回答した保健所が 58.5% で、32.8% の保健所では活用されていないとの回答であった。

特設検査相談では、性別と受検経験については全ての施設が把握しており、性的指向については 16 施設 (94.1%)、感染リスクについては 15 施設 (88.2%)、居住地域・受検動機・感染機会の時期・情報源については 14 施設 (82.4%) の施設が把握しているとの回答であった。

#### ⑨ 結果説明について

結果説明の担当者に関しては、確認検査陽性時には担当者として医師が 98.3%、保健

師・看護師が 85.9%、カウンセラー等が 26.8%関わっているとの回答であった。迅速検査（即日検査）陽性時の結果説明における担当者も、医師が 82.9%、保健師・看護師が 87.7%、カウンセラー等が 13.0%との回答であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師 40.0%、保健師・看護師 80.3%、カウンセラー等が 13.8%との回答であった。

また、陽性者への対応として、カウンセラーの派遣が可能かとの質問には、経験ありが 22.5%、実績はないが可能が 21.6%、できないが 40.5%の回答であった。

特設検査相談施設における結果説明の担当者に関しては、確認検査陽性時には担当者として医師が 91.7%、保健師・看護師が 41.6%、カウンセラー等が 66.7%関わっているとの回答であった。迅速検査（即日検査）陽性時の結果説明における担当者は、医師が 92.3%、保健師・看護師が 30.8%、カウンセラー等が 53.8%との回答であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師 58.8%、保健師・看護師 35.2%、カウンセラー等が 35.3%との回答であった。

また、陽性者への対応として、カウンセラーの派遣が可能かとの質問には、経験ありが 5 施設（29.4%）、実績はないが可能が 5 施設（29.4%）、できないが 3 施設（17.6%）の回答であった。

#### ⑩ 感染予防の行動変容への働きかけについて

感染予防の行動変容を働きかける相談については、保健所等においても、特設検査相談施設においても 94%とそのほとんどがおこなわれているとの回答であった。その対象に関しては、受検者全員にとの回答が 82.5%（保健所等）62.5%（特設）、であり、その実施時期については、検査前が 15.2%（保健所）18.8%（特設）、検査後の結果説明時が 24.7%（保健所等）62.5%（特設）、両方で行うが 56.5%（保健所等）37.5%（特設）であった。

#### ⑪ 対応困難者の経験とその対応について

対応困難者の経験については、あるとの回答が、39.0%（保健所等）70.6%（特設）あり、その際に紹介先があるかとの質問には、あるとの回答は 21.8%（保健所等）23.5%（特設）と少なかった。紹介先としては、医療機関が 61.8%（保健所等）0%（特設）、NGO 等が 23.5%（保健所等）100%（特設）であった。

#### ⑫ 血液暴露事故が受検動機の受検者（医療従事者）について

血液暴露事故が受検動機の受検者（医療従事者）に関する質問では、経験ありとの回答が保健所では 139 件（29.8%）、特設の検査相談施設では 7 施設（41.2%）であった。その状況としては、保健所等では、針刺し事故 60 件、血液に触れたが 23 件、不安が 12 件であった。

#### ⑬ 未成年の検査希望者への対応について

未成年の検査希望者への対応については、通常通り行うが 77.9%（保健所等）58.8%（特設）、特別な配慮を行うが保健所等では 18.6%、特設検査相談施設では 35.3%であった。保健所等の検査相談施設における特別な配慮の内容としては、陽性時には親にも説明が 29 件、保護者の同意について質問が 21 件、丁寧なカウンセリングが 9 件、年齢により対応を考えるが 16 件であった。

特設検査相談施設においての特別な配慮としては、陽性時には親にも説明が 1 件、本人との相談により判断が 3 件、結果により検討が 2 件であった。

#### ⑭ 日本語のわからない外国籍の人の受検

保健所等において日本語のわからない外国籍の人の受検できる仕組みがあるとの回答は 153 件（32.8%）であり、その対応言語については、英語が 99 件、中国語 46 件、ポルトガル語 40 件、韓国語・朝鮮語 36 件、スペイン語 37 件、タイ語 19 件、タガログ語・フィリピン語 17 件、ベトナム語、7 件、ロシア語 3 件であった。

特設の検査相談施設においては、日本語のわからない外国籍の人の受検できる仕組みが

あるとの回答は8件(47.1%)であり、その対応言語については、英語が5施設、ポルトガル語が1施設であった。

#### ⑮ ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の利用

保健所等においてホームページ「HIV 検査・相談マップ」を閲覧したことがあるとの回答が438件(93.8%)で、ないとの回答は24件(5.1%)であった。

また、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」がHIV検査相談事業に役立っていると思うかとの質問には、はいの回答が372件(79.7%)、いいえの回答は1件、不明が88件(18.8%)であった。

なお、特設の検査相談施設においては、回答のあった17施設全てにおいて、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」を閲覧したことがあり、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」がHIV検査相談事業に役立っていると思うとの回答であった。

#### ⑯ HIV 検査結果の誤通知事故の有無について

平成28年における誤通知例の有無に関しては、HIV検査に関しての報告は0件であったが、STI検査に関して、梅毒検査で1件、クラミジア検査で1件、合計2件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという二重のミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は二重チェックの徹底等再発防止策の強化に努めているとのことであった。

保健所等におけるHIV検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名(番号・記号)による本人確認の徹底等に

より誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

## 2 保健所等における梅毒検査体制に関する調査

### ① アンケート調査の対象と回収率

保健所等563施設を対象にアンケート調査を行った結果、469施設(83.3%)からの回答が得られた。また、特設の検査相談施設を対象に行った調査では21施設中17施設(81.0%)から回答を得られた。

### ② 梅毒検査の実施の有無と可能性について

回答のあった469件中、梅毒検査を現在実施しているとの回答は327件(69.7%)、実施の予定が13件(2.8%)、実施していないが127件(27.1%)であった。

実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く94件(74.0%)、予算の増額54件(42.5%)、マニュアルの配布31件(24.4%)、職員の増員31件(24.4%)、医療機関の協力・連携24件(18.9%)等の意見であった。

特設の検査相談施設においては、梅毒検査を実施している施設が6施設(35.3%)、実施の予定が1施設(5.9%)、実施していないが10施設(58.8%)であった。

実施していない施設において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各4施設(40.0%)、マニュアルの配布2施設(20.0%)、即日で依頼できる試薬が3施設(30.0%)、医療機関の協力・連携1施設(10.0%)等の意見であった。

### ③ 梅毒検査の実施形態

現在梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV検査と一緒に受けられる無料検査が275件(84.1%)で、有料検査が44件(13.5%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が110件(33.6%)、

有料検査が 47 件 (14.4%) であった。

なお、有料の場合の費用については、500 円以下が 14 件、500 円～1,000 円が 25 件、1,500 円～2,000 円が 40 件であった。

特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

#### ④ 梅毒検査の方法と検査数・陽性数・陽性率について

STS 法による検査を行っている保健所は 259 件 (79.2%) で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件 (1.2%) であった。

TP 抗体検査を実施しているとの回答は、290 件 (88.7%) で、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件 (2.5%) であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 6,665 件、陽性は 428 件 (6.4%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、6 施設で、その検査数は 1,471 件で陽性は 413 件 (28.1%) であった。

#### ⑤ 梅毒検査陽性時の対応について

医療機関を紹介するが 206 件 (63.0%) で、結果説明のみが 77 件 (23.5%) であった。

なお、梅毒検査の結果返しに関しては、即日 が 64 件 (19.6%)、2 日～1 週間が 179 件 (54.7%)、1 週間～2 週間が 85 件 (26.0%) であった。

特設の検査相談施設においては、医療機関を紹介するが 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。梅毒検査の結果返しに関しては、2 日から 1 週間が 3 施設、1 週間～2 週間が 1 施設であった。

#### ⑥ 梅毒検査の頻度・時間帯等について

保健所等における梅毒検査の頻度については、月 1 回以下が 67 件 (20.5%) で月 2～3 回が 97 件 (29.7%)、月 4 回以上が 158 件 (48.3%) であった。

また、予約については必要が 210 件 (64.2%)、必要なしが 112 件 (34.3%) であった。

## D. まとめと考察

保健所等における HIV 検査相談数は、平成 20 年をピークに、その後の平成 21 年、22 年に大きく減少し、その後はほぼ横ばい状態が続いているが、今回の保健所等アンケート調査においても、ほぼ同様な状況が続いていることが分かった。

今回の全国保健所アンケート調査 (HIV) においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 563 箇所 (保健所及びその支所等) 中、469 施設 (83.9%) から回答を得ることができた。アンケート結果では、平成 28 年の 1 年間に、HIV 検査相談事業を行っているとの回答の得られた 467 施設で合計 75,584 件の HIV 検査が実施され、221 件 (0.29%) が陽性であった。陽性であった 221 件中、209 件 (94.6%) が陽性結果を受け取っており、その中の 162 件 (77.5%) については、その後医療機関に受診していることが保健所等において確認されていることが分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 28 年に陽性と分かった 221 件中の 121 件 (54.8%) については自施設からの報告が行われていることが分かった。

また、東京都南新宿 HIV 検査・相談室等の特設検査機関へのアンケート結果では、21 か所中 17 か所 (81.0%) から回答があり、それらの検査相談機関において、22,183 件の検査が行われ、138 件 (0.63%) が陽性であった。陽性であった 138 件中 128 件 (92.7%) において、結果が伝えられ、そのうち、108 件 (84.4%) については受診したことが把握されていた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった 138 件中 119 件 (86.2%) について自施設から報告が行われていた。

以上のことから、平成 28 年の保健所等と特設の HIV 無料検査においては、合計で 359 件の陽性件中 337 件において陽性の結果が伝え



られ、その中の 270 件において医療機関への受診が確認されていることが分かった。現在、郵送検査等での HIV 受検者の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についても検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが 144 施設 (30.8%)、即日検査のみが 213 施設 (45.6%)、通常検査と即日検査が 110 施設 (23.6%) で、その比率は昨年とほぼ同じであった。また検査の曜日、時間帯に関しては、平日昼のみが 227 施設 (48.6%)、平日夜間検査が 174 施設 (37.3%)、土日検査が 66 施設 (14.1%) と、その比率も昨年と比べほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態が続いていることが分かった。

また、保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94.4%、特設検査相談施設の 94.1%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っていると回答している。また、受検者について把握している内容については、性別・年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期については 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答している。一方、性的指向に関しては特設検査相談施設の 94.1%が把握しているとの回答したのに対して、保健所で把握しているとの回答は 42.8%であった。また、これら把握内容を事業改善等に活用していると回答した保健所は

58.5%で、活用していないと回答した保健所が 32.8%であった。

各施設の状況・受検者層に配慮した把握内容の検討とその把握内容の活用に関しては今後の核施設における課題である。

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV 検査と共に梅毒検査を実施していると回答のあった保健所等施設は 469 施設中 327 施設 (69.7%) で、特設検査相談施設では、17 施設中 6 施設 (35.3%) であった。実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件 (74.0%)、予算の増額 54 件 (42.5%)、マニュアルの配布 31 件 (24.4%)、職員の増員 31 件 (24.4%)、医療機関の協力・連携 24 件 (18.9%) 等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設 (40.0%)、マニュアルの配布 2 施設 (20.0%)、即日で信頼できる試薬が 3 施設 (30.0%)、医療機関の協力・連携 1 施設 (10.0%) 等の意見であった。

現在、梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件 (84.1%) で、有料検査が 44 件 (13.5%) であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件 (33.6%)、有料検査が 47 件 (14.4%) であった。なお、有料の場合の費用については、500 円以下が 14 件、500 円～1,000 円が 25 件、1,500 円～2,000 円が 40 件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての 6 施設において、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査の方法と結果については、STS 法による検査を行っている保健所は 259 件 (79.2%) で、その検査数は 37,625 件、陽性は 463 件 (1.2%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、290 件 (88.7%)

で、その検査数は 33,744 件で陽性は 846 件 (2.5%) であった。

特設の検査相談においては、STS 法による検査を行っている施設は 4 施設で、その検査数は 6,665 件、陽性は 428 件 (6.4%) であった。TP 抗体検査を実施しているとの回答は、6 施設で、その検査数は 1,471 件で陽性は 413 件 (28.1%) であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが 206 件 (63.0%) で、結果説明のみが 77 件 (23.5%) であった。特設の検査相談施設においては、医療機関を紹介するが 3 施設で、結果説明のみが 3 施設であった。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、本年度においては HIV 検査に関しては 0 件であったが、STI 検査に関して、梅毒検査で 1 件、クラミジア検査で 1 件、合計 2 件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという二重のミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は再発防止策の強化に努めているとのことであった。

保健所等における HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名 (番号・記号) による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

今回の例からも、誤通知事例はどの施設でも起こりうることを共通認識として共有し、衛生研究所や民間検査機関においても、また、保健所等、検査相談機関、においても、誤通

知等の発生防止に向けて継続した努力と注意喚起が今後とも必要である。

## 謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所および特設 HIV 検査相談関係者の皆様方に深く感謝致します。

## E. 発表論文等

### 1. 論文

なし

### 2. 学会発表 (国内)

- 1) 佐野貴子, 須藤弘二, 星野慎二, 井戸田一朗, 杉浦太一, 清水茂徳, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信, 市川誠一: HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析, 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2016 年 11 月 24-26 日, 鹿児島.
- 2) 近藤真規子, 佐野貴子, 吉村幸浩, 立川夏夫, 岩室紳也, 井戸田一朗, 山中 晃, 武部 豊, 今井光信, 加藤真吾: 中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01\_AE variant の日本国内への拡散, 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2016 年 11 月 24-26 日, 鹿児島.
- 3) 星野慎二, 井戸田一朗, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 加藤真吾: 全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査, 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2016 年 11 月 24-26 日, 鹿児島.
- 4) 須藤弘二, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 木村 哲, 加藤真吾: HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2015), 第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2016 年 11 月 24-26 日, 鹿児島.

## F. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

## 保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

1. 貴保健所ではHIV検査相談を行っていますか？ (n=469)

はい	467件	99.6%
いいえ	2件	0.4%

アンケート送付数 563  
回収数 469 83.3%

「はい」と答えた保健所 → 平成28年1～12月の実施状況をお教え下さい。(n=467)

① HIV検査件数

検査数	75,584
うち陽性数	221
陽性率	0.29%

② 陽性経験数

陽性者があった保健所	111件	23.8%
陽性がなかった保健所	355件	76.2%
回答なし	1件	

③ 年間検査件数別保健所数

年間検査数	保健所数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
50件未満	186	39.8%	3,814	5.0%	9	0.24%	4.3%	8
50-99件	87	18.6%	6,174	8.2%	16	0.26%	17.2%	15
100-199件	89	19.1%	12,696	16.8%	34	0.27%	29.2%	26
200-499件	69	14.8%	20,573	27.2%	53	0.26%	49.3%	34
500-999件	25	5.4%	17,621	23.3%	50	0.28%	76.0%	19
1000件以上	9	1.9%	14,706	19.5%	59	0.40%	100.0%	9
回答なし	2	0.4%						

④ HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数と%

	陰性で聞きに来なかった人		陽性で聞きに来なかった		検査件数	陽性数	陰性数	聞きに来ない
全体	1,813	2.4%	12	5.4%	75,584	221	75,363	1,825
即日検査のみ	323	1.1%	4	4.7%	28,257	85	28,172	327
即日検査+通常検査	657	2.4%	4	4.9%	27,991	81	27,910	661
通常検査のみ	833	4.3%	4	7.3%	19,336	55	19,281	837

⑤ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	全体		陽性経験保健所	
ある	274	58.7%	92	82.9%
ない	180	38.5%	19	17.1%

(n=111)

⑥ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数 **162人 77.5%**

⑦ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数 **121人 (54.8%)**

2. 貴保健所で行っているHIV検査相談事業の内容について教えて下さい。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

行っている	415件	88.9%
行っていない	52件	11.1%

「行っている」と答えた保健所 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください(複数回答)

梅毒	319	76.9%
クラミジア抗体	115	27.7%
クラミジア抗原	146	35.2%
淋菌	50	12.0%
B型肝炎	308	74.2%
C型肝炎	301	72.5%
HTLV-1	13	3.1%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入 (n=467)

1	通常検査のみ	144	30.8%	通常検査を行っている	254
2	即日検査のみ	213	45.6%	即日検査を行っている	323
3	通常+即日	110	23.6%		110
A	平日昼のみ検査	227	48.6%		467
B	平日夜間検査	174	37.3%		
C	土日検査	66	14.1%		
1A	通常のみ+平日昼のみ	112	24.0%		
1B	通常のみ+夜間も行っている	31	6.6%		
1C	通常+土日検査も	1	0.2%		
2A	即日のみ+平日昼のみ	92	19.7%		
2B	即日のみ+夜間も行っている	91	19.5%		
2C	即日+土日検査も	30	6.4%		
3A	通常+即日・平日昼のみ	23	4.9%		
3B	通常+即日・夜間も行っている	52	11.1%		
3C	通常+即日・土日検査も	35	7.5%		

## 保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

### ③ ア通常検査の場合

#### A. 予約制ですか？ (n=254) 複数回答

はい	151	59.4%
いいえ	104	40.9%

#### B. 1回あたり上限はありますか？ (n=254) 複数回答

はい	117	46.1%
いいえ	135	53.1%
回答なし	3	1.2%

上限がある場合、平均人数と分布

	通常	即日
平均数	10人	12人
10人未満	74件	149件
10-19人	24件	46件
20-29人	10件	17件
30-39人	1件	14件
40-49人	2件	5件
50人以上	2件	8件

#### C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	245	96.5%
いいえ	4	1.6%
回答なし	5	2.0%

#### D. 結果返しは？

1週間後まで	177	69.7%
1週から2週後まで	77	30.3%
回答なし	4	1.6%

#### E. スクリーニング検査 実施施設は？

自保健所	36	14.2%
他保健所	31	12.2%
衛生研究所	101	39.8%
外部委託	90	35.4%

#### F. 確認検査の実施施設は？

自保健所	8	3.1%
他保健所	13	5.1%
衛生研究所	173	68.1%
外部委託	63	24.8%

#### G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	20	7.9%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。	9	3.5%
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	211	83.1%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	162	/
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	39	
その他	10	3.9%



## 保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

### ④ イ即日検査の場合 (n=323)

#### A. 予約制ですか？

はい	265	82.0%
いいえ	59	18.3%

#### B. 1回あたり上限はありますか？

はい	242	74.9%
いいえ	79	24.5%
回答なし	2	0.6%

#### 上限がある場合、平均人数と分布

	即日
平均数	12人
10人未満	149件
10-19人	46件
20-29人	17件
30-39人	14件
40-49人	5件
50人以上	8件

#### C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	318	98.5%
いいえ	3	0.9%
回答なし	2	0.6%

#### D. 迅速検査で陽性(要確認検査)となった場合の結果返しは？

1週間後	164	50.8%
2週間後	151	46.7%
2週間以降	1	0.3%
回答なし	7	2.2%

#### E. 確認検査 実施施設は？

自保健所	18	5.6%
他保健所	9	2.8%
衛生研究所	213	65.9%
外部委託	97	30.0%

#### F. 確認検査用 検体は？

迅速検査残血液	181	56.0%	(n=323)
確認検査用再採血	141	43.7%	
迅速検査用と同時	71	22.0%	
結果通知後	70	21.7%	
未記入	11	3.4%	

※10か所の保健所が、ケースにより残余と再採血の両者を実施

### ⑤ 確認検査の方法は？ (通常、即日共通) (n=467)

WB法のみ	145	31.0%
2次スクリーニング+WB法	127	27.2%
WB法+NAT法	111	23.8%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	47	10.1%
その他	16	3.4%

### ⑥ 受検者について把握している内容は？ (n=467)

性別	459	98.3%
年齢	329	70.4%
年代	212	45.4%
年齢・年代	456	97.6%
居住地域	208	44.5%
受検動機	400	85.7%
受検経験	336	71.9%
感染リスク	339	72.6%
性的指向	200	42.8%
感染機会の時期	385	82.4%
情報源	304	65.1%
その他	48	10.3%

#### 上記の内容について事業改善等に活用していますか。 (n=467)

活用している	273	58.5%
活用していない	153	32.8%

## 保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

⑦ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

(n=467)

記入数	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
医師	183	40.0%	243	82.9%	206	60.1%	404	98.3%
保健師	330	72.2%	242	82.6%	270	78.7%	334	81.3%
看護師	37	8.1%	15	5.1%	19	5.5%	19	4.6%
その他(カウンセラー等)	63	13.8%	38	13.0%	36	10.5%	110	26.8%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

ある	245件	52.5%
ない	31件	6.6%
回答なし	191件	40.9%

B. 検査結果の説明について

(n=467) 複数回答

口頭のみ	191件	40.9%
結果の書面を渡す	215件	46.0%
基本は口頭、希望者には書面を渡す	20件	4.3%
証明書発行	8件	1.7%
書面を一緒に見ながら説明	7件	1.3%
紹介状を渡す	6件	1.1%
パンフレットを渡す	5件	1.5%
その他	3件	
回答なし	27件	5.8%

C. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

ある	332件	71.1%
ない	122件	26.1%
回答なし	13件	2.8%

D. 陽性者への説明資料はありますか？

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
ある	386件	82.7%	99件	89.2%
ない	69件	14.8%	9件	8.1%
回答なし	12件	2.6%	3件	2.7%

E. 陽性者への手渡し資料はありますか？

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
ある	400件	85.7%	107件	96.4%
ない	47件	10.1%	2件	1.8%
回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

F. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=467) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
経験あり	51件	10.9%	25件	22.5%
実績はないが可能	179件	38.3%	24件	21.6%
できない	191件	40.9%	45件	40.5%
検討中	12件	2.6%	6件	5.4%
その他	20件	4.3%	8件	7.2%
回答なし	16件	3.4%	3件	2.7%

G. 確認検査で陽性の場合には感染症発生動向調査の届出を行いますか (n=467) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所 (n=111)	
必ずおこなう	231件	49.5%	61件	55.0%
ほぼおこなう	37件	7.9%	12件	10.8%
おこなわない	19件	4.1%	6件	5.4%
医療機関に依頼する	164件	35.1%	33件	29.7%
回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

## 保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

H. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっています；(n=467)

行っている	441	94.4%
行っていない	17	3.6%
回答なし	9	2.8%

対象は？

(n=441)

全員に	364	82.5%
一部に	77	17.5%

場面は？

検査前に	67	15.2%
結果説明後に	109	24.7%
両方に	249	56.5%

具体的手法は？

パンフレット、結果説明書を活用して	130件
カウンセリング	40件
予防法を中心に説明	45件
口頭で説明、またはパンフレット配布	39件
感染リスク(経路)の説明および予防法について	31件
説明およびコンドーム等配布	19件
リスク行動の振り返り	29件
アンケート、クイズの実施	13件

I. 対応困難者の経験はありますか？

ある	182件	39.0%
ない	278件	59.5%
不明	7件	1.5%

対応困難者の紹介先はありますか？

(n=467)

ある	102件	21.8%
ない	326件	69.8%
不明	39件	8.4%

「ある」と答えた保健所→紹介先は？(複数回答あり)

(n=102)

医療機関	63件	61.8%
NGO等	24件	23.5%
その他	27件	26.5%

J. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいない(有) (n=467)

いない	307件	65.7%
いる	139件	29.8%
	H27	H28
→人数 5名以下	55件	86件
→人数 10名以下	4件	5件
→人数 11名以上	5件	3件
状況 針刺し事故	60件	
血液に触れた	23件	
不安	12件	

K. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？ (n=467)

通常通り行う	364件	77.9%
受け付けない	1件	0.2%
特別な配慮をする	87件	18.6%
→陽性時には親にも説明	29件	33.3%
→保護者の同意を得られているか	21件	24.1%
→丁寧なカウンセリング	9件	10.3%
→年齢により対応を考える	16件	18.4%

L. 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？ (n=467)

ない	292件	62.5%
ある	153件	32.8%
→英語	99件	64.7%
→ポルトガル語	40件	26.1%
→スペイン語	37件	24.2%
→中国語	46件	30.1%
→韓国語、朝鮮語	36件	23.5%
→タガログ語、フィリピン語	17件	11.1%
→タイ語	19件	12.4%
→ベトナム語	7件	4.6%
→ロシア語	3件	2.0%

(n=153)

## 保健所におけるHIV検査体制に関する調査(H28年)

- ⑧ ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

ある	438件	93.8%
ない	24件	5.1%
回答なし	5件	1.1%

- ⑨ 「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思 (n=467)

はい	372件	79.7%
いいえ	1件	0.2%
不明	88件	18.8%

- ⑩ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて  
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して  
誤った結果を通知したことはありますか？

なかった	463	99.1%
あった	2	0.4%
⇒HIVについてあった	0	0.0%
⇒STIについてあった	2	0.4%

- ⑪ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありますか？

## 特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

1. 平成28年1～12月の実施状況をお教え下さい。

平成28年1～12月の実施状況をお教え下さい。

アンケート送付数 21  
回収数 17 81.0%

① HIV検査件数 (n=17)

検査数	22,183
うち陽性数	138
陽性率	0.62%

② 陽性経験数

陽性者があった施設	13件	76.5%
陽性者がなかった施設	4件	23.5%

年間検査数	施設数	検査件数	陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
50件未満	0	0.0%	0	0.0%		0
50-99件	1	5.9%	72	0.3%		0
100-199件	2	11.8%	242	1.1%	50.0%	1
200-499件	4	23.5%	1,668	7.5%	50.0%	2
500-999件	5	29.4%	3,923	17.7%	100.0%	5
1000件以上	5	29.4%	16,278	73.4%	100.0%	5

③ HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数と%

	陰性で聞きに来なかった人	陽性で聞きに来なかった人	検査件数	陽性数	陰性数	聞きに来ない
全体	461	10	22,183	138	22,045	471
即日検査のみ	1	3	8,761	41	8,720	4
即日検査+通常検査	47	1	3,147	14	3,133	48
通常検査のみ	413	6	10,275	83	10,192	419

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	全体	陽性経験施設	(n=13)
ある	13	11件	84.6%
ない	4	2件	15.4%

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者 108人 84%

⑥ 発生动向調査の報告を行ったHIV感染者数 119人 (86.2%)

2. 貴施設で行っているHIV検査相談事業の内容について教えてください。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

行っている	8件	47.1%
行っていない	9件	52.9%

「行っている」と答えた施設 → 実施している性感染症検査項目に○をして； (n=8) 複数回答

梅毒	6	75.0%
クラミジア抗体	0	0.0%
クラミジア抗原	1	12.5%
淋菌	2	25.0%
B型肝炎	6	75.0%
C型肝炎	1	12.5%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入 (n=17)

1 通常検査のみ	2	12%	通常検査を行っている	4
2 即日検査のみ	13	76%	即日検査を行っている	15
3 通常+即日	2	12%		

A 平日昼のみ検査	1	6%
B 平日夜間検査	3	18%
C 土日検査	13	76%

1A 通常のみ+平日昼のみ	0	0%
1B 通常のみ+夜間も行っている	0	0%
1C 通常+土日検査	2	12%
2A 即日のみ+平日昼のみ	1	6%
2B 即日のみ+夜間も行っている	3	18%
2C 即日のみ+土日検査	9	53%
3A 通常+即日・平日昼のみ	0	0%
3B 通常+即日・夜間も行っている	0	0%
3C 通常+即日・土日検査	2	12%

③ ア通常検査の場合 (n=4)

A. 予約制ですか？

はい	2	50.0%
いいえ	2	50.0%

B. 1回あたり上限はありますか？ (n=4)

はい	2	50.0%
いいえ	2	50.0%

## 特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

上限がある場合、平均人数と分布

	通常	即日
平均数	43人	55人
10人未満		
10-19人		1件
20-29人	1件	2件
30-39人		1件
40-49人		1件
50人以上	1件	9件

C. プレカウンセリングを行っているか？

(n=4)

はい	4	100.0%
いいえ	0	0.0%

D. 結果返しは？

1週間後まで	4	100.0%
1週から2週後まで	0	0.0%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

自施設	1	25.0%
他施設	3	75.0%

F. 確認検査の実施施設は？

自施設	2	50.0%
他施設	2	50.0%

H. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	1	25.0%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。		
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	3	75.0%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	3	/
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	0	

④ イ即日検査の場合

(n=15)

A. 予約制ですか？

はい	11	73.3%
いいえ	3	20.0%
回答なし	1	6.7%

B. 1回あたり上限はありますか？

はい	12	80.0%
いいえ	2	13.3%
回答なし	1	6.7%

上限がある場合、平均人数と分布

	即日
平均数	55人
10人未満	0件
10-19人	1件
20-29人	2件
30-39人	1件
40-49人	1件
50人以上	7件

C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	13	86.7%
いいえ	0	0.0%
回答なし	1	6.7%

D. 迅速検査で陽性(要確認検査)となった場合の結果返しは？

1週間後	9	60.0%
2週間後	4	26.7%
回答なし	2	13.3%

E. 確認検査 実施施設は？

自施設	4	26.7%
他施設	10	66.7%
未記入	1	6.7%

## 特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

### F. 確認検査用 検体は？

迅速検査残血液	8	53.3%	(n=15)
確認検査用再採血	5	33.3%	
迅速検査用と同時	3	20.0%	
結果通知後	2	13.3%	
未記入	2	13.3%	

### ⑤ 確認検査の方法は？（通常、即日共通） (n=17)

WB法のみ	0	0.0%
2次スクリーニング+WB法	7	41.2%
WB法+NAT法	6	35.3%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	3	17.6%
未記入	1	5.9%

### ⑥ 受検者について把握している内容は？ (n=17)

性別	17	100.0%
年齢	8	47.1%
年代	12	70.6%
年齢・年代	17	70.6%
居住地域	12	82.4%
受検動機	14	82.4%
受検経験	17	100.0%
感染リスク	15	88.2%
性的指向	16	94.1%
感染機会の時期	14	82.4%
情報源	14	82.4%
その他	2	11.8%

### 上記の内容について事業改善等に活用していますか。 (n=17)

活用している	15	88.2%
活用していない	1	5.9%

### ⑦ 結果説明等について

#### A. 結果説明時の担当者

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
記入数	17		13		11		12	
医師	10	58.8%	12	92.3%	10	90.9%	11	91.7%
保健師	3	17.6%	4	30.8%	3	27.3%	4	33.3%
看護師	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
その他(カウンセラー等)	6	35.3%	7	53.8%	6	54.5%	8	66.7%

#### 迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

ある	12件	70.6%	(n=17)
ない	1件	5.9%	
回答なし	4件	23.5%	

#### B. 検査結果の説明について (n=17) 複数回答

口頭のみ	7件	41.2%
結果の書面を渡す	9件	52.9%
回答なし	1件	5.9%

#### C. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

ある	15件	88.2%
ない	1件	5.9%
回答なし	1件	5.9%

#### D. 陽性者への説明資料はありますか？

	全体		陽性経験施設(n=13)	
ある	15件	88.2%	12件	92.3%
ない	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	1件	5.9%	1件	7.7%

#### E. 陽性者への手渡し資料はありますか？

	全体		陽性経験施設(n=13)	
ある	15件	88.2%	12件	92.3%
ない	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	1件	5.9%	1件	7.7%

#### F. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=17) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所(n=13)	
経験あり	5件	29.4%	4件	30.8%
実績はないが可能	5件	29.4%	4件	30.8%
できない	3件	17.6%	2件	15.4%
検討中	件	0.0%	0件	0.0%
その他	3件	17.6%	2件	15.4%
回答なし	4件	23.5%	3件	23.1%

## 特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

### G. 確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

	全体		陽性経験施設(n=13)	
必ずおこなう	9件	52.9%	7件	53.8%
ほぼおこなう	0件	0.0%	0件	0.0%
おこなわない	1件	5.9%	1件	7.7%
医療機関に依頼する	5件	29.4%	4件	30.8%
回答なし	2件	11.8%	1件	7.7%

### H. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか (n=17)

行っている	16	94.1%
行っていない	0	0.0%
回答なし	1	6.7%

対象は？

(n=16)

全員に	10	62.5%
一部に	6	37.5%

場面は？

検査前に	3	18.8%
結果説明後に	10	62.5%
両方に	6	37.5%

具体的手法は？

感染ルートの確認および予防法について	3
カウンセリング	6
今までの行動を振り返り、行動変容を促す	2
パンフレット、結果説明書を活用して	2
特にMSMIに対して	1

### I. 対応困難者の経験はありますか？

(n=17)

ある	12件	70.6%
ない	3件	17.6%
回答なし	2件	11.8%

対応困難者の紹介先はありますか？

(n=17)

ある	4件	23.5%
ない	8件	47.1%
回答なし	5件	29.4%

「ある」と答えた施設→紹介先は？(複数回答あり)

(n=4)

医療機関	0件	0.0%
NGO等	4件	100.0%

### J. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいま

(n=17)

いない	8件	47.1%
いる	7件	41.2%
	H27	H28
→人数 5名以下	2件	2件
→人数 10名以下	1件	件
→人数 11名以上	2件	3件
状況 血液に触れた		1件
統計をとっていない		2件

### K. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか

(n=17)

通常通り行う	10件	58.8%
受け付けない	0件	0.0%
特別な配慮をする	6件	35.3%
→陽性時には親にも説明	1件	16.7%
→本人との相談により判断	3件	50.0%
→結果により検討	2件	33.3%

### L. 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？

(n=17)

ない	8件	47.1%
ある	8件	47.1%
→英語	5件	62.5%
→ポルトガル語	1件	12.5%

(n=8)



## 特設検査相談施設におけるHIV検査相談体制に関する調査(H28年)

- ⑧ ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？ (n=17)

ある	17件	100.0%
ない	0件	0.0%

- ⑨ 「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

思う	17件	100.0%
思わない	0件	0.0%

- ⑩ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて (n=17)  
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して  
誤った結果を通知したことはありますか？

なかった	16件	94.1%
HIVについてあった	0件	0.0%
STIIについてあった	1件	5.9%

- ⑪ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありますか？

・人材不足(看護師)

## 保健所における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

1. (1) 貴保健所では梅毒検査を実施していますか？ (n=469)

実施している	327件	69.7%
実施の予定	13件	2.8%
実施していない	127件	27.1%

アンケート送付数 563  
回収数 469  
83.3%

1. (2) どのような条件があれば実施が可能となりますか？(複数回答可) (n=127)

自治体本庁の方針であれば実施する	94	74.0%
職員の増員	31	24.4%
予算の増額	54	42.5%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	24	18.9%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	31	24.4%
必要性を感じていない	3	2.4%
その他	12	9.4%

「梅毒検査を行っている」と答えた保健所のみ (n=327)

2. (1) どのように実施していますか？(複数回答可)

HIV検査と一緒に受けられる(無料)	275	84.1%
HIV検査と一緒に受けられる(有料)	44	13.5%
梅毒検査のみで受けられる(無料)	110	33.6%
梅毒検査のみで受けられる(有料)	47	14.4%
回答なし	3	0.9%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】

RPRカードテスト	236	72.2%
自動化法	23	7.0%
実施していない	17	5.2%
回答なし	54	16.5%
検査数	37,625	
うち陽性数	463	
陽性率	1.2%	

(n=327)

陽性者があった保健所	127件	38.8%
陽性者がなかった保健所	131件	40.1%

【TP抗体検査】

通常検査で実施	229件	70.0%
即日検査で実施	61件	18.7%
回答なし	43件	
検査数	33,744	
うち陽性数	846件	
陽性率	2.51%	

(n=327)

通常+即日6件

2. (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？ (n=327)

結果説明のみ	77件	23.5%
医療機関を紹介	206件	63.0%
STS法を実施し、後日結果通知	1件	0.3%
その他	50件	15.3%

2. (4) 検査時間帯は？ (n=327)

1回 /月未満	12件	3.7%
1回 /月	55件	16.8%
2~3回 /月	97件	29.7%
4回 /月	148件	45.3%
5回 /月以上	10件	3.1%
土日実施している	18件	5.5%
夜間実施している	100件	30.6%

2. (5) 予約制ですか？ (n=327)

はい	210	64.2%
いいえ	112	34.3%
未記入	5	1.5%

## 保健所における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

2. (6) 有料の場合の費用は？

有効回答: 79

500円以下	14件	17.7%
500～1000円	25件	31.6%
1000～1500円	0件	0.0%
1500円～2000円	40件	50.6%

2. (7) 結果返しは？

(n=327)

即日	64件	19.6%
2日～1週間	179件	54.7%
1週間～2週間	85件	26.0%
2週間以降	2件	0.6%

## 保健所における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

### 3. 問題点、課題等

検査の2週間後に受検者から電話してもらうことで、性感染症検査の告知を行っているが、H28.1月～12月の間では42%が未告知であり、性感染症検査の結果が伝わらない。
梅毒検査相談担当者のスキルアップ
H29.1月から月1回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査(IC法)を追加して、2項目同時検査に変更実施する。梅毒のIC法は補助金(特定感染症等事業)の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見および梅毒検査を実施していくため、補助金対象にしていただきたい。
受検者が少ない、検査の周知が課題。
匿名の検査であるため、検査陽性者の受診やその経過まではフォローできない。匿名での検査であるため、検査陽性者からの求めに応じて医療機関の紹介をすること等は可能だが、陽性者が実際に受診をしたか、およびその治療経過等は把握することができない。治療中断者に対する受診勧奨等も不可。
結果を聞きに来ない人がいること。
治療終了後に検査を受け、陽性になった場合(RPRも)判断が困難である。1回だけの検査では。
特に20代女性をターゲットにした予防啓発の充実が課題。(感染予防、検査の必要性等、疾病に関する情報)
HIV検査と同時実施のため匿名となっている。陽性者が結果説明に来所しない場合のフォローが難しい。
自覚症状等ある場合には予約時点で直接医療受診を勧めている。
即日検査でないため、検査結果の未返却が生じやすい。
外国語の対応がパンフレット等を介してしかできない。
特にありません。医療機関でSTI検査を無料で実施できる制度があれば、潜在患者も広く救い上げることができるのではないかと思います。
結果を聞きに来られない受検者もいるため、陽性者が出た場合に確実に受診につなげられない可能性や、予防行動につなげられない可能性がある。
当所ではHIV検査を即日検査で実施している。その際に梅毒検査の結果は1週間後に伝えるため、梅毒の検査結果を聞きに来ないものがある。
HIV検査(迅速)とのかねあい
匿名実施のため、受検者から連絡がない場合、結果も伝えられない。
後日結果をお電話でお伝えするため電話のない受検者に結果を伝えられないこと。
行政検査のため無料、匿名検査ではあるが予約制である。
検査のアクセスのしやすさで考えると保健所での検査は有益であるか。今のところは医療機関の検査でよいと考える。
HIV同様、相談者が徐々に減少している。
実際の症状、治療の状況など情報、知識が少ないので一般的な話ができていない。
梅毒に特化した説明パンフレット等があれば活用したい。
現行のHIV、HBs抗体、HCV抗体検査同様、保健所で実施するのであれば、梅毒検査も匿名可、無料検査とすることが好ましく、相談する立場からは検査を受けやすくなると思うが、陽性の場合には治療が必要となり、保健所で検査実施後、医療機関へも受診する必要があるため、受検者の負担は逆に大きくなるのではないかと考える。
臨床検査技師が1名配置となっており、病休等で不在となった場合、検査業務を休止しなければならない。
梅毒紹介時に病院先の選定に苦慮。診療を受けてくれる病院が少ない。

## 特設検査相談施設における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

1. (1) 貴施設では梅毒検査を実施していますか？ (n=17)

実施している	6件	35.3%
実施の予定	1件	5.9%
実施していない	10件	58.8%

アンケート送付数 21  
回収数 17  
81.0%

1. (2) どのような条件があれば即日検査が可能となりますか？(複数回答可) (n=10)

自治体本庁の方針であれば実施する	4	40.0%
職員の増員	0	0.0%
予算の増額	4	40.0%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	1	10.0%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	2	20.0%
必要性を感じていない	0	0.0%
即日で信頼できる試薬がある場合。	3	30.0%
検査体制の整備、制度管理	1	10.0%
HIV即日検査イベントと同時に行いたい、 即日に結果を返すことができない	1	10.0%

「梅毒検査を行っている」と答えた施設のみ (n=6)

2. (1) どのように実施していますか？(複数回答可)

HIV検査と一緒に受けられる(無料)	6	100.0%
HIV検査と一緒に受けられる(有料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる(無料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる(有料)	0	0.0%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】

RPRカードテスト	3	50.0%
自動化法	1	16.7%
実施していない		0.0%
回答なし	2	33.3%
検査数	6,665	
うち陽性数	428	
陽性率	6.4%	

(n=6)

【TP抗体検査】

通常検査で実施	4件	66.7%
即日検査で実施	2件	33.3%
回答なし	0件	
検査数	1,471	
うち陽性数	413件	
陽性率	28.1%	

(n=6)

2. (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？

結果説明のみ	3件	50.0%
医療機関を紹介	3件	50.0%
STS法を実施し、後日結果通知	0件	0.0%

(n=6)

2. (4) 検査時間帯は？

1回 / 月未満	3件	50.0%
1回 / 月	1件	16.7%
2~3回 / 月	0件	0.0%
4回 / 月	1件	16.7%
5回 / 月以上	1件	16.7%
土日実施している	2件	33.3%
夜間実施している	4件	66.7%

(n=6)

2. (5) 予約制ですか？

はい	4	66.7%
いいえ	2	33.3%

(n=6)

2. (6) 有料の場合の費用は？ 6件とも無料

2. (7) 結果返しは？

2日~1週間	3件	50.0%
1週間~2週間	1件	16.7%
回答なし	2件	33.3%

(n=6) 複数回答あり

## 特設検査相談施設における梅毒検査体制に関する調査(H28年)

### 3. 問題点、課題等

看護師不足
HIV検査は即日検査を行っており、梅毒検査の結果が出る時間的な差がある。梅毒の即日検査は制度について課題があり、導入は検討していない。
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
H29年4月から月に2回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査(IC法)を追加して2項目同時検査に変更、実施予定。梅毒のIC法は補助金(特定感染症検査等事業)の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見およびHIV受検促進のために、需要のある即日検査で梅毒検査を実施していけるよう、補助金対象にしていきたい。
梅毒の診断や治療を受けていないが、RPR(-)TPHA(+))という場合がある。風邪等で抗生剤を処方された結果、RPRが陰性化した可能性が想定される。

図1-A

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果 (2017年2月8日)

保健所アンケート 回答数 (2017.2/7現在) 469/ 563箇所 (83%)

2016年にHIV検査を実施した保健所 467/ 469所 (99.6%)

2016年に陽性結果のあった保健所 111 / 467箇所 (24%)

陽性件数 221 / 75, 584 (陽性率 0.29%)

陽性結果を伝えられた件数 → 209 / 221 (95%)

受診したことを把握できた件数 → 162 / 209 (78%)

発生動向調査の報告を行った感染者数件数 → 121 / 221 (55%)  
(陰性結果を伝えられた件数 → 73,550 / 75,363 (98%))

図1-B

## 特設検査施設等におけるHIV検査体制に 関する全国調査の結果 (2017年2月11日)

【特設検査施設】

特設検査機関アンケート 回答数 (2017.2.10現在) 17 / 21箇所 (81%)

2016年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 13 / 17箇所

陽性件数 138 / 22,183 (陽性率 0.6%)

陽性結果を伝えられた件数 → 128 / 138 (93%)

受診したことを把握できた件数 → 108 / 128 (84%)

発生動向調査の報告を行った件数 → 119 / 138 (86%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 21,584 / 22,045 (98%))

図1-A

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果 (2017年2月8日)

保健所アンケート 回答数 (2017.2/7現在) 469/ 563箇所 (83%)

2016年にHIV検査を実施した保健所 467/ 469所 (99.6%)

2016年に陽性結果のあった保健所 111 / 467箇所 (24%)

陽性件数 221 / 75, 584 (陽性率 0.29%)

陽性結果を伝えられた件数 → 209 / 221 (95%)

受診したことを把握できた件数 → 162 / 209 (78%)

発生動向調査の報告を行った感染者数件数 → 121 / 221 (55%)  
(陰性結果を伝えられた件数 → 73,550 / 75,363 (98%))

図1-B

## 特設検査施設等におけるHIV検査体制に 関する全国調査の結果 (2017年2月11日)

【特設検査施設】

特設検査機関アンケート 回答数 (2017.2.10現在) 17 / 21箇所 (81%)

2016年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 13 / 17箇所

陽性件数 138 / 22,183 (陽性率 0.6%)

陽性結果を伝えられた件数 → 128 / 138 (93%)

受診したことを把握できた件数 → 108 / 128 (84%)

発生動向調査の報告を行った件数 → 119 / 138 (86%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 21,584 / 22,045 (98%))

図2-A

### 保健所HIV検査

— 即日検査と通常検査 —

(2016年)

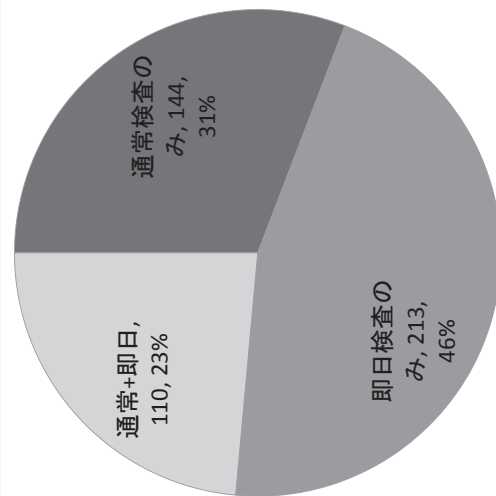


図2-B

### 特設検査相談施設 HIV検査

— 即日検査と通常検査 —

(2016年)

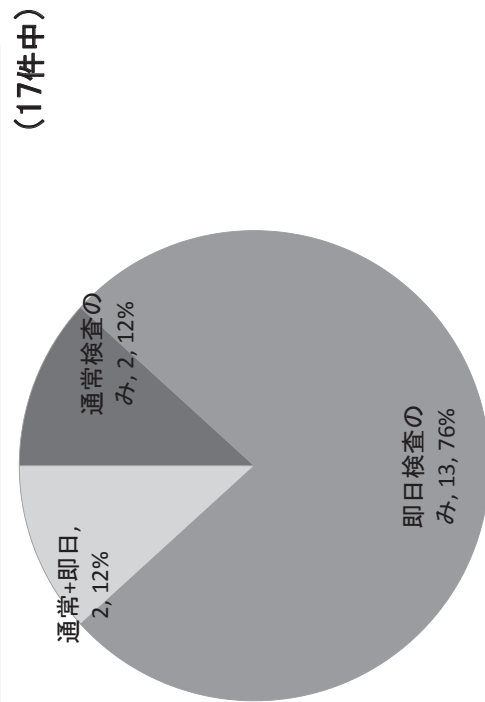


図3-A

保健所HIV検査  
— 平日、夜間、土曜・日曜 —

(2016年)

(467件中)

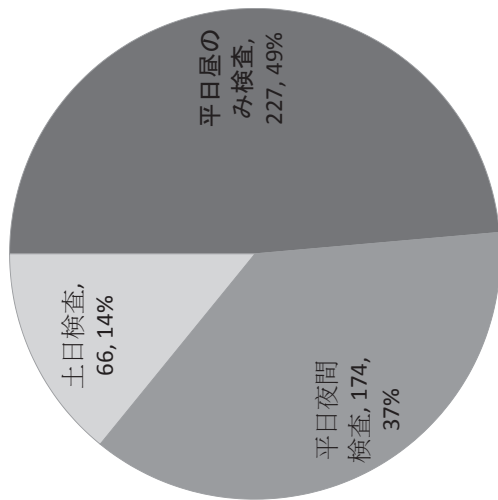


図3-B

特設検査相談施設 HIV検査  
— 平日、夜間、土曜・日曜 —

(2016年)

(17件中)

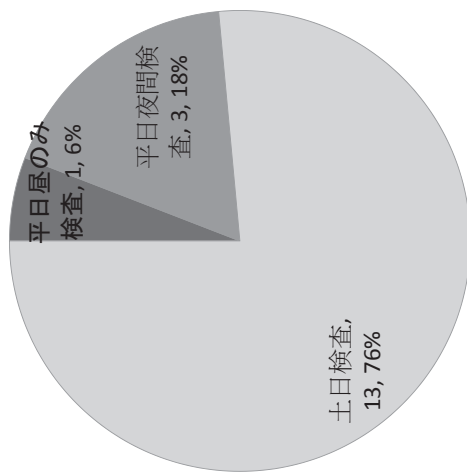


図4-A

各種HIV検査の実施状況 (保健所数の割合)

(2016年)

(467件中)

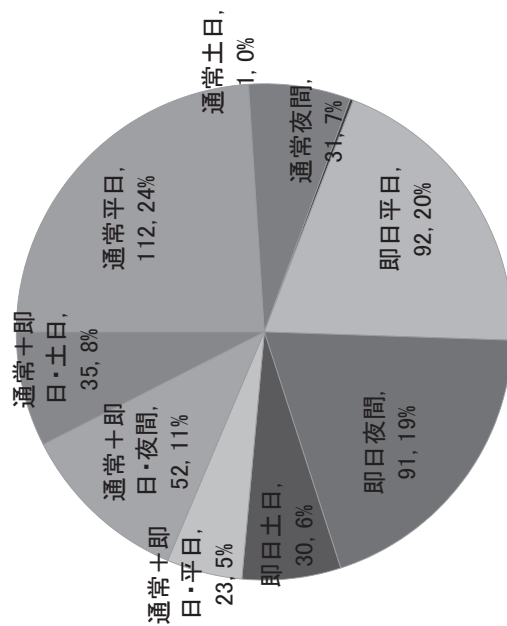


図4-B

各種HIV検査の実施状況 (施設数の割合)

(2016年)

(17件中)

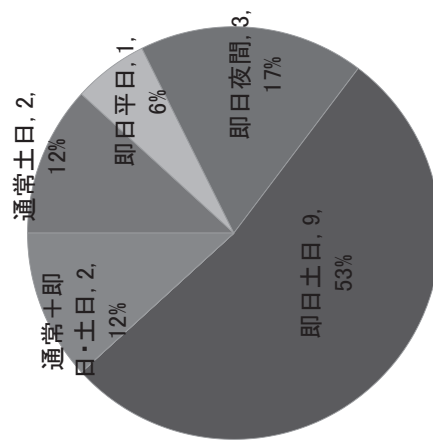




図5

(2016年)

### 各種HIV検査の受検者数(%)

(n=75,584)

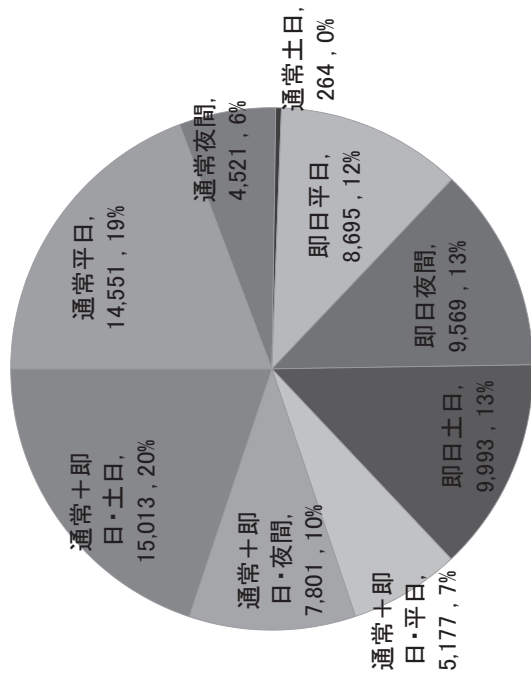


図6

(2016年)

### 各種HIV検査の陽性者数(%)

(n=221)

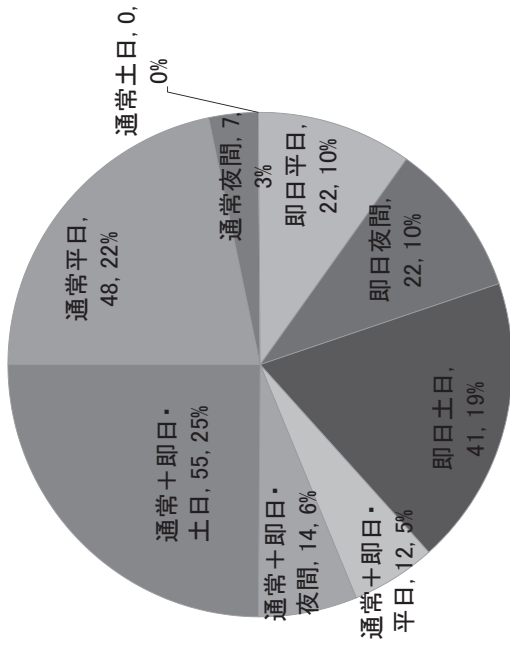
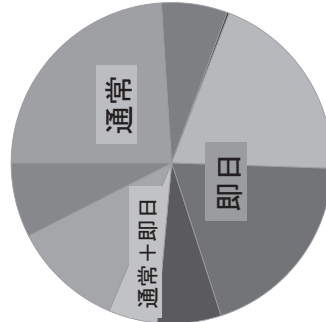


図7

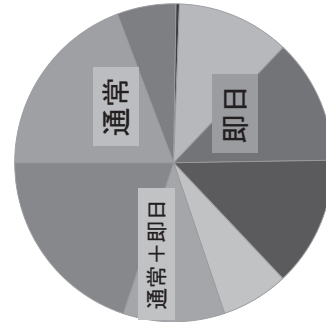
(2016年)

### 各種HIV検査の実施状況

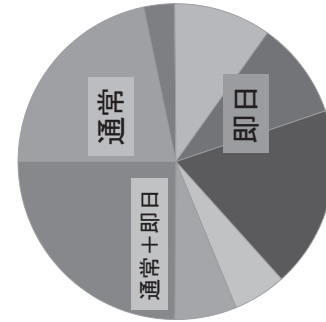
【保健所数の割合】



【受検者数%】



【陽性者数%】



■ 通常平日  
■ 即日平日  
■ 通常+即日・平日

■ 通常夜間  
■ 即日夜間  
■ 通常+即日・夜間

■ 通常土日  
■ 即日土日  
■ 通常+即日・土日

図8-A

(2016年)

### 年間検査件数別の保健所数 (467件中)

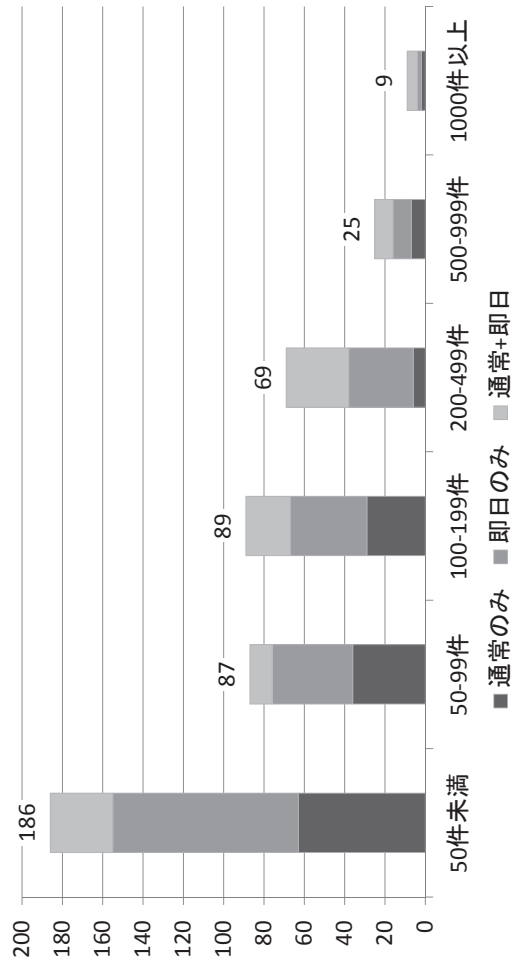


図8-B

(2016年)

年間検査件数別の施設数  
(17件中)

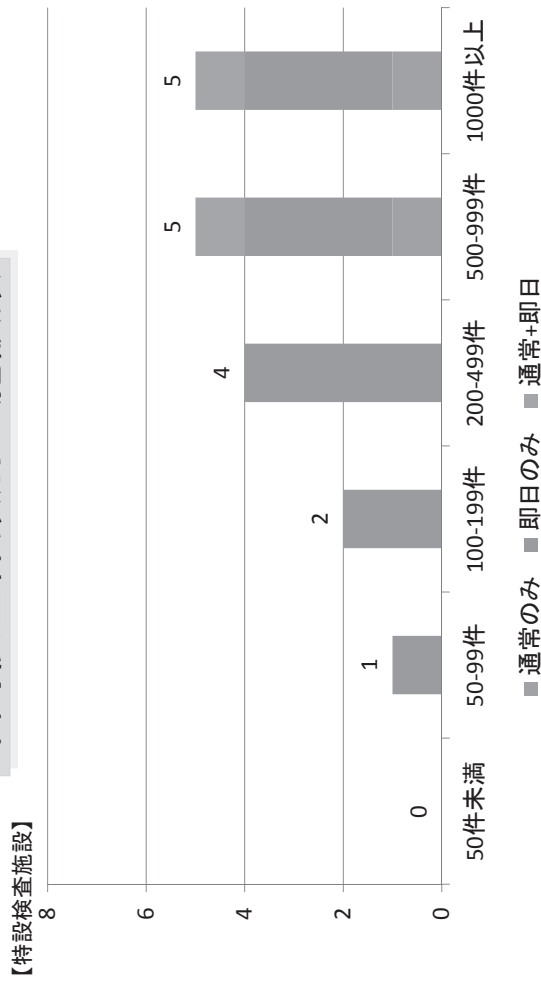
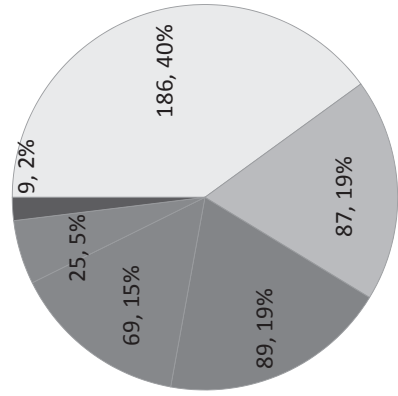


図9

(2016年)

年間検査件数別の  
保健所数と検査数の割合

【保健所数】



【検査人数】

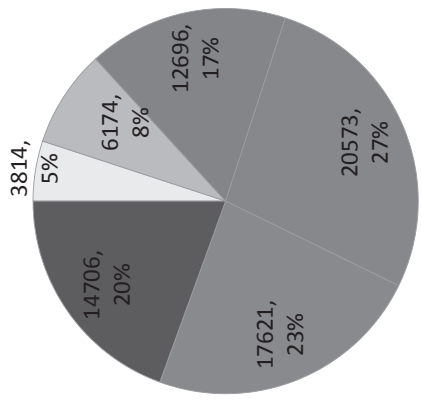


図10

(2016年)

年間検査件数別の陽性率

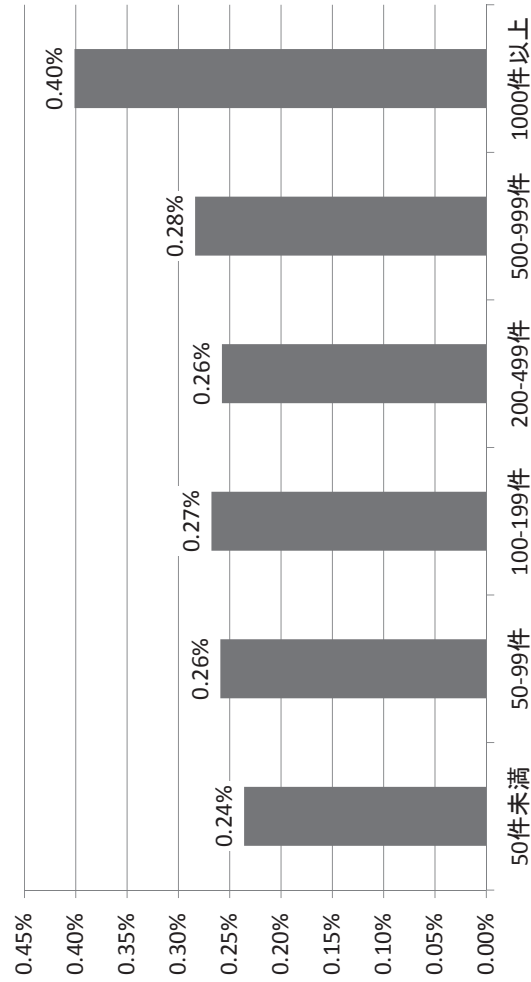


図11

(2016年)

年間検査件数別の陽性経験率

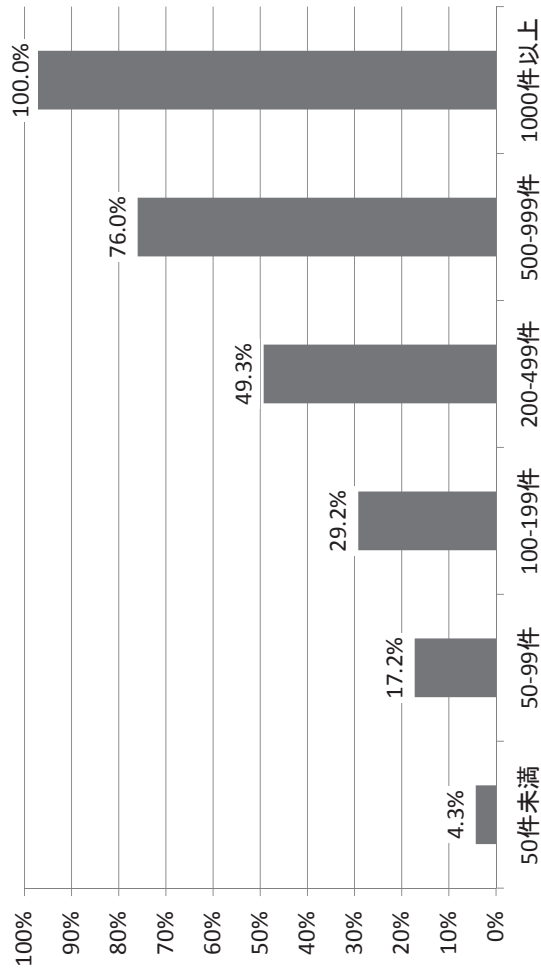


図12

(2016年)

### HIV検査が予約制か否か

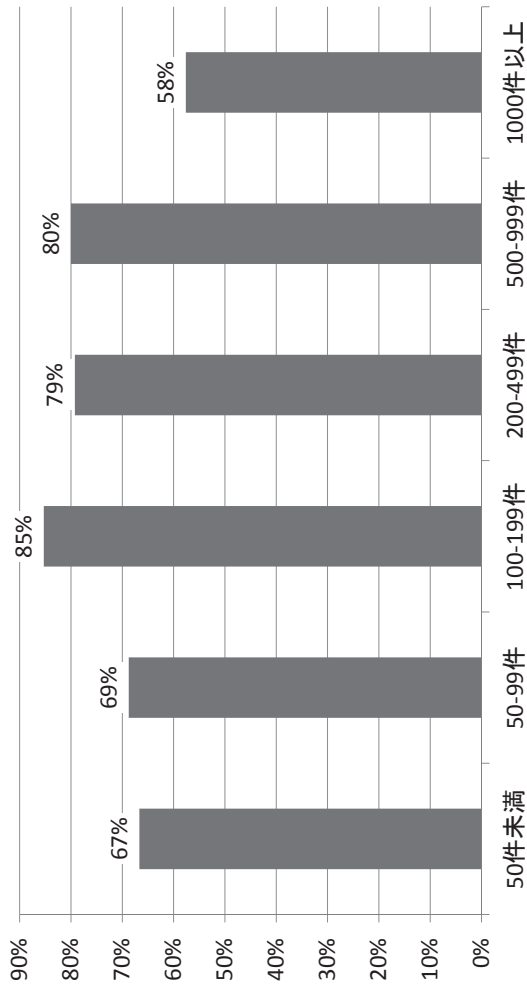


図13-A

(2016年)

### HIV検査が予約制か否か

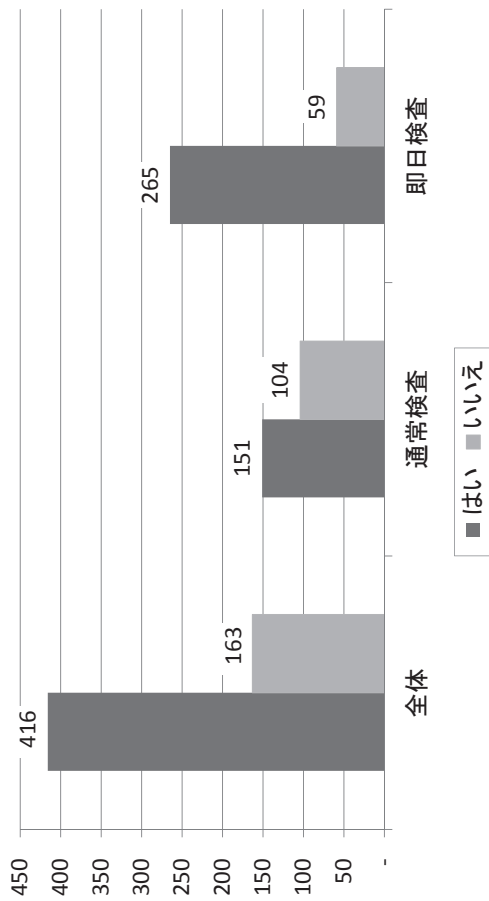


図13-B

(2016年)

### HIV検査が予約制か否か

【特設検査施設】

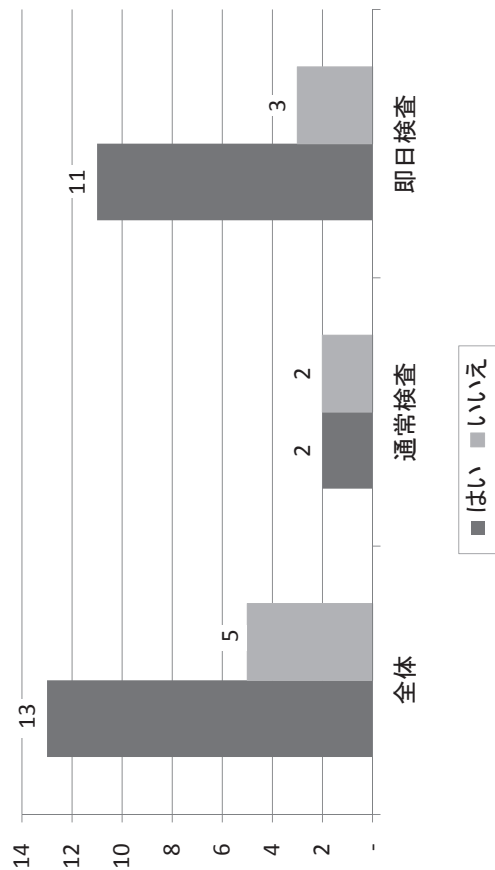


図14-A

(2015年)

### HIV検査が予約制か否か

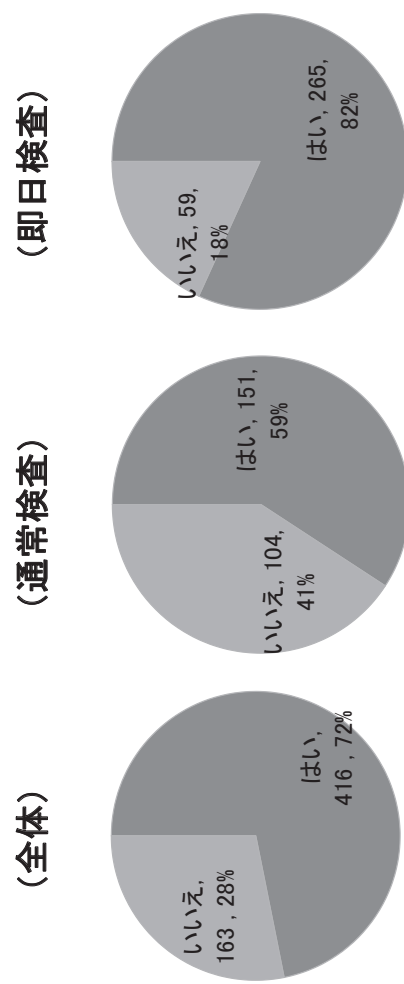


図14-B

(2016年)

HIV検査が予約制か否か

【特設検査施設】

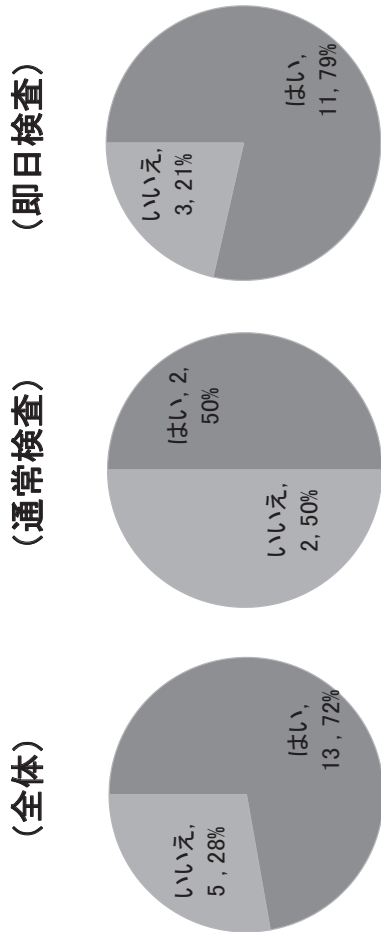


図15

(2016年)

予約制の場合上限があるか

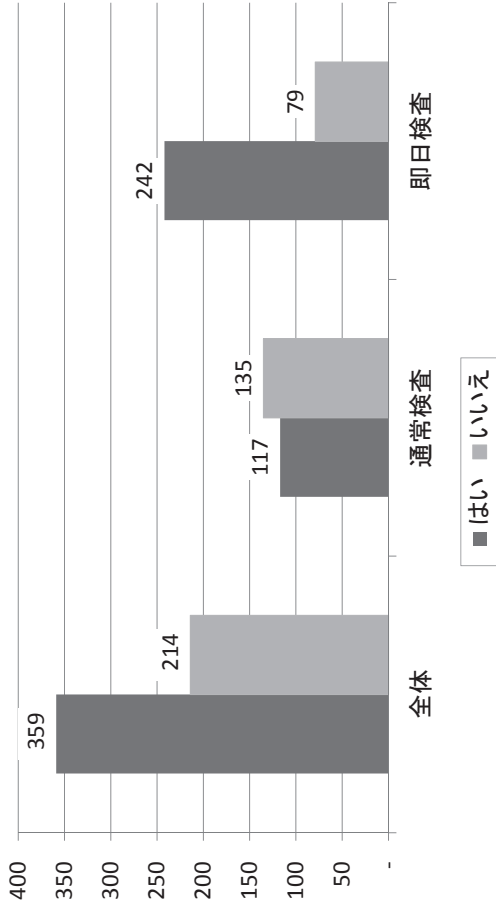


図16-A

(2015年)

予約制の場合上限があるか

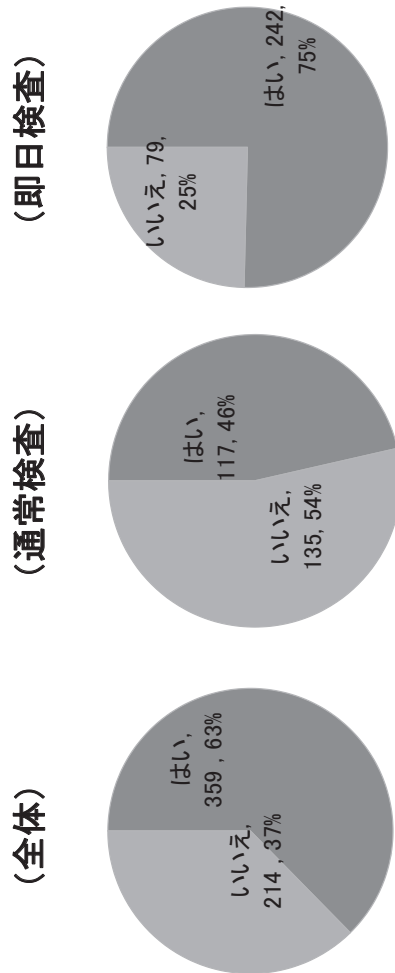


図16-B

(2016年)

予約制の場合上限があるか

【特設検査施設】

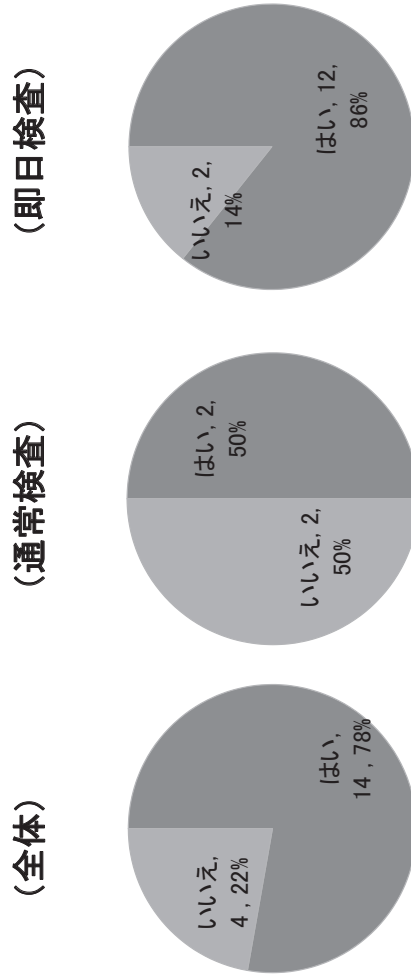


図17

保健所HIV検査  
【 ~検査人数上限数~ 】  
(通常検査)

(2016年)

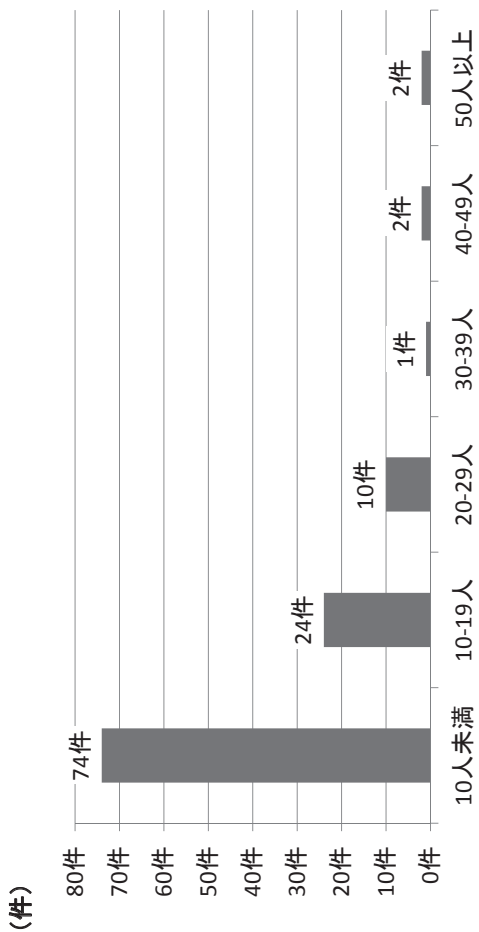


図18

保健所HIV検査  
【 ~検査人数上限数~ 】  
(即日検査)

(2016年)

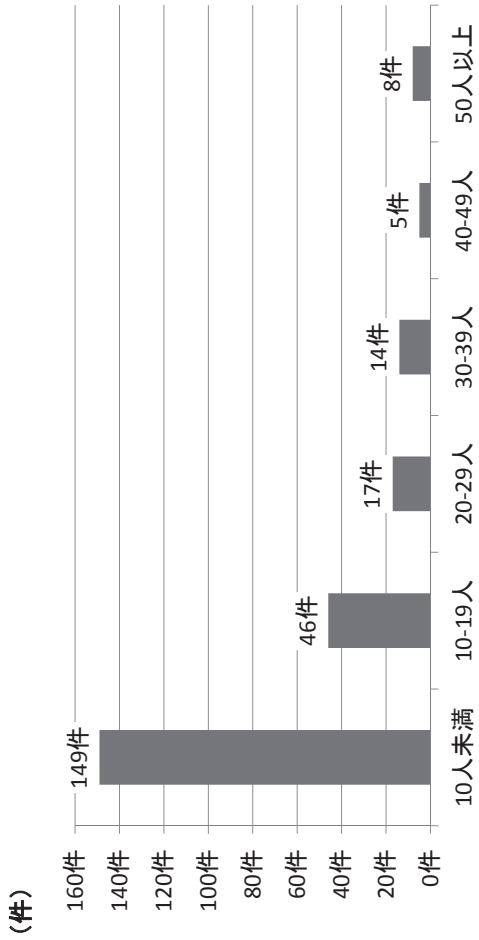


図19

結果返しは？  
(通常検査)

(2016年)

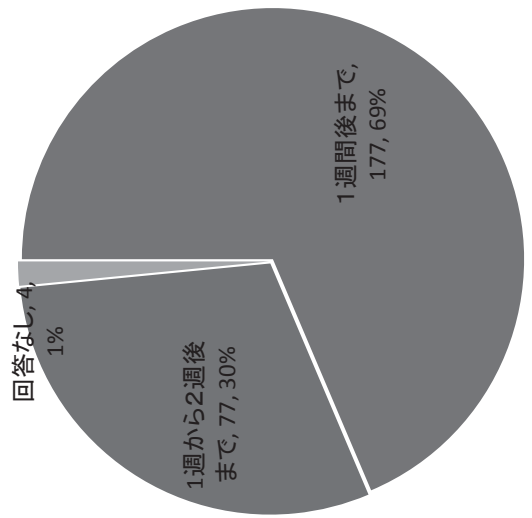


図20-A

受検者について把握している内容  
(467件中)

(2016年)

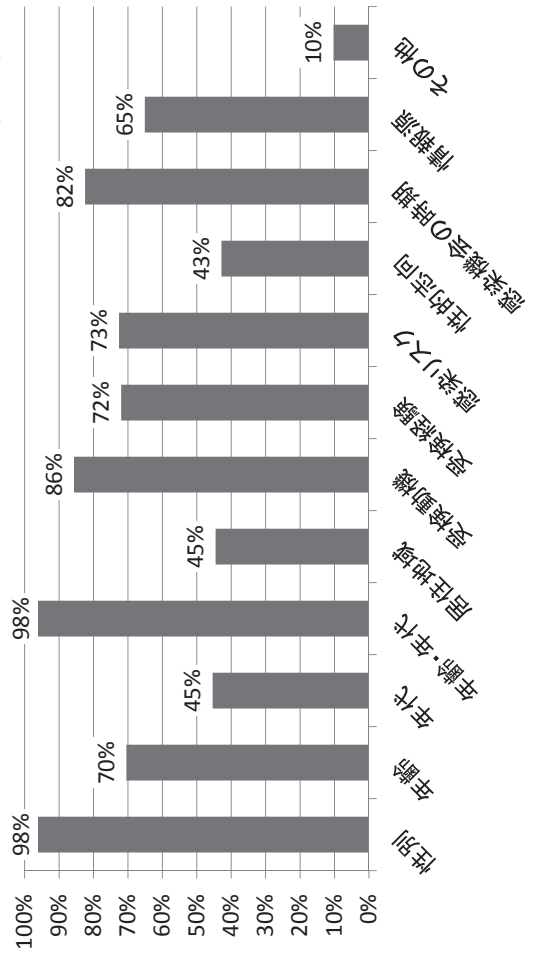


図20-B

(2016年)

### 受検者について把握している内容

【特設検査施設】 (17件中)

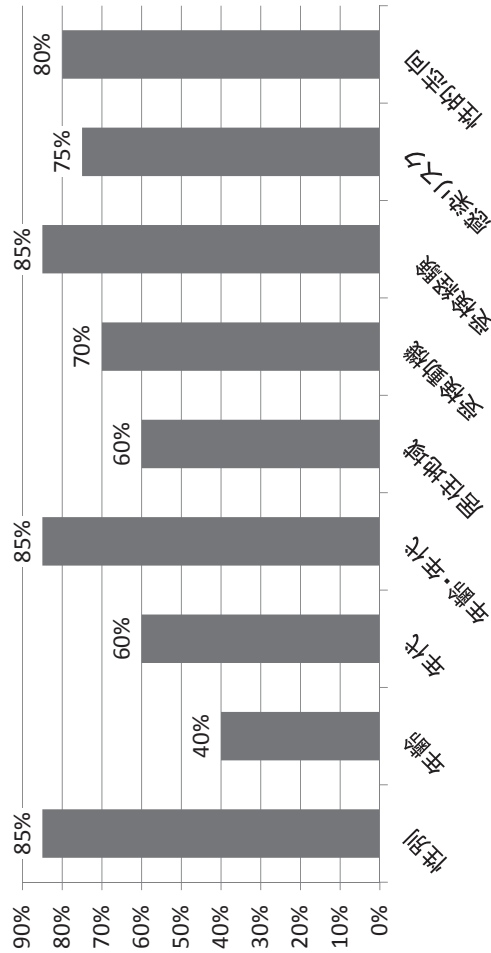


図21-A

(2016年)

### HIV以外の性感染症検査を行っているか

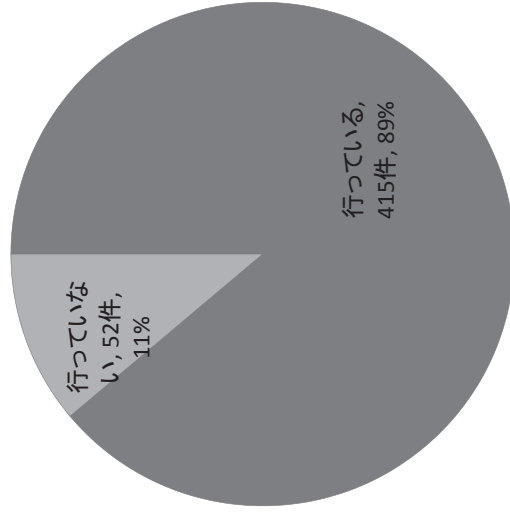


図21-B

(2016年)

### HIV以外の性感染症検査を行っているか

【特設検査施設】

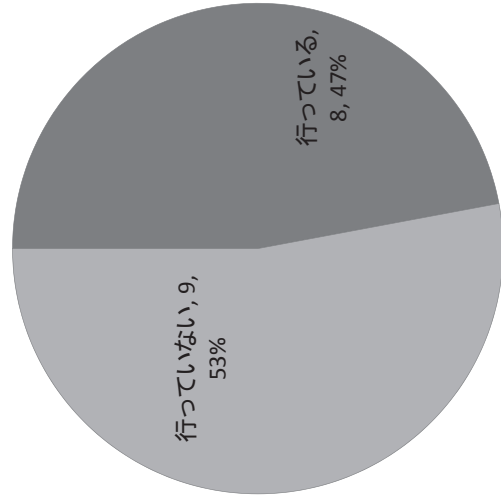


図22-A

(2016年)

### HIV以外の性感染症検査を行っているか

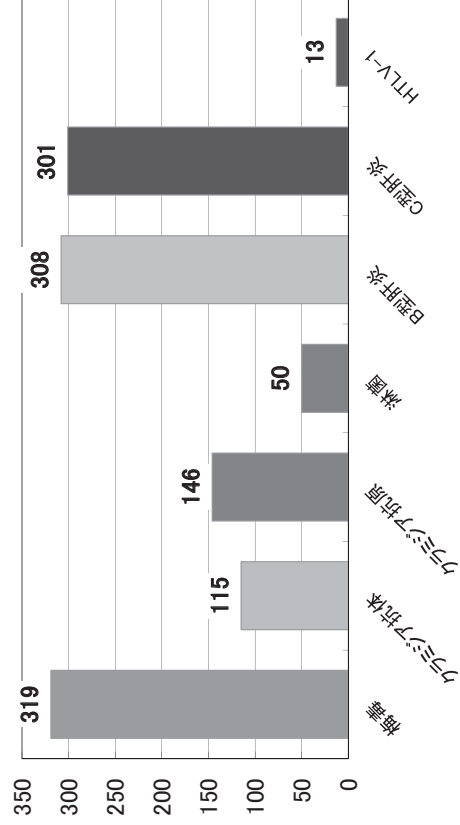


図22-B (2016年)

HIV以外の性感染症検査を行っているか

【特設検査施設】

(8件中)

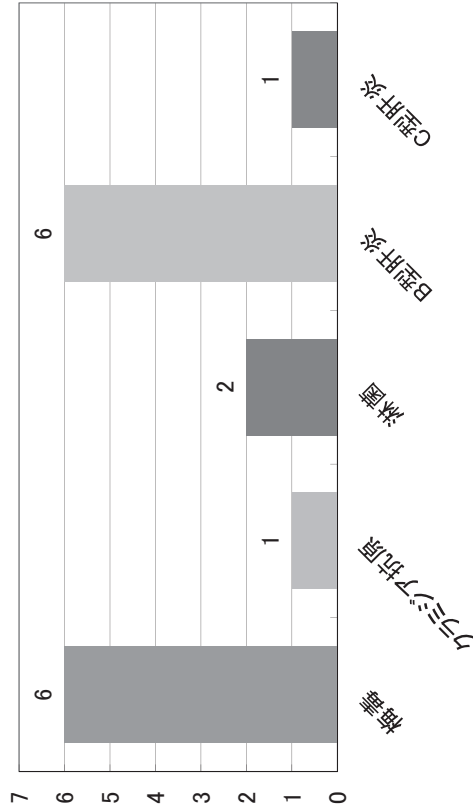


図23-A

確認検査で陽性の場合届出を行うか

(全保健所)

(467件中)

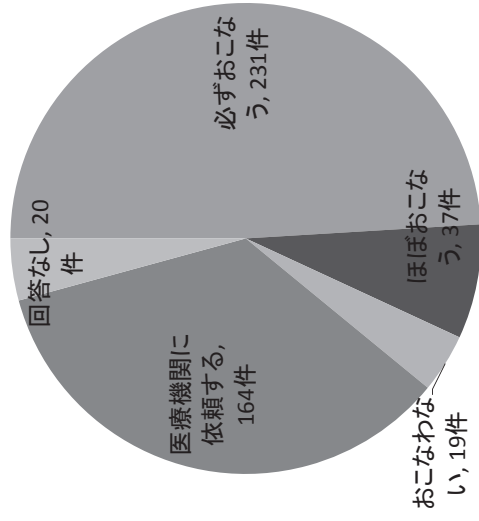


図23-B (2016年)

確認検査で陽性の場合届出を行うか

【特設検査施設】

(17件中)

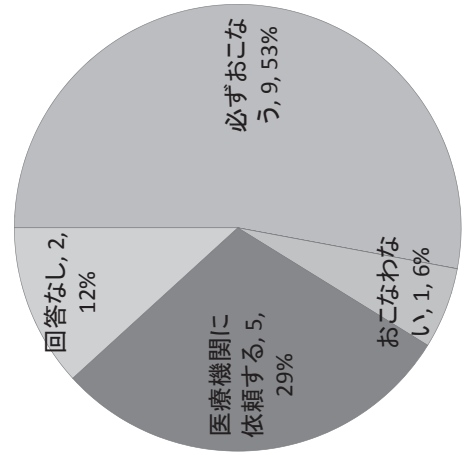


図24

確認検査で陽性の場合届出を行うか

(陽性経験者)

(n=111)

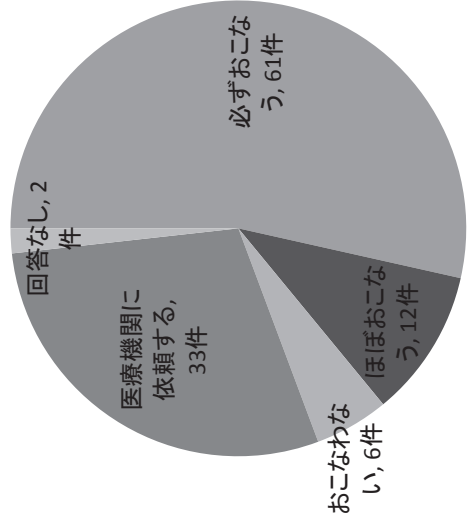
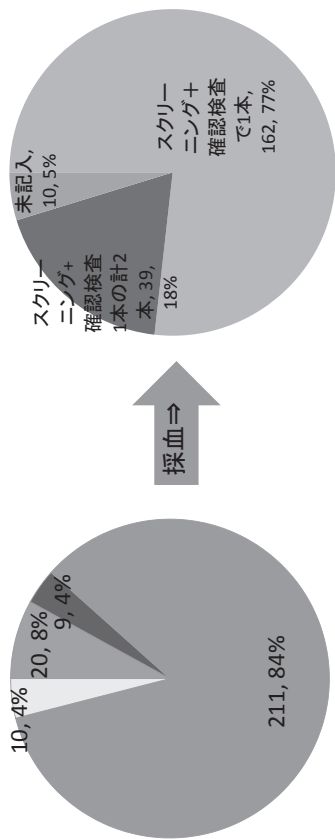


図25

(2016年)

### 検査陽性時の結果通知と 確認検査検体は？ (通常検査)



- a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する
- b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する
- c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。

図26-A

(2016年)

### 確認検査の方法は？ (通常、即日共通)

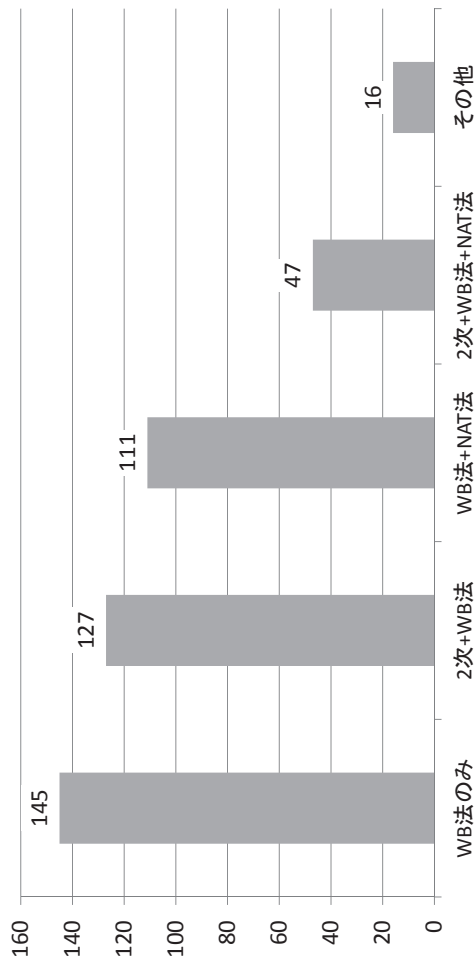


図26-B

(2016年)

### 確認検査の方法は？ (通常、即日共通)

【特設検査施設】

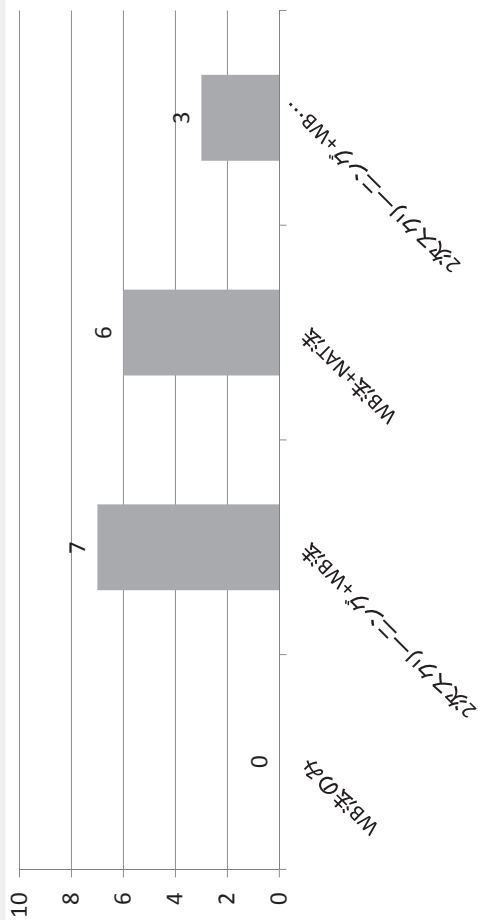


図27

(2016年)

### 保健所HIV検査 【確認検査の実施施設は？】 (通常検査)





図28

(2016年)

保健所HIV検査  
【スクリーニング検査の実施施設は？】（通常検査）

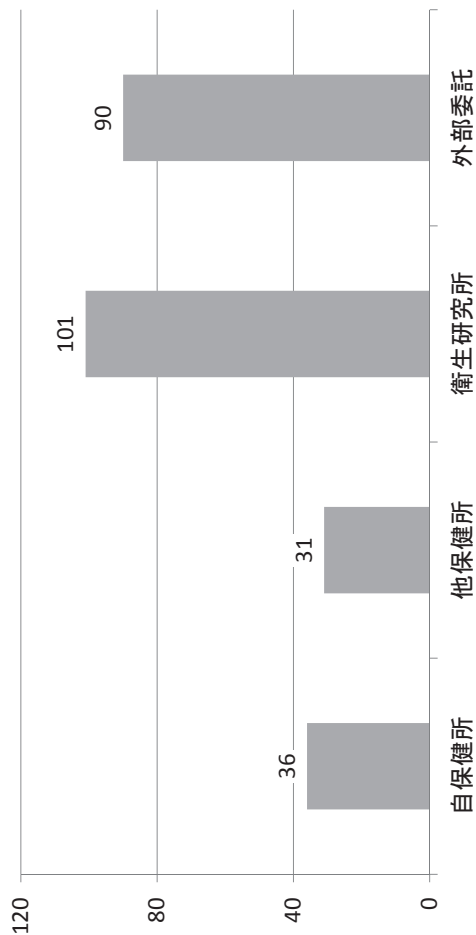


図29

(2016年)

保健所HIV検査  
【確認検査の実施施設は？】（即日検査）

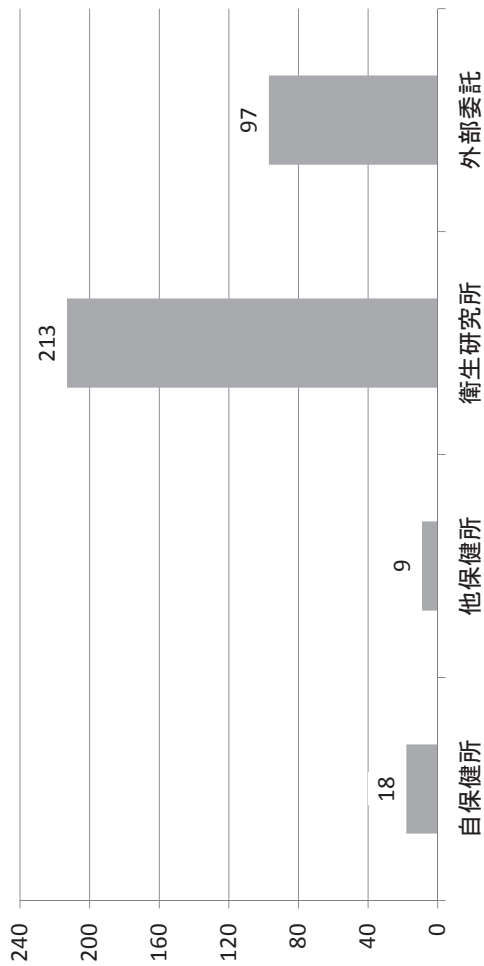


図30-A

(2016年)

プレカウンセリングを行っているか  
（通常検査）

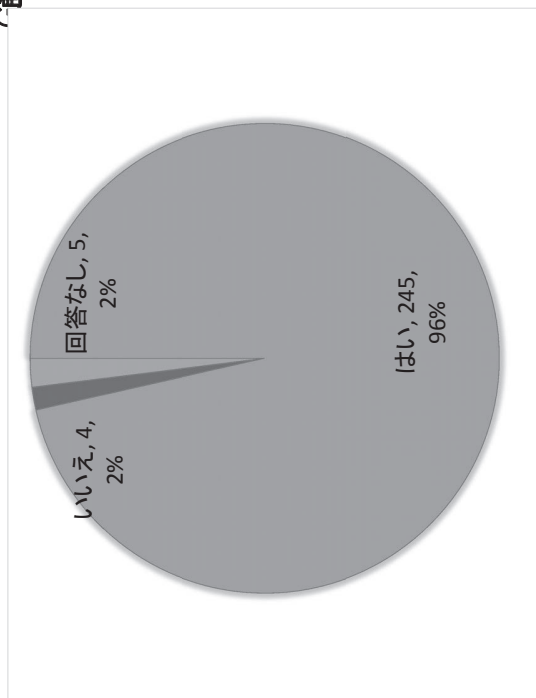


図30-B

(2016年)

プレカウンセリングを行っているか  
（特設検査施設）

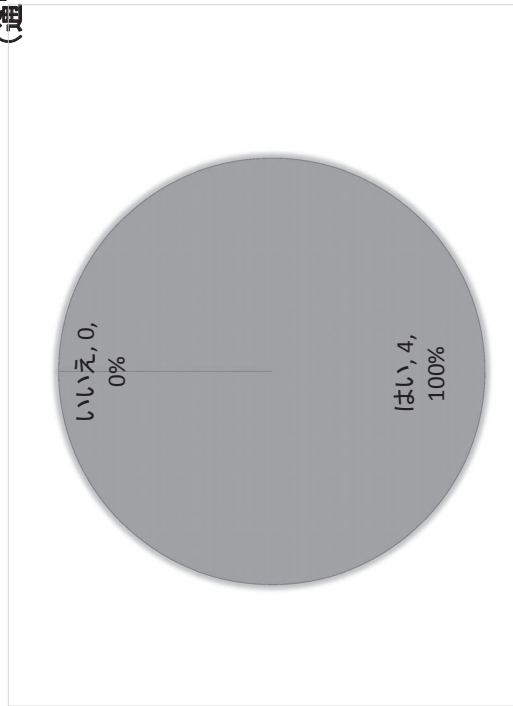


図31-A (2016年)  
プレカウンセリングを行っているか (即日検査)

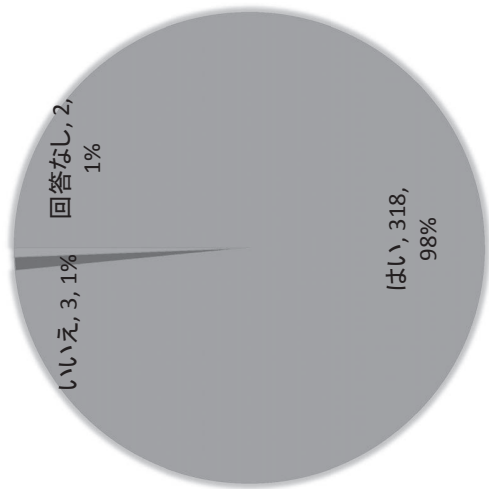


図31-B (2016年)  
プレカウンセリングを行っているか (即日検査)

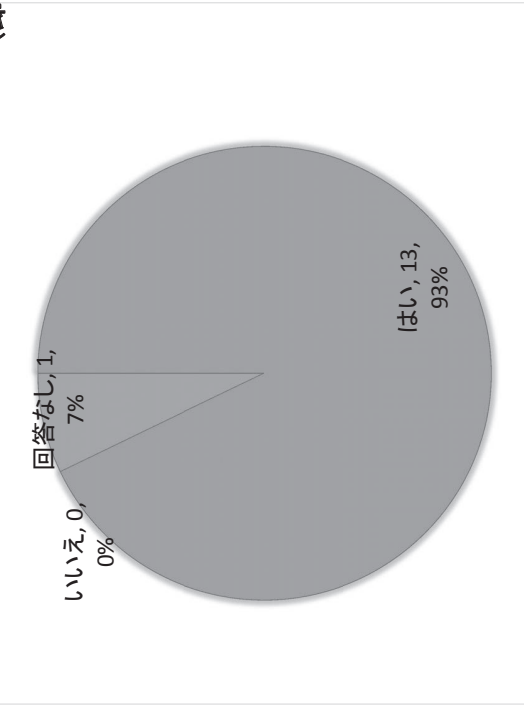


図32-A (2016年)  
結果説明時の担当者 (n=467)

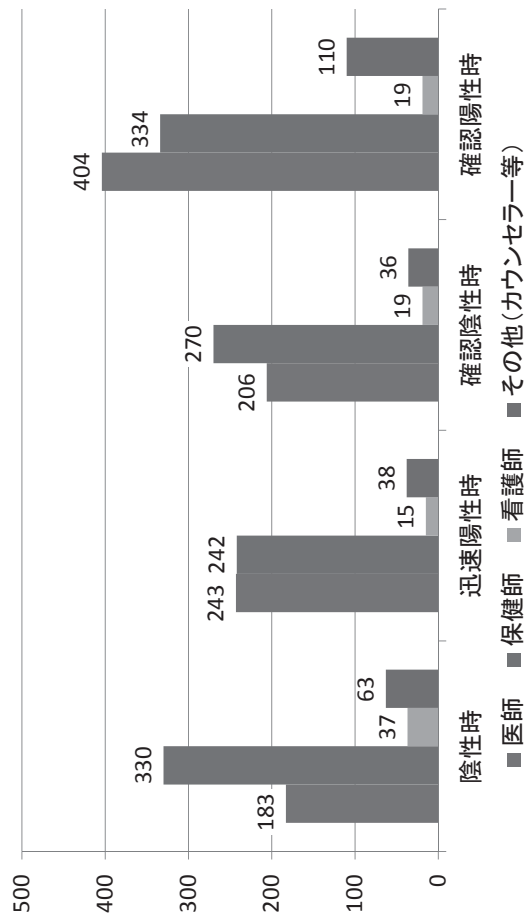


図32-B (2016年)  
結果説明時の担当者 (n=17)

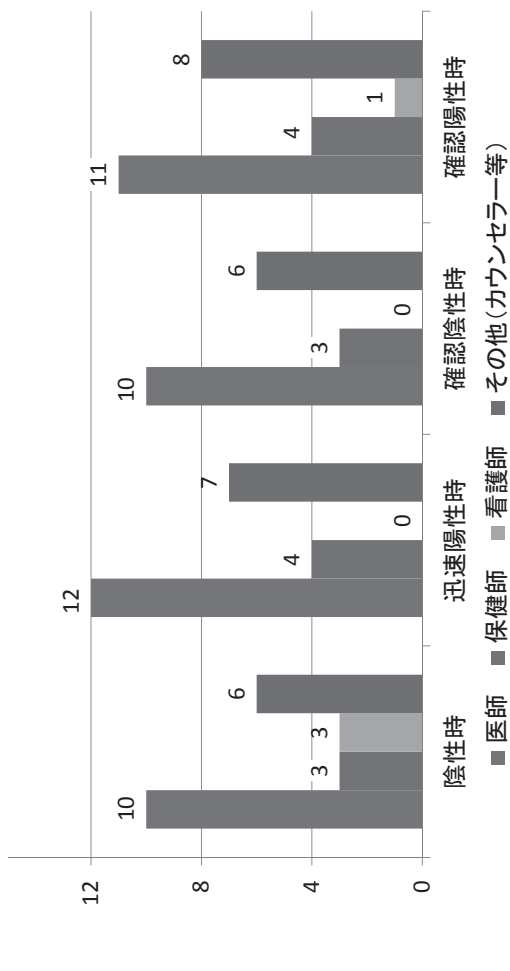


図33-A

(2016年)

### 感染予防のための行動変容を働きかける 相談をおこなっているか

(467件中)

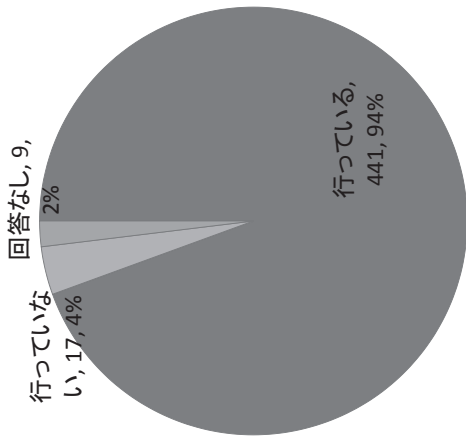


図33-B

(2016年)

### 感染予防のための行動変容を働きかける 相談をおこなっているか

(17件中)

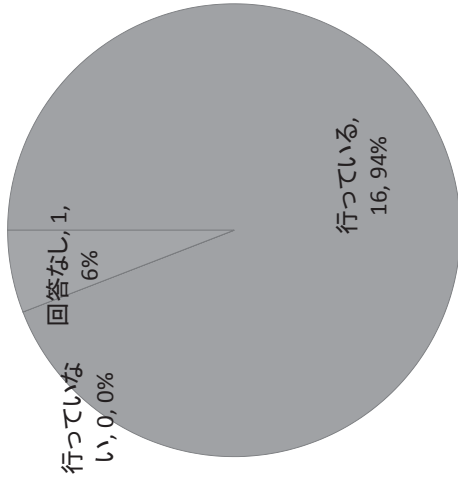


図34-A

(2016年)

### 感染予防のための行動変容を働きかける 相談の対象は

(n=441)

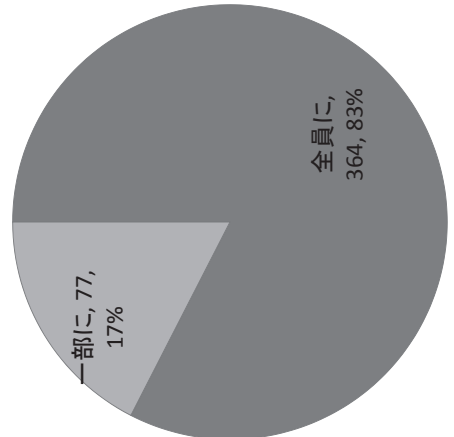


図34-B

(2016年)

### 感染予防のための行動変容を働きかける 相談の対象は

(n=16)

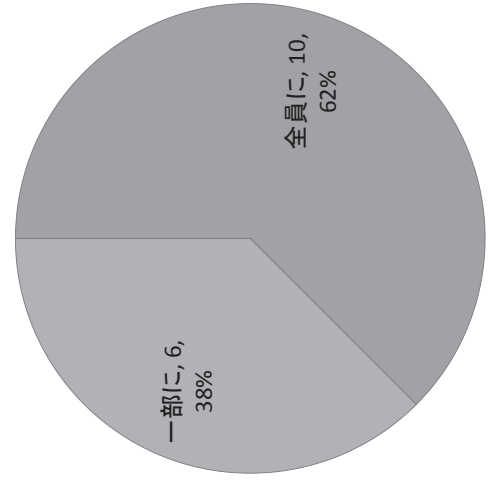


図35-A

(2016年)

感染予防のための行動変容を働きかける  
相談の場面は

(441件中)

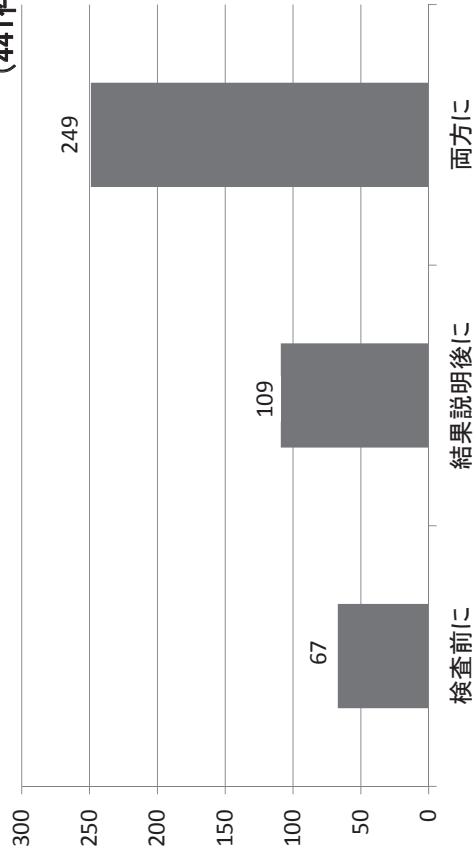


図35-B

(2016年)

感染予防のための行動変容を働きかける  
相談の場面は

(16件中)

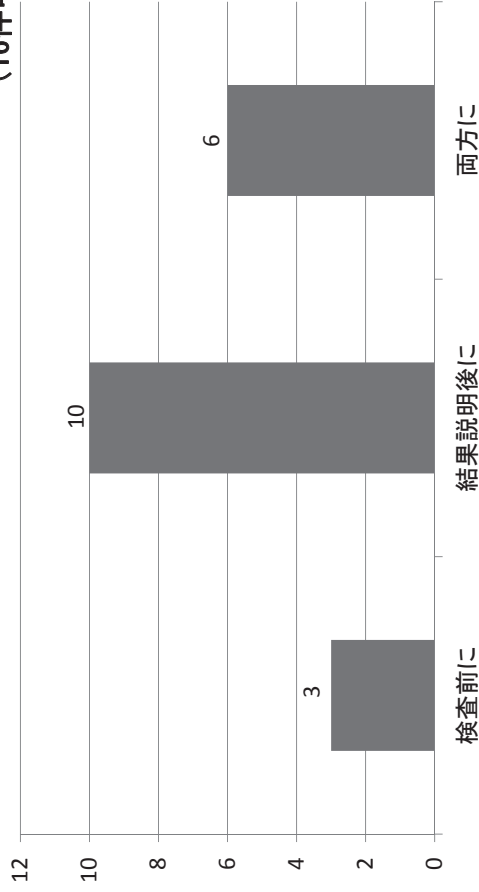


図36-A

(2016年)

感染予防のための行動変容を働きかける  
相談の具体的手法は

(467件中)

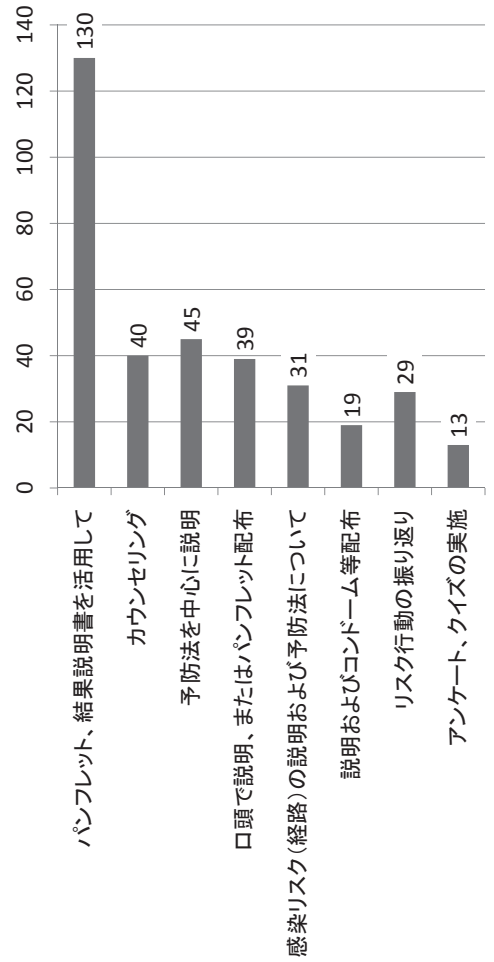


図36-B

(2016年)

感染予防のための行動変容を働きかける  
相談の具体的手法は

(17件中)

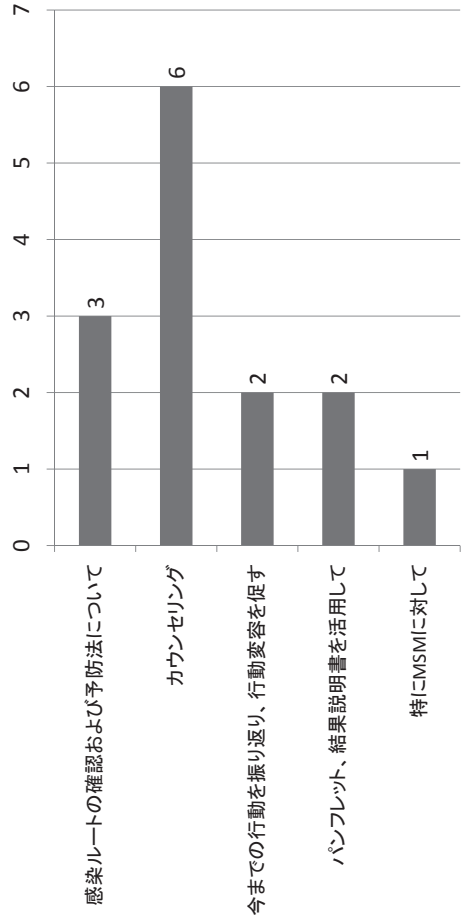


図37-A

(2016年)

### 対応困難者の経験は あるか

(467件中)

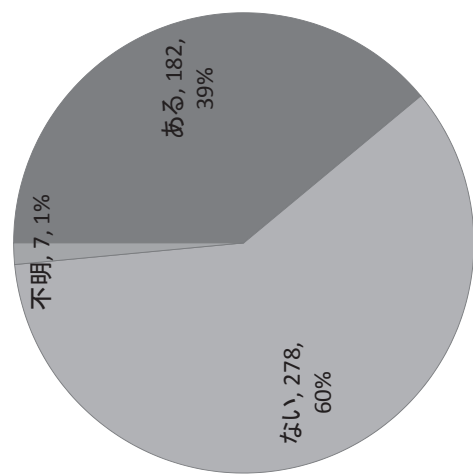
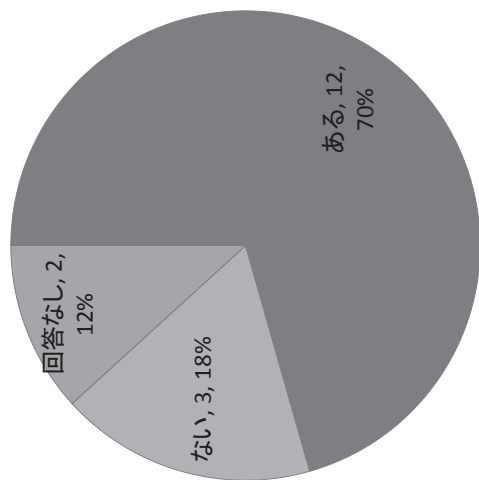


図37-B

(2016年)

### 対応困難者の経験は あるか

(17件中)



【特設検査施設】

図38-A

(2016年)

### 対応困難者の紹介先は あるか

(467件中)

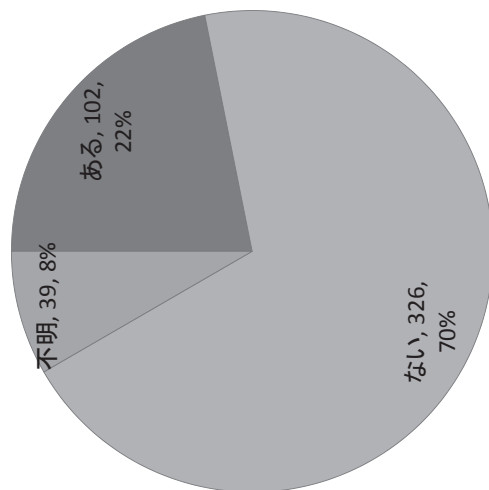
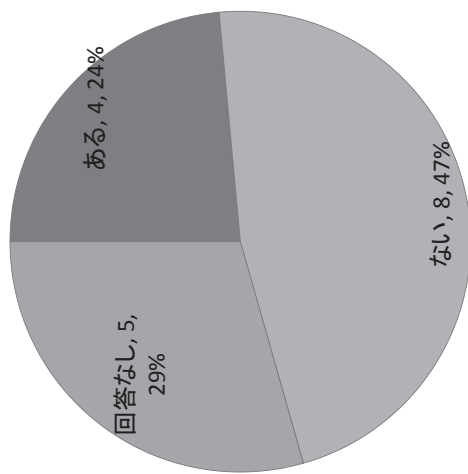


図38-B

(2016年)

### 対応困難者の紹介先は あるか

(17件中)



【特設検査施設】

図39-A

(2016年)

### 対応困難者の紹介先はどこか

(n=102)  
複数回答

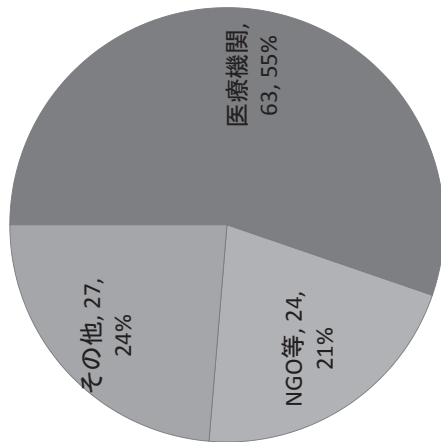


図39-B

(2016年)

### 対応困難者の紹介先はどこか

(n=3)  
複数回答

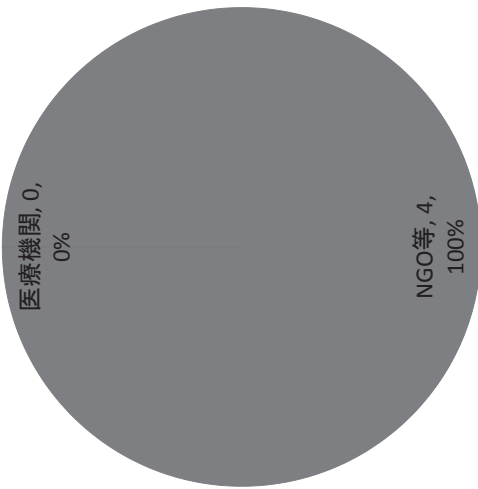


図40-A

(2016年)

### 陽性者への説明事項マニュアルはあるか

(467件中)

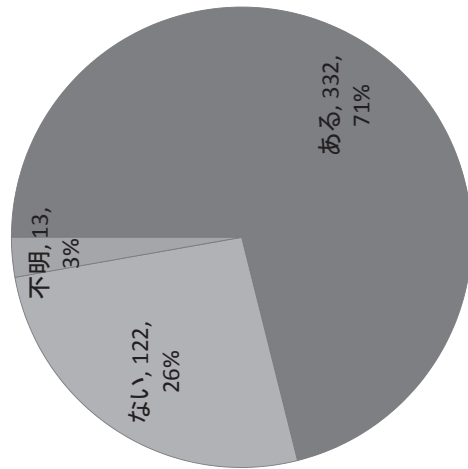


図40-B

(2016年)

### 陽性者への説明事項マニュアルはあるか

(17件中)

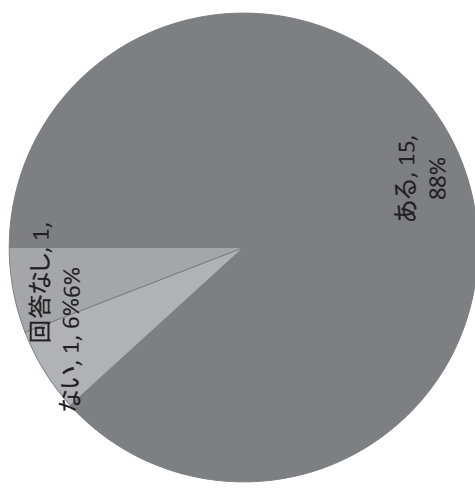


図41-A

(2015年)

陽性者への説明資料は  
あるか

(483件中)

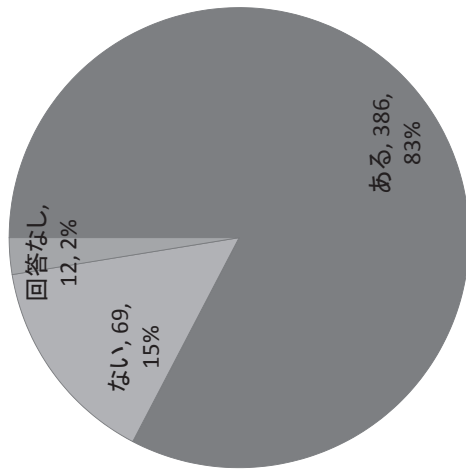
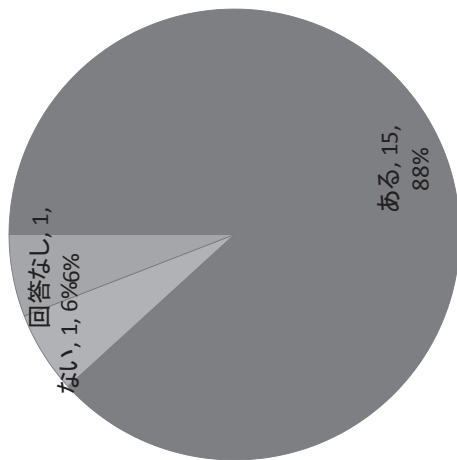


図41-B

(2016年)

陽性者への説明資料は  
あるか

(17件中)



【特設検査施設】

図42-A

(2015年)

陽性者への手渡し資料は  
あるか

(467件中)

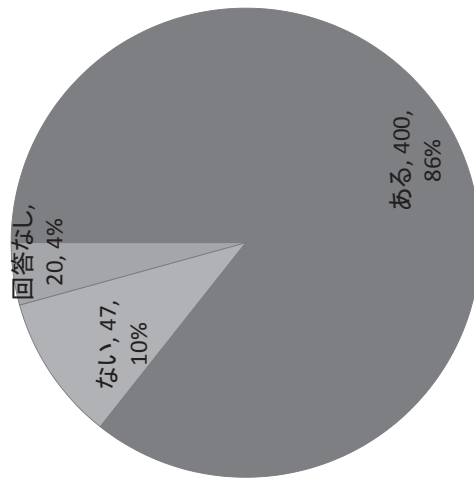
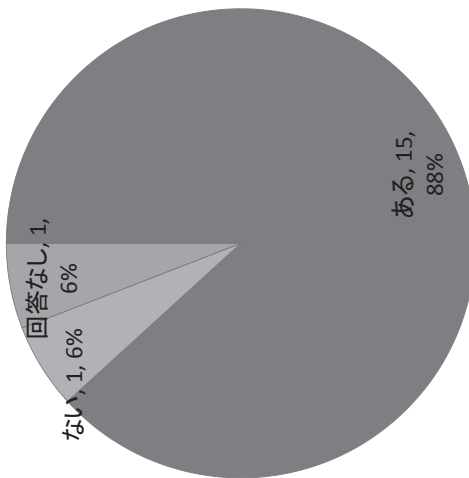


図42-B

(2016年)

陽性者への手渡し資料は  
あるか

(17件中)



【特設検査施設】

図43-A

(2016年)

### 未成年の検査希望者への 対応は

(467件中)

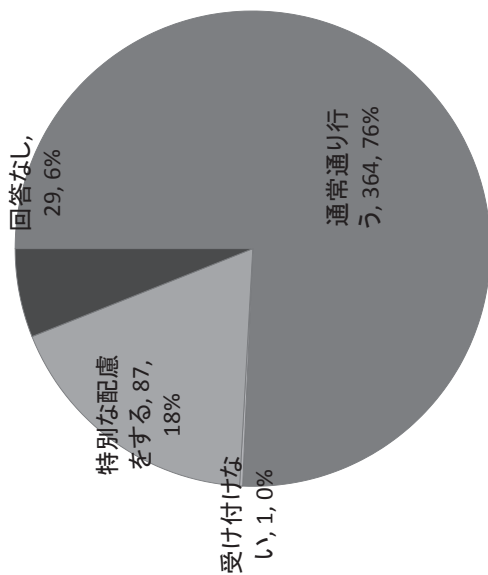
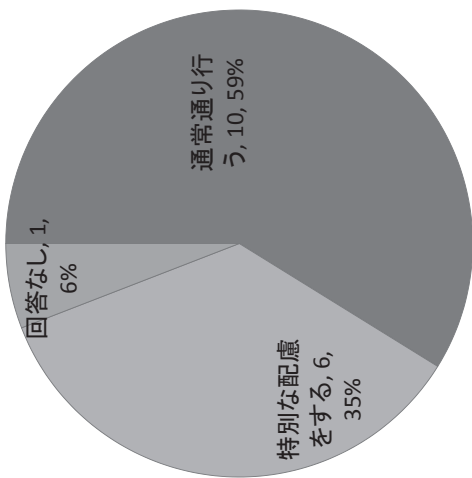


図43-B

(2016年)

### 未成年の検査希望者への 対応は

(17件中)



【特設検査施設】

図44

(2016年)

### 検査結果について 誤通知があったか

(467件中)

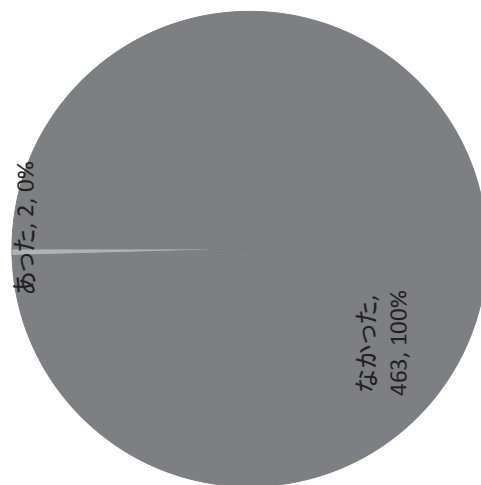
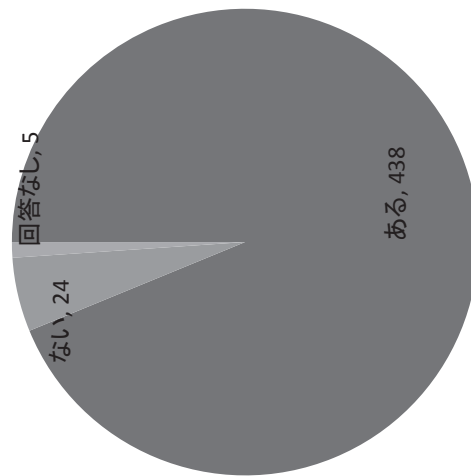


図45-A

(2016年)

### ホームページ「HIV検査・相談マップ」を ご覧になったことはありますか？

(467件中)



回答なし, 5



図45-B

(2016年)

ホームぺージ「HIV検査・相談マップ」を  
ご覧になったことはありますか？

【特設検査施設】

(17件中)

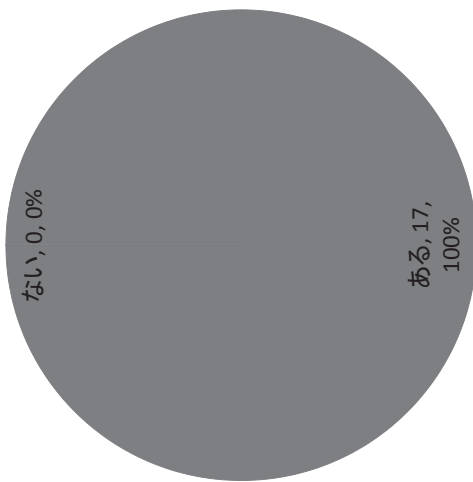


図46-A

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に  
役立っていると思いますか？

(467件中)

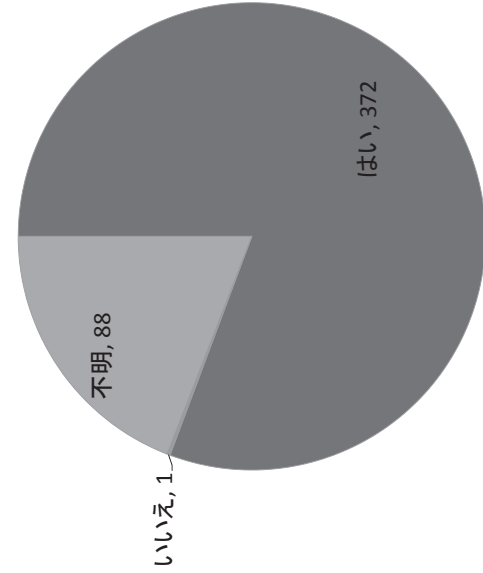


図46-B

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に  
役立っていると思いますか？

【特設検査施設】

(17件中)

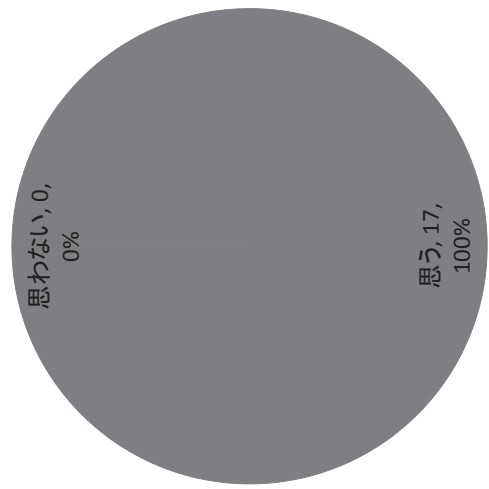


図47-A

(2016年)

確認検査用 検体は？

(即日検査)  
(323件中)

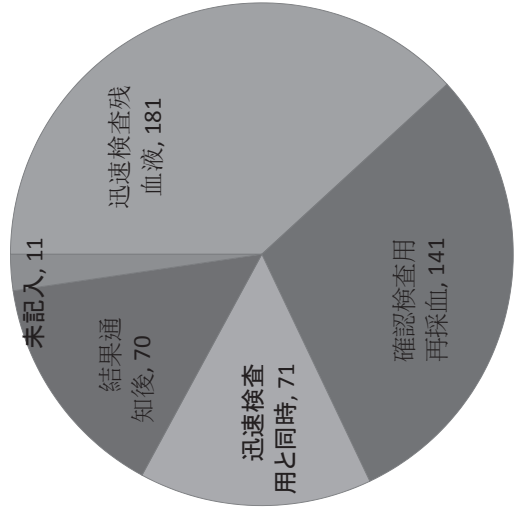


図47-B

(2016年)

### 確認検査用 検体は？

(即日検査)

(15件中)

【特設検査施設】

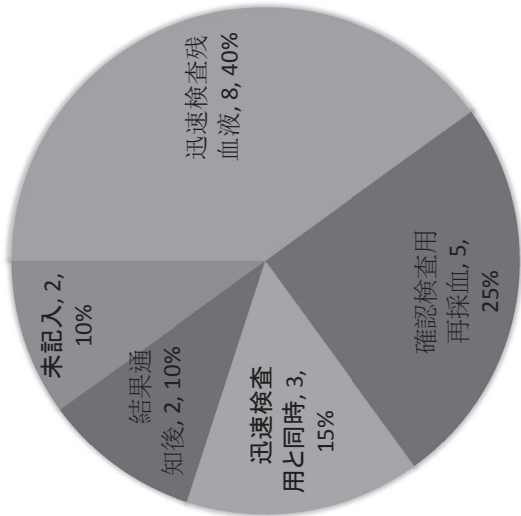


図48-A

(2016年)

### B.検査結果の説明について

(467件中)

複数回答あり

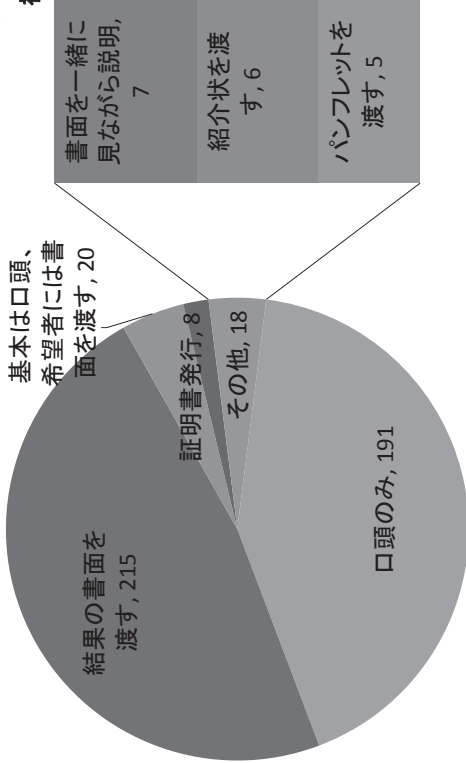


図48-B

(2016年)

### B.検査結果の説明について

(17件中)

複数回答あり

【特設検査施設】

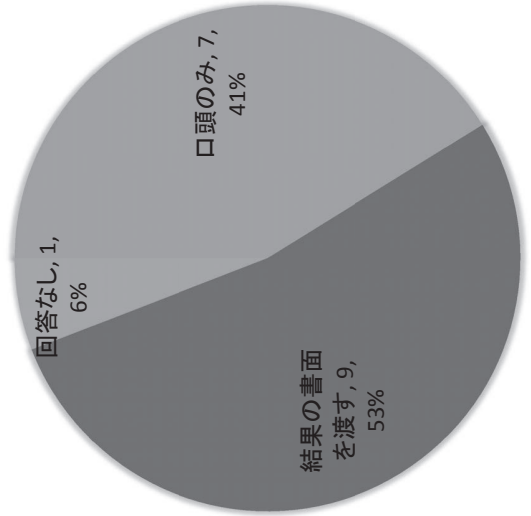


図49-A

(2016年)

### 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？

(467件中)

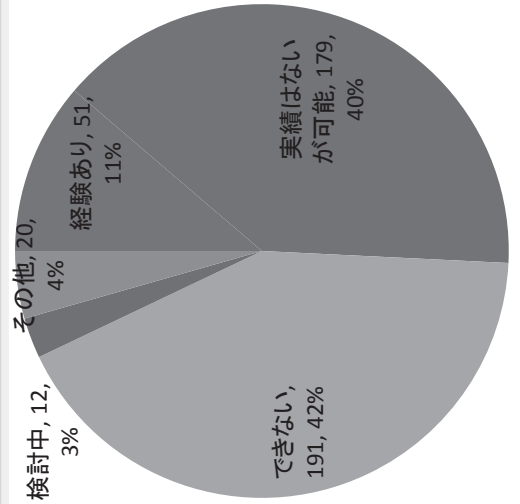


図49-B

(2016年)

### 陽性者への対応として専門のカウンセラーの 派遣は可能ですか？

【特設検査施設】

(17件中)

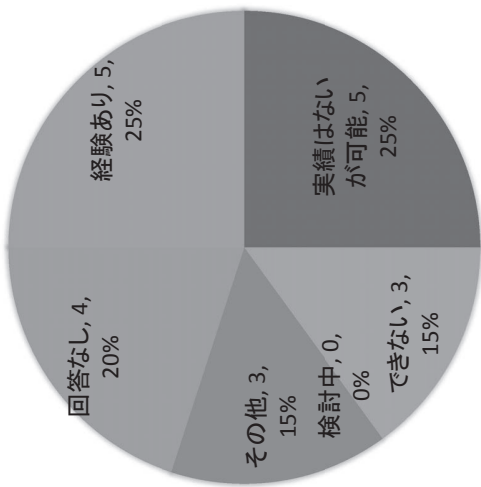


図50-A

(2016年)

### 血液暴露事故が受検動機の受検者 (医療従事者)はいましたか？

(467件中)

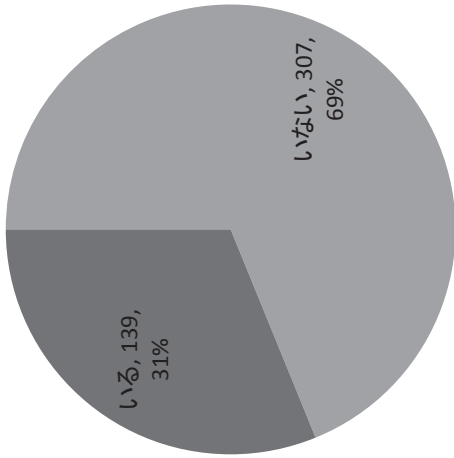


図50-B

(2016年)

### 血液暴露事故が受検動機の受検者 (医療従事者)はいましたか？

【特設検査施設】

(17件中)

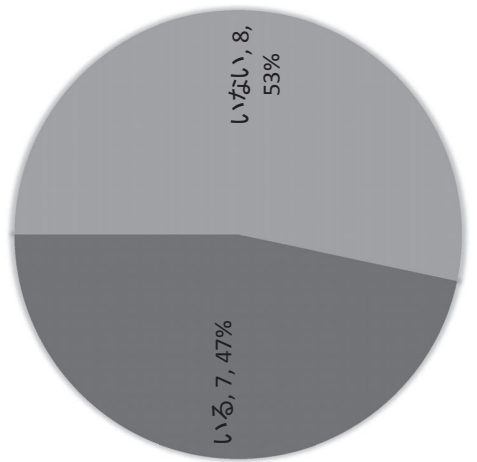


図51-A

(2016年)

### 日本語のわからない外国籍の人が受検できる 仕組みはありますか？

(467件中)

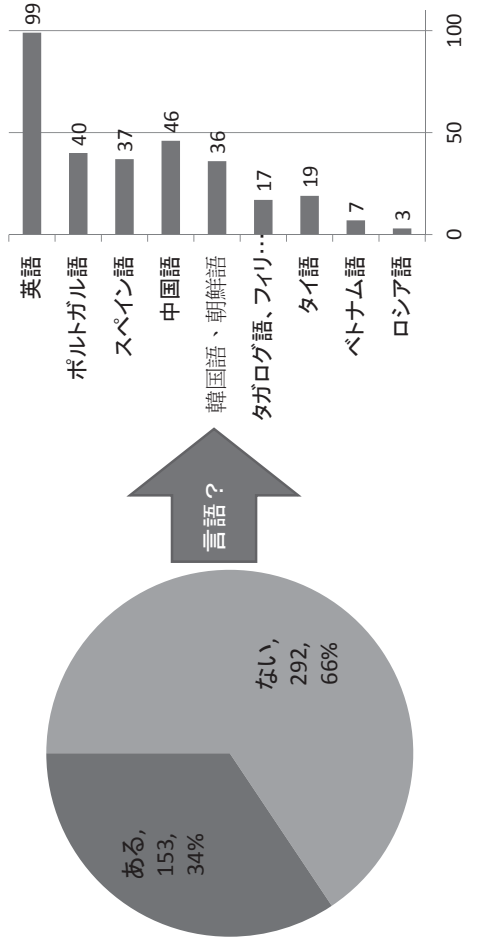


図51-B

(2016年)

日本語のわからない外国籍の人が受検できる  
【特設検査施設】 仕組みはありますか？ (467件中)

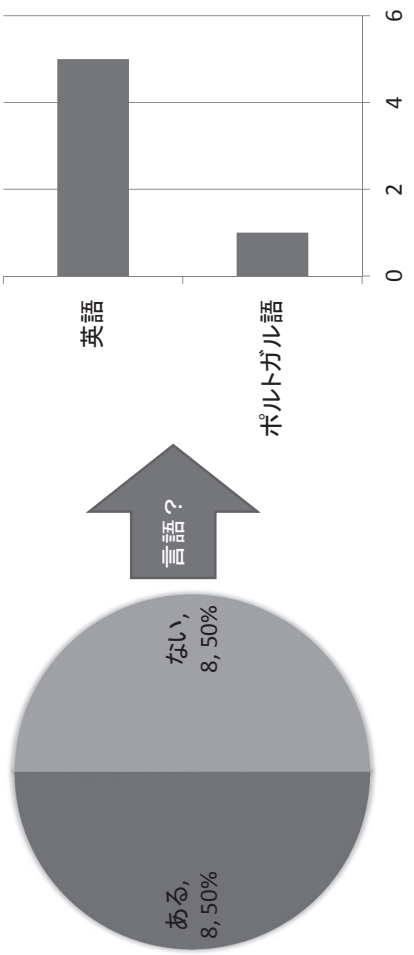


図1

保健所等における梅毒検査体制に関する  
全国調査の結果

(2017年2月11日)

保健所アンケート 回答数 (2017.2/10現在)	469 / 563箇所 (83%)
梅毒検査を行っている保健所	327 / 469所 (69.7%)
梅毒陽性結果のあった保健所	
【STS法】	127 / 256箇所 (50%)
【TP抗体検査】	162 / 284箇所 (57%)
陽性件数	
【STS法】	463 / 37,625 (陽性率 1.23%)
【TP抗体検査】	846 / 33,744 (陽性率 2.51%)

図2

貴保健所では梅毒検査を  
実施していますか？

(2016年)

(467件中)

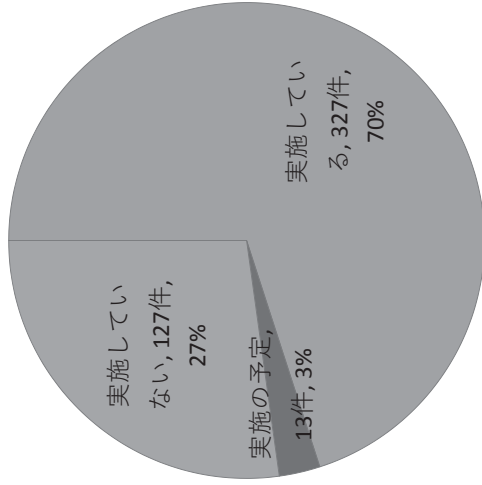


図3

どのような条件があれば  
実施が可能となりますか？

(2016年)

(n=127)

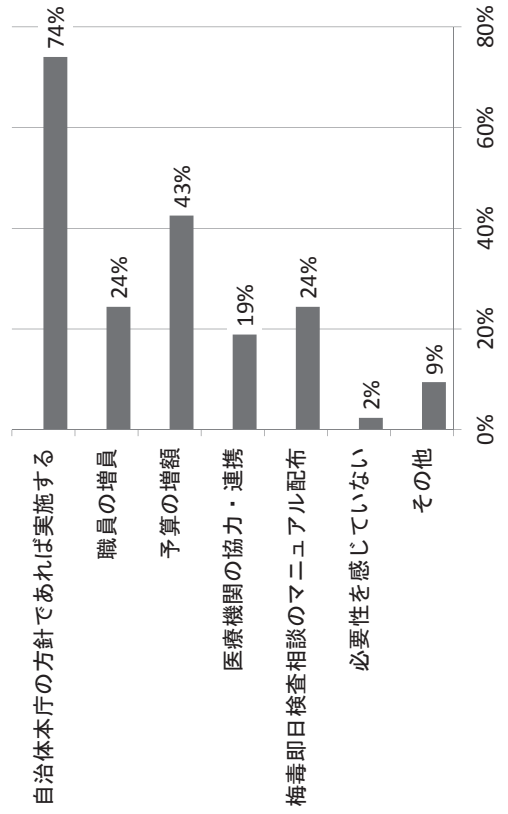


図4

梅毒検査の方法について  
(STS法)

(2016年)

(n=327)

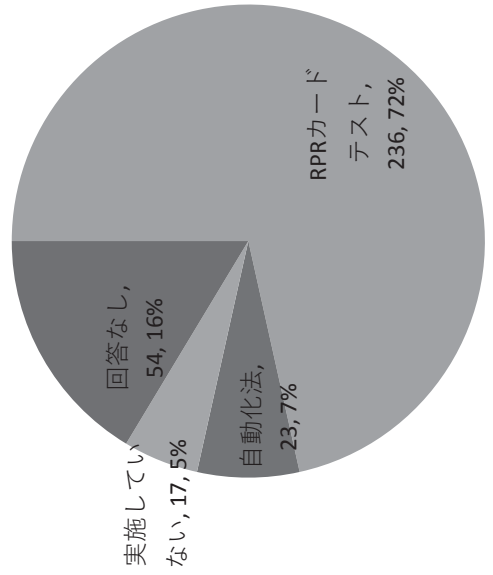


図5

(2016年)  
梅毒検査の方法について  
(TP抗体検査)  
(n=327)

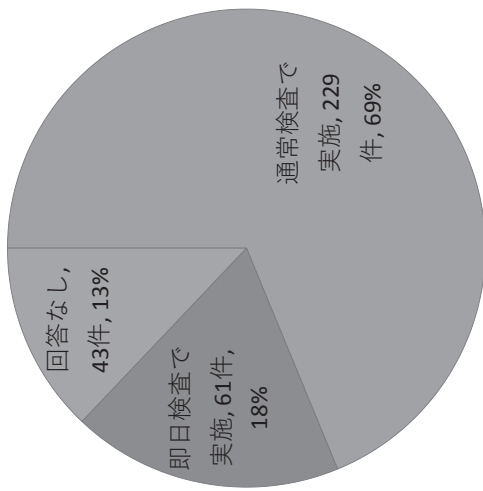


図6

(2016年)  
梅毒検査が陽性であった場合の対応は？  
(n=327)

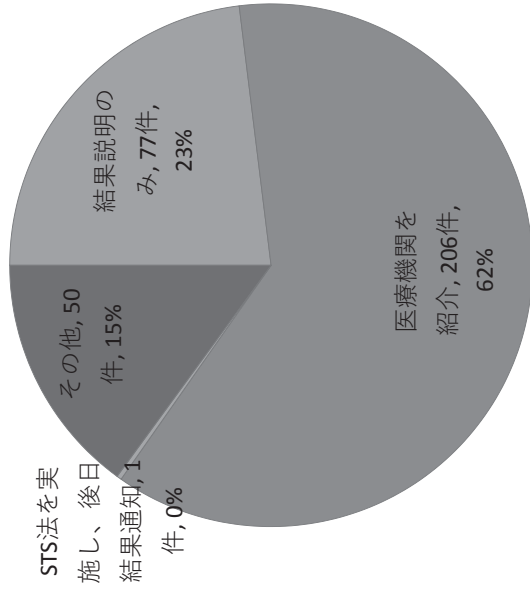


図7

(2016年)  
実施しているのは？  
(n=327)

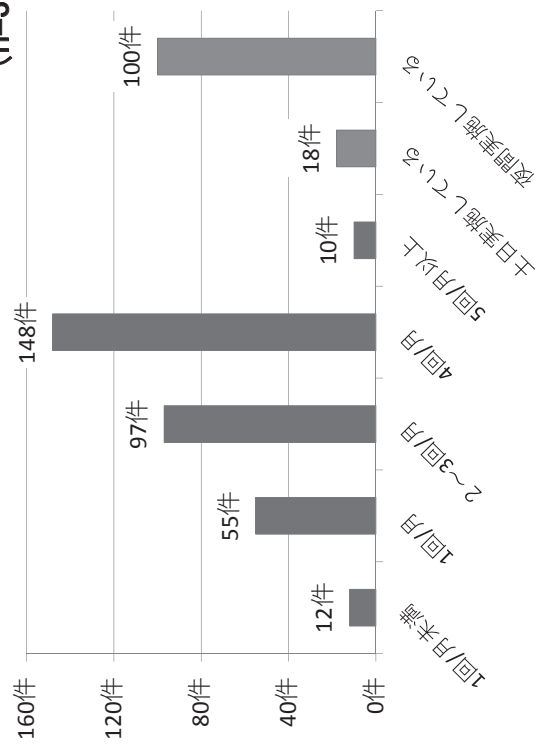


図8

(2016年)  
予約制ですか？  
(n=327)

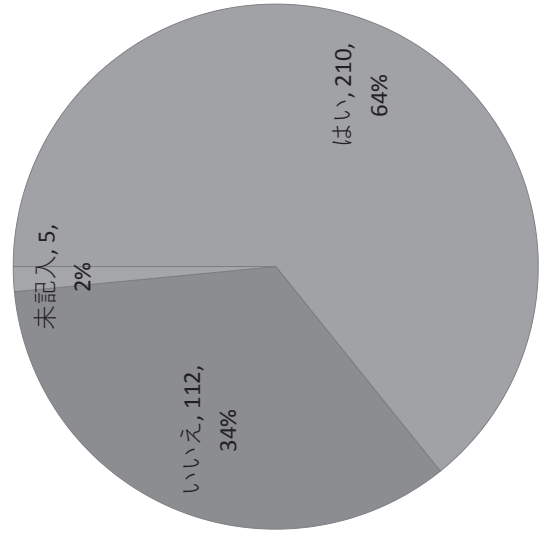


図9

(2016年)

### 有料の場合の費用は？

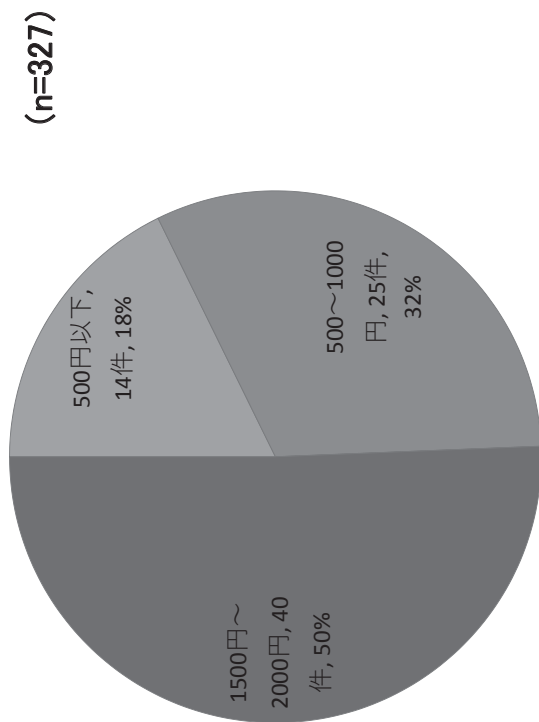


図10

(2016年)

### 結果返しは？

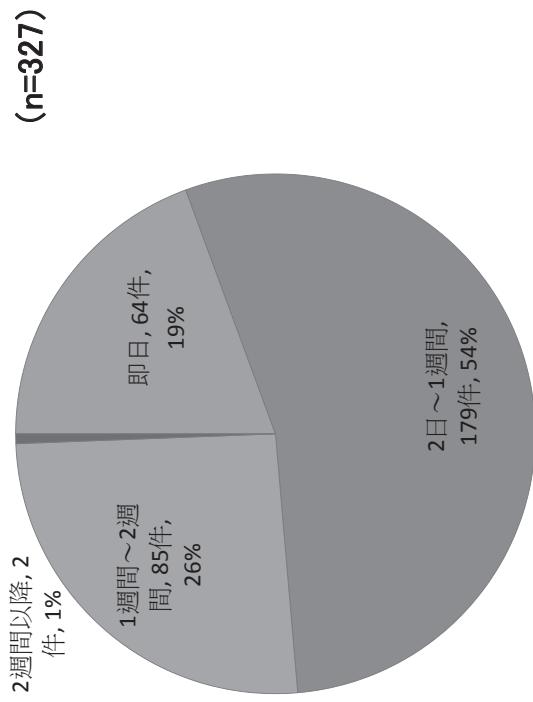


図1

自治体特設HIV検査施設における  
梅毒検査体制に関する全国調査の結果  
(2017年2月11日)

特設アンケート 回答数 (2017.2/10現在) 17 / 21箇所 (81%)

梅毒検査を行っている施設 6 / 17所 (35.3%)

梅毒陽性結果のあった保健所  
【STS法】 4 / 6箇所 (67%)  
【TP抗体検査】 6 / 6箇所 (100%)

陽性件数

【STS法】 428 / 6,665 (陽性率 6.4%)  
【TP抗体検査】 413 / 1,471 (陽性率 28.1%)

図2

貴施設では梅毒検査を  
実施していますか？

(17件中)

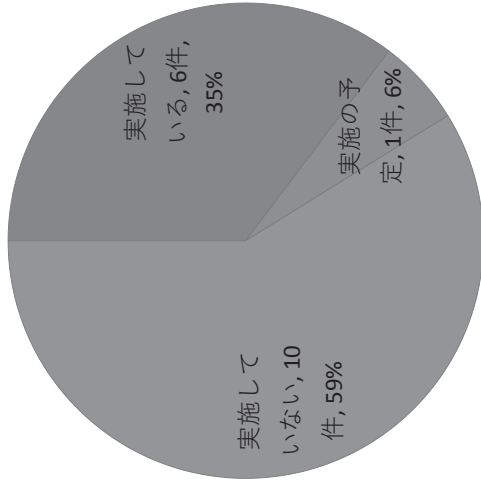


図3

どのような条件があれば  
実施が可能となりますか？

(2016年)

(n=10)

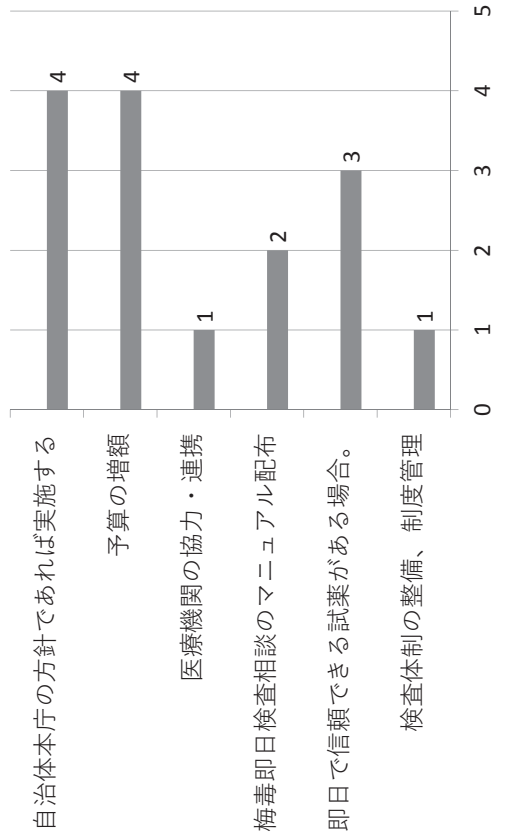


図4

梅毒検査の方法について  
(STS法)

(2016年)

(n=6)

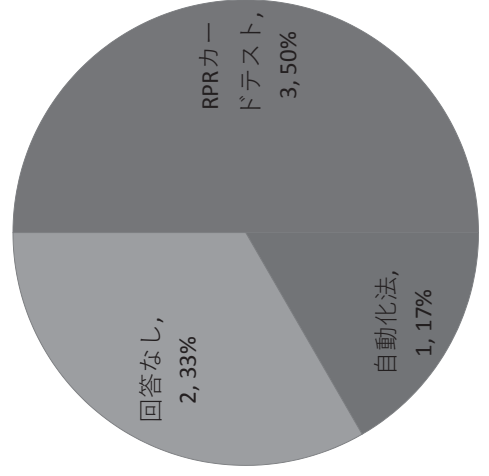




図5

(2016年)  
梅毒検査の方法について  
(TP抗体検査)  
(n=6)

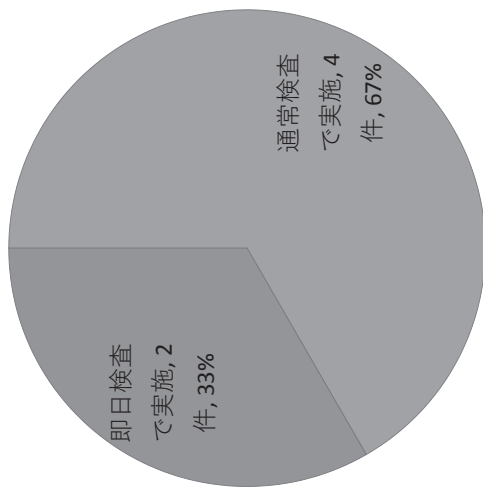


図6

(2016年)  
梅毒検査が陽性であった場合の対応は？  
(n=6)

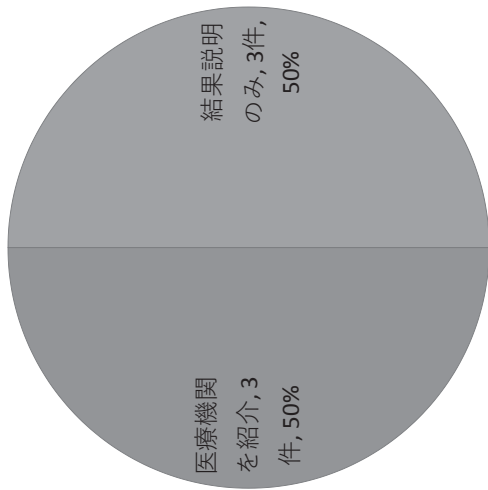


図7

(2016年)  
実施しているのは？  
(n=6)

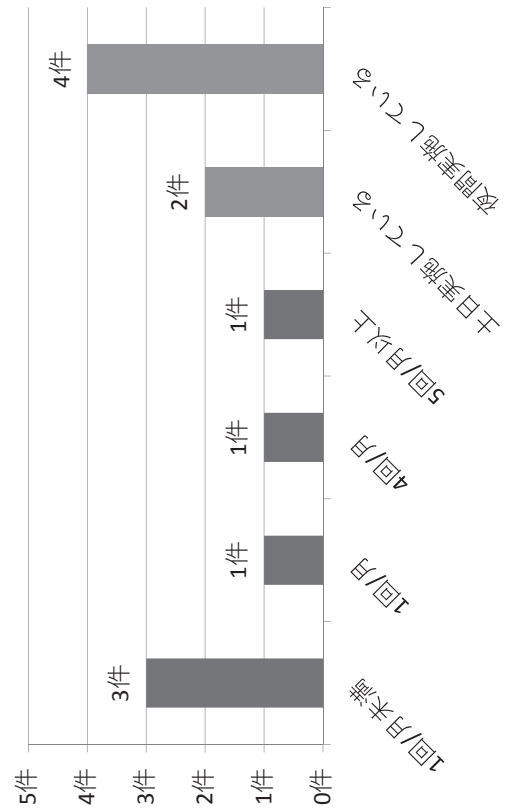


図8

(2016年)  
予約制ですか？  
(n=6)

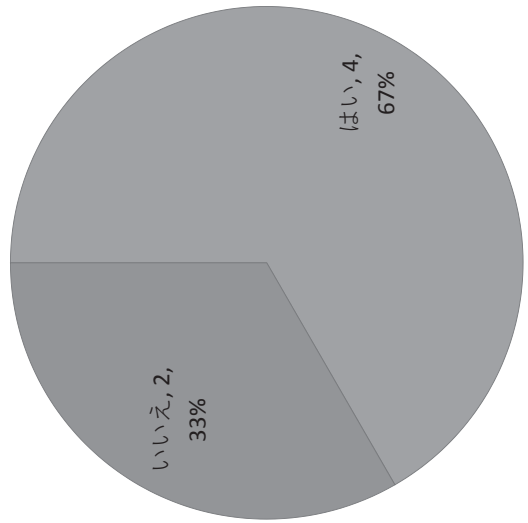


図9

(2016年)

### 有料の場合の費用は？

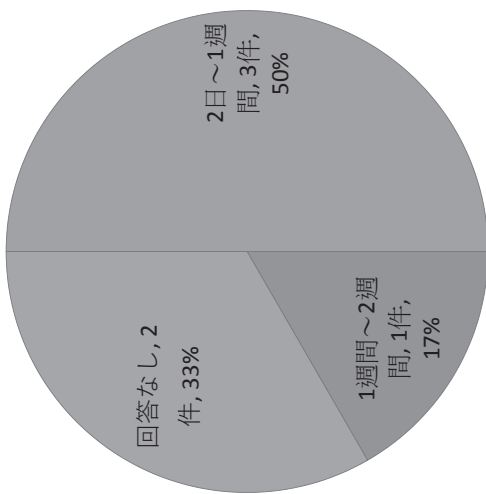


図10

(2016年)

### 結果返しは？

(n=6)



## HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究

研究分担者：木村 哲（東京医療保健大学 学長）

研究協力者：生島 嗣（NPO 法人ふれいす東京）、今村 顕史（がん・感染症センター都立駒込病院感染症科）、岡 慎一（国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター）、加藤 真吾（慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室）、要 友紀子（SWASH）、白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター臨床研究センターエイズ先端医療研究部）、杉山 真一（原後綜合法律事務所）、高久 陽介（NPO 法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・JaNP+）、福武 勝幸（東京医科大学医学部医学科臨床検査医学分野）、松下 修三（熊本大学エイズ学研究センター）、渡會 睦子（東京医療保健大学医療保健学部看護学科）

### 研究要旨

HIV 感染の早期発見（検査）と早期治療は AIDS 発症を予防し、また、新たな HIV 伝播を減らす重要な手段である。全国の保健所および自治体検査相談施設（以下、保健所等）で行っている HIV 抗体検査件数は 2009 年以降減少し、2015 年に至るまで 13～14 万件前後にとどまっている。一方、「HIV 郵送検査」による検査件数は年々増加し、2015 年には 85,629 件に達しており、社会的ニーズが高いことが窺える。しかし、現状の HIV 郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられていることから、HIV 郵送検査の在り方を検討し、HIV 郵送検査を信頼性が高く、安心して受けられる検査として行くことを目的とし、本研究を計画した。昨年度に引き続き今年度も市川班の分担研究として HIV 郵送検査事業者（以下、会社）に対するアンケート調査及び新たな 5 社の HIV 郵送検査研究に対する第三者精度調査を行うことができた。また、HIV 郵送検査在り方検討会でも有意義な議論がなされ、「郵送検査の在り方について」をまとめ上げるなど、今年度の計画を完遂できた。

「アンケート調査」では自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社 13 社にアンケートを依頼し、9 社（昨年 11 社）から回答が得られ、2016 年の HIV 郵送検査全体の年間検査件数は 90,807 件（昨年 85,629 件）に増加していた。団体検査の推定受検者率は 53%（昨年 40%）であった。HIV 郵送検査陽性件数は 149 件（昨年 99 件）であり、昨年より 50 件増加していた。検査結果は郵送、e-mail、ネットでの通知が選択できる事業者が多く、検査結果が陽性だった場合、すべての検査会社で病院あるいは保健所での検査を勧めていた。

郵送検査の「外部精度調査」を 5 施設（施設 4～施設 8）に対し実施した。各施設が実際に使用している濾紙あるいは容器にランダムに陽性検体、陰性検体、合計 100 検体を配置し、郵送して検査を実施してもらった。施設 4 と 5、7、8 はともに陽性検体、陰性検体を全て正しく判定しており、感度、特異度とも 100%であった。施設 6 は判定保留が 7 検体あり、これらを日本エイズ学会の推奨法に従い陽性と仮定した場合、感度、特異度ともに 100%であった。

「HIV 郵送検査在り方検討会」（2 回開催）では、貴重な意見が数多く出され、留意点は 1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供しているか、2) 陽性で

あった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法が充実しているか、3) HIV 検査に関する個人情報の保護が徹底されているか、4) 定期的に適切な検査の精度管理が実施されているか、5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性が確保されているか、6) HIV 郵送検査キットの製造および販売、測定に係る法などが遵守されているか、の6点に絞られた。検討の結果合意に達した、「HIV 郵送検査の在り方について」の内、「HIV 郵送検査在り方に関する留意事項」部分を本分担報告書の末尾に記載した。

## A. 研究目的

AIDS発症を予防し新たなHIV感染者を減らすために、HIV感染の早期発見（検査）と早期治療が重要である。全国の保健所および自治体検査相談施設（以下、保健所等）で行っているHIV抗体検査件数は2008年までは年々増加し年間約17万7千件余りに達したが、その後、急に減少し2015年に至るまで13~14万件前後にとどまっている。一方、「HIV郵送検査」による検査件数は2001年頃からほぼ直線的に増加を続け、2015年には85,629件に達している。予約時間に縛られ保健所等に出向いて受けるよりも、保健所職員や他の受検者等と対面することなく、差別偏見の目を意識せずに、自宅で、一人で、いつでも受けられるHIV郵送検査に対する社会的ニーズが高いことを示している。

しかし、現状のHIV郵送検査は検査の精度管理や個人情報管理に関して特段の基準もなく、事業者の自由裁量に委ねられている。そこで本研究はHIV郵送検査を信頼性が高く安心して受けられる検査として、社会的ニーズに応えられるようにして行くことを目的として計画した。最終的に「HIV郵送検査の在り方について」を作成し、出来るだけ多くのHIV郵送検査事業者（以下、会社）に遵守してもらえよう、協力を得て行くことを目指す。

## B. 研究方法

2016年度も、色々な立場の研究協力者と共に、「HIV 郵送検査」の実態を評価し、課題を抽出した。

検索サイト「Google」を用いて、「エイズ+郵送」、「HIV+郵送」、「郵送検査」、「郵送検診」、「郵送健診」で検索を行い、HIV 郵送検査を取り扱うWebサイトを上位100位まで検索した。検索した100サイトの内、自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社13社が抽出された。これらの郵送検査会社に昨年と同様のアンケート調査を行った（研究協力者加藤真吾博士、須藤弘二博士による）。

「第三者による外部精度調査」を昨年度実施した3社以外の5社を選定し実施した。この調査では実際の HIV 郵送検査に用いられる汚紙に、陽性51検体、陰性49検体、合計100検体（各社の説明書に従い50~100 $\mu$ L）をスポットし、あるいは事業者指定の遠心分離もしくはフィルター分離処理した検体を指定の容器に入れ、HIV 郵送検査会社に送付した。各施設による判定結果から感度・特異度等を検定した。陽性51検体は慶應義塾大学病院に来院した未治療の感染者の血漿17例と健常人の血球7例を組み合わせて作成した。陰性49検体も同様に、健常人の血漿7例と血球7例を組み合わせて作成した。

「HIV 郵送検査在り方検討会」を開催し、HIV 郵送検査の問題点を抽出し、備えるべき条件として、「在り方について」に盛り込むべき内容を検討した。

（倫理面への配慮）郵送検査に関する研究全体については東京医療保健大学の研究倫理委員会に提出し、承認を受けた（教27-32）。精度調査に用いる HIV 陽性検体、陰性検体については慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会の承

認を得た（20150176）。それに基づき、血液提供者の同意を得て血液を採取した。血液提供者の個人情報が漏えいすることの無いよう、匿名化すると共にその取扱いには細心の注意を払った。

### C. 研究結果

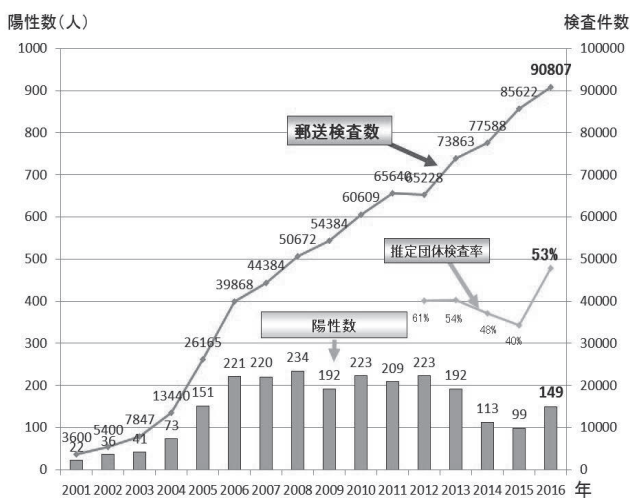
#### 1. HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査

これまで加藤班で HIV 郵送検査会社に毎年継続的に行ってきたアンケート調査に準じた調査を実施した。

抽出された 13 社に調査票を配布し、9 社から回答があった。

a. アンケート調査の集計から得られた年間 HIV 郵送検査件数と検査陽性件数：2016 年の HIV 郵送検査全体の検査件数は 90,807 件であった（図 1）。

図 1. 郵送検査件数の推移



9 社の内、団体検査の受け付けがあったのは 5 社であった。郵送検査の内、団体受付の推定検査率は 53%であった。返送方法（複数回答）として、個人と依頼人両方に返送が 2 社、依頼人にまとめて返送が 1 社、依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送が 3 社であった。

HIV 郵送検査による陽性件数は 149 件（昨年 99 件）であった。その内、電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数が

54 件（昨年 24 件）あった。

b. 検査申込方法（複数回答）：インターネットでの申込は 9 社すべてで行われていた。電話での申込は 7 社、FAX での申込は 4 社、店頭、診療所での販売は 3 社、郵便での申込は 1 社で行われていた。

c. 検査費用：検査費用は 2,389～4,800 円（税抜）であった。

d. 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具：検査検体は 9 社すべて血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存・郵送は濾紙が 7 社、専用容器が 2 社であった。専用容器で保存している 2 社では 1 社が遠心分離、1 社がフィルターによる血球成分の除去を行っていた。

e. 受検者から HIV 郵送検査会社への検体輸送方法：受験者から事業者への検体輸送は、9 社とも郵便を用いており、8 社が室温、1 社が冷蔵であった。

f. 検査の方法と使用キット：HIV 郵送検査会社で使用されている検査法は PA 法が 4 社、免疫クロマト法が 2 社、EIA 法が 1 社、CLEIA 法が 1 社であった。

g. 検査の実施施設：検査は 9 社中 6 社が自社のラボで行っており、3 社は提携している他の検査機関に検査を依頼していた。

h. 検査結果の通知方法と通知までの日数（複数回答）：郵便での通知は 9 社すべてで可能となっていた（希望者への通知を含む）。e-mail での通知は 5 社が対応していた。また、専用サイト（ID、パスワードあり）で通知していた事業者は 4 社あった。結果通知までの日数は、検体受領後 1～14 日であり、平均 4 日であった。

i. 検査陽性時の対応（複数回答）：検査結果が陽性だった場合、病院で確認検査を受けるように勧めているのが 7 社、提携している医療機関に行くように勧めているのが 6 社、保健所で確認検査を受けるように勧めているのが 2 社、追加検査・確認検査を実施しているのが 2 社であった。

相談については HIV に関する相談窓口を紹介しているのが 3 社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが 2 社、確認検査の必要性を伝えエイズ予防財団のカウンセリングを受けるよう勧めているのが 1 社であった。

## 2. 検査の精度調査

検査精度の外部調査については HIV 抗体陽性または陰性が判明している検体を実際の HIV 郵送検査と同様の方法で HIV 郵送検査会社に郵送し、HIV 郵送検査会社による判定結果と照合し評価した。

今年度は昨年度受けていない会社の中から 5 社について調査を実施した。その内、3 社は濾紙法、1 社は遠心分離法、1 社はフィルター分離法を用いていた。

施設 4、5、7、8 では、陽性 51 検体中、陽性が 51 例、陰性 49 検体中、陰性 49 例で、感度、特異度共に 100%であり、真の判定と完全に一致した（表 1、2、4、5）。

表 1. 施設 4 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 4	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

表 2. 施設 5 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 5	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

施設 6 の調査結果は表 3 の通りで、この施設の検査では 51 の陽性検体の内、7 検体が保留と判定されていた。日本エイズ学会の推奨に従い、判定保留を陽性とした場合の感度は 100%、特異度は 100%であった（表 3）。

表 3. 施設 6 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 6	陽性	44	0	44
	陰性	0	49	49
	保留	7	0	7
	小計	51	49	100

表 4. 施設 7 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 7	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

表 5. 施設 8 の郵送検査検定結果

		真陽性	真陰性	小計
郵送検査 8	陽性	51	0	51
	陰性	0	49	49
	保留	0	0	0
	小計	51	49	100

## 3. HIV 郵送検査在り方検討会

HIV 郵送検査検討会は 2 回開催した。多くの研究協力者の参加の下、これまでの題点・課題について実り多い議論を行うことができた。

当日、都合により出席できない研究協力者からは、予めメール等で意見を聴取し、当日の出席者の意見と共に検討した。

昨年度での検討及び本年度 2 回にわたる検討の結果、HIV 郵送検査における留意点は概ね次の 6 項目にまとめられた。カッコ内に留意内容の概略を記載した（詳しくは本分担報告書の末尾の資料を参照）。

1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供すること（HIV 感染症の感染経路、病態・症状、臨床経



過、治療法、予後などに関する正しい情報が記載されていること、HIV 郵送検査利用者には、現在は良い治療薬が開発されているので、感染していても、治療を継続すれば HIV 感染症の進行を食い止めることができ、低下していた免疫力を回復させることができること、感染者が適切な治療を受けることにより、他者への HIV 伝播の確率を著しく低減することができること、など)

2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法を充実させること(感染者が治療を受けずに放置しておく、エイズを発症してしまい予後が悪くなるので、できるだけ早く医療を受けるよう強く推奨すること、実際に受診したか否かの情報が確認できるようにするため、医療機関あるいは保健所・特設検査相談所から連絡がもらえるようにするなど、各検査事業所においてその方法を工夫すること、など)

3) HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること(HIV 郵送検査会社は、個人情報の漏洩を防止するため、保有個人情報データに関し、上記ガイドラインに定める安全管理措置をとらなければならないこと、HIV 検査結果が確実に受検者のみに通知され、事業者(勤務先等)に提供されることないように、郵送先及や郵送方法の選択、ID/パスワードの通知方法等について、適切な対処をすること、など)

4) 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること(精度調査においては実際の検体郵送過程を含めた検査結果と真の陽性・陰性とを照合し、感度・特異度を検定すること、感度・特異度はいずれも 95%以上となるよう速やかに検査法を改善すること、いずれの HIV 郵送検査会社も中立的第三者機関による郵送過程を含めた精度調査を定期的に受けること、精度調査を現在は研究班で行っているがいずれ民間の精度管理会社に委ねる必要があること、など)

5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性を確保すること(国連規格のカテゴリー

A 容器を用い三重梱包とすること、など)

6) HIV 郵送検査キット(セット)の製造および販売、測定に係る法などを遵守すること(HIV 郵送検査キット(セット)を作成するために、医療機器(ランセット等)を小分けしたり、他の製品と組み合わせる行為は医療機器の製造行為に該当すること、内容物に医療機器を含む HIV 郵送検査キットを製造する者は医療機器製造業の登録を受ける必要があること、など)

これらの検討事項の検討結果を、「HIV 郵送検査の在り方について」としてまとめた。その「HIV 郵送検査在り方に関する留意事項」部分を本分担報告書の「G. 知的財産権の出願・登録状況」の後のページに資料として記載する。これを HIV 郵送検査会社に示し、改善の努力をしてもらおうこととする。

#### D. 考察

HIV 郵送検査件数は、2001 年に 3,600 件程度であったものが年々増加し、2005 年には 26,165 件、2010 年には 60,609 件、2015 年には 85,629 件に達しており、社会的ニーズが高いことが窺える。2016 年における郵送検査全体の年間検査件数は 90,807 件で、これまでの最高件数となった。エイズ動向委員会が発表した 2015 年における保健所等の検査件数は 128,241 件であり、郵送検査件数は保健所等における検査件数の 7 割近くに達していることがわかった。

昨年(2015年)の郵送検査の検査件数(85,629 件)と比較すると 6%増加しており、これまでの増加傾向が続いていることが示された。また郵送検査件数の内、53%が団体受付による検査と推定され、昨年(40%)より増加している。個人情報保護の観点から懸念がある。

2016 年における郵送検査全体の検査陽性件数は 149 件で、2014 年の陽性件数 113 件、2015 年の 99 件と比較してかなり増加しており、今後の推移が注目される。

保健所等において、確認検査陽性者が医療機

関へ受診したことが確認できた割合は 87% (HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査報告書 (H27 年度)、今井光信ほか) であるのに対し、今年度、郵送検査において、HIV 郵送検査陽性 149 件の内、電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数が 54 件、36% (昨年 24%) であった。HIV 郵送検査結果が陽性だった場合、すべての HIV 郵送検査会社が医療機関もしくは保健所等での確認検査をすすめていたが、郵送や Web サイトを用いた検査の特性上、受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面で行われないため、医療機関等への受診について十分な情報を伝えにくい欠点があり、受診が確認できたのは 5 件のみであった。

第三者 (当研究班) による外部精度調査では対象とした 5 施設では、4 施設が感度、特異度とも 100% であった。残る 1 施設では判定保留が 7 検体あったものの、これらを日本エイズ学会の推奨に従い陽性として集計すると、感度、特異度とも 100% であった。最終的には 5 施設総てで感度、特異度とも 100% であり比較的信頼できる結果であった。

この調査の範囲内では許容できる検査と思われるが、郵送検査は、HIV 検査全体での割合も徐々に大きくなりつつあることから、今後、外部精度管理調査会社等の参画を得、継続的に精度管理が確認できる体制を構築する必要がある。

今回開催された「HIV 郵送検査在り方検討会」においては、法律家の参加も得られ、討議が煮詰まり、「HIV 郵送検査の在り方について」をまとめることが出来た (「G. 知的財産権の出願・登録状況」の次のページを参照)。

HIV 郵送検査会社にはこの「HIV 郵送検査の在り方について」をよく読んでもらい改善すべき点を速やかに改善するよう、切に望むものである。

特に、個人情報の保護と定期的検査精度管理が重要である (資料: 「HIV 郵送検査の在り方

について」を参照)。また、保健所等における対面検査と異なり、HIV 郵送検査は対面せずに受けられる利点があるものの、郵送や Web サイトを用いた検査の特性上、説明が対面で行われないため、HIV 検査に関する十分な情報を伝えにくい欠点があるので、これらの点を是正し、かつ、陽性者を医療機関等に繋げられるよう工夫してもらう必要がある。

## E. 結論

HIV 郵送検査会社に対するアンケート調査の結果、2016 年の郵送検査数は 90,807 件で過去最高であった。

5 社に対する外部精度調査では一部に判定保留が認められたが、これを日本エイズ学会の検査結果判断基準に従い陽性扱と仮定すると、5 社とも感度、特異度が 100% であった。

今後の継続性を考慮すると民間の検査精度管理会社の参画を得て実施して行くべきものと思われる。

HIV 郵送検査在り方検討会を当初の計画通り開催し、「HIV 郵送検査の在り方について」をまとめることが出来た (本報告の資料参照)。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Wada K, Yoshikawa T, Lee J. J., Mitsuda T, Kidouchi K, Kurosu H, Morisawa Y, Aminaka M, Okubo T, Kimura S, Moriya K; Sharp injuries in Japanese operating theaters of HIV/AIDS referral hospitals 2009-2011. *Industrial Health* 54: 224-229, 2016
- 2) 木村哲; 全国保健所等における HIV 抗体検査件数と新規 HIV 感染者報告数の関連. *日本エイズ学会誌* 18 (1): 79-85, 2016
- 3) 木村哲; HIV 感染症の最近の動向—世界と日本の疫学状況、抗 HIV 療法 (ART) の進歩等—. *感染制御* 11 (3): 223-229, 2015
- 4) 木村哲; HIV 感染症について. *感染と消毒*



23 (2) : 86-92, 2016

- 5) 木村哲 (監訳) ; 成人および青少年 HIV-1 感染者における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン 2016年7月14日版. テクノミック, 東京, 2016
2. 学会発表  
なし

#### **G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)**

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

## 資料：HIV 郵送検査の在り方について

厚労科研費エイズ対策政策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」（研究代表者：市川誠一）

分担研究「HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究」（研究分担者：木村哲）

HIV 郵送検査の意義について（省略；総合分担研究報告書に記載）

HIV 郵送検査の位置づけ（省略；総合分担研究報告書に記載）

HIV 郵送検査の実態調査の結果について（省略；総合分担研究報告書に記載）

### HIV 郵送検査の在り方に関する留意事項

現状の「HIV 郵送検査」には全く基準・規制がなく検査会社の自主的判断に委ねられているが、「HIV 郵送検査」を安心して受けられる、信頼できる検査とするために、各会社が以下の点を遵守することを推奨する。

既述の研究班（市川班）による上記アンケート調査の結果をもとに、郵送検査という特性も考慮に入れ、「HIV 郵送検査」の留意事項をまとめると次のようになる

- 1) HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供すること
  - 2) 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口への案内と受診確認法を充実させること
  - 3) HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること
  - 4) 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること
  - 5) 血液採取過程、検体郵送過程、検査過程の安全性を確保すること
  - 6) HIV 郵送検査キット（セット）の製造および販売、測定に係る法などを遵守すること
- それぞれについて主な留意内容を以下に記載する。

#### 1. HIV 郵送検査希望者に検査前に検査及び HIV 感染症に関する十分な情報を提供すること

HIV 郵送検査は保健所・特設検査相談所における対面検査ではないため、情報伝達が一方通行で情報の理解度も不十分となる恐れがあるので、懇切丁寧な情報を提供する必要がある。そのために、「説明書等」においては単に検査器具等の使用法の説明に留めず、「HIV 郵送検査キット」の添付文書及び Web 画面の双方に HIV 感染症および検査に関して、次の情報を提供すべきである。

- ・ HIV 感染症の感染経路、病態・症状、臨床経過、治療法、予後などに関する正しい情報が記載されていること
- ・ 保健所・特設検査相談所での HIV 検査は無料匿名であるが、郵送検査は有料であると
- ・ HIV 感染症は HIV に感染しているにも拘らず無症状の期間が数年～十数年と長いため、抗体検査等を受けなければ感染しているかどうかは分からないこと
- ・ HIV 郵送検査利用者には、現在は良い治療薬が開発されているので、感染していても、治療を継続すれば HIV 感染症の進行を食い止めることができ、低下していた免疫力を回復させることができることを、検査受検前の情報としても伝えておくべきであること
- ・ また、感染者が適切な治療を受けることにより、血液・体液中のウイルス量が減少し、他者へ

の HIV 伝播（二次感染）の確率を著しく低減することができる（治療による伝播予防；Treatment as Prevention）（1， 2） こと

- ・ HIV 郵送検査は HIV に感染しているか否かを判断することを目指した検査であるが、国の承認を得たものではないこと
- ・ 時として感染していても陰性と判断されたり（偽陰性）、感染していないのに陽性と判断される（偽陽性）こともあり、場合によっては「判定保留」となることもあることを十分に説明しておくこと
- ・ HIV 郵送検査に限らずどの検査であっても見落としがしない（感度が高い）ことが望ましいが、感度を上げすぎると偽陽性が増えることがあるので、このような検査の限界もあることも利用者に理解しておいてもらうこと
- ・ 感染して 2～3 か月以内では感染していてもまだ抗体が十分上がっていないため、陰性との結果になる（ウィンドウ期）可能性がある。従って、2～3 か月以内に HIV の曝露を受けた可能性がある場合は 1 か月後程度を目途に再検査を受けること

## 2. 陽性であった場合の医療機関・保健所・特設検査相談所・相談窓口の案内と受診確認法を充実させること

- ・ HIV 郵送検査で、もし陽性と判定された場合は真に陽性であるか否かを確認するため医療機関または保健所・特設検査相談所で確認検査を受けることを強く推奨すること
- ・ 感染者が治療を受けずに放置しておく、エイズを発症してしまい予後が悪くなるので、できるだけ早く医療を受けるよう強く推奨すること
- ・ 受診または相談できる医療機関（HIV 診療拠点病院など）、保健所・特設検査相談所、相談窓口等のリストとともにその連絡先情報（住所、電話番号等）を提供すること
- ・ 非対面検査の欠点として医療機関受診への呼びかけが不十分になり勝ちである。実際に受診したか否かの情報が確認できるようにするため、医療機関あるいは保健所・特設検査相談所から連絡がもらえるようにするなど、各検査事業所においてその方法を工夫すること（ちなみに保健所で陽性と判定された受検者の 87%、特設検査相談所では 93%で医療機関を受診していたことが確認できている（5）が、既述の研究班（市川班）で行ったアンケート調査の結果ではすべての HIV 郵送検査会社が医療機関受診を勧めているものの、受診したかどうかはモニターできていない（4））
- ・ 判定保留の結果が出た場合は、陽性結果の場合に準じ、医療機関または保健所・特設検査相談所で確認検査を受けることを強く推奨すること
- ・ 陽性あるいは判定保留と判定された利用者には、現在は良い治療薬が開発されているので、治療を継続すれば HIV 感染症の進行を食い止め、免疫力を回復させることができる旨、伝えること

## 3. HIV 検査に関する個人情報の保護を徹底すること

- ・ HIV 検査に関する個人情報は、検査結果はもとより受検をしたこと自体が個人情報として保護されることに留意すること
- ・ 受検者の個人情報については「個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年 5 月 30 日法律第 57 号、最終改正平成 28 年 5 月 27 日。以下「法」という）および「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」（厚生労働省 平成 16 年 12 月 24 日作成、最終改

正平成 22 年 9 月 17 日) により、適正に取り扱わなければならない (注 1 のガイドライン参照)。法およびガイドラインの概要は以下のとおりである

- ・検査検体の利用目的は、HIV 検査を行いその結果を当該受検者に報告することに限定されており、そのことが受検に際し明示される必要がある。実際の測定を外部業者に委託する場合は、その旨受検者に対し、明示すること
- ・受検者の明示の同意を得ることなく、上記利用目的以外の利用をしてはならない
- ・HIV 郵送検査会社は、個人情報の漏洩を防止するため、保有個人情報データに関し、上記ガイドラインに定める安全管理措置をとらなければならない。また、当該個人からの開示請求、訂正・削除請求に適切に応じる態勢を整備しなければならない
- ・HIV 検査結果 (とりわけ陽性の場合) は、いわゆるセンシティブ情報 (個人情報の中でも特に他人に知られたくない情報であり、保護の必要性が高い情報) の一つであることから、可能な限り匿名化の措置をとることが推奨される (匿名化の定義については、上記ガイドライン 6 頁 II 2 参照)。特に、外部の業者に検査を委託する場合には、匿名化した情報のみを提供するか、当該委託先業者にも法及びガイドラインの遵守を具体的に実行させる必要がある
- ・HIV 検査結果 (検査を受けたかどうかの情報も含む) は、受検者自身の個人情報であり、かつ保護の必要性の高い情報であるから、その漏洩がないよう、通知手段、方法、宛先等の選択には十分な配慮すること。具体的には、HIV 検査結果が確実に受検者のみに通知され、事業者 (勤務先等) に提供されることないように、郵送先及や郵送方法の選択、ID/パスワードの通知方法等について、適切な対処をすること。
- ・HIV 検査結果が、受検者の明示的な同意なくして、事業者 (勤務先等) に提供されることがないように適正に対処すること

#### 4. 定期的に適切な検査の精度管理を実施すること

検査の精度管理は HIV 郵送検査の信頼性にかかわる極めて重要な作業である。信頼されなければ HIV 郵送検査はいずれ利用されなくなってしまう。国の承認を受けたスクリーニング検査法ではないものの、判定結果が受検者やその性的パートナー、関係者に与える影響度を考えると、感度と特異度がかなり高いことが望まれる。

- ・精度管理調査においては実際の検体郵送過程を含めた検査結果と真の陽性・陰性とを照合し、感度・特異度を検定すること
- ・感度が低い場合は陽性者の見落としにつながるので、95%以上となるよう速やかに検査法を改善すること
- ・感度を上げることにより特異度が低下することがあるが、特異度は 95%以上となるよう検査法を改善すること
- ・いずれの HIV 郵送検査会社も中立的第三者機関による郵送過程を含めた精度調査を定期的に受けること (中立的第三者機関：当面は厚労科研費エイズ対策政策研究事業で HIV 郵送検査を扱う研究班が可能な範囲で行う。将来的には民間の精度管理会社に委ねる)
- ・いずれの事業者も中立的第三者による調査結果を真摯に受け止め、検査精度の向上に向け検査法を改善して行く必要がある
- ・自施設で測定・判定まで行う場合は、厚生労働省医政局「検体測定室に関するガイドライン」(7 ページ注 1 に記載のガイドライン) に準じ、衛生管理者 (医師、薬剤師、看護師、または臨床検

査技師) および精度管理者 (医師、薬剤師または臨床検査技師) を置き、適正に精度管理を行うこと

・測定作業に従事する者は、医師、薬剤師、看護師、または臨床検査技師であること (7 ページ注 1 に記載のガイドライン)

## 5. 血液採取過程、検体郵送過程および検査過程における安全性確保について

・ランセット等の衛生的で安全な使用法、消毒を含めた指先部穿刺方法等については厚生労働省医政局「検体測定室に関するガイドライン」(注 1) に準じた十分な説明文を添付すること

・ランセットは単回使用用で、使用後刃先が自動的に収納される安全装置付きのものを提供すること

・血液採取量が不十分だと正しい結果が得られないことがあるので、受検者には正しい穿刺法、採取法を説明すること

・アスピリン等抗血栓薬、抗凝固薬等を使用中の受検者は止血困難となることがあるため、穿刺しないよう警告すること

・濾紙等で郵送する場合は、検体が多湿に曝されないように工夫すること

・郵送する検体が途中で露出してしまうことが無いよう、安全な包装とすること

・血液または血清 (血漿) で郵送する場合、検体容器が途中で破損しても血液成分が外部に漏出することが無いよう、国連規格のカテゴリー A 容器を用い三重梱包とすること。一次容器 (密封性) と二次容器 (密封性) の間に緩衝材と内容物全量を吸収できる十分量の吸収材を充填し、更にその外側を国連規格三次容器 (非密封性) で梱包すること (国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室「輸送容器について」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-biosafe/946-youkis.html>を参照のこと)

・測定作業に際しては血液検体を扱うことを認識し、作業者が肝炎ウイルス、HIV 等血液媒介性病原体に感染することが無いよう、作業員への教育、研修等を実施すること

## 6. HIV 郵送検査キット (セット) の製造および販売、測定にかかる法などの遵守

HIV 郵送検査キット (セット) を作成するために、医療機器 (ランセット等) を小分けしたり、他の製品と組み合わせる行為は「医療機器の製造行為」に該当する (医薬品医療機器法; 新薬事法)。従って、内容物に医療機器を含む HIV 郵送検査キットを製造する者は「医療機器製造業」(ランセットなどの医療機器を小分けし組み合わせる業) の登録を受ける必要がある。

小分け・組み合わせ医療機器の製造に該当する場合は、その医療機器の医薬品医療機器法上の分類に応じた「製造販売届出、認証申請および承認申請」のいずれかが必要である。

また、それらを販売する場合は、その医療機器の医薬品医療機器法上の分類に応じた「医療機器販売の許可又は届出」が必要である (下記、参考 1~参考 4 を参照)。

自施設で検査を行う場合は、「衛生検査所」の業としての都道府県知事の登録を受ける必要がある (注 1)。

医療機器の製造及びその販売に関しては、以下の参考 1~参考 4 に代表されるような細かい決まりがあるので、それらを遵守し遺漏の無いように正規の手続きを進めなければならない。

(注 1) 自施設で検査を行う場合は、「衛生検査所」として都道府県知事の登録を受ける必要があ



る（「臨床検査技師等に関する法律」）。この法律が2014年に改正され、「利用者自らが採取した検体について民間事業者が血糖値や中性脂肪などの生化学的検査を行う事業については、診療の用に供する検体検査を伴わないことから」、「衛生検査所」としての登録が不要となり（医政発0409第4号、2014年4月9日）、「検体測定室」として医政局指導課に届け出れば良いこととなった。しかし、その測定項目は血糖値や中性脂肪など「特定検診検査」等に該当する項目の範囲内とされており、HIV検査は含まれていない。従って、HIV郵送検査を自施設で行う場合は、引き続き「衛生検査所」として都道府県知事の登録が必要である。上記医政発0409第4号には別紙として「検体測定室に関するガイドライン」が付されており、血液の自己採取に関連する留意事項が盛り込まれている。HIV郵送検査においてもこのガイドラインに準じて対応することが強く推奨される。このガイドラインは<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000098580.html> の最下段にある「関連通知等」からアクセスできる。

（参考1）「組み合わせ医療機器に係る製造販売承認申請、製造販売認証申請及び製造販売届出に係る取り扱いについて（医食機発第03381002号 平成21年3月31日）」

今般、複数の医療機器を組み合わせた医療機器の製造販売承認申請、製造販売認証申請及び製造販売届出に係る取扱いについて、あらかじめ医療機器同士を接続している組み合わせ医療機器に係る取扱い等を含め、組合せ医療機器全般に係る取り扱いを下記のとおりとしたので、（中略）周知をお願いしたい。

記 1. 対象とする組合せ医療機器の範囲について 本通知が対象とする組合せ医療機器は、次のいずれかに該当するものとする。（1）临床上、必要性が認められる範囲において、複数の医療機器を製造販売業者からの出荷時において接続することなく単に組み合わせた医療機器（複数の医療機器を接続することなく同時又は順次使用するもの、又は複数の医療機器を同時に接続するものをいう）。（2）～（4）…省略。2. 必要な申請又は届出について （1）製造販売届出の対象になる場合…省略。（2）認証申請の対象になる場合…省略。（3）承認申請の対象になる場合…省略。3～8…省略

（参考2）「医療機器の分割販売について（薬食監麻発0411第3号 平成26年4月11日）」  
医療機器販売業者において、医療機器の直接の容器又は直接の被包を開き、小包装単位で供給する行為（以下「分割販売」という）は、特定の需要者の求めに応じて行う場合に限って認められる。ただし、広く一般に対し、販売等を行うために、あらかじめ分割する行為は、薬事法（昭和35年法律第145号）第13条第1項に規定する製造行為（（小分け製造）に該当する（後略）。

（参考3）旧薬事法 第13条第1項  
医薬品、医薬部外品又は化粧品の製造業の許可を得たものでなければ、それぞれ、業として、医薬品、医薬部外品又は化粧品の製造をしてはならない。  
旧薬事法 第13条第1項の内容は平成25年の改正により医薬品医療機器等法（新薬事法）の第23条第2項の3に盛り込まれた。

（参考4）医薬品医療機器等法（新薬事法） 第23条第2項の3  
業として、医療機器又は体外診断用医薬品の製造（設計を含む。以下この章及び第80条第2項に

において同じ)をしようとする者は、製造所(医療機器又は体外診断用医薬品の製造工程のうち設計、組立て、滅菌その他の厚生労働省令で定めるものをするものに限る。以下この章及び同項において同じ)ごとに、厚生労働省令で定めるところにより、厚生労働大臣の登録を受けなければならない(後略)。

#### 研究協力者(五十音順、敬称略)：

生島嗣(ぶれいす東京代表)、今村顕史(がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長)、岡慎一(国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター長)、加藤真吾(慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室専任講師)、要友紀子(SWASH 代表)、白阪琢磨(国立病院機構大阪医療センター臨床研究センターエイズ先端医療研究部長)、杉山真一(原後綜合法律事務所弁護士)、高久陽介(日本 HIV 陽性者ネットワーク・JaNP+代表)、福武勝幸(東京医科大学医学部医学科臨床検査医学分野主任教授)、松下修三(熊本大学エイズ学研究センター教授)、渡會睦子(東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授)

#### 参考文献

1. Myron S. Cohen, McCauley M, et al. (HPTN 052 Study Team) . Prevention of HIV-1 Infection with Early Antiretroviral Therapy. N Engl J Med 2011; 365: 493-505
2. Cohen MS, Cohen YQ, McCauley, M et al. (The HPTN 052 Study Team) : Antiretroviral therapy for the prevention of HIV-1 transmission. N Engl J Med 375 (9) : 830-839, 2016
3. 木村哲. 全国保健所等における HIV 抗体検査件数と新規感染者報告数の関連. 日本エイズ学会誌 2016; 18: 79-85
4. 木村哲ほか研究協力者. HIV 郵送検査の在り方とその有効活用に関する研究. 厚労科研費エイズ対策政策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」(研究代表者：市川誠一) 平成 27 年度総括・分担報告書 Mar 31, 2016: pp215-223
5. 今井光信ほか研究協力者. 保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査. 厚労科研費エイズ対策政策研究事業「男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」(研究代表者：市川誠一) 平成 27 年度総括・分担報告書 Mar 31, 2016: pp167-213

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

著者	タイトル	雑誌名	巻号	ページ	出版年
市川誠一、塩野徳史、金子典代、本間隆之、岩橋恒太	MSMにおけるHIV感染予防とコミュニティセンターの役割	化学療法の領域	32(5)	1029-1038	2016
金子典代、塩野徳史、内海眞、山本政弘、健山正男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一	成人男性のHIV検査受検，知識，HIV関連情報入手状況，HIV陽性者の身近さの実態 －2009年調査と2012年調査の比較－	日本エイズ学会誌	19(1)	16-23	2017
Wada K, Yoshikawa T, Lee J. J., Mitsuda T, Kidouchi K, Kurosu H, Morisawa Y, Aminaka M, Okubo T, Kimura S, Moriya K	Sharp injuries in Japanese operating theaters of HIV/AIDS referral hospitals 2009-2011	Industrial Health	54	224-229	2016
木村哲	HIV感染症の最近の動向－世界と日本の疫学状況，抗HIV療法(ART)の進歩等－	感染制御	11(3)	223-229	2015
木村哲	HIV感染症について	感染と消毒	23(2)	86-92	2016
木村哲（監訳）	成人および青少年HIV-1感染者における抗レトロウイルス薬の使用に関するガイドライン	2016年7月14日版 テクノミック 東京			2016